松山市文化財調査報告書110

大峰ヶ台遺跡Ⅲ

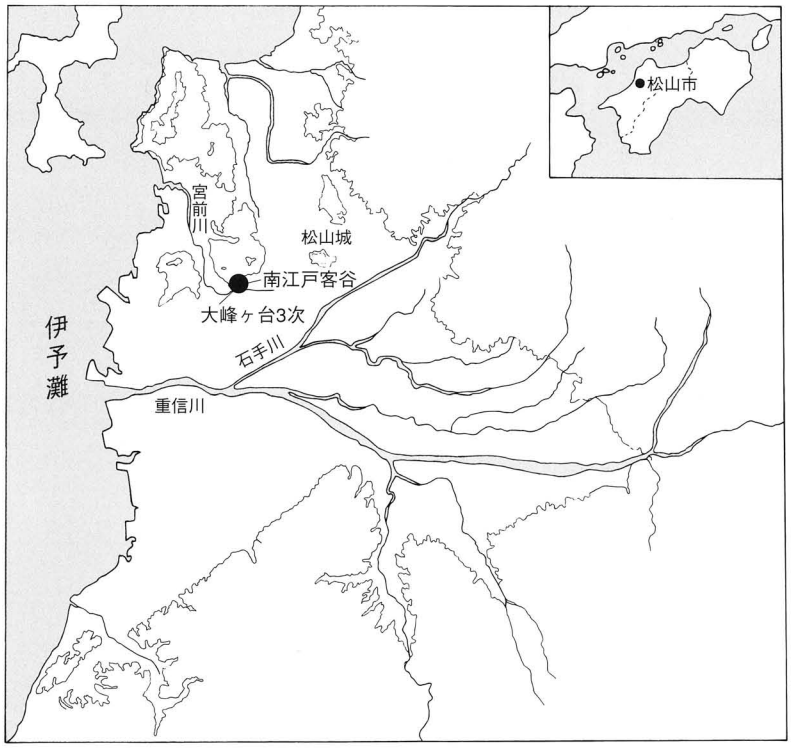
大峰ヶ台3次調査地
南江戸客谷遺跡

2006
松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

おおみねがだい

大峰ヶ台遺跡Ⅲ

大峰ヶ台３次調査地
南江戸客谷遺跡



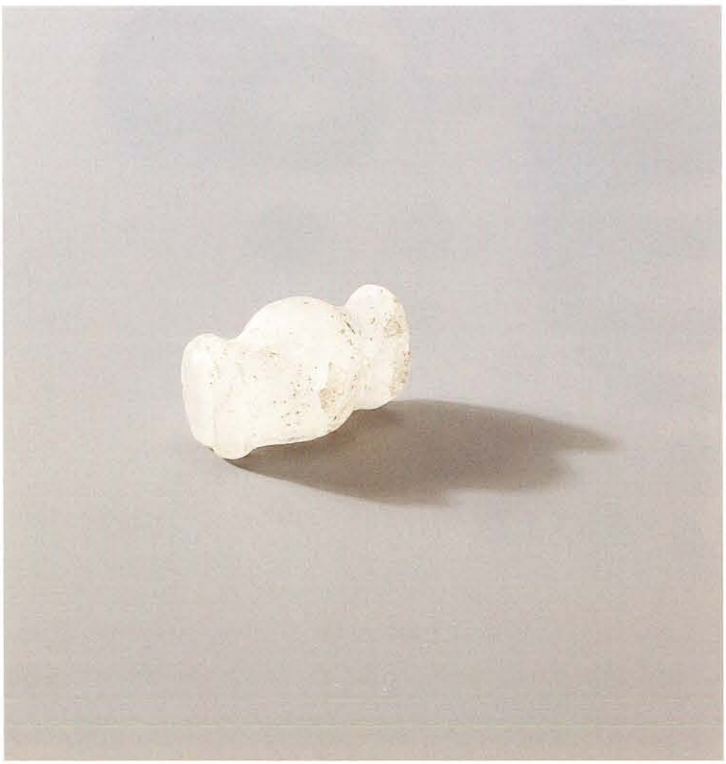
２００６

松山市教育委員会

財団法人松山市生涯学習振興財団

埋蔵文化財センター

巻頭図版 1．大峰ヶ台遺跡 3 次調査地の遠景（現況）（南西より）



巻頭図版 2．大峰ヶ台遺跡 3 次調査地出土の水晶製三輪玉

巻頭図版３．大峰ヶ台遺跡３次調査地出土遺物（２号墳主体部　４号墳Ａ主体部　６号墳Ａ・Ｂ主体部）

序

松山平野の西部、大峰ヶ台丘陵の南麓には、昭和48年、日本初の大規模灌漑施設の発見で全国的に注目された古照遺跡があります。

今回報告します「客谷古墳群」と「南江戸客谷遺跡」は、古照遺跡と同じ南江戸地区内にあり、松山平野においても遺跡や旧跡が多く見られるところです。

さて、客谷古墳群の調査では、6～7世紀の群集墳が確認され、当平野では、数少ない太刀飾りである「三輪玉」が出土しました。また、南江戸客谷遺跡からは、当平野2例目となる中国・王莽時代の貨幣である「貨泉」が出土しています。いずれも、西日本的に貴重な出土品であります。

発掘調査に協力を頂きました関係各位ならびに関係機関には、厚くお礼を申し上げます。本書が、埋蔵文化財の調査研究の一助となり、文化財保護の啓発、生涯教育の向上に寄与できますれば幸いであります。

平成18年3月31日

財団法人松山市生涯学習振興財団
理事長　中　村　時　広

例　　言

1．本書は、昭和61年度・平成10年度に松山市南江戸地区内で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。整理作業と報告書作成は、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが松山市教育委員会文化財課の指導のもと実施した。

2．遺構の実測は担当調査員の責任のもと、調査補助員等が行った。

3．本書にかかる図面の作成は、梅木謙一と河野史知の責任のもと、水口あをい、山邊進也、山下満佐子、平岡直美、西本三枝、木西嘉子、本多智絵、猪野美喜子、岡本邦栄、安井由起美、丹生谷道代、多知川富美子、矢野久子が行った。

4．遺構図・遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に記した。

5．本書に使用した方位はすべて磁北である。

6．写真図版は、梅木・河野が大西朋子と協議し、遺物の撮影及び写真図版作成は大西が行っている。なお、遺構の撮影は、調査担当者が行っている。

7．調査では、愛媛大学下條信行先生にご指導を賜った。記して感謝申し上げます。

8．人骨の分析と保存は、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムに委託し、松下孝幸館長に分析結果を寄稿して頂いた。石経の判読は、土居聡朋氏（愛媛県歴史文化博物館）にご指導を賜った。記して感謝申し上げます。

9．本書の執筆は、梅木と河野とが分担した。

10．本書の編集は、梅木が担当し、宮内慎一と水口の協力を得た。

11．本書にかかわる遺物・記録類は松山市立埋蔵文化財センターで保管している。

12．本書の仕様は以下のとおりである。

製版　カラー写真・写真図版175線

印刷　オフセット印刷

用紙　カラー写真：マットコート、本文：マットカラーＨＧ

製本　アジロ綴じ

本　文　目　次

第１章　はじめに ……[梅木]…… 1

１．調査・報告書刊行に至る経緯　２．刊行組織　３．環　境

第２章　大峰ヶ台遺跡 －３次調査地－ ……[梅木]…… 7

１．調査の経過　２．遺構と遺物

第３章　南江戸客谷遺跡の調査 ……[河野]…… 101

１．調査の経過　２．層　位　３．Ａ区の遺構と遺物　４．Ｂ区の遺構と遺物　５．小　結

第４章　松山市客谷古墳群出土の古墳人骨……[松下孝幸]…… 143

第５章　調査の成果と課題……[梅木]…… 151

挿　図　目　次

第１章　はじめに
第１図　調査地周辺の遺跡分布図（Ｓ＝１：50,000）…… 3
第２図　調査地位置図（Ｓ＝１：5,000）…… 5
第２章　大峰ヶ台遺跡３次調査地
第３図　調査地位置図（Ｓ＝１：1,000）…… 10
第４図　遺構配置図（Ｓ＝１：300）…… 11
第５図　１号墳測量図（Ｓ＝１：100）…… 13
第６図　１号墳出土遺物（Ｓ＝１：３）…… 14
第７図　１号墳土層図（Ｓ＝１：50）…… 15
第８図　２号墳測量図（Ｓ＝１：100）…… 18
第９図　２号墳土層図（Ｓ＝１：50）…… 19
第10図　２号墳測量図（Ｓ＝１：30）…… 21
第11図　２号墳出土遺物（Ｓ＝１：１・１：３）…… 22
第12図　２号墳周溝出土遺物（Ｓ＝１：３）…… 23
第13図　２号墳出土遺物（Ｓ＝１：３）…… 24
第14図　３号墳測量図（Ｓ＝１：30）…… 26
第15図　３号墳主体部測量図・出土遺物（Ｓ＝１：20・１：３）…… 27
第16図　４号墳・６号墳測量図（Ｓ＝１：100）…… 29
第17図　４号墳土層図（Ｓ＝１：50）…… 31
第18図　４号墳Ａ主体部出土遺物（１）（Ｓ＝１：３）…… 33
第19図　４号墳Ａ主体部出土遺物（２）（Ｓ＝１：１）…… 34
第20図　４号墳Ａ主体部出土遺物（３）…… 35
第21図　４号墳Ａ主体部出土遺物（４）（Ｓ＝１：２）…… 36
第22図　４号墳Ｂ主体部出土遺物（Ｓ＝１：３）…… 37
第23図　４号墳周溝出土遺物（Ｓ＝１：３）…… 39
第24図　４～６号墳間の周溝出土遺物（１）（Ｓ＝１：３）…… 40
第25図　４～６号墳間の周溝出土遺物（２）（Ｓ＝１：３）…… 41
第26図　４～６号墳間の周溝出土遺物（３）（Ｓ＝１：３）…… 42
第27図　４～６号墳間の周溝出土遺物（４）（Ｓ＝１：３）…… 43
第28図　４～６号墳間の周溝出土遺物（５）（Ｓ＝１：３）…… 44
第29図　４号墳出土遺物（１）（地点不明）（Ｓ＝１：３）…… 45
第30図　４号墳出土遺物（２）（地点不明）（Ｓ＝１：３）…… 46
第31図　６号墳Ａ主体部測量図（Ｓ＝１：30）…… 48
第32図　６号墳土層図（Ｓ＝１：50）…… 49
第33図　６号墳Ａ主体部出土遺物（Ｓ＝１：１）…… 51
第34図　６号墳Ｂ主体部測量図・出土遺物（１）（Ｓ＝１：30）…… 52

第35図　6号墳B主体部出土遺物（2）（S＝1：3・1：1）…… 53
第36図　6号墳B主体部出土遺物（3）…… 54
第37図　6号墳出土遺物（1）（S＝1：3）…… 55
第38図　6号墳出土遺物（2）（S＝1：3）…… 56
第39図　4号墳ないし6号墳出土遺物（S＝1：3）…… 57
第40図　5号墳測量図（S＝1：100）…… 58
第41図　5号墳土層図（S＝1：50）…… 59
第42図　5号墳出土遺物（S＝1：3）…… 60
第43図　7号墳測量図（S＝1：50）…… 62
第44図　7号墳主体部測量図・出土遺物（S＝1：20・1：3）…… 63
第45図　SK3測量図・出土遺物（S＝1：30・1：3）…… 64
第46図　SK4出土遺物（S＝1：3）…… 64
第47図　SK6測量図・出土遺物（S＝1：30・1：3）…… 66
第48図　SK7測量図（S＝1：30）…… 67
第49図　SK24出土遺物（S＝1：3）…… 67
第50図　SD1・2出土遺物（S＝1：3）…… 68
第51図　SX1測量図（S＝1：50）…… 69
第52図　SX1出土遺物（S＝1：3）…… 70
第53図　出土地点不明遺物（1）（S＝1：3）…… 71
第54図　出土地点不明遺物（2）（S＝1：3）…… 72
第55図　出土地点不明遺物（3）…… 73
第56図　経塚測量図（S＝1：30）…… 74

第3章　南江戸客谷遺跡

第57図　調査地周辺の遺跡分布図（S＝1：2,500）…… 104
第58図　調査地区割図（S＝1：300）…… 105
第59図　B区南・西壁土層図（S＝1：40）…… 106
第60図　A区土層図（S＝1：40）…… 107
第61図　遺構配置図（S＝1：50）…… 109
第62図　A区SB1測量図・出土遺物実測図（S＝1：20・1：3・1：4）…… 111
第63図　A区掘立1測量図・出土遺物実測図（S＝1：40・1：3）…… 112
第64図　掘立1出土遺物実測図（S＝1：3）…… 113
第65図　A区SD2測量図（S＝1：20）
第66図　A区掘立2測量図（S＝1：40）…… 114
第67図　A区掘立2出土遺物実測図（S＝1：3・1：1）…… 115
第68図　A区掘立3測量図（S＝1：40）
第69図　A区掘立4測量図（S＝1：40）…… 116
第70図　A区SD3・4測量図・SD3出土遺物実測図（S＝1：40・1：3・1：4）…… 117

第71図　Ａ区ＳＤ１測量図（Ｓ＝１：40）…… 119
第72図　Ａ区ＳＤ１上層出土遺物実測図（１）（Ｓ＝１：３）…… 120
第73図　Ａ区ＳＤ１中層出土遺物実測図（２）（Ｓ＝１：３）…… 121
第74図　Ａ区ＳＤ１中・下層出土遺物実測図（３）（Ｓ＝１：３）…… 122
第75図　Ａ区ＳＤ１下層出土遺物実測図（４）（Ｓ＝１：３・１：６・１：２）…… 123
第76図　Ａ区ＳＫ１・２測量図（Ｓ＝１：20）…… 124
第77図　Ａ区鋤跡測量図（Ｓ＝１：30）…… 125
第78図　Ｂ区ＳＤ５測量図・出土遺物実測図（Ｓ＝１：30・１：３）…… 126
第79図　Ｂ区ＳＤ６測量図・出土遺物実測図（Ｓ＝１：30・１：３）…… 127
第80図　Ｂ区ＳＤ７測量図（Ｓ＝１：30）…… 128
第81図　Ｂ区ＳＤ７出土遺物実測図（１）（Ｓ＝１：３）…… 129
第82図　Ｂ区ＳＤ７出土遺物実測図（２）（Ｓ＝１：３・１：１）…… 130
第83図　Ｂ区第Ⅳ層出土遺物実測図（Ｓ＝１：３・１：２・１：１）…… 131
第84図　時代別遺構配置図（Ｓ＝１：200）…… 133
第４章　松山市客谷古墳群出土の古墳人骨
第85図　遺跡の位置（Ｓ＝１：25,000）…… 144
第86図　客谷ＳＫ－１…… 149
第87図　客谷ＦＥ－１
第88図　客谷ＦＥ－６…… 150
第89図　客谷ＦＥ－３
第５章　調査の成果と課題
第90図　大峰ヶ台遺跡出土遺物（Ｓ＝１：２・１：１）…… 152

表　目　次

第１章　はじめに
表１　調査地一覧…… 6
第２章　大峰ヶ台遺跡３次調査地
表２　墳丘一覧…… 75
表３　土坑一覧
表４　溝一覧…… 76
表５　１号墳出土遺物観察表（土製品）
表６　２号墳出土遺物観察表（玉類）…… 77
表７　２号墳出土遺物観察表（土製品）
表８　２号墳出土遺物観察表（鉄製品）…… 78
表９　２号墳周溝出土遺物観察表（土製品）

表10　2号墳周溝出土遺物観察表（石製品）…… 78
表11　2号墳出土遺物観察表（土製品）…… 79
表12　3号墳出土遺物観察表（土製品）
表13　3号墳出土遺物観察表（鉄製品）
表14　3号墳周溝出土遺物観察表（土製品）
表15　4号墳Ａ主体部出土遺物観察表（土製品）
表16　4号墳Ａ主体部出土遺物観察表（玉類）…… 80
表17　4号墳Ａ主体部出土遺物観察表（鉄製品）…… 83
表18　4号墳Ａ主体部出土遺物観察表（装身具）…… 84
表19　4号墳Ｂ主体部出土遺物観察表（鉄製品）
表20　4号墳Ｂ主体部出土遺物観察表（土製品）
表21　4号墳周溝出土遺物観察表（土製品）…… 85
表22　4号墳周溝出土遺物観察表（石製品）
表23　4号墳周溝出土遺物観察表（鉄製品）
表24　4～6号墳間の周溝出土遺物観察表（土製品）
表25　4～6号墳間の周溝出土遺物観察表（玉類）…… 87
表26　4～6号墳間の周溝出土遺物観察表（土製品）…… 88
表27　4～6号墳間の周溝出土遺物観察表（石製品）
表28　4号墳出土遺物観察表（土製品）
表29　4号墳出土遺物観察表（石製品）…… 90
表30　4号墳出土遺物観察表（鉄製品）
表31　6号墳Ａ主体部出土遺物観察表（玉類）
表32　6号墳Ｂ主体部出土遺物観察表（土製品）…… 91
表33　6号墳Ｂ主体部出土遺物観察表（玉類）
表34　6号墳Ｂ主体部出土遺物観察表（鉄製品）…… 92
表35　6号墳出土遺物観察表（土製品）…… 93
表36　4号墳か6号墳か不明出土遺物観察表（土製品）…… 95
表37　5号墳出土遺物観察表（土製品）…… 96
表38　7号墳出土遺物観察表（土製品）
表39　ＳＫ３出土遺物観察表（土製品）…… 97
表40　ＳＫ４出土遺物観察表（土製品）
表41　ＳＫ４出土遺物観察表（石製品）
表42　ＳＫ６出土遺物観察表（土製品）
表43　ＳＫ24出土遺物観察表（土製品）
表44　ＳＤ１・２出土遺物観察表（土製品）
表45　ＳＸ１出土遺物観察表（土製品）…… 98
表46　ＳＸ１出土遺物観察表（銅製品）

表47　出土地点不明遺物観察表（土製品）…… 98
表48　出土地点不明遺物観察表（石製品）…… 100
表49　出土地点不明遺物観察表（鉄製品）
表50　大峰ヶ台５次調査地出土遺物観察表（装身具）
表51　試掘調査出土遺物観察表（土製品）
第３章　南江戸客谷遺跡
表52　竪穴式住居址一覧…… 134
表53　掘立柱建物址一覧
表54　溝一覧
表55　土坑一覧
表56　ＳＢ１出土遺物観察表（土製品）
表57　掘立１出土遺物観察表（土製品）…… 135
表58　掘立２出土遺物観察表（土製品）
表59　掘立２出土遺物観察表（玉類）
表60　ＳＤ３出土遺物観察表（土製品）
表61　ＳＤ１上層出土遺物観察表（土製品）…… 136
表62　ＳＤ１上層出土遺物観察表（石製品）…… 137
表63　ＳＤ１中層出土遺物観察表（土製品）
表64　ＳＤ１下層出土遺物観察表（土製品）…… 138
表65　ＳＤ１下層出土遺物観察表（石製品）…… 139
表66　ＳＤ１下層出土遺物観察表（鉄製品）
表67　ＳＤ５出土遺物観察表（土製品）
表68　ＳＤ６出土遺物観察表（土製品）…… 140
表69　ＳＤ７出土遺物観察表（土製品）
表70　ＳＤ７出土遺物観察表（石製品）…… 142
表71　Ｂ区第Ⅳ層出土遺物観察表（土製品）
表72　Ｂ区第Ⅳ層出土遺物観察表（鉄製品）
表73　Ｂ区第Ⅳ層出土遺物観察表（銭貨）
第４章　松山市客谷古墳群出土の古墳人骨
表74　資料数…… 143
表75　人骨一覧…… 148

写　真　図　版　目　次

巻頭図版１　大峰ヶ台遺跡３次調査地の遠景（現況）
巻頭図版２　大峰ヶ台遺跡３次調査地出土の水晶製三輪玉
巻頭図版３　大峰ヶ台遺跡３次調査地出土遺物

第２章　大峰ヶ台遺跡３次調査地
図版１　１．調査地遠景（１）（南西より）
　　２．調査地遠景（２）（南より）
　　３．完掘状況（南より）
図版２　１．１・２・３号墳完掘状況（南西より）
　　２．１号墳周溝遺物出土状況（１）（南東より）
　　３．１号墳周溝遺物出土状況（２）（北より）
図版３　１．２号墳完掘状況（南より）
　　２．主体部完掘状況（西より）
　　３．２号墳周溝遺物出土状況（北より）
図版４　１．３号墳全景（南西より）
　　２．３号墳主体部（北東より）
　　３．３号墳完掘状況（東より）
図版５　１．４号墳全景（南東より）
　　２．４号墳Ａ主体部（１）（南南東より）
　　３．４号墳Ａ主体部（２）（南南東より）
図版６　１．４号墳Ａ主体部遺物出土状況（１）（南南東より）
　　２．４号墳Ａ主体部人骨出土状況（南東より）
　　３．４号墳Ａ主体部遺物出土状況（２）（北より）
図版７　１．４号墳Ｂ主体部全景（北より）
　　２．４号墳Ｂ主体部完掘状況（北より）
　　３．４号墳Ａ・Ｂ主体部完掘状況（東より）
図版８　１．５号墳全景（北西より）
　　２．５号墳完掘状況（南より）
　　３．５号墳土層（南東より）
図版９　１．６号墳全景（１）（東より）
　　２．６号墳全景（２）（北東より）
　　３．６号墳Ａ・Ｂ主体部完掘状況（東より）
図版10　１．６号墳Ａ・Ｂ主体部遺物出土状況（北より）
　　２．６号墳Ｂ主体部出土遺物状況（１）（東より）
　　３．６号墳Ｂ主体部出土遺物状況（２）（南より）

図版11　1．７号墳完掘状況（１）（南東より）
　　2．７号墳完掘状況（２）（南西より）
　　3．７号墳主体部（南より）
図版12　1．経塚遠景（東より）
　　2．経塚検出状況（１）（西より）
　　3．経塚検出状況（２）（北より）
図版13　1．出土遺物（１号墳周溝・２号墳主体部・２号墳周溝）
図版14　1．出土遺物（３号墳主体部・４号墳Ａ主体部）
図版15　1．４号墳出土遺物（１）（Ａ主体部）
図版16　1．４号墳出土遺物（２）（Ｂ主体部石室外・４・６号墳間周溝ａ地点・ｂ地点）
図版17　1．４・６号墳間周溝出土遺物（１）（ｂ地点・ｃ地点）
図版18　1．４・６号墳間周溝出土遺物（２）（ｃ地点）
図版19　1．４・６号墳間周溝出土遺物（３）（ｃ地点・ｄ地点・ｅ地点・ｆ地点）
図版20　1．４・６号墳間周溝出土遺物（４）（東側・西側・地点不明）
図版21　1．６号墳出土遺物（１）（Ｂ主体部）
図版22　1．６号墳出土遺物（２）（Ａ主体部・地点不明）
図版23　1．出土遺物（５号墳・７号墳）
図版24　1．出土遺物（ＳＫ・ＳＤ・ＳＸ・地点不明）
第３章　南江戸客谷遺跡
図版25　1．調査地全景（南西より）
　　2．調査風景（西より）
図版26　1．Ａ区遺構検出状況（西より）
　　2．Ａ区掘立２Ｐ３根石検出状況（西より）
図版27　1．Ａ区遺構完掘状況（１）（北東より）
　　2．Ａ区遺構完掘状況（２）（西より）
図版28　1．Ａ区拡張区ＳＤ１・３・４完掘状況（１）（西より）
　　2．Ａ区拡張区ＳＤ１・３・４完掘状況（２）（東より）
図版29　1．Ｂ区遺構検出状況（西より）
　　2．Ｂ区西壁土層（東より）
図版30　1．Ｂ区ＳＤ７遺物出土状況（１）（東より）
　　2．Ｂ区ＳＤ７遺物出土状況（２）（西より）
図版31　1．Ｂ区遺構完掘状況（１）（東より）
　　2．Ｂ区遺構完掘状況（２）（北西より）
図版32　1．Ａ区掘立２・ＳＤ１上層・中層出土遺物
図版33　1．Ａ区ＳＤ１中層・下層出土遺物
図版34　1．Ｂ区ＳＤ７出土遺物
図版35　1．Ｂ区第Ⅳ層出土遺物

第Ⅰ章　はじめに

1．調査・報告書刊行に至る経緯

本書は、松山市南江戸６丁目内で行われた客谷古墳群・Ａ地区（大峰ヶ台遺跡３次調査地）と南江戸客谷遺跡の発掘調査報告書である（第１・２図）。

客谷古墳（Ａ地区）の調査は、松山市総合公園の整備に伴う事前調査で、昭和61年度（1986年度）に松山市教育委員会文化課が実施した。調査では、古墳が７基発見された。この結果を受けて、公園整備では、これらの古墳を活用することになり、埋め戻して保存した。

調査後の昭和62年３月には、概要報告のための整理作業を行い、本格的な整理作業と報告書作成は平成16年度に、松山市教育委員会の委託を受けて、同教育委員会文化財課の指導のもと、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した。

南江戸客谷遺跡の調査は、宅地開発に伴う事前調査で、平成10年度（1998年度）に松山市教育委員会文化財課の指導のもと、財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した。調査の結果、古墳時代～中世の集落関連遺構を検出した。調査終了時には、概要報告のための整理作業を行い、本格的な整理作業と報告書作成は平成16年度までに適時行った。

2．刊行組織（平成18年3月31日現在）

松山市教育委員会		教育長	土居　貴美
	事務局	局長	石丸　修
		企画官	松本　義文
		企画官	仙波　和典
		企画官	江戸　通敏
	文化財課	課長	篠原　忠人
(財)松山市生涯学習振興財団		理事長	中村　時広
		事務局長	一色　巧
		事務局次長	石丸　允良
		事務局次長	丹生谷博一
		事務局調査監	杉田　久憲
	埋蔵文化財センター	所長	丹生谷博一
		次長兼管理係長	重松　幹雄
		次長兼調査係長	西尾　幸則
		調査員	梅木　謙一
		調査員	河野　史知
		調査員	宮内　慎一

3．環　境（第1図）

松山平野は、高縄半島の西に位置する。高縄半島は、東三方ヶ森、伊予子山、高縄山から形成され、この半島に源を発した大小の河川によって形成された沖積平野が松山平野である。

大峰ヶ台丘陵は松山平野の西部にあって、西方の伊予灘からは約3.5㎞に位置する独立丘陵である。南江戸地区は、大峰ヶ台の南の丘陵地と、その麓にある低地からなる。この地域は、古墳時代の堰遺構で著名な古照遺跡があり、遺跡が豊富な地区である。

縄文時代

南江戸地区周辺には、遺構を伴う明確な縄文時代遺跡は確認されていない。ただし、大峰ヶ台東裾部の朝美澤遺跡（文献1）からは、後・晩期の土器が出土し、古照遺跡（文献2）の砂礫堆積層からは、前期末～晩期の土器が出土している。

弥生時代

前期：朝美澤遺跡2次調査地（文献3）からは、前期前半の土器群が出土している。

中期：大峰ヶ台丘陵の山頂部には、集落遺跡の大峰ヶ台遺跡4次調査地（文献4）がある。竪穴式住居跡や土坑などの遺構が検出され、分銅形土製品や土製勾玉などの出土品がある。同時期の土器は、丘陵東裾部の朝美澤遺跡（文献5）や朝美辻遺跡（文献6）からも出土している。

後期：後半には、丘陵の東山麓で集落が展開する。朝美澤遺跡（文献7）では、壺棺墓や竪穴式住居址などが検出され、大峰ヶ台遺跡6次調査地（旧：朝美辻遺跡、文献8）では、丘陵鞍部に投棄された土器が多量に出土している。また、古照遺跡の東に位置する古照ゴウラ遺跡（文献9）からは、後期末葉の土器が出土している。

古墳時代

集落遺跡：古照遺跡（文献10）からは、大規模な潅漑用井堰3基が検出されている。この堰を構成する杭の部材には、高床倉庫の建築部材を転用したものが含まれている。また、多くの植物の種子や花粉等が検出され、環境復元に良好な資料が得られている。

古墳：大峰ヶ台丘陵では、多くの古墳が確認されている。

前期初頭には、丘陵北西部に前方後円墳の朝日谷2号墳（文献11）がある。副葬品には、舶載鏡2面、銅鏃44点、鉄鏃22点、直刀1点、鉄剣（槍）5点、鉄斧1点、鉄製工具2点、ガラス玉4点等がある。

前期～中期には、西側の大池東地区（文献12）の丘陵頂上部に、木棺直葬墳がある。少ない出土品からは、時期決定が難しいが、出土の土師器は4世紀後半～5世紀代のものであろう。

後期には、古墳群は丘陵の南斜面に広く展開し、さらには、北西斜面・西斜面にも少ないながら古墳群が形成される。今回報告の客谷古墳群は南斜面の西端にあたる。

古代～中世

平安時代の寺院跡があり、澤廃寺（文献13）と命名されている。

Ⓐ 大峰ヶ台遺跡３次調査地　Ⓑ 南江戸客谷遺跡　❶ 朝美澤遺跡　❷ 大峰ヶ台遺跡４次調査地
❸ 大峰ヶ台遺跡６次調査地　❹ 古照ゴウラ遺跡　❺ 古照遺跡　❻ 朝日谷２号墳
❼ 南江戸鬮目遺跡　❽ 南江戸桑田遺跡

第１図　調査地周辺の遺跡分布図（Ｓ＝１：50,000）

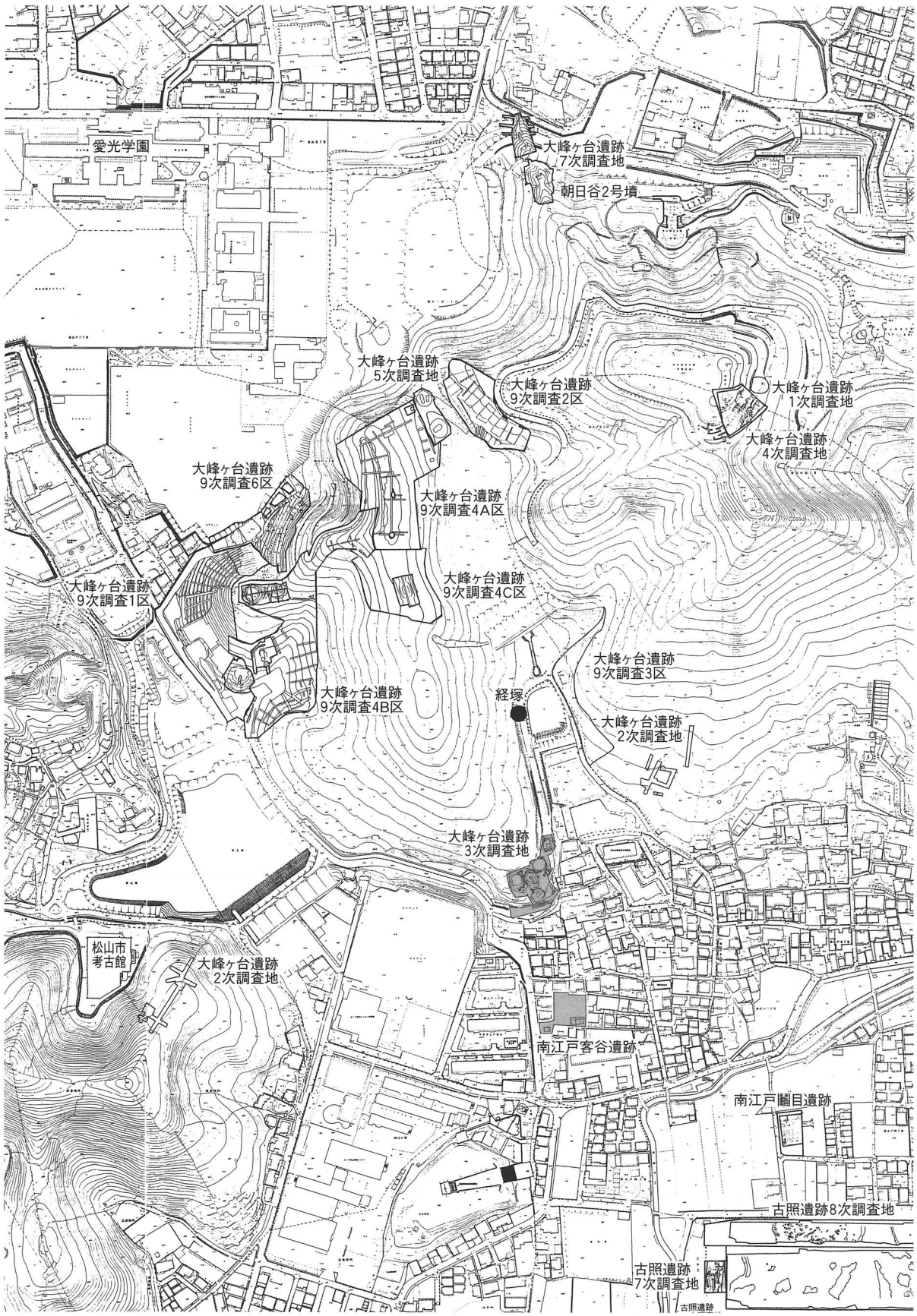
中世では、南斜面で鎌倉時代に「大宝寺本堂」（文献14、国宝）が建築される。また、その南の低地部では、水田、墓等が検出され、集落が形成されている。南江戸鬮目遺跡（文献15）や古照遺跡では、多量の土師器・瓦器・須恵器が出土している。

近　世

南東斜面には、墓地が形成されている。南江戸桑田遺跡（文献16）では、棺桶11基、箱棺墓１基、土壙墓等を検出している。

【文　献】

1．宮内　慎一　1992『朝美澤遺跡・辻町遺跡』松山市埋蔵文化財センター
2．森　光晴・大山　正風　1976『古照遺跡Ⅱ』松山市教育委員会
3．宮内　慎一　1992『朝美澤遺跡・辻町遺跡』松山市埋蔵文化財センター
4．栗田　茂敏　1995『大峰ヶ台遺跡４次調査』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター
5．岡田　敏彦　1996『一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』愛媛県埋蔵文化財調査センター
6．岡田　敏彦　1994『一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』愛媛県埋蔵文化財調査センター
7．梅木　謙一・松村　淳　1994『大峰ヶ台丘陵の遺跡』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター
8．栗田　茂敏　2005「大峰ヶ台遺跡６次調査」『宮前川流域の遺跡』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター
9．松村　淳・宮崎　泰好　1989「古照Ｇ遺跡（３次）」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』松山市教育委員会
10．古照遺跡調査本部　1974『古照遺跡』古照遺跡調査本部・松山市教育委員会
11．梅木　謙一　1998『朝日谷２号墳』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター
12．高尾　和長　1998『大峰ヶ台遺跡Ⅱ９次調査』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター
13．岡田　敏彦　1996『一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』愛媛県埋蔵文化財調査センター
14．松山市教育委員会文化財課　2003『松山の文化財』
15．上田　真　1991『南江戸鬮目遺跡』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター
16．梅木　謙一　2005『宮前川流域の遺跡－本文編－』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター



第２図　調査地位置図（Ｓ＝１：5,000）

[参考文献]

1）河野史知・相原浩二　1995『辻町遺跡２次調査』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター

2）栗田正芳・河野史知・宮脇和人　1993『古照遺跡－第６次調査－』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター

3）栗田正芳　1994『古照遺跡－第７次調査－』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター

4）栗田正芳・小笠原善治・河野史知　1995『古照遺跡－第10・11次調査－』松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター

5）西尾幸則・栗田茂敏・宮崎泰好　1987『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅰ』松山市教育委員会

6）宮崎泰好　1989『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』松山市教育委員会

7）中野良一・北山育美　2004『南斎院土居北遺跡・南江戸鬮目遺跡（２次調査）』愛媛県埋蔵文化財調査センター

表１　調査地一覧

遺　跡　名	所　在　地	調査面積（m²）	調　査　期　間
大峰ヶ台（３次）	松山市南江戸６丁目	5,100	1986年７月１日～1987年２月９日
南 江 戸 客 谷	松山市南江戸６丁目	864	1999年２月16日～1999年３月12日

第２章

大峰ヶ台遺跡

－３次調査地－

第２章　大峰ヶ台遺跡 －３次調査地－

１．調査の経過

（１）調査の経緯（第３図）

本調査は、大峰ヶ台丘陵に新設される松山市総合公園建設に伴う緊急調査である。調査地は、松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地『No. 32・33大峰ヶ台弥生遺跡・大峰ヶ台古墳群』内にあたり、周知の遺跡として知られ、すでに２回の調査が行われている。４次調査地は、頂上付近で、弥生時代の集落関連資料を確認している（栗田1995）。２次調査地は、本調査地の谷を挟む東側の丘陵傾斜地で、須恵器片が採取されている。なお、本調査地は、事前の踏査によって古墳が確認されていた。

調査は、公園建設で現状変更される地域を対象とし、特に古墳が群集する南地点と、経塚が確認された北側地点で本格的な調査を1986（昭和61）年７月１日～1987（昭和62）年２月９日に実施した。

整理作業と報告書の作成は、2005（平成17）年度に松山市教育委員会の指導のもと財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが行った。

（２）調査組織

調 査 地：松山市南江戸６丁目

遺 跡 名：大峰ヶ台遺跡３次調査地・客谷古墳群（Ａ地区）

調査期間：1986（昭和61）年７月１日～1987（昭和62）年２月９日

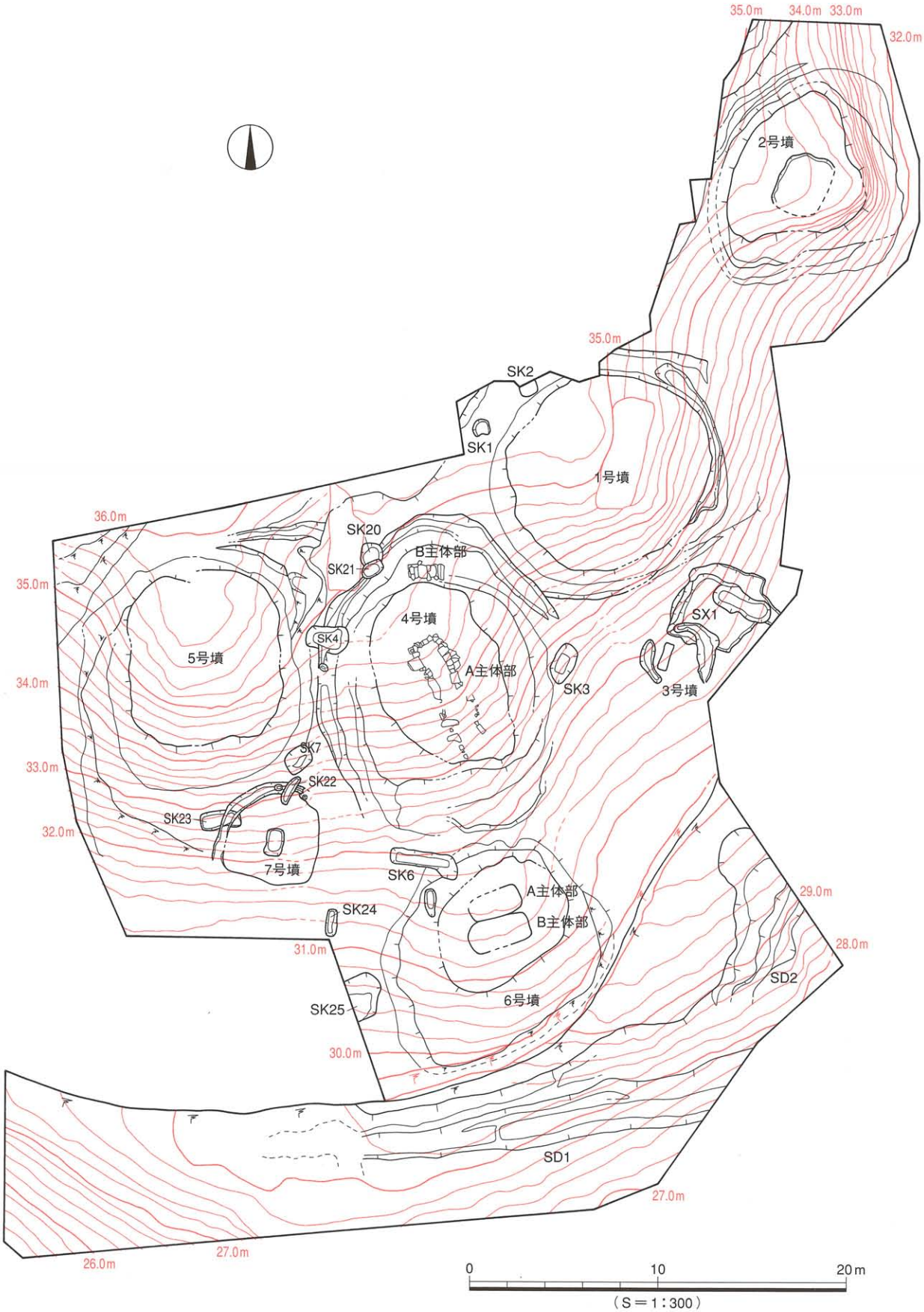
調査面積：5100㎡

調査協力：松山市

調査主体：松山市教育委員会文化課（当時）

調査担当：西尾幸則

第３図　調査地位置図（Ｓ＝１：1,000）


35.0m
34.0m
33.0m
32.0m
2号墳
35.0m
SK2
SK1
1号墳
36.0m
SK20
B主体部
SK21
35.0m
4号墳
SX1
SK4
5号墳
A主体部
SK3
3号墳
34.0m
SK7
33.0m
SK22
SK23
32.0m
7号墳
SK6
A主体部
29.0m
SK24
B主体部
31.0m
28.0m
SD2
6号墳
SK25
30.0m
SD1
27.0m
26.0m
27.0m
0
10
20m
（S＝1：300）

第４図　遺構配置図

２．遺構と遺物（第４図）

調査の結果、南側地点では、古墳７基、土坑12基、溝２条、その他１基の計22基、北側地点では、経塚１基を確認した。ここで報告する古墳名は、全てが客谷古墳である。

（１）客谷古墳：１～７号墳

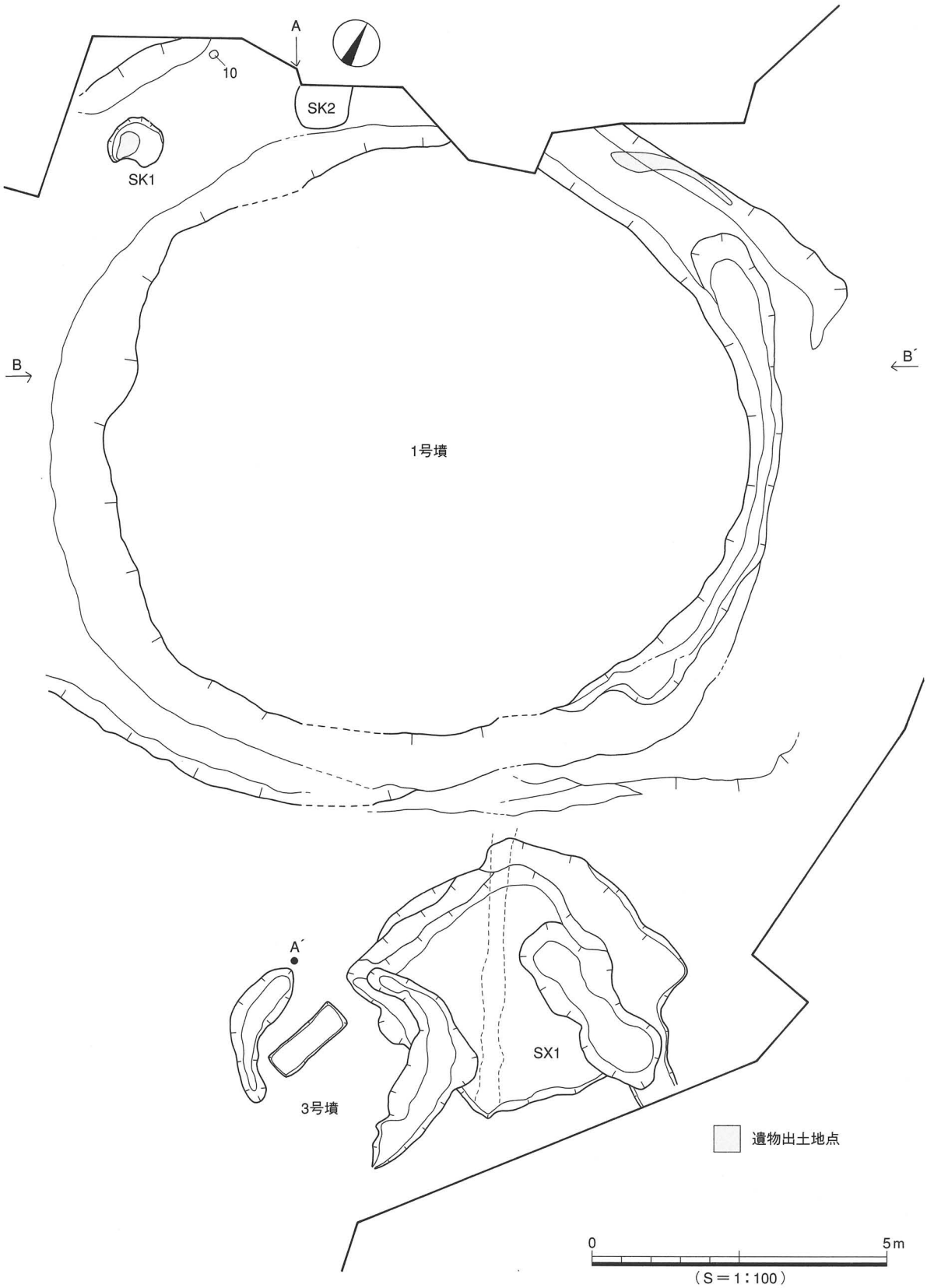
１号墳（第５～７図、図版２・13）

１号墳は標高35.1ｍの南斜面に立地し、調査地点の中央やや北に位置する。周溝の西側は４号墳の周溝と接するが、切り合い関係や形状は分からない。確認遺構は墳丘基底部と周溝に限られ、主体部は削平されている。

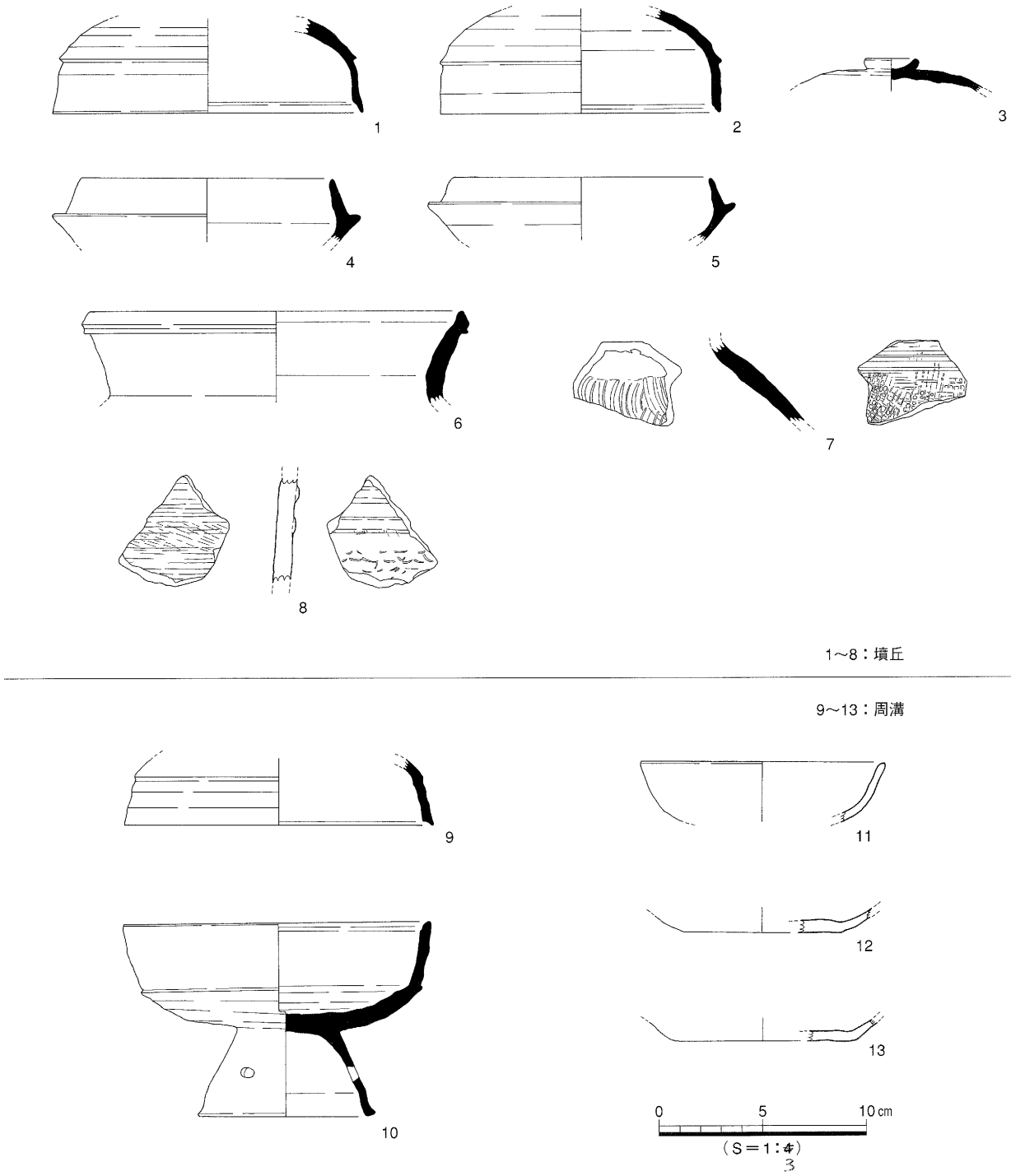
墳形は円墳で、東西方向にやや長く、規模は東西11.0ｍ、南北10.0ｍを測る。墳丘を構成する土層は第７図２とみられ、黒色土で旧表土の可能性がある。３は基盤層、４・５・６は性格が判断できない。

遺物は、墳丘と周溝から出土しているが、詳細な出土地点は分からない。墳丘出土品は第６図１～８で、１～７は６世紀代の須恵器、８は中近世の風炉の破片である。周溝では、周溝の北東部で土器片の散在がみられる。10の須恵器は周溝の北西部分で、11～13の土師器は古墳時代～中世。南東部分で出土している。

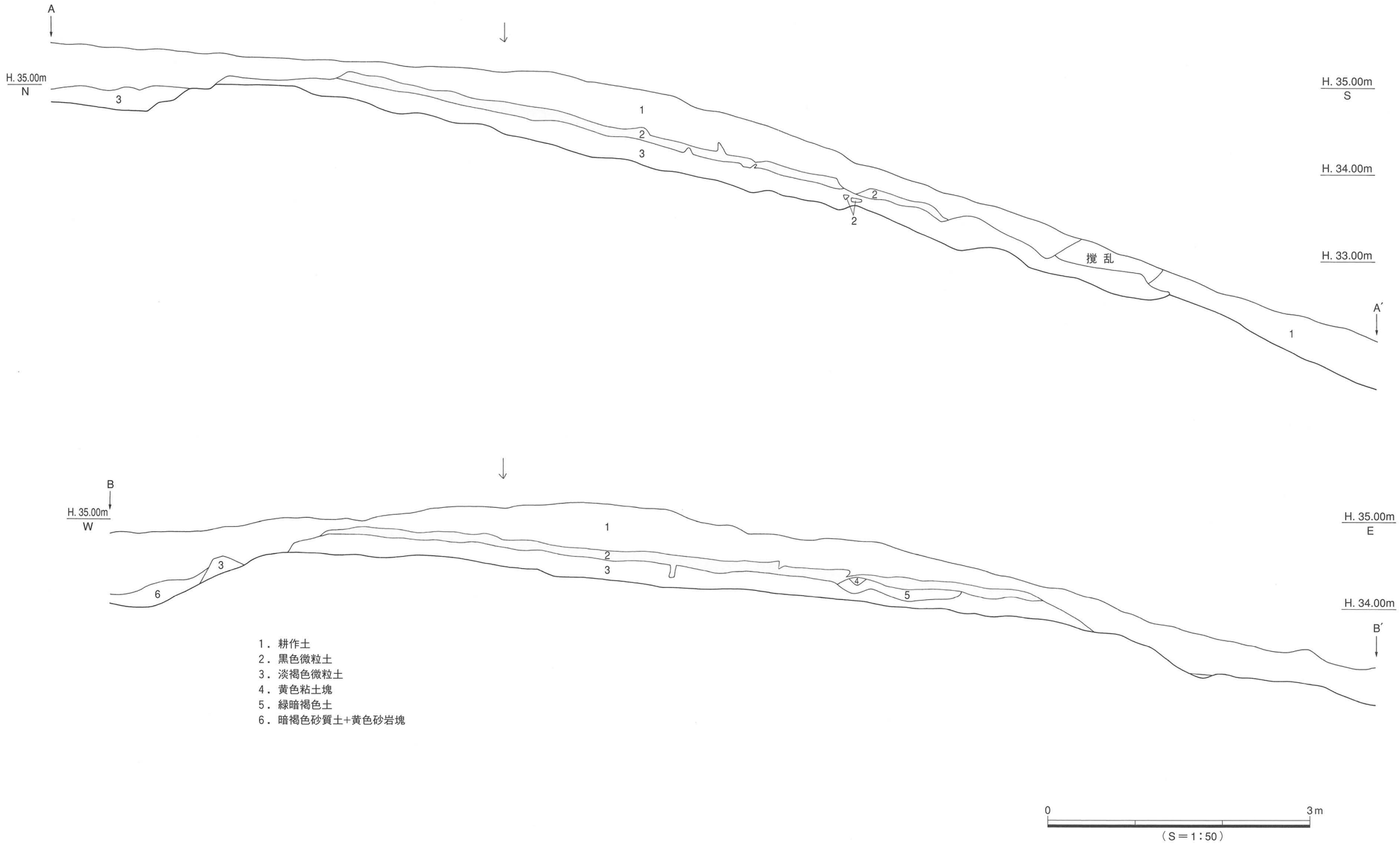
時期：出土品からは、６世紀前半代の築造と、６世紀代の使用が考えられる。



第５図　１号墳測量図



第６図　１号墳出土遺物


A
H. 35.00m
N
3
1
2
3
2
2
H. 35.00m
S
H. 34.00m
H. 33.00m
撹 乱
A′
1
B
H. 35.00m
W
3
6
1
2
3
4
5
H. 35.00m
E
H. 34.00m
B′
1．耕作土
2．黒色微粒土
3．淡褐色微粒土
4．黄色粘土塊
5．緑暗褐色土
6．暗褐色砂質土+黄色砂岩塊
0
3m
（S＝1：50）

第７図　１号墳土層図

２号墳（第８～13図、図版３・13）

２号墳は標高34.5mの南斜面に立地し、調査地点の北東端に位置する。確認遺構は墳丘基底部、主体部、一部の周溝であるが、墳丘・主体部共に上部は大きく削平されている。

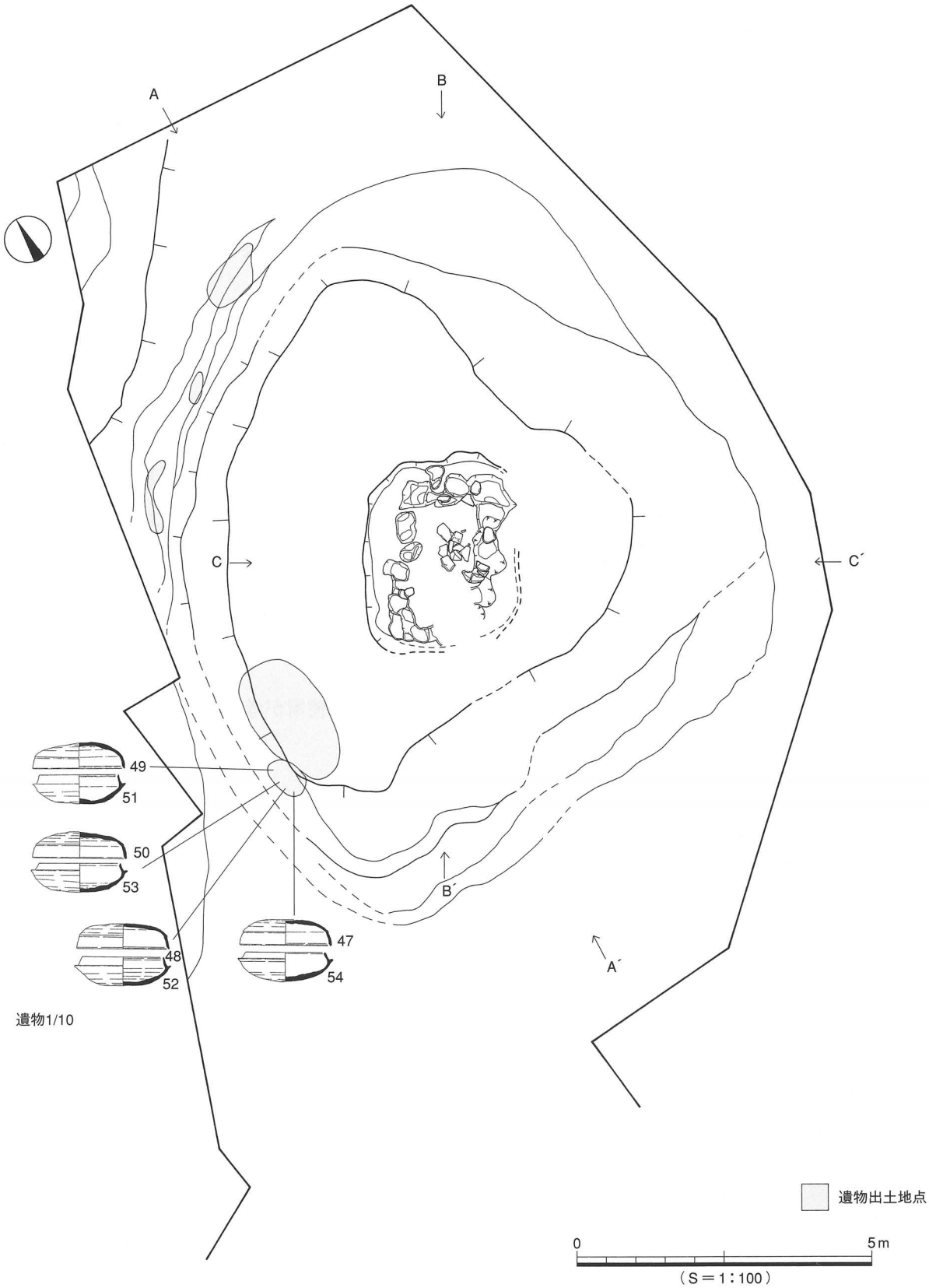
墳形は、現状は開墾の削平により隅丸三角形状を呈しているが、本来は円形とみて良いだろう。規模は東西6.8m、南北8.7mを測る。墳丘を構成する土層は第９図36以上の土とみられ、36は黒灰色土で、旧表土の可能性がある。また、盛り土の構築過程では、黒灰色土の部分的使用が認められる。墳丘では、遺物の散在が西側で見られている。詳細な出土地点は分からないが、墳丘出土品として須恵器片４点（38～41）と鉄片２点（44・45）とがある。このうち、41の皿は８世紀代以降の混入品であろう。

主体部は、横穴式石室であるが、ほとんどの石が抜き取られている。抜き跡からは、北側の隅石が南に比べ大きいので、入り口は南側が考えられる。また、石室内の大型石は落ち込み石と考えられる。墓坑の規模は長軸3.26m、短軸2.65m、深さ0.24mを測る。石室の規模は長軸2.00m、短軸1.16mを測る。床面では、礫床とした小礫が部分的に検出された。遺物は、玄室内の入り口付近で土師器の甕１点（36）、奥壁よりでガラス玉16点（14～29）と土玉６点（30～35）が出土している。なお、石室内出土品の鉄片２点（42・43）がある。また、裏込め土からは須恵器１点（37）が出土している。

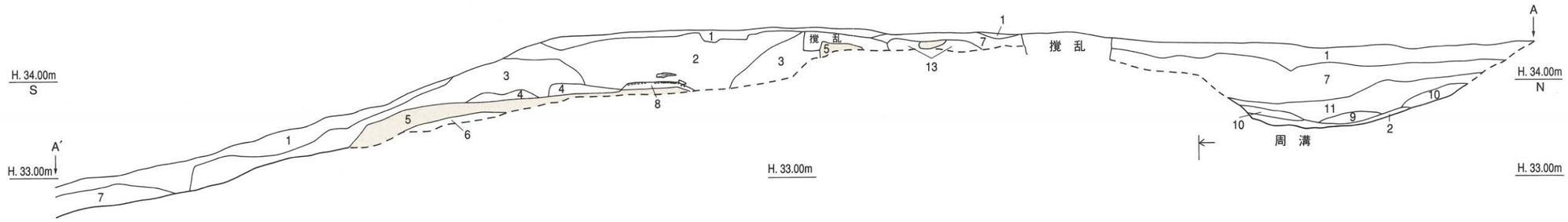
周溝は、北西部と南西部が僅かに残り、この地点で幾つかの遺物の散在が認められる。出土品は46～57で、北西部からの出土は46・56・57で南西部からの出土は47～54である。46は鉄器、47～55は６世紀代の須恵器、56は土師器碗、57は片岩である。

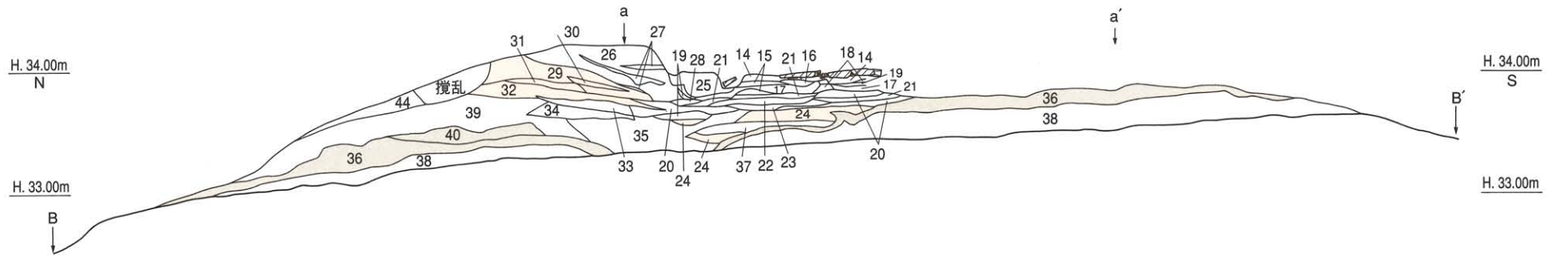
また、出土位置の不明な須恵器７点（58～64）がある。

時期：出土品からは、６世紀前半～中頃の築造と、６世紀代の使用が考えられる。

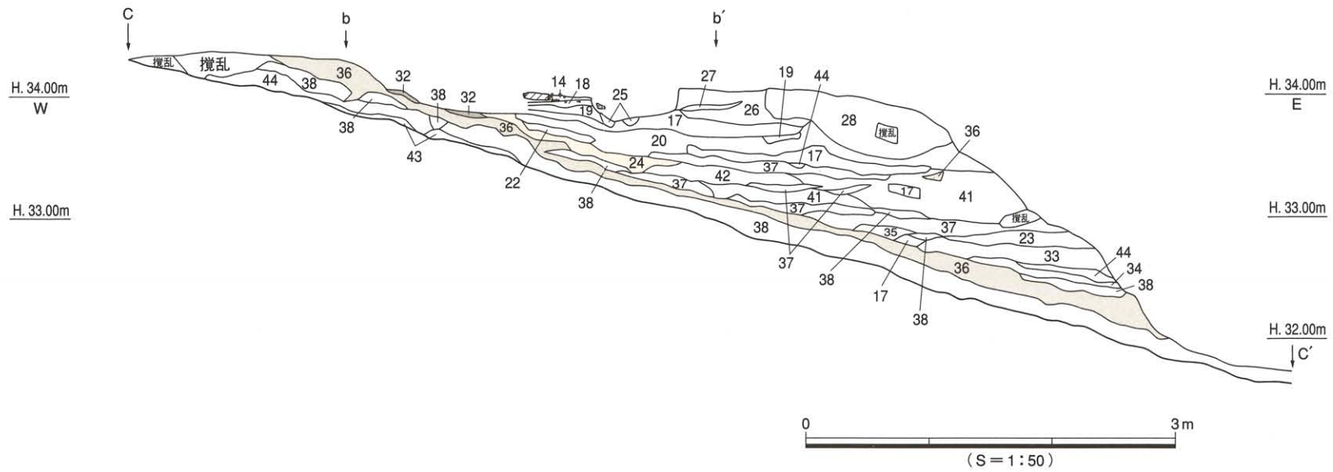


第８図　２号墳測量図

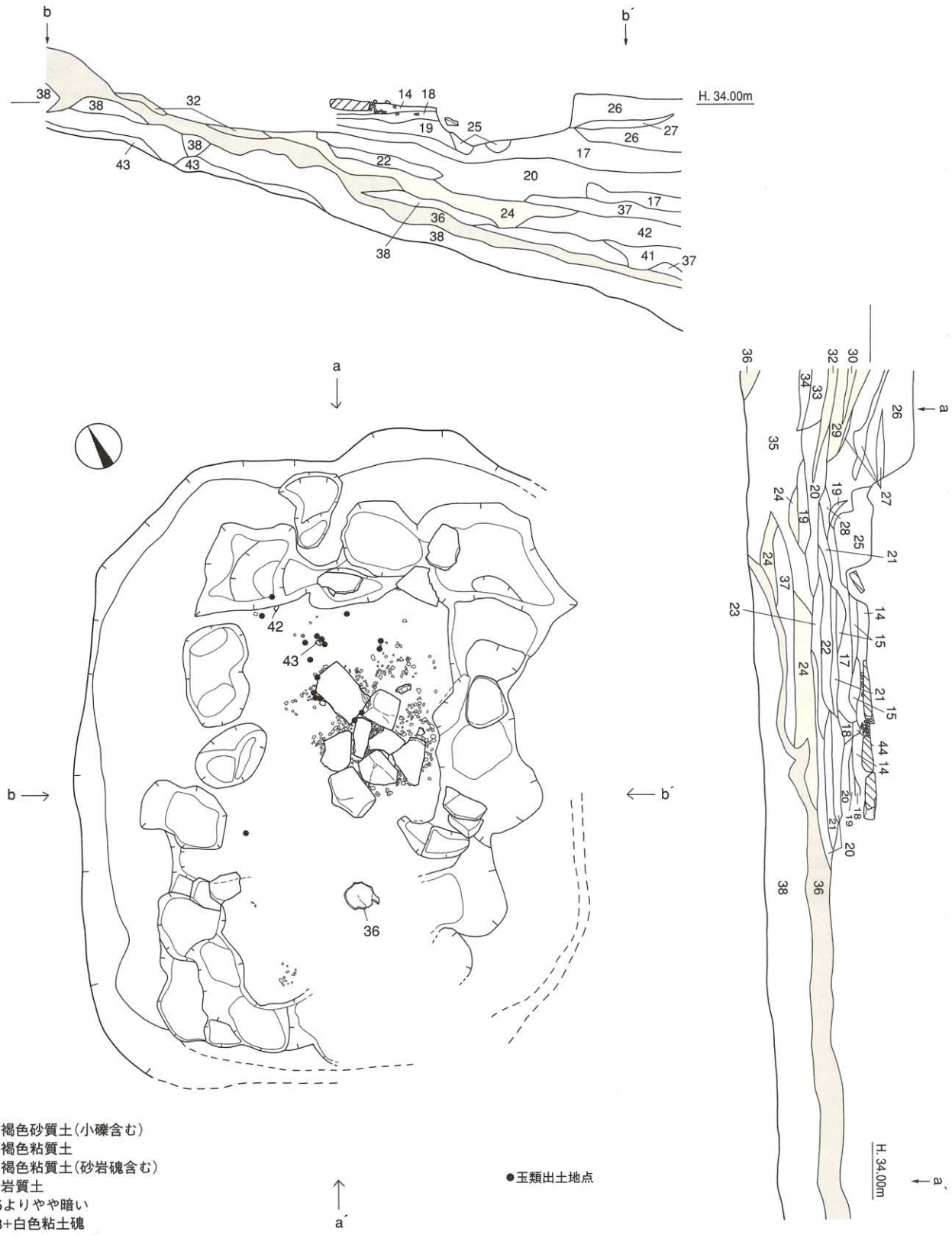




1．黄褐色砂質土
2．黄色砂質土
3．黄色粘質土+黄色粘土ブロック状
4．茶褐色微粒土
5．黒色微粒土
6．淡褐色微粒土
7．耕作土
8．淡褐色粘質土（石室床面）
9．淡褐色砂質土
10．淡褐色砂質土+汚染土
11．淡褐色粘質土+耕作土
12．黄色砂質土（風化土）
13．暗褐色砂質土+黄色粘土ブロック
14．黄褐色砂質土（小礫含む）
15．淡褐色粘質土
16．淡褐色粘質土（砂岩魂含む）
17．砂岩質土
18．15よりやや暗い
19．18+白色粘土魂
20．18+白色粘土小魂
21．18+白色粘土小魂が等分
22．21より白色粘土多い
23．22より白い
24．茶褐色微粒土+黒色灰土
25．黄色粘質土
26．黄色粘質土+粘土魂
27．25+黄色粘土小魂
28．26より暗い
29．黒灰色土+黄色粘土ブロック
30．29より黄色粘土多い
31．30より黄色粘土多い
32．29～31より粘土魂大きい
33．暗灰褐色土+黄色粘土魂
34．33より粘土魂大きい
35．34より粘土が少ない
36．黒灰色土
37．茶褐色微粒土+白色粘土
38．茶褐色微粒土
39．29よりブロック少ない
40．黒灰色土（36より明るい）
41．37より白色粘土少ない
42．41より白色粘土少ない
43．白色粘土
44．不明

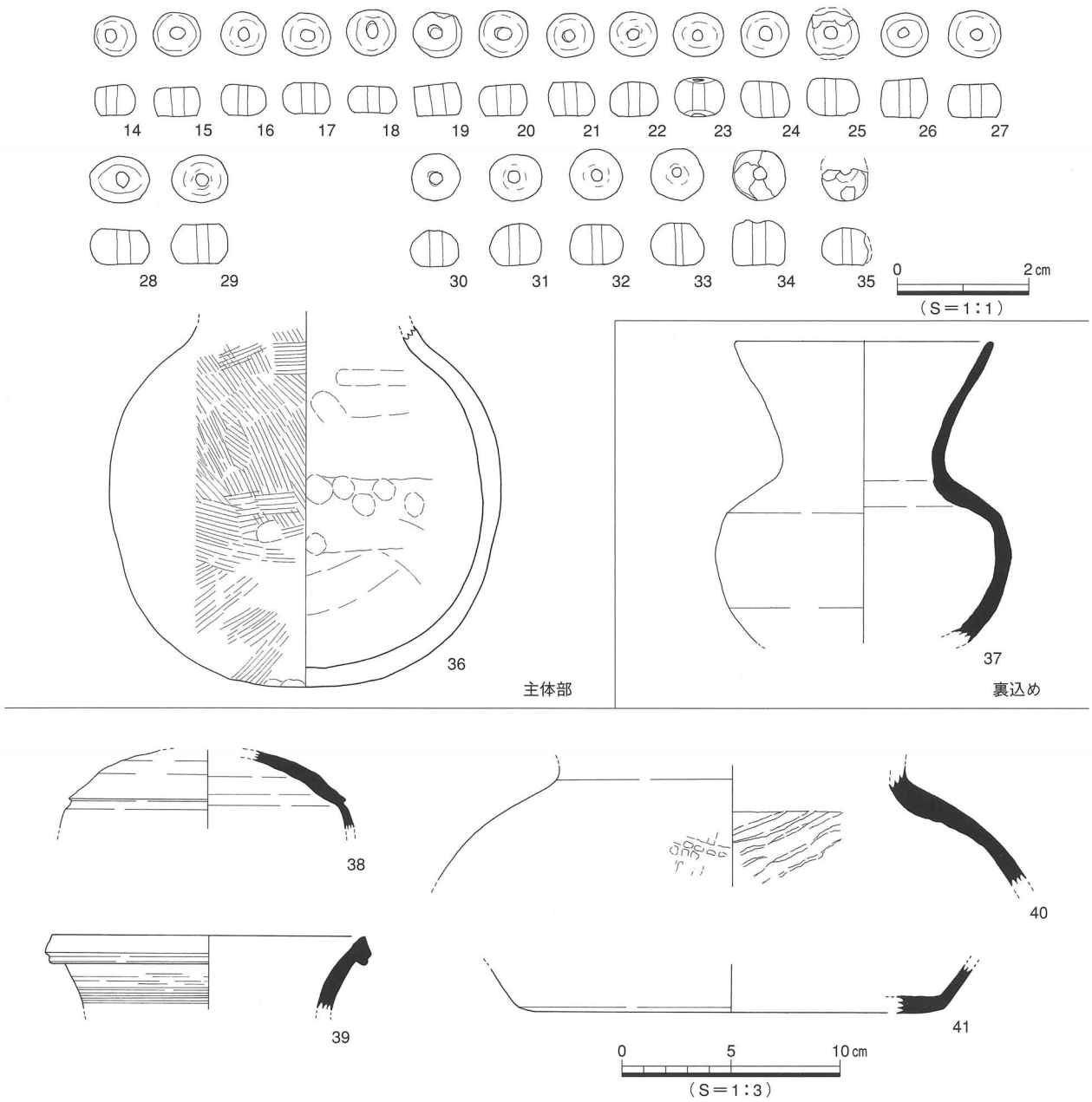


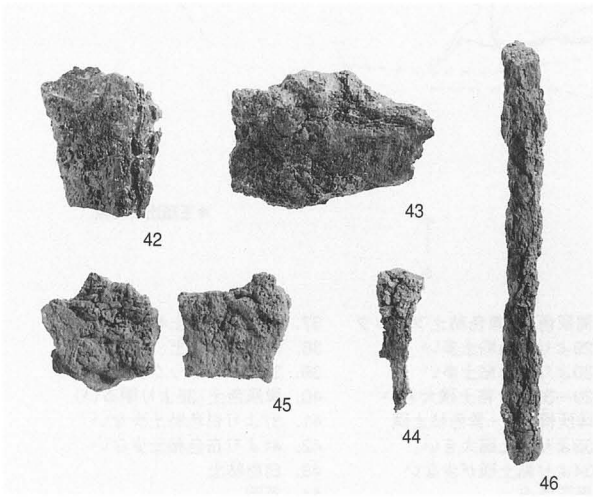
第９図　２号墳土層図



14. 黄褐色砂質土(小礫含む)
15. 淡褐色粘質土
16. 淡褐色粘質土(砂岩礫含む)
17. 砂岩質土
18. 15よりやや暗い
19. 18+白色粘土礫
20. 18+白色粘土小礫
21. 18+白色粘土小礫が等分
22. 21より白色粘土多い
23. 22より白い
24. 茶褐色微粒土+黒色灰土
25. 黄色粘質土
26. 黄色粘質土+粘土礫
27. 25+黄色粘土小礫
28. 26より暗い
29. 黒灰色土+黄色粘土ブロック
30. 29より黄色粘土多い
31. 30より黄色粘土多い
32. 29～31より粘土礫大きい
33. 暗灰褐色土+黄色粘土礫
34. 33より粘土礫大きい
35. 34より粘土礫が少ない
36. 黒灰色土
37. 茶褐色微粒土+白色粘土
38. 茶褐色微粒土
39. 29よりブロック少ない
40. 黒灰色土(36より明るい)
41. 37より白色粘土少ない
42. 41より白色粘土少ない
43. 白色粘土
44. 不明

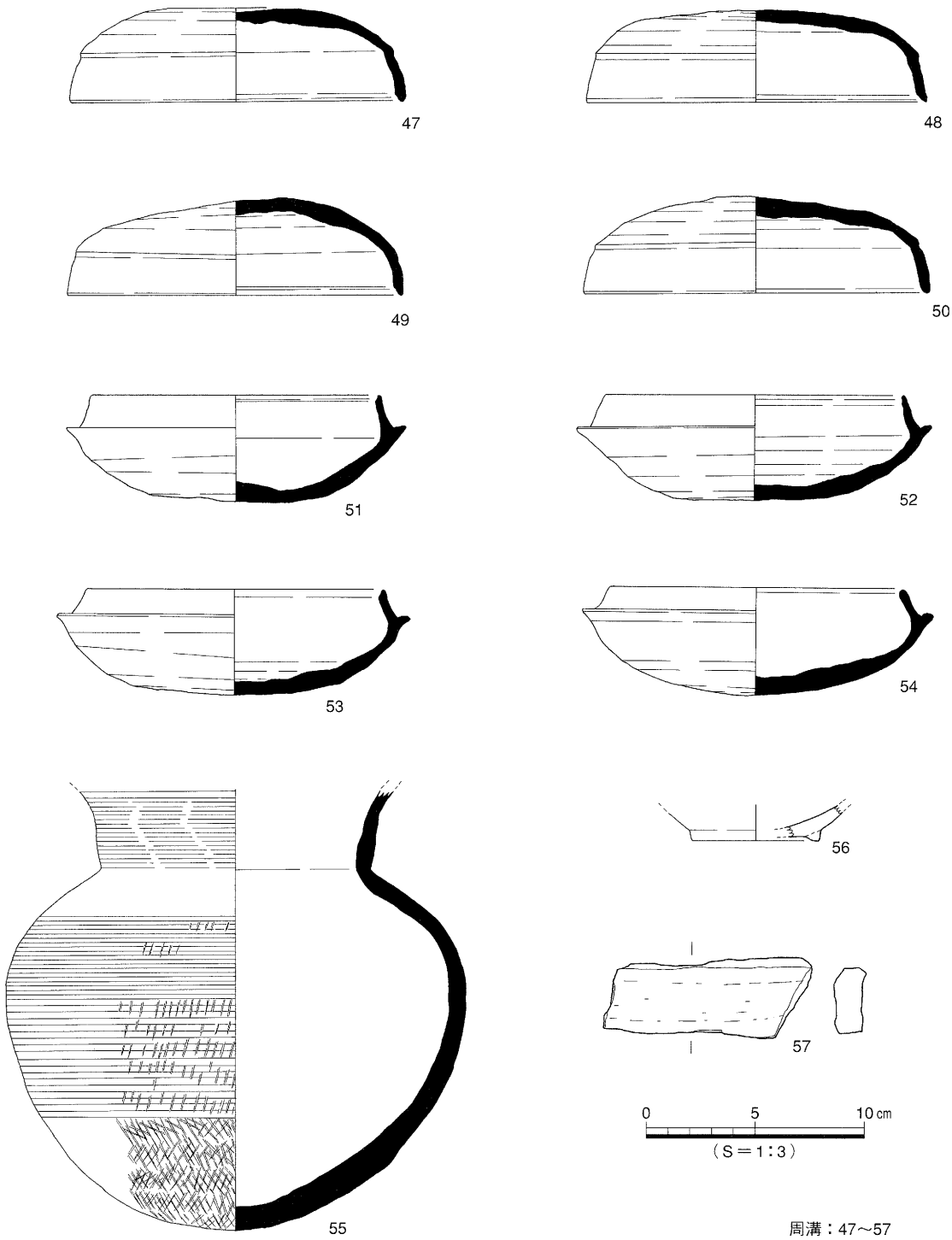
第10図　2号墳測量図



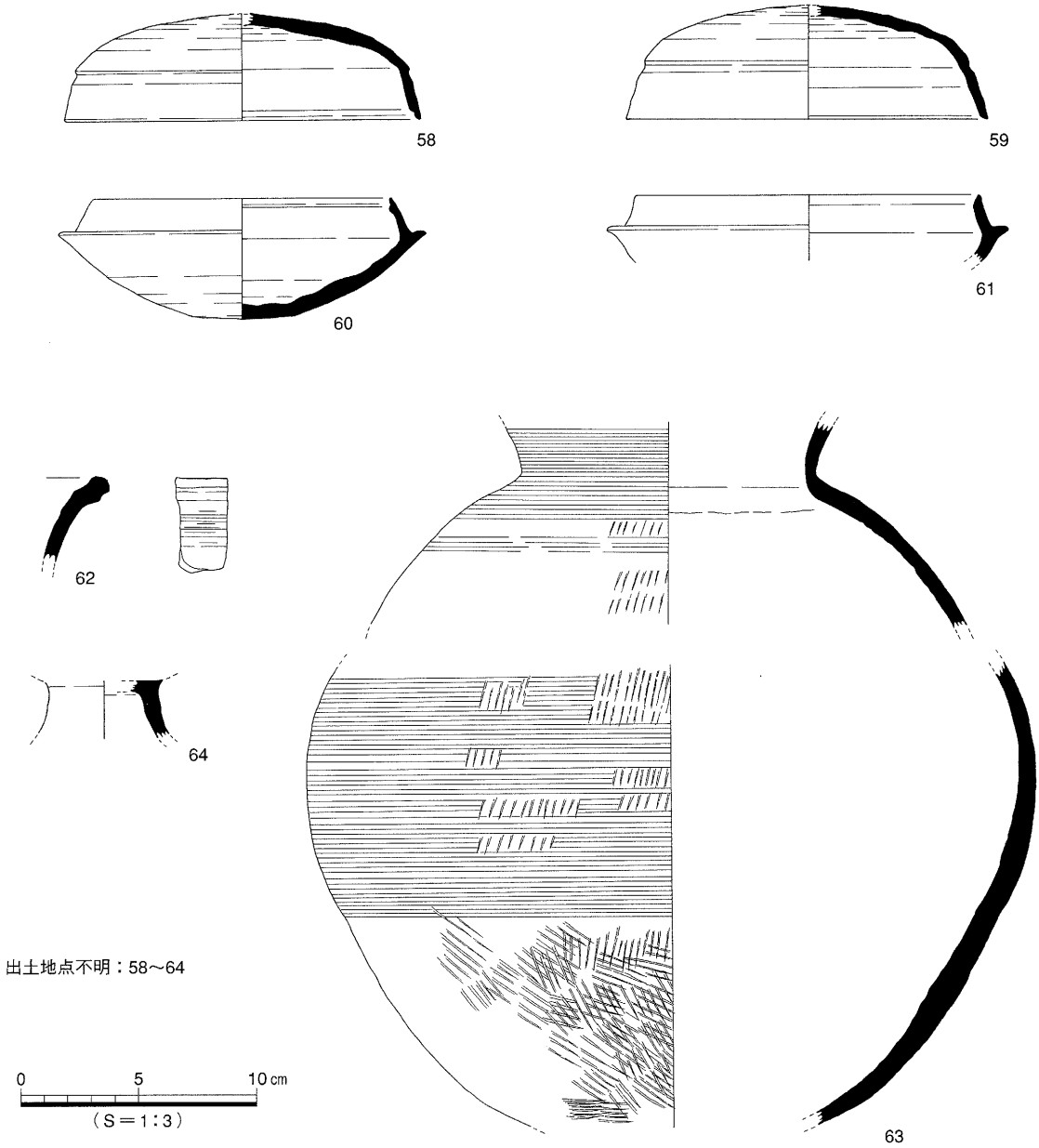


主体部：14～36・42・43
裏込め：37
墳　丘：38～41・44・45
周　溝：46

第11図　２号墳出土遺物



第12図　2号墳出土遺物



第13図　２号墳出土遺物

３号墳（第14・15図、図版４・14）

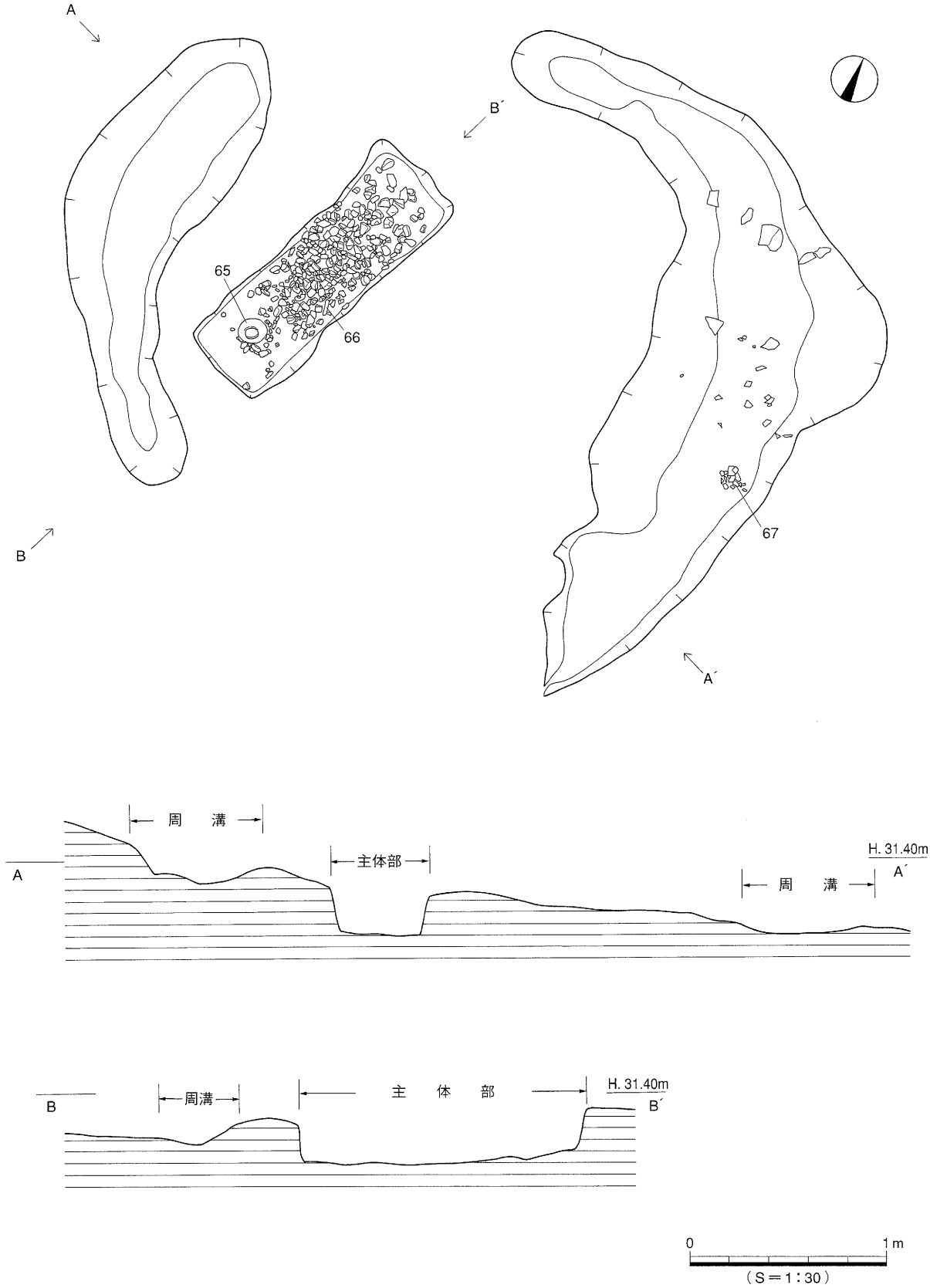
３号墳は標高31.4ｍの南斜面に立地し、調査地点の東端に位置する。性格の掴めない掘込みＳＸ１と切り合い関係にあり、出土物からは、ＳＸ１に先行するものである。確認遺構は墳丘基底部、主体部、周溝であるが、いずれの遺構も上部は大きく削平されている。

墳形は、開墾の削平により変形しているが、円墳の可能性が高い。規模は東西2.5ｍ、南北2.44ｍを測る。なお、墳丘の土層に関する測量図はない。

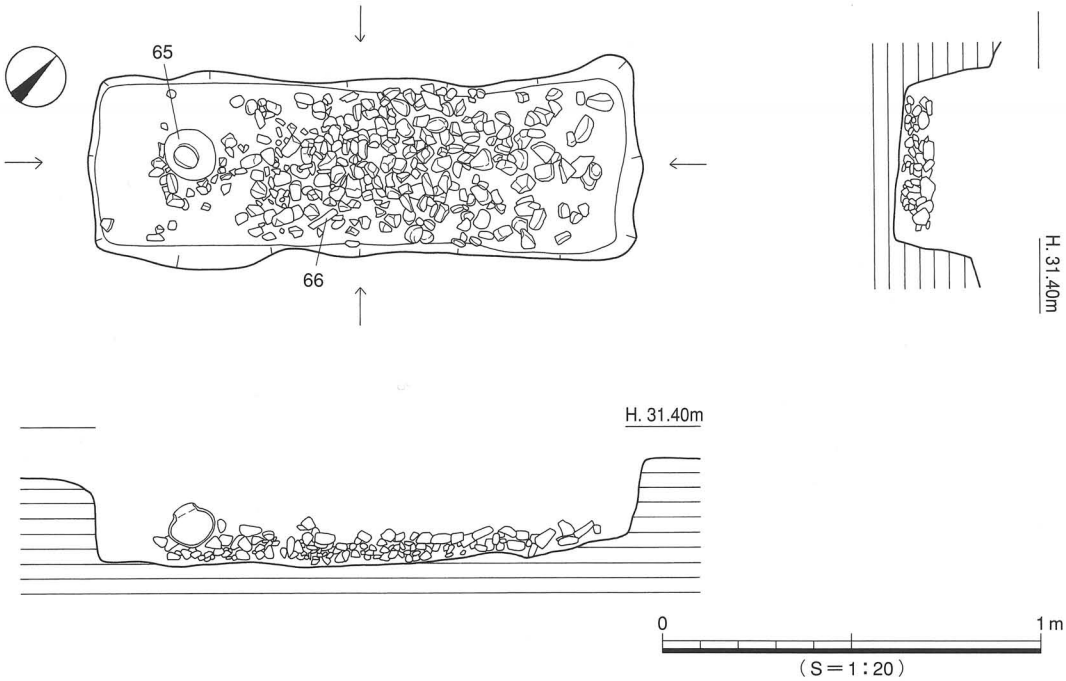
主体部は土坑墓で、箱形の掘込みとなる。主体部は現状の墳丘形状からみても、その中心から西に片寄っている。したがって、墳丘部分には、主体部がもう１基設置可能である。掘込みの規模は、長軸1.44ｍ、短軸0.48ｍ、深さ0.40ｍを測る。床面では、礫が多数検出された。主体部長軸の南側では、完形の須恵器の短頸壺が１点（65）と、土坑内からは刀子と見られる鉄器１点（66）が出土している。

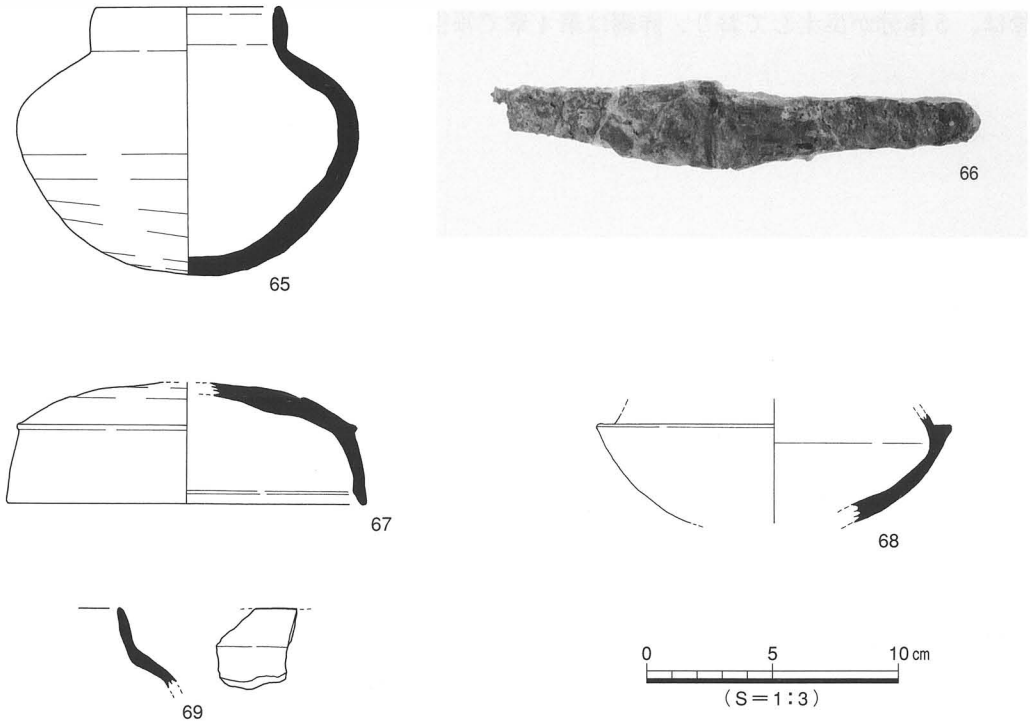
周溝は、西側・北側の一部・東側で確認しているが、東側は西に比べ幅広く、異質な形状となる。後世の削平が影響している。東側の溝では、遺物が散在し、時期比定可能な３点（67～69）を図化した。

時期：出土品からは、６世紀前半の築造とする。



第14図　３号墳測量図





主体部：65・66
周　溝：67～69

第15図　3号墳主体部測量図・出土遺物

４号墳（第16～30図、図版５～７・17～20）

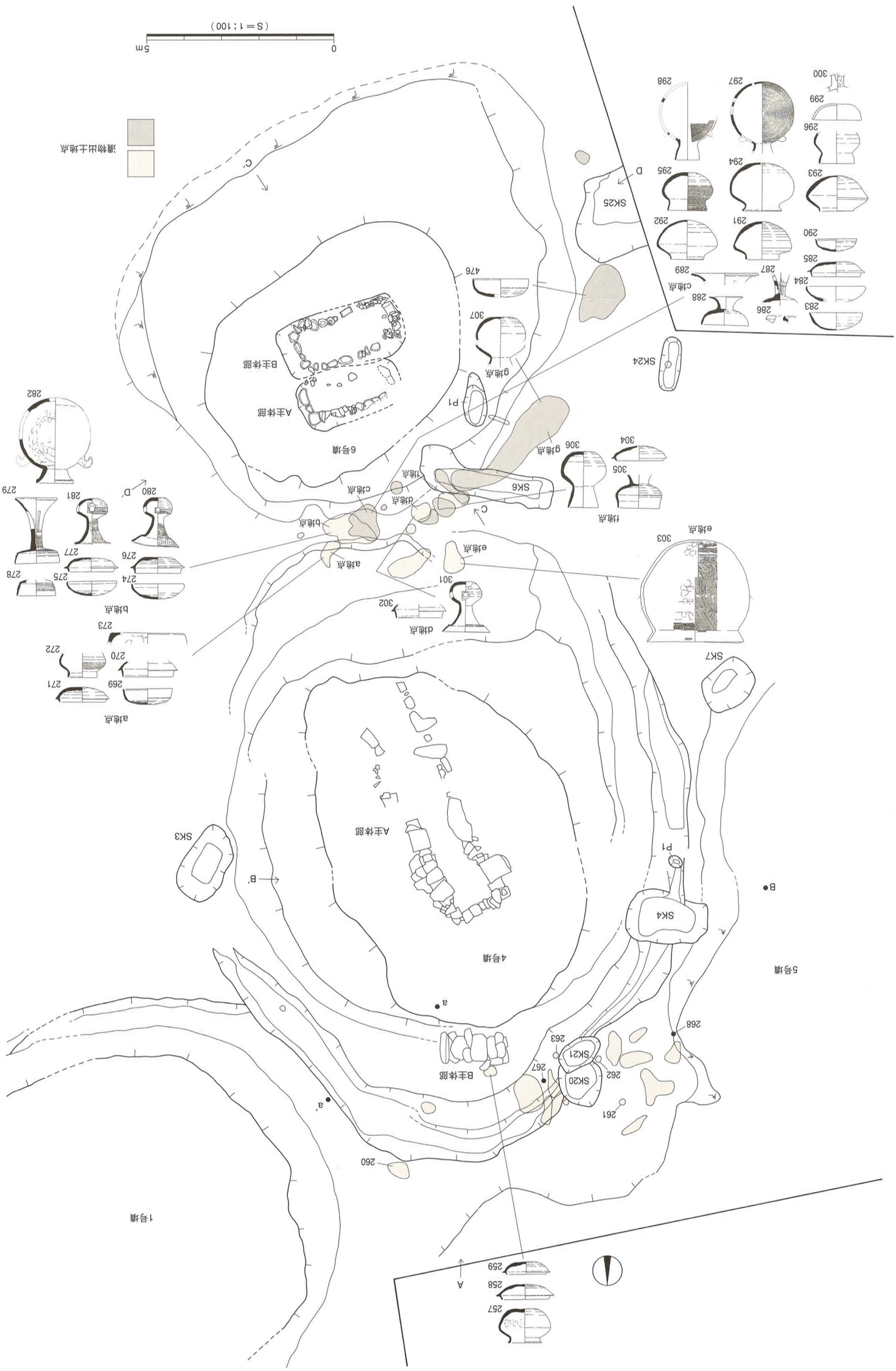
４号墳は標高34.7mの南斜面に立地し、調査地点の中央部に位置する。確認遺構には、墳丘、主体部、周溝、小さい掘込みがある。周溝は北で１号墳と、南で６号墳と共存しているが、前後関係が特定されていない。

墳形は、円形で、やや南北に長い形状である。規模は南北の長軸で10.2m、東西の短軸で9.2mを測る。墳丘を構成する土層では、各所で黒色土やそれを混ぜた土の使用が認められる。

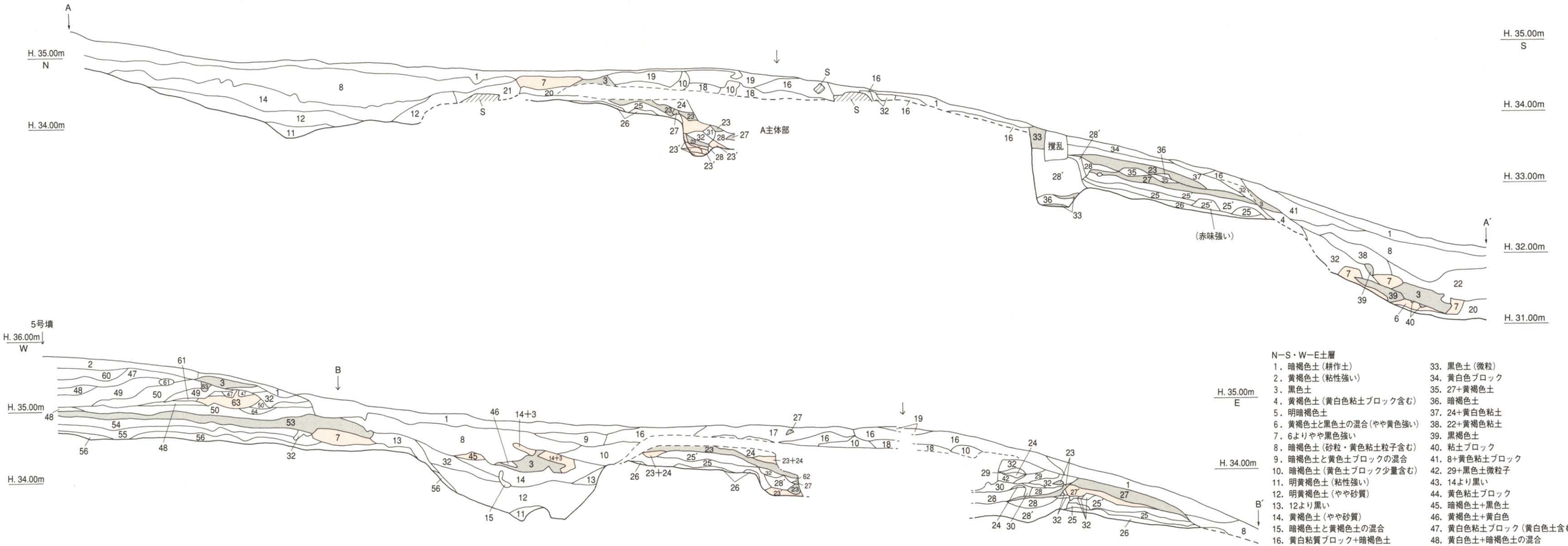
主体部は２基ある。墳丘の中心部に構築されたＡ主体部と、墳丘の北端に構築されたＢ主体部としたものである。さて、Ａ主体部に関する詳細な測量図は報告書作成時になく、内容の報告は『松山市文化財年報Ｉ』掲載の概要報告の文章を転載することにする。「Ａ主体部は墳丘中央部に、墳形の長軸上で、南に開口した無袖の横穴式石室が構築されており、規模は玄室長4.0m、奥壁幅1.5m、現存高1.5m、羨道長2.5mを測る。玄室床面は奥壁から開口に向かって0.9mの幅内外で、玉石が敷かれており、その玉石のない奥壁側は、人骨約５体分が折り重なって検出された事から、棺床面として意識的に玉石を敷かなかったと思われる。」

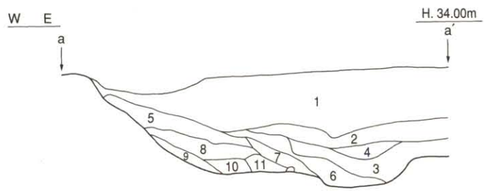
Ａ主体部からは、須恵器、玉類、鉄製工具、耳環、人骨など約200点の出土品がある（第18～21図）。須恵器は８点（70～77）で７世紀前半、土師器は３点で７・８世紀と10世紀のものがある。玉類には、ガラス玉６点（81～86）、ガラス管玉１点（87）、ガラス小玉20点（88～107）、石製臼玉105点（108～212）、土玉５点（213～217）がある。鉄製品には、扁平な小型の鈴状製品１点（218）、鎌・刀子等の工具14点（219～232）、鉄族６点（233～238）、小型の鉄製品４点（239～242）がある。耳環は12点（243～254）が出土し、大きさや細工の状況から２ヶ１組になる可能性があり、６組分が確認できる。

人骨は、５体分が出土しており、詳細は第４章で報告する。



第16図　4号墳・6号墳測量図





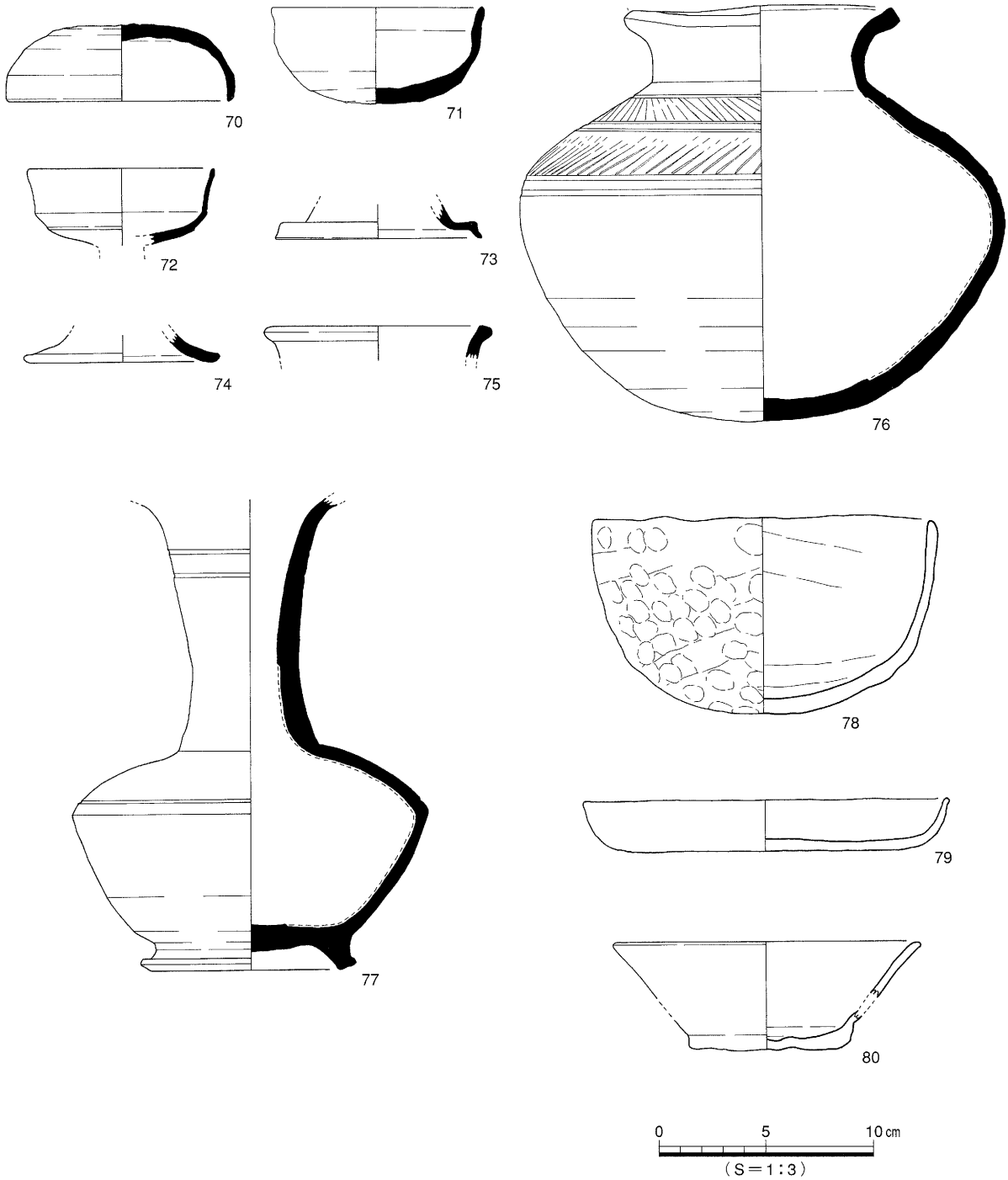
a—a′ 土層名

1．暗褐色土（耕作土）
2．茶褐色+暗褐色土
3．黄白色土（粘性なし）
4．黄茶褐色土（2を含み6に似る）
5．黄褐色土（黄白色粘土ブロック含む）
6．黄茶褐色土（2を少量含む）
7．6より明るい（ややほる）
8．黄褐色土+黄白色粘土ブロック
9．暗黄褐色土
10．黄褐色土（暗褐色土少量含む）
11．黄白色土（やや粘性あり）

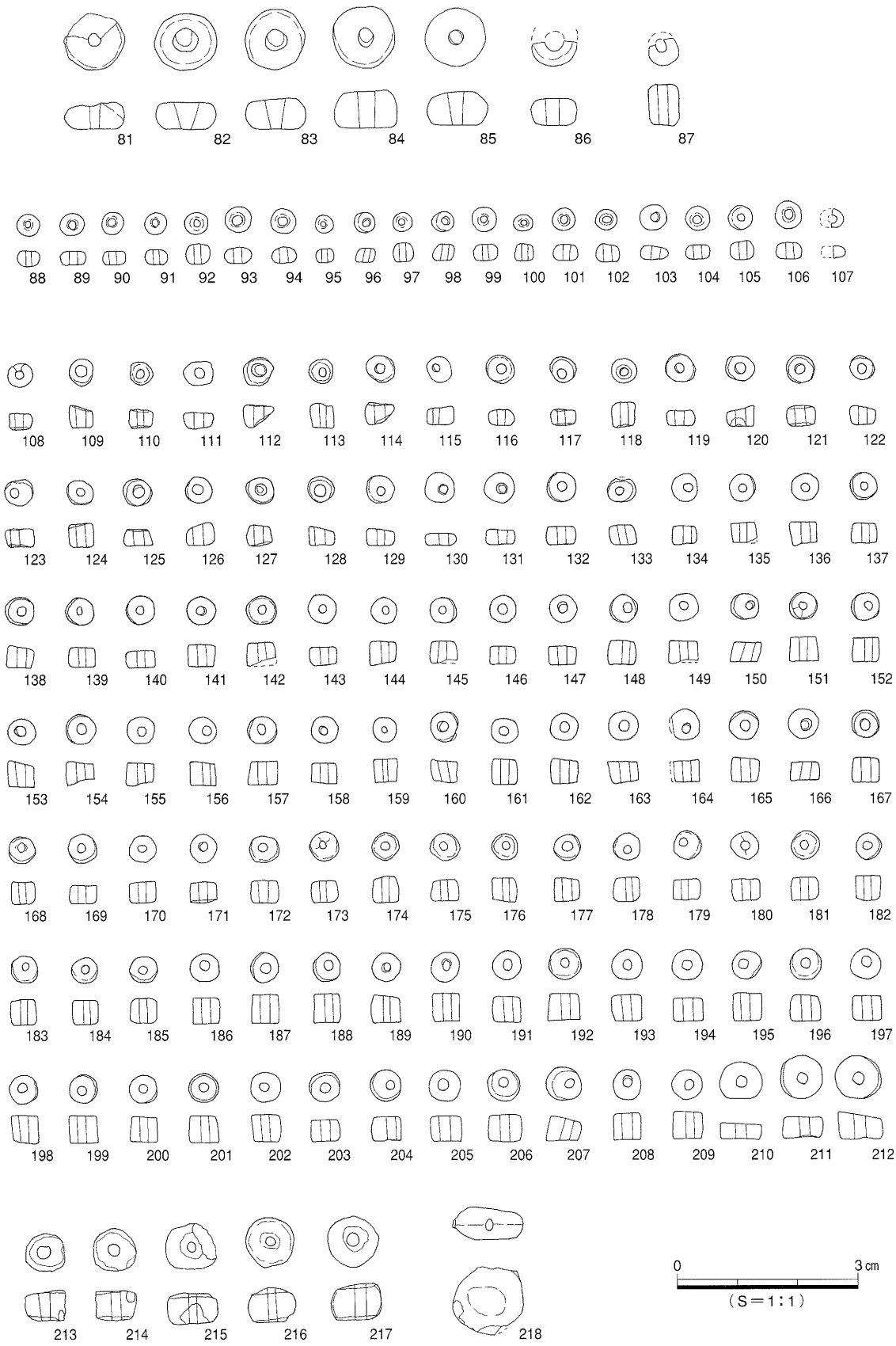
N—S・W—E土層

1．暗褐色土（耕作土）
2．黄褐色土（粘性強い）
3．黒色土
4．黄褐色土（黄白色粘土ブロック含む）
5．明暗褐色土
6．黄褐色土と黒色土の混合（やや黄色強い）
7．6よりやや黒色強い
8．暗褐色土（砂粒・黄色粘土粒子含む）
9．暗褐色土と黄色土ブロックの混合
10．暗褐色土（黄色土ブロック少量含む）
11．明黄褐色土（粘性強い）
12．明黄褐色土（やや砂質）
13．12より黒い
14．黄褐色土（やや砂質）
15．暗褐色土と黄褐色土の混合
16．黄白粘質ブロック+暗褐色土
17．より黄強い
18．黄白粘質ブロックと暗褐色土の混合
19．黄白粘質土
20．黄茶褐色土
21．黄白色土（白色粘土含む）
22．暗黄茶褐色土
23．黒色土（粘性なく黄褐色粒子ブロック含む）
24．明黄褐色土（黒色土少量含む）
25．明黄茶褐色土
26．25を含む
27．黒色土
28．黄褐色ブロック
29．黄褐色土
30．暗褐色土+黄褐色土混合
31．黄白色ブロック
32．不明
33．黒色土（微粒）
34．黄白色ブロック
35．27+黄褐色土
36．暗褐色土
37．24+黄白色粘土
38．22+黄褐色粘土
39．黒褐色土
40．粘土ブロック
41．8+黄色粘土ブロック
42．29+黒色土微粒子
43．14より黒い
44．黄色粘土ブロック
45．暗褐色土+黒色土
46．黄褐色土+黄白色
47．黄白色粘土ブロック（黄白色土含む）
48．黄白色土+暗褐色土の混合
49．明黄褐色土
50．黄褐色土
51．黄褐色土（黒色土粒子含む）
52．暗黄褐色土
53．黒色土 ｝
54．明黄褐色土 ｝ 粘性なし
55．黄褐色土 ｝ 粘性なし
56．明黄白色土 ｝ 粘性なし
57．黄白色土
58．黄白色土+黄褐色土の混合
59．暗褐色土
60．黄白色粘土ブロック+明黄褐色土の混合
61．黄茶褐色砂質土
62．黄褐色ブロック
63．暗茶色土+黒色土
64．黄褐色土+黄色土

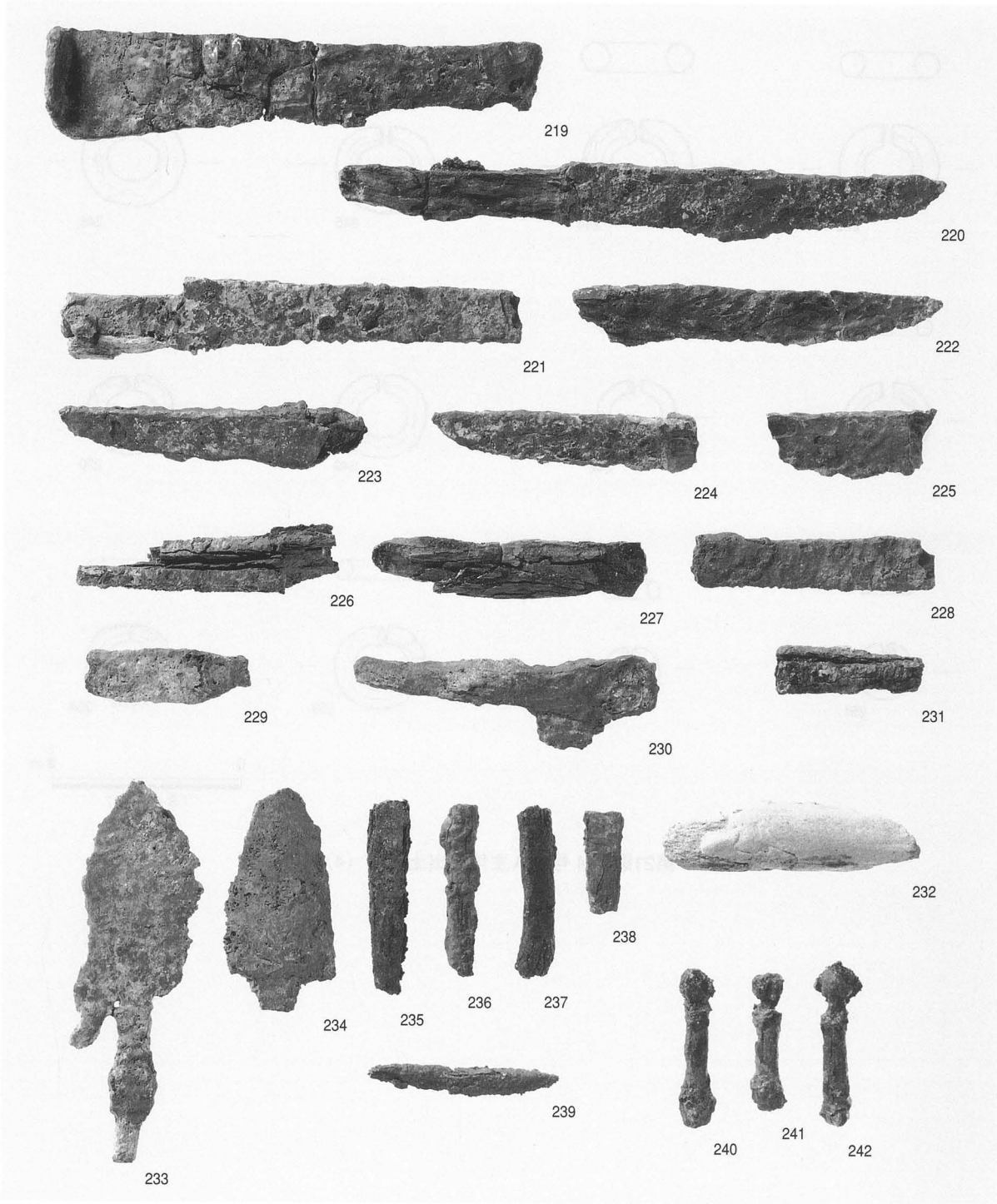
第17図　4号墳土層図



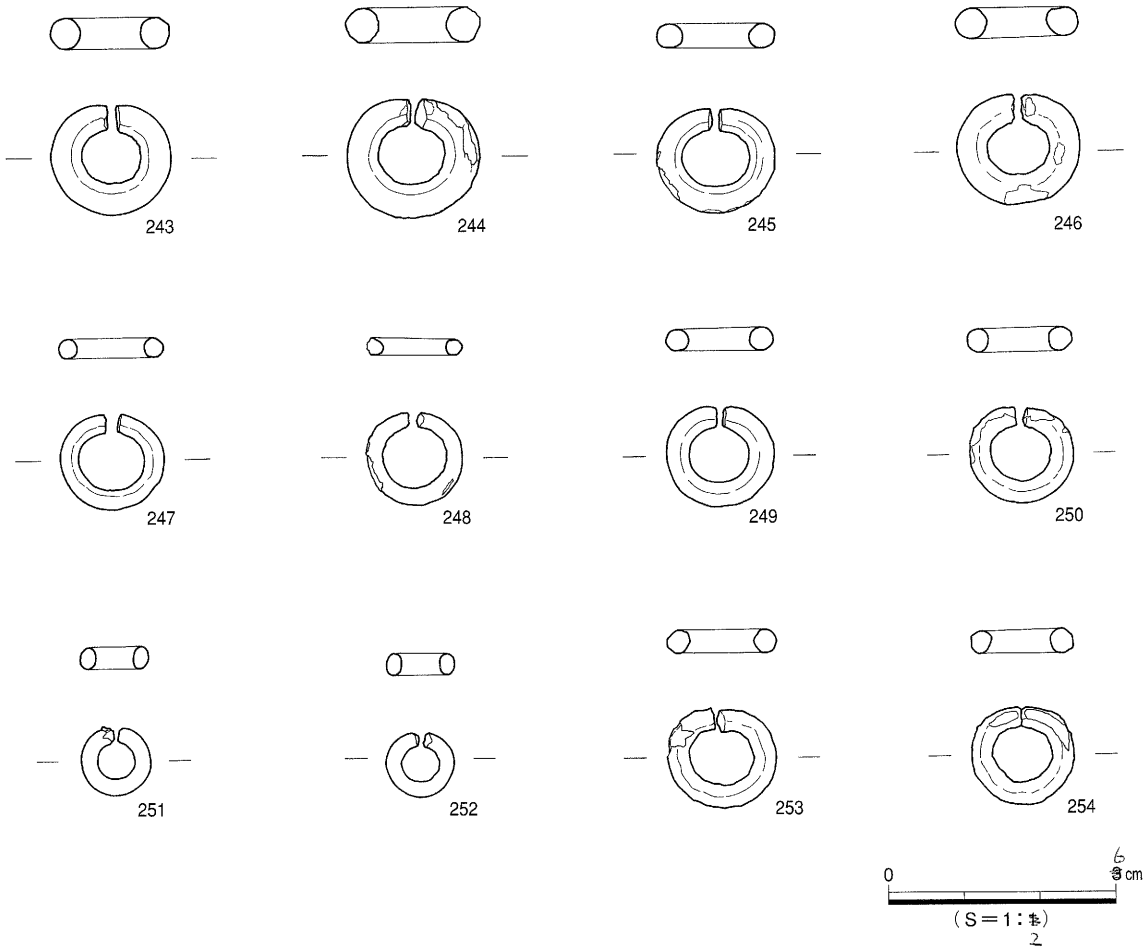
第18図　4号墳A主体部出土遺物（1）



第19図　４号墳Ａ主体部出土遺物（2）



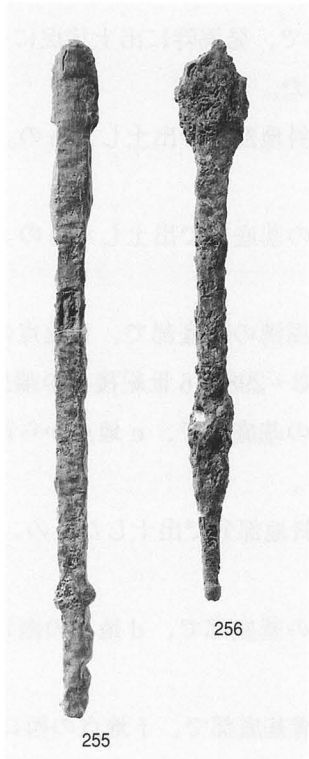
第20図　4号墳A主体部出土遺物（3）

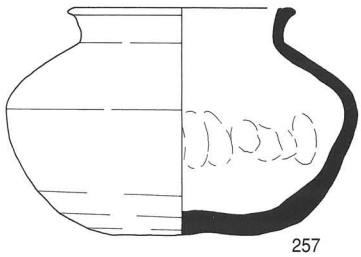


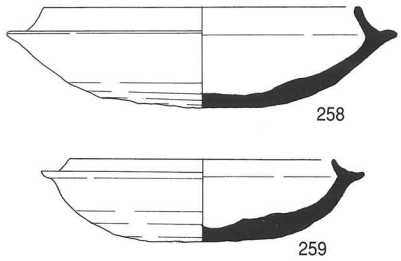
第21図　４号墳Ａ主体部出土遺物（4）

Ｂ主体部は、Ａ主体部の北2.9ｍにあり、主軸が墳丘およびＡ主体の主軸と交差する位置関係を取る。Ｂ主体部についても測量図がなく、報告は『松山市文化財年報１』掲載の概要報告の文章を転載することにする。「玄室長1.3ｍ、玄室幅0.35ｍ、玄室高0.7ｍの規模で、小ぶりの石材を用いており、・・・・・・。床面西側３分の１に敷石をしており、枕石が現存していた。」

遺物（第22図）は、石室内で鉄族２点（255・256）、石室外で須恵器３点（257～259）が出土している。







石室内：255・256
石室外：257～259

0　5　10cm
（S＝1：3）

第22図　４号墳Ｂ主体部出土遺物

周溝は、１・５・６号墳の各周溝が重り、土坑３基（ＳＫ４・20・21）と切り合い関係にある。また、現状では、周溝は消失しているが、東側では、ＳＫ３とも切り合い関係にあるものと見られる。周溝からの出土品は多いが、１・５・６号墳の各周溝と接する部分での遺物の帰属が明確でない。しかしながら、出土状況を見ると、遺物は幾つかのまとまりが認められるものもあるので、出土地点ごとに掲載する。

①４号墳周溝（第23図）：他の周溝と交わっていない部分から出土したものと見られる北部出土の資料（260～268）260は６世紀後半の須恵器、261は８世紀代の須恵器、262～264は古代・中世の土師器、265～267は石器、268は鉄器である。

②４号墳と６号墳の境で出土した資料で、発掘時に出土状況にまとまりがあり、取り上げが行われているものをａ～ｈ地点と現し、掲載した。

ａ地点（第24図）…４号墳周溝の傾斜地部分で出土したもの。５点が図化され、269～273は６世紀代の須恵器。

ｂ地点（第24図）…４・６号墳周溝の基底部で出土したもの。９点が図化され、274～282は６世紀後半～７世紀前半の須恵器。

ｃ地点（第25・26図）…４・６号墳周溝の基底部で、ｂ地点の西に接し、完形品を含む多くの土器が出土している。18点が図化され、283～298は６世紀後半の須恵器、299・300は土師器である。

ｄ地点（第26図）…４・６号墳周溝の基底部で、ｃ地点から西１ｍ付近で出土したもの。２点が図化され、301・302は６世紀代の須恵器。

ｅ地点（第27図）…４号墳周溝の傾斜地部分で出土したもの。303は把手付鍋で、市内では出土が珍しい。

ｆ地点（第27図）…４・６号墳周溝の基底部で、ｄ地点の西に接する。304～306は６世紀後半～７世紀前半の須恵器である。

ｇ地点（第27図）…６号墳に近い周溝基底部で、ｆ地点の西に接し、細長く分布する。307の６世紀代の須恵器がある。

③４号墳の東側周溝で出土したが、詳細な場所が判明しないもの（第27図）。308・309は６世紀後半の須恵器。310は三輪玉で、４・６号墳周溝が接する東側、ａ・ｂ地点付近（含む東）から出土したようである。

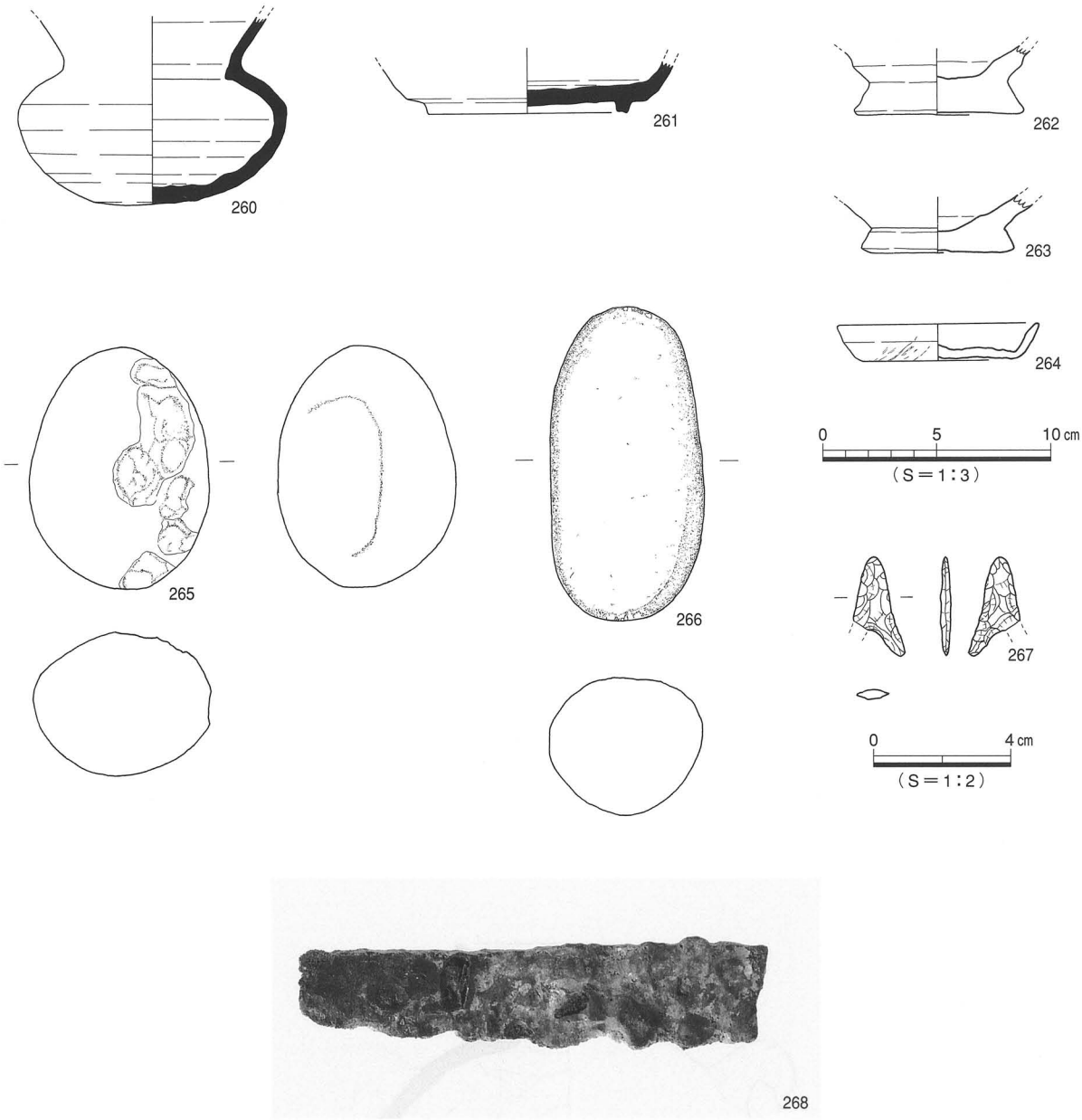
④４号墳の西側周溝で出土したが、詳細な場所が判明しないもの（第28図）。311～313は６世紀後半～７世紀前半の須恵器、314・315は土師器である。また、354の鉄器片が１点出土している。

⑤４号墳と６号墳の境で出土したが、詳細な場所が判明しないもの（第28図）。316～319は５世紀から７世紀初頭までの須恵器、320～322は土師器、323は石である。

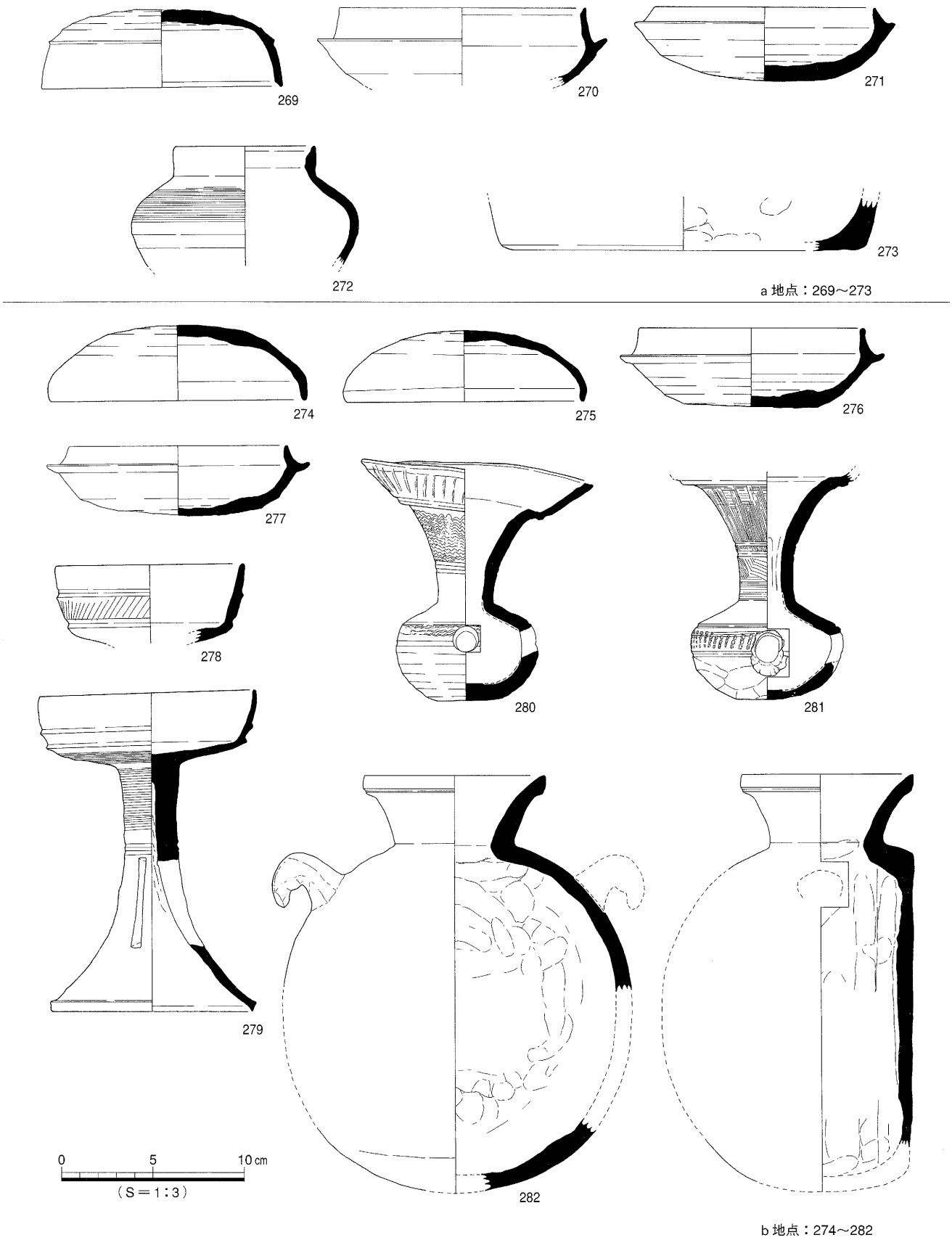
６号墳関係の遺物（第29・30図）：出土地点が明確でない資料である。

324～336は５世紀末から７世紀前半の須恵器、337～350は６世紀～中世までの土師器、351は古代の陶磁器、352は瓦、353は石製品である。また、355～359の鉄器片が５点出土している。

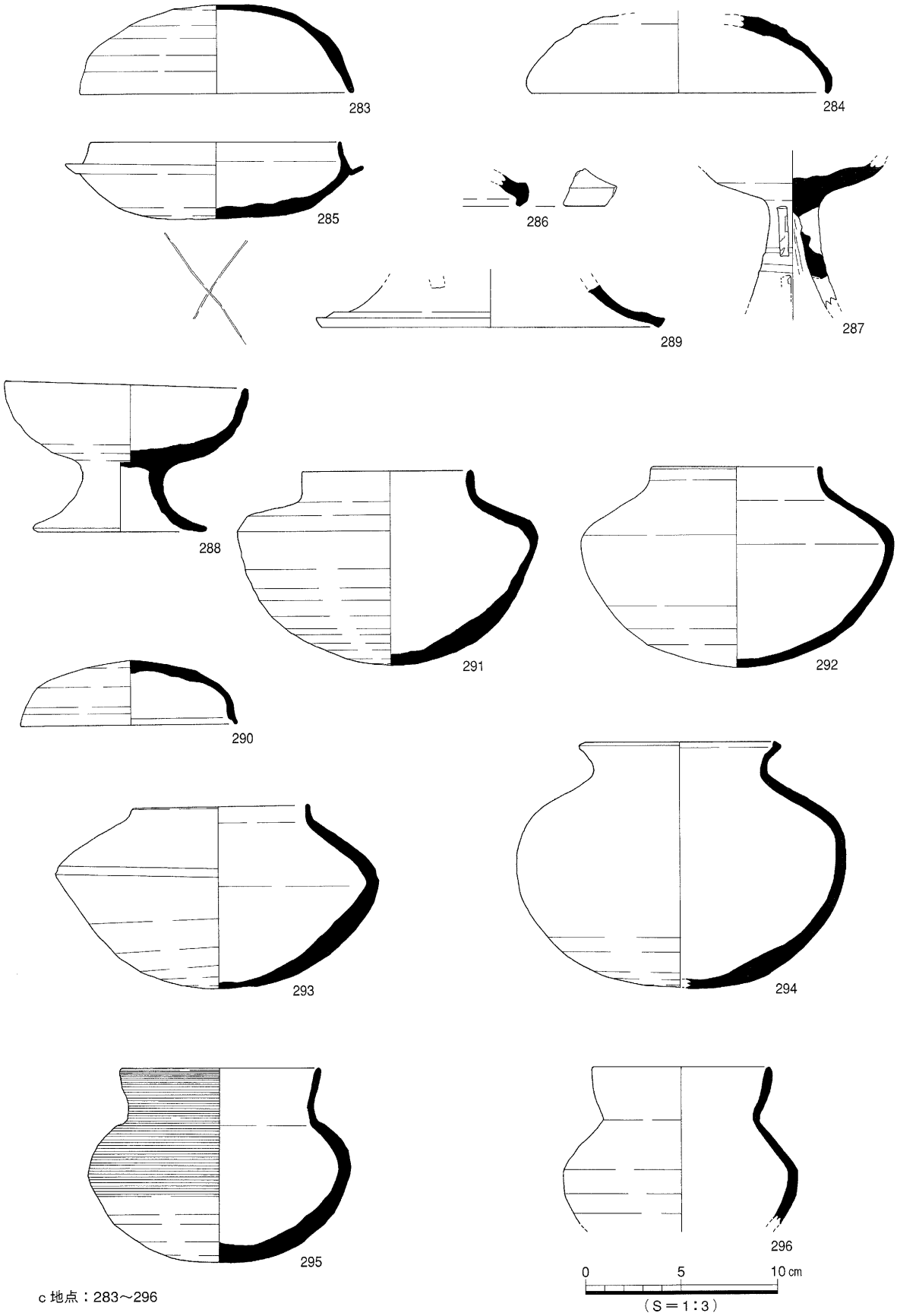
時期：周溝関係で４号墳と間違いない出土品からは、６世紀後半の須恵器が古く、かつ多くあるので、築造はこの年代が比定出来よう。また、追葬年代の最終はＡ石室の出土品から７世紀前半とする。



第23図　4号墳周溝出土遺物（北側）

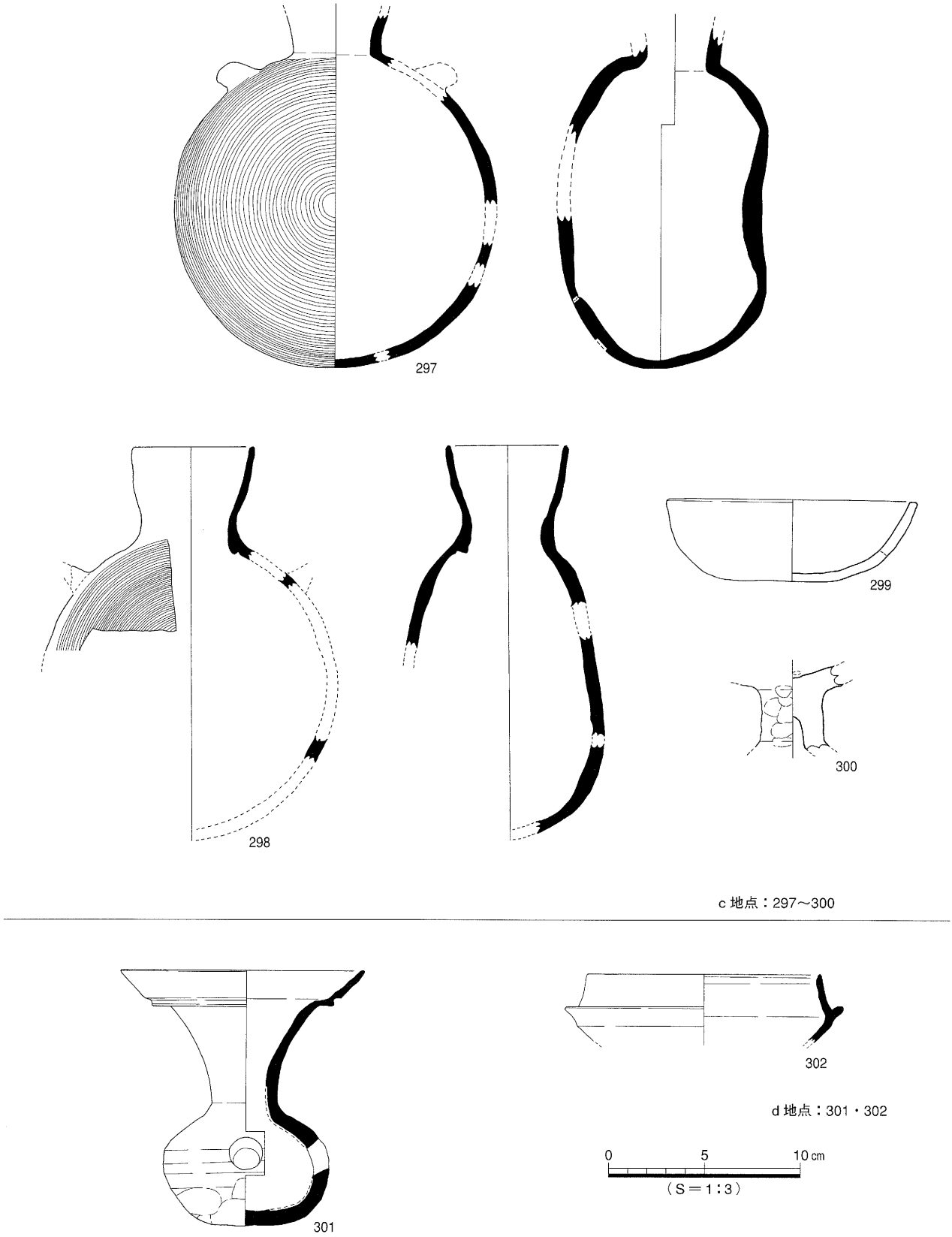


第24図　４・６号墳間の周溝出土遺物（1）

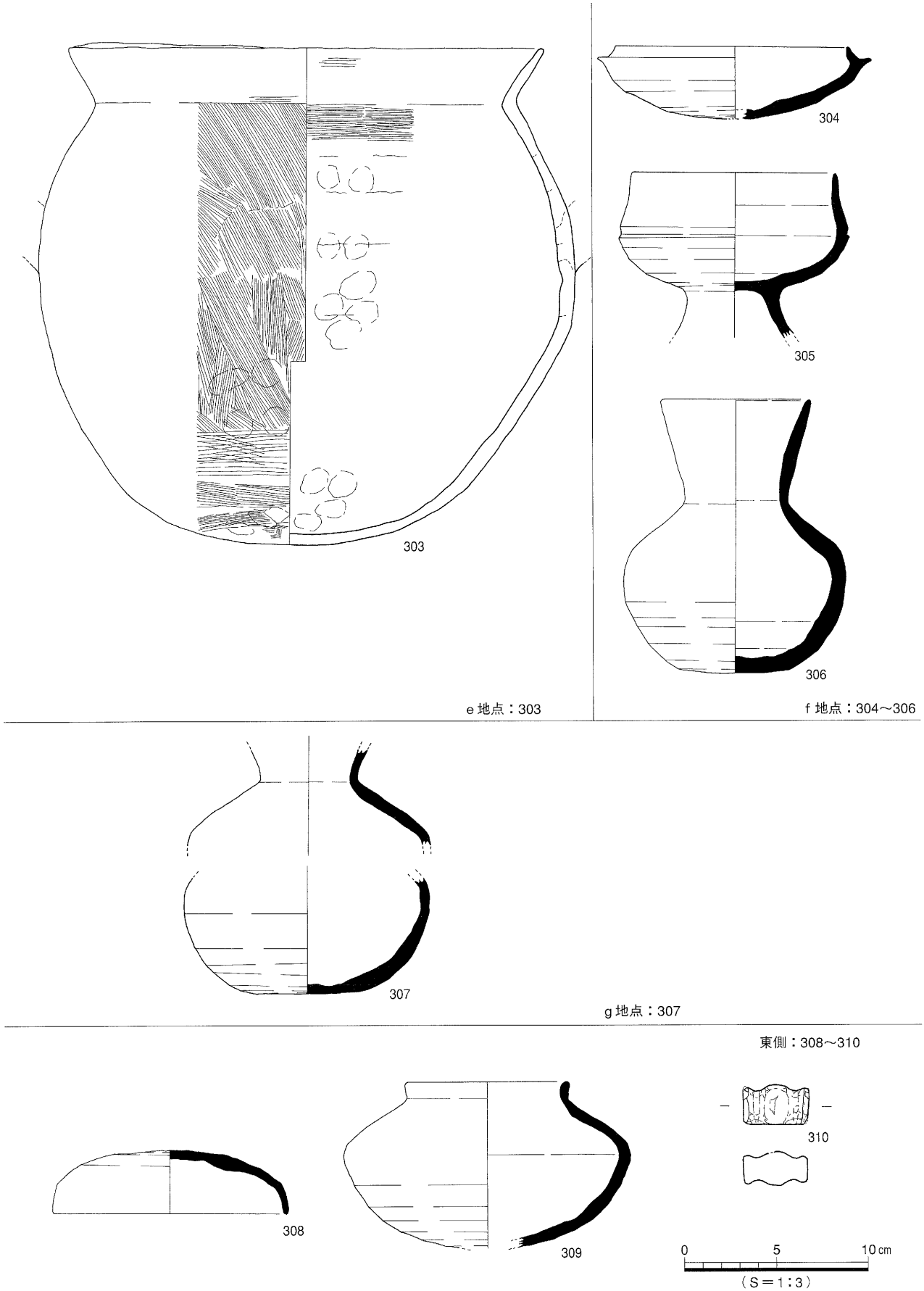


c 地点：283～296

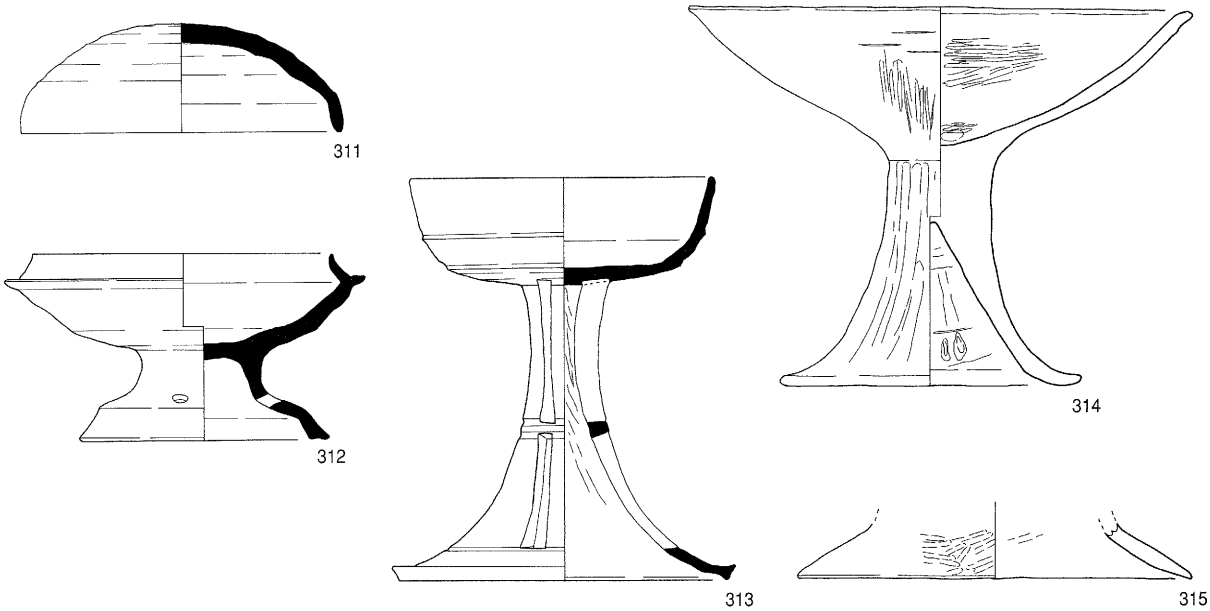
第25図　4・6号墳間の周溝出土遺物（2）



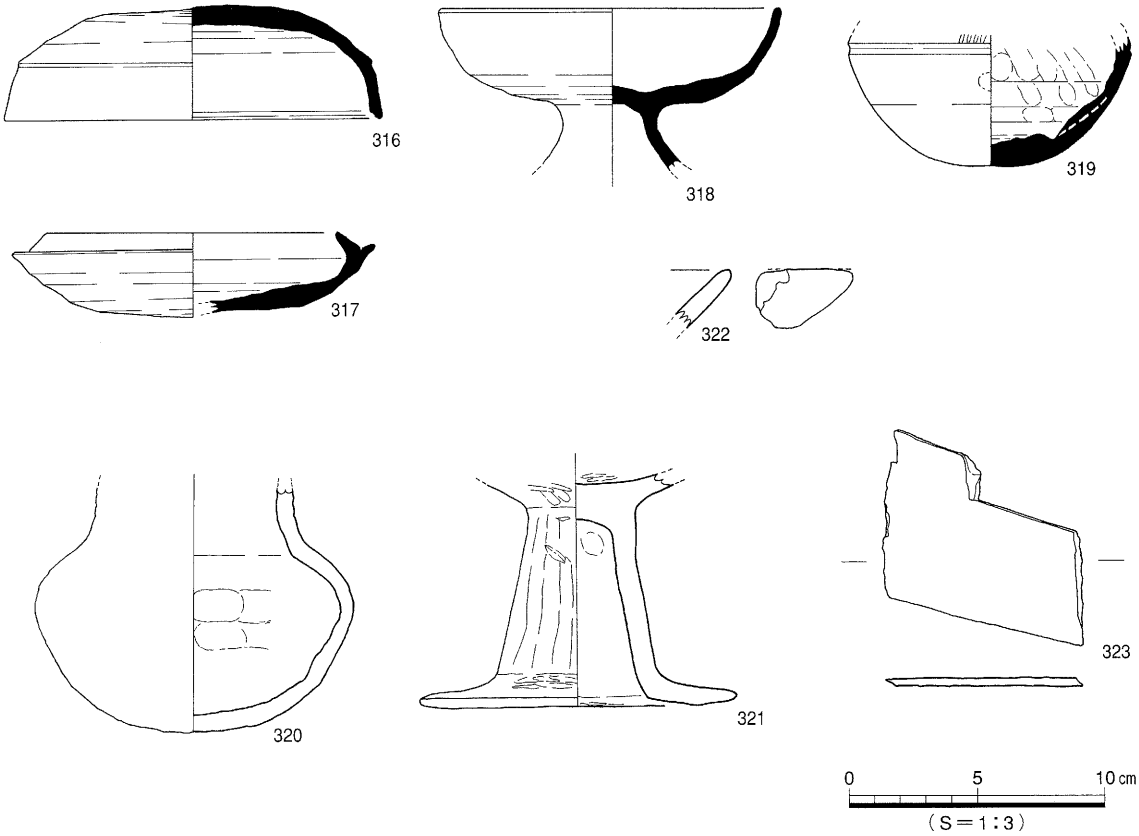
第26図　４・６号墳間の周溝出土遺物（3）



第27図　4・6号墳間の周溝出土遺物（4）

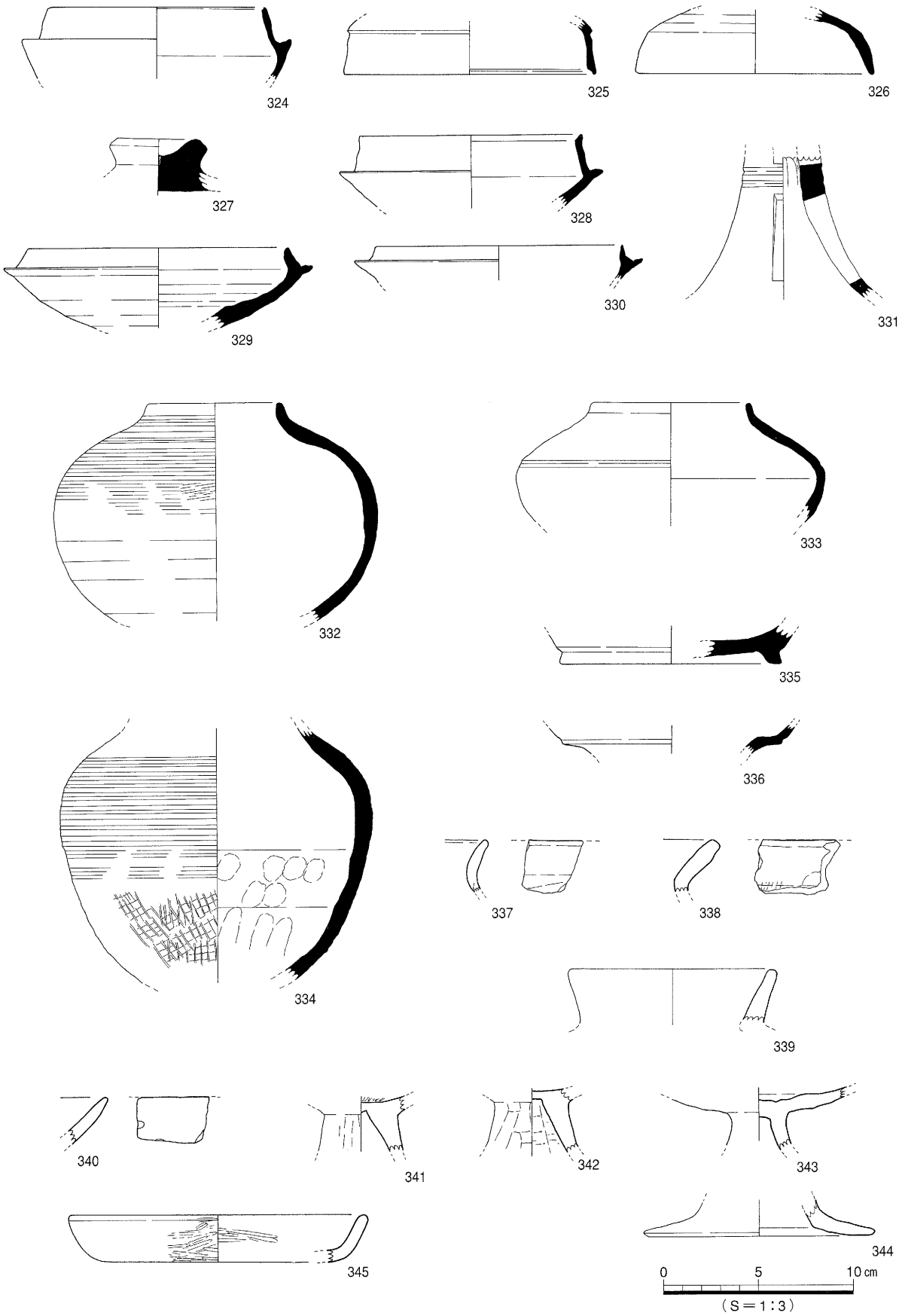


西側：311～315

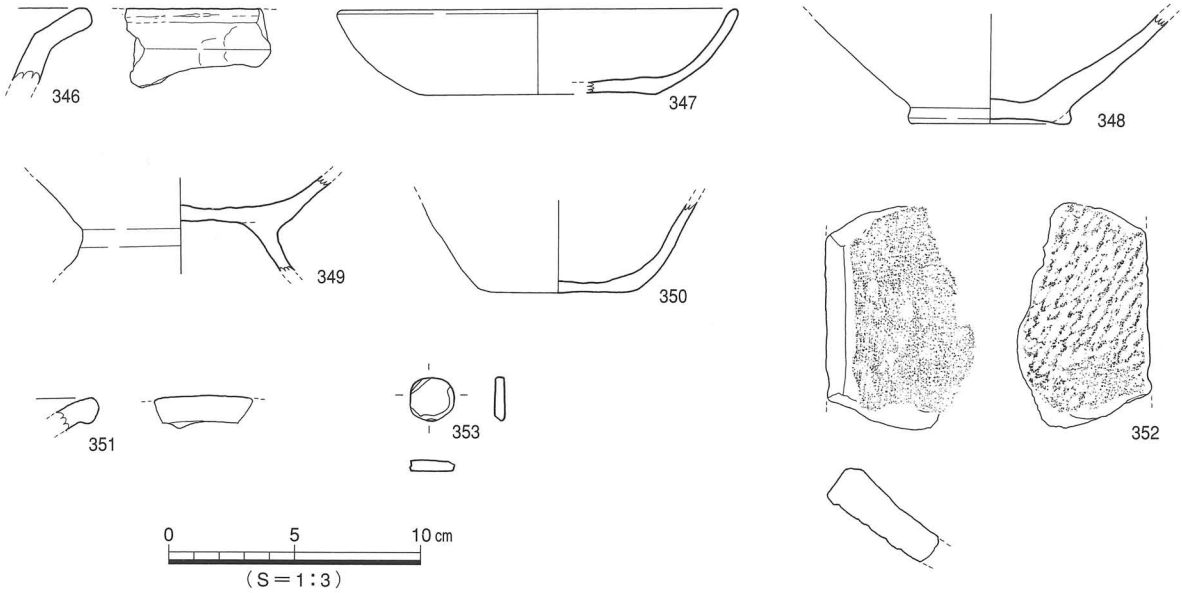


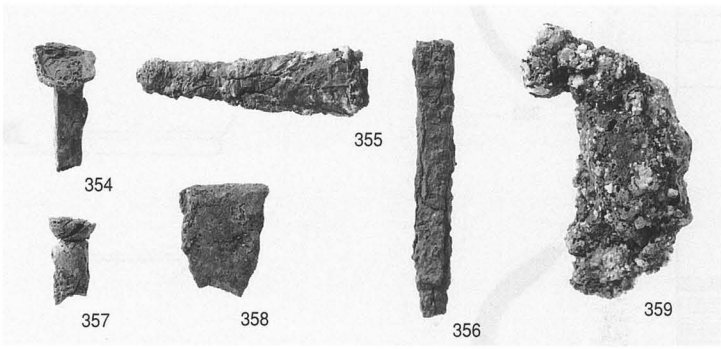
周溝地点不明：316～323

第28図　４・６号墳間の周溝出土遺物（5）



第29図　4号墳出土遺物（1）（地点不明）





第30図　４号墳出土遺物（2）（地点不明）

6号墳（第16・31～38図、図版9・10・21・22）

6号墳は標高31.4mの南斜面に立地し、調査地点の南端に位置する。確認遺構には、墳丘、主体部、周溝、土坑がある。周溝は北で4号墳と重複しているが、前後関係が特定されていない。

墳形は、南が削平され四角く見えるが、遺存の良い北側部分の形状からは、円墳が想定できる。規模は南北軸で9.4m、東西軸で10.8mを測る。墳丘を構成する土層では、基盤に近い地点で黒色土や黒褐色土を混ぜた土の使用が認められる。

主体部は2基あり、墳丘の中心部～北側に併行してある。北側をA主体部、中央部をB主体部とする。A・B主体部の先後関係は、B主体部が古く、A主体部が新しい。

A主体部：隅丸長方形の墓坑のなかに、玄室を構築する。墓坑は西に開口し、東側と南西隅が残るが、その他は消滅している。規模は長軸2.84m、短軸1.38m、深さ0.14mを測る。玄室は、多くの石が抜き取られ、北側の一段目の約2分の1が残るに過ぎない。規模は玄室長2.14m、玄室幅0.88mを測る。床面には、小礫による礫床が痕跡的に見られる。遺物には、頭蓋骨を含む人骨、玉類がある。人骨は第4章で分析結果を詳細に報告するが、成人骨と見られるものが確認されている。玉類（第33図）には、石製管玉7点（360～366）と土製の玉38点（367～404）がある。

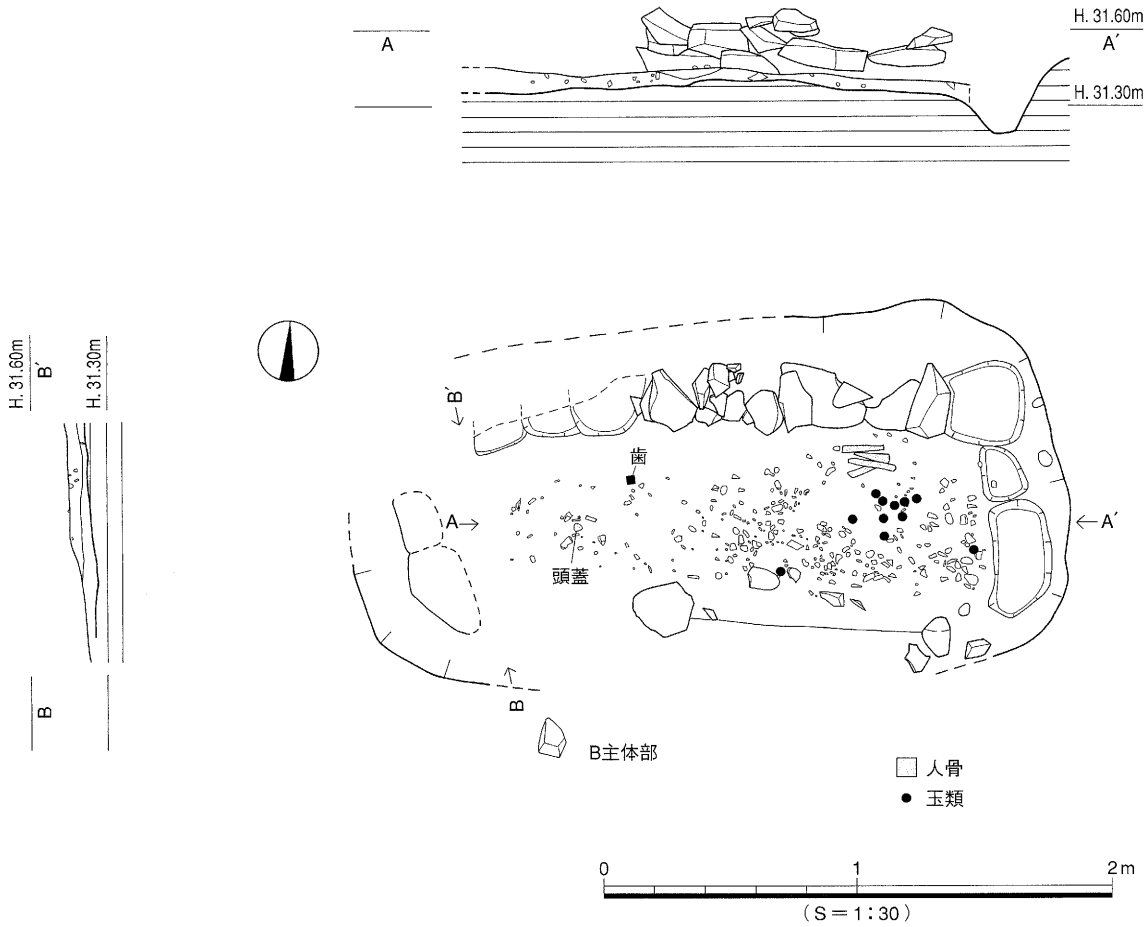
B主体部：隅丸長方形の墓坑のなかに、玄室を構築する。墓坑は西に開口し、東側と南側の中央付近が消滅している。規模は長軸3.36m、短軸1.69m、深さ0.40mを測る。玄室は、多くの石が抜き取られ、北側の一段目と南西隅が残るに過ぎない。規模は玄室長2.46m、玄室幅1.00mを測る。遺物は西側壁に沿うようにほぼ完形な須恵器4点が出土し（第35・36図）、特に中央部にある須恵器は、壺（407）の口に短頸壺（406）をのせ、さらに短頸壺（406）は坏蓋（405）で蓋をされる。その横に壺（408）が据え置かれている。6世紀代の須恵器である。玉類には、石製管玉2点（409・410）、土製ソロバン玉1点（411）、土製玉27点（412～438）がある。また、鎌、鉄鏃・刀子等の鉄器37点（439～475）が出土している。

周溝は、4号墳の周溝と重複し、土坑1基（ＳＫ６）と切り合い関係にある。周溝からの遺物は多いが、4号墳周溝と接する地点の出土品は4号墳で報告した。ここでは、4号と接していない地点から出土したと考えられる須恵器5点（476～480）と、土師器1点（481）を掲載している（第37図）。

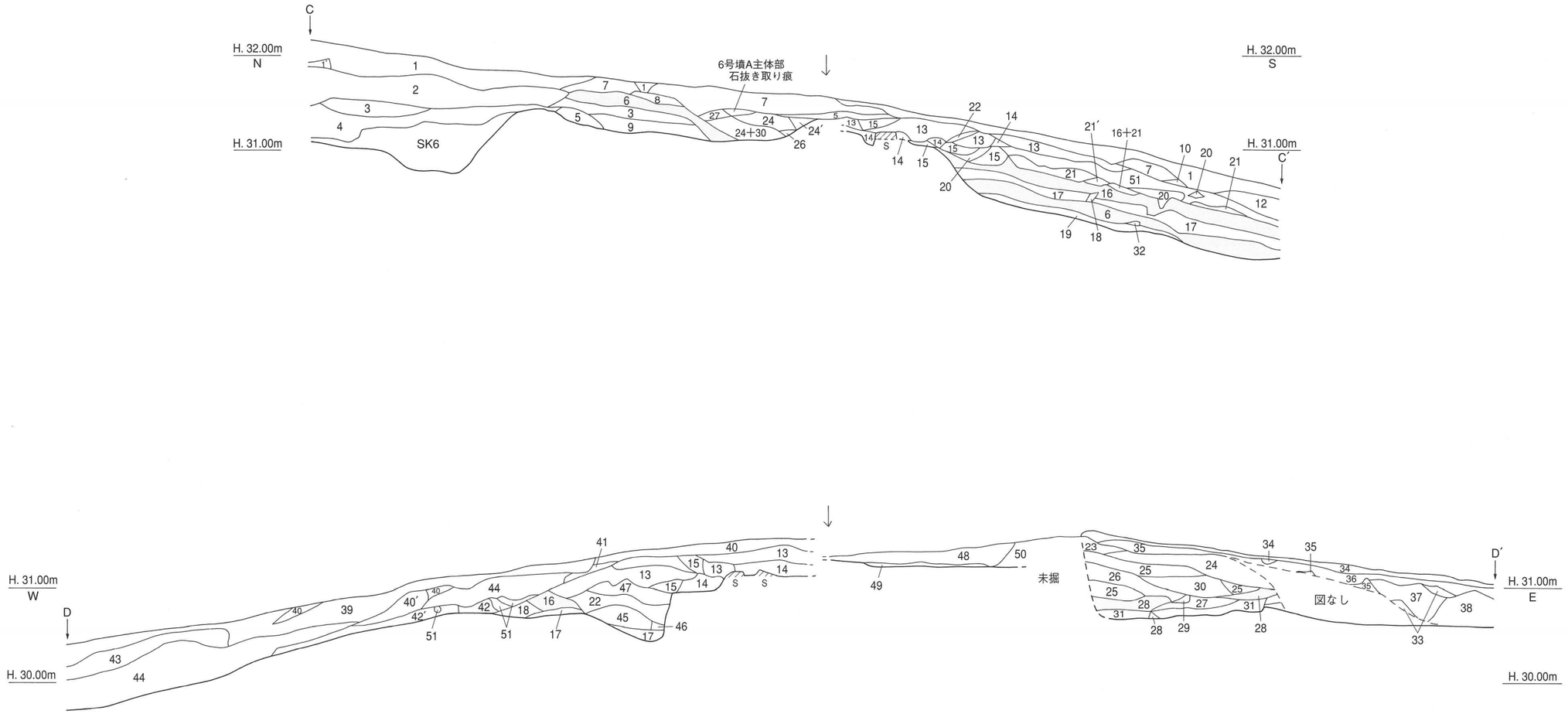
6号墳出土品（第37・38図）：6号墳として取り上げている遺物で出土地点が明確でない資料を掲載しておく。482～513は須恵器で、6～7世紀のものである。

6号墳ないし4号墳出土品（第39図）：報告書作成時に、どちらの古墳から出土したのかが判断できなかった資料を掲載する。514～520は6世紀後半から7世紀前半までの須恵器で、521・522は土師器である。

時期：6号墳の時期は、出土品から6世紀後半に築造されていたことは確かである。築造開始期の可能性は6世紀中葉があげられ、少ない資料には6世紀前半の須恵器もあり、その時期まで遡る可能性も考えておきたい。ただし、5世紀に遡れる事はない。



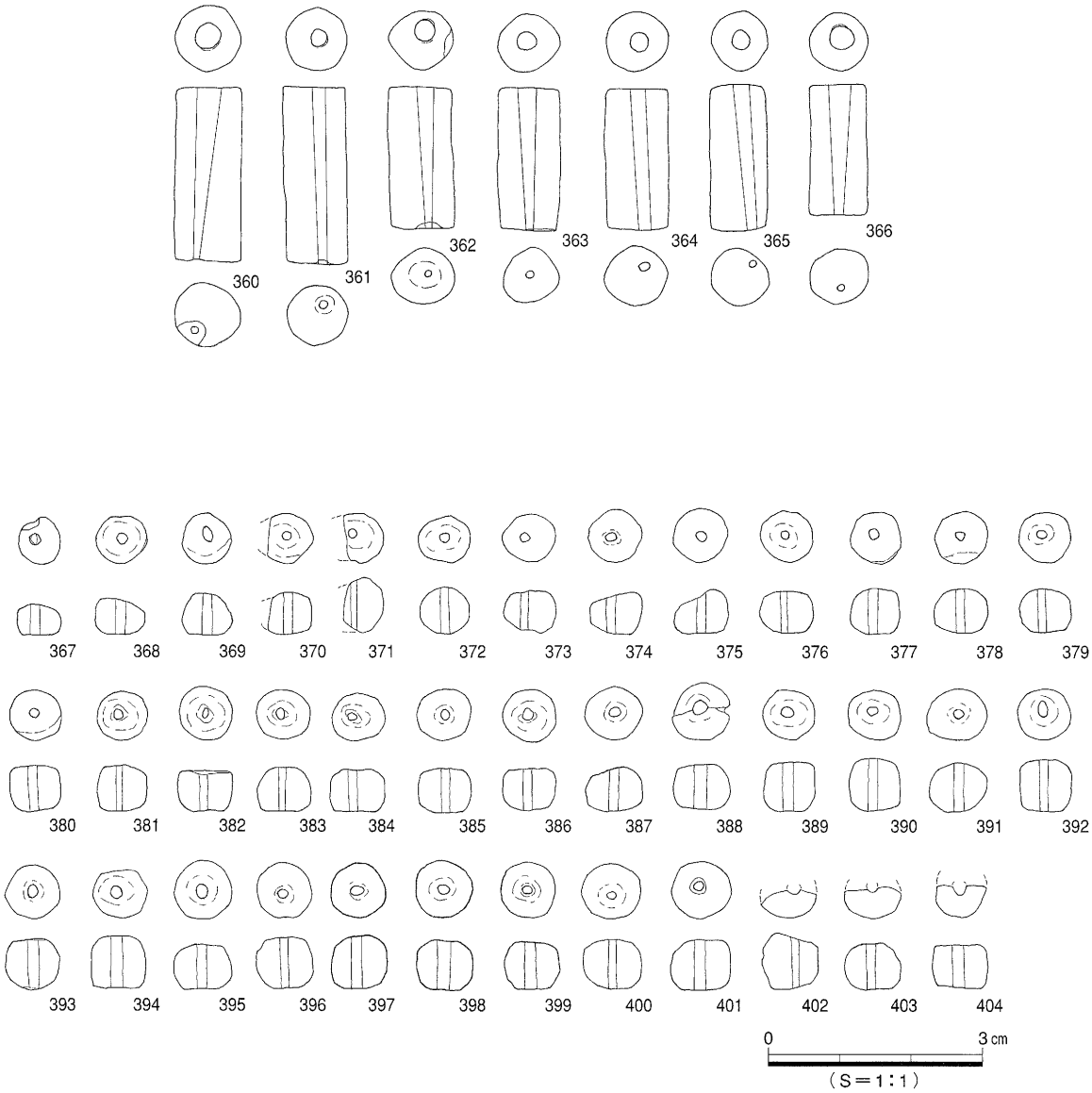
第31図　６号墳Ａ主体部測量図



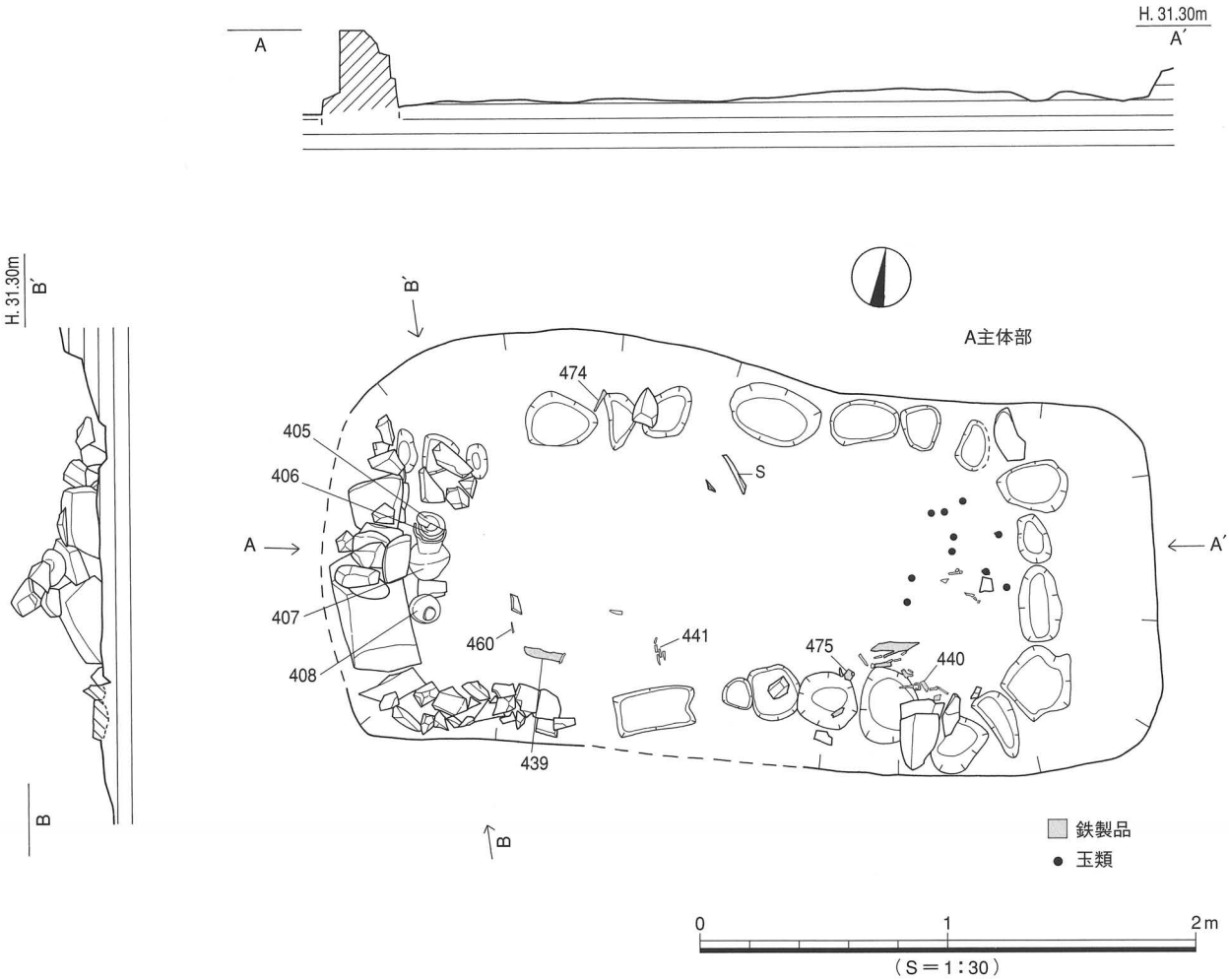
1．暗褐色土（耕作土）
2．暗黄褐色土
3．2よりやや黄色強い
4．暗茶褐色土
5．黄白色粘土（粘性強）
6．黒色土
7．黄褐色土と黄白色粘土ブロックの混合（粘性多）
8．黄褐色土+黒褐色土
9．明黄褐色土
10．暗黄褐色土
11．暗黄褐色土+黄褐色粘土
12．暗褐色微砂土
13．黄褐色・黄白色粘土ブロック（粘性多）
14．暗黄褐色土（黄白色土含む）
15．暗黄褐色土（茶褐色土含む）
16．黒色土
17．暗黄褐色土（黒色土少量含む）
18．黄褐色土（黄色やや青味）
19．黄白色土
（16～19：軟弱）
20．黄白色ブロック+黄褐色土+暗褐色土
21．暗黄褐色土+黒色土（少）
22．黄白色土
23．撹乱
24．黄白色粘土ブロック（黄褐色土含む）
25．黄褐色土
26．24と25の混合
27．黒色土と黄白色土に混合
28．黒色土
29．明黄褐色土
30．暗黄褐色土
31．明黄茶褐色土
32．暗褐色土
33．黄褐色土
34．黄褐色土（耕作土）
35．暗黄褐色土（粘性多）+黄茶褐色砂質ブロック
36．暗褐色土（黄褐色土微粒子少）
37．暗茶褐色土（撹乱）
38．明黄褐色土（粘性多）
39．黒褐色土（耕作土）
40．黄褐色土（黄白色粘土ブロック含む）（粘性多）
41．黄茶褐色土
42．黄茶褐色土（粘性なし）
43．暗褐色土（黄褐色土含む）
45．黄白色土（暗褐色土含む）
46．黄褐色土
47．黄白色土+黄白色粘土ブロック
48．暗茶褐色土
49．暗茶褐色土（黄褐色粘土ブロック含む）
50．黄白色・黄茶色ブロック（粘性多）
51．不明

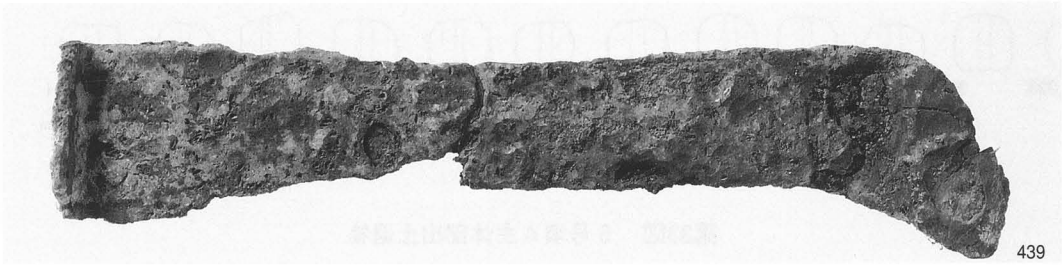
0　3m
（S＝1：50）

第32図　6号墳土層図

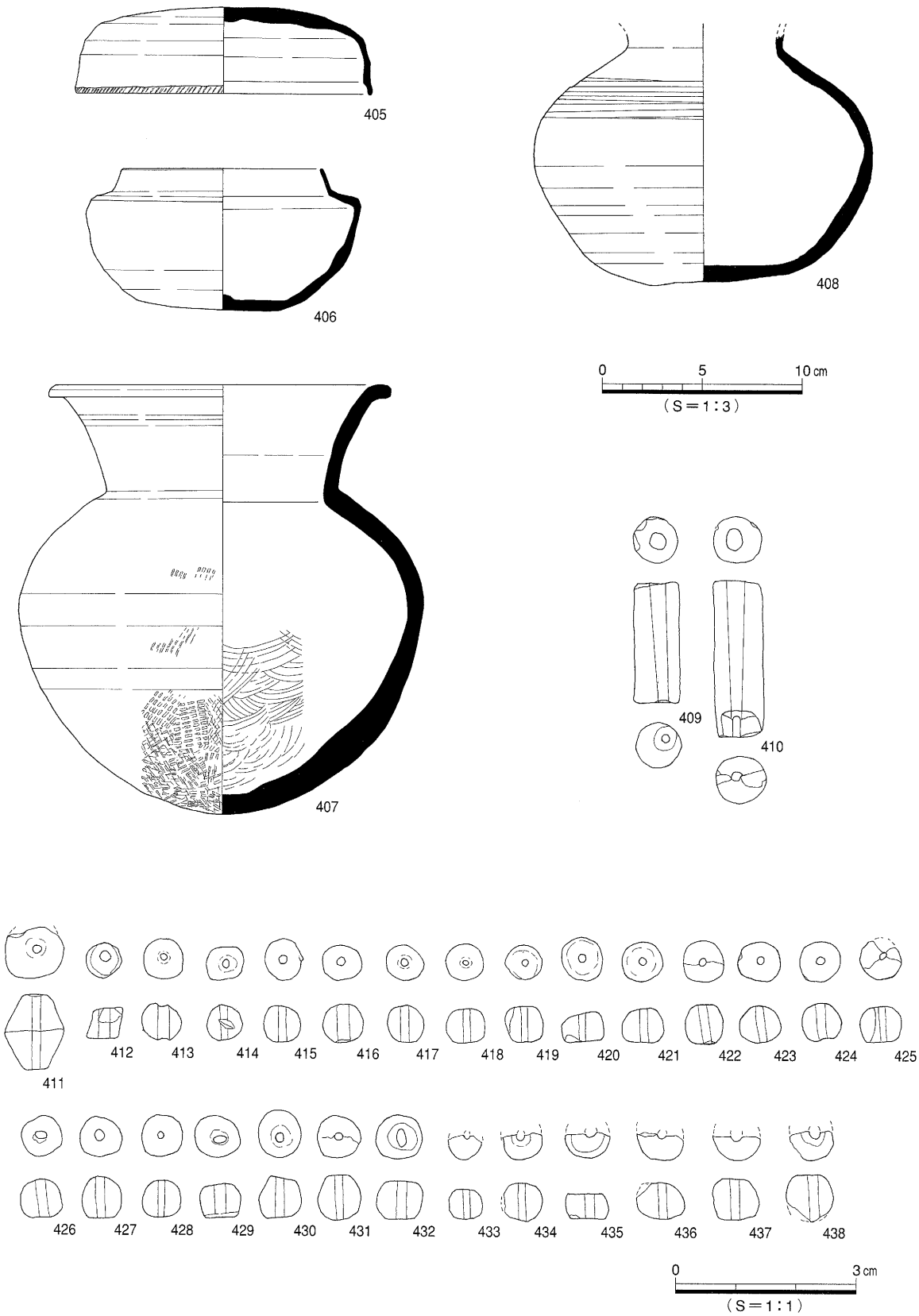


第33図　6号墳A主体部出土遺物

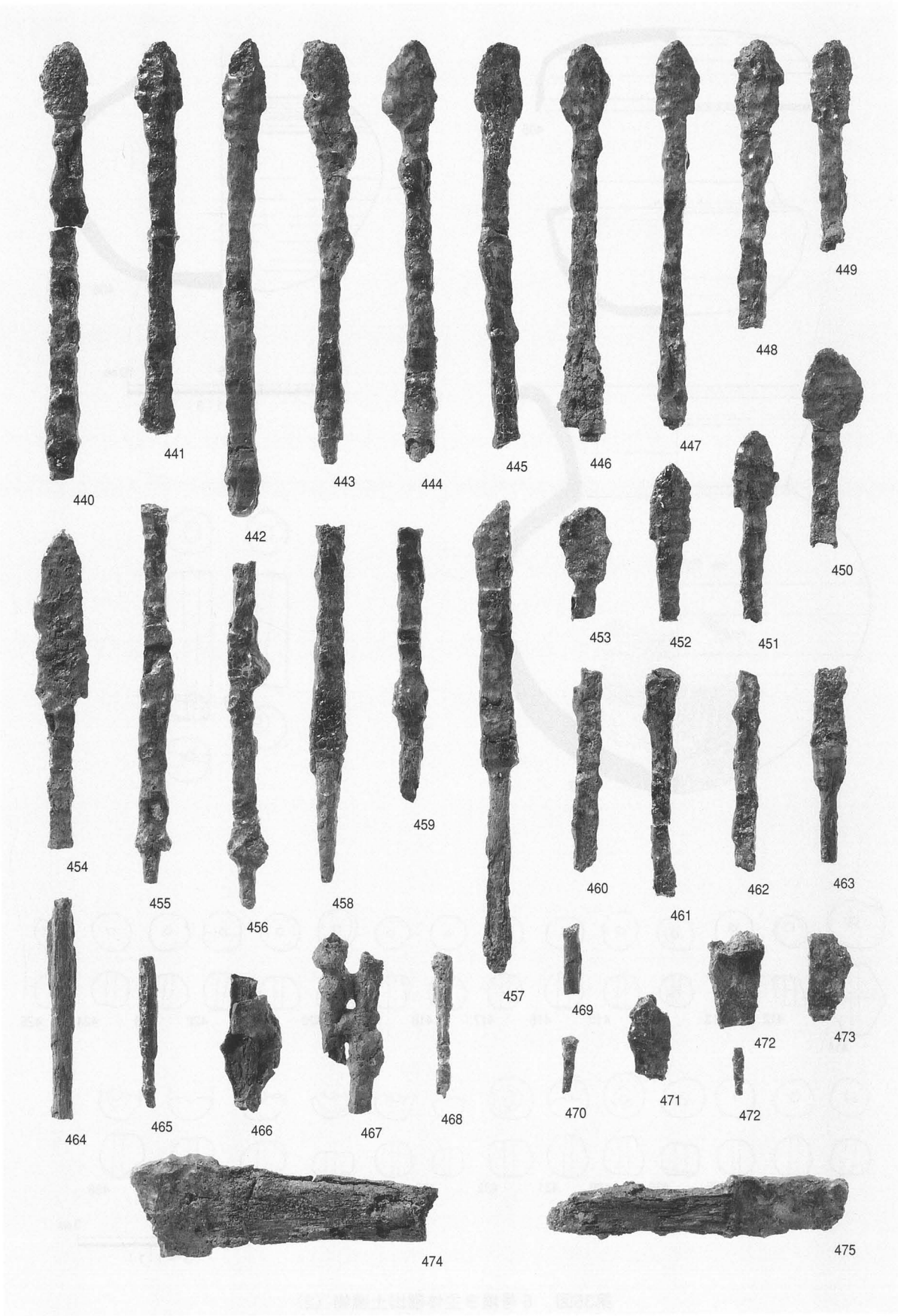




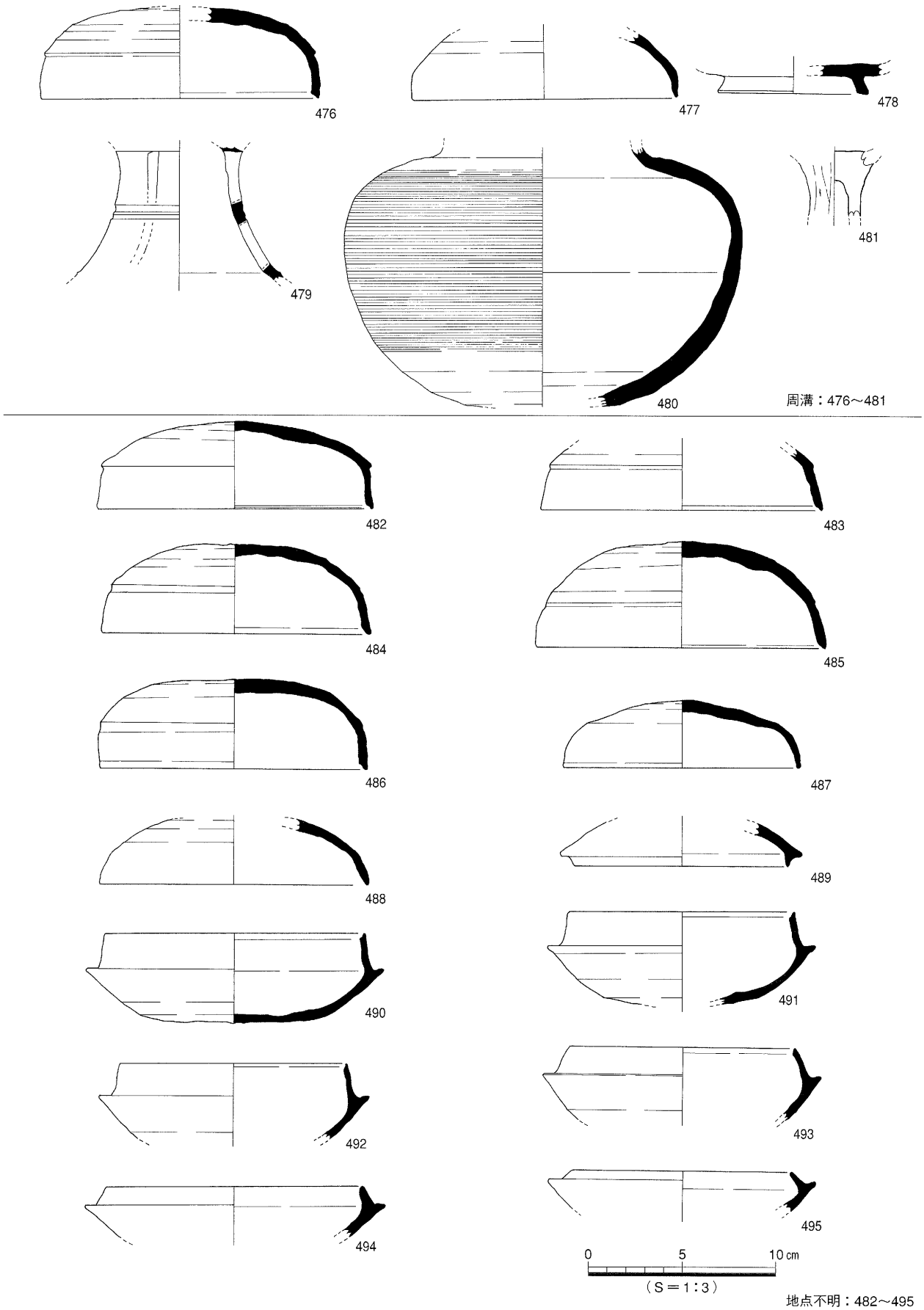
第34図　６号墳Ｂ主体部測量図・出土遺物（1）



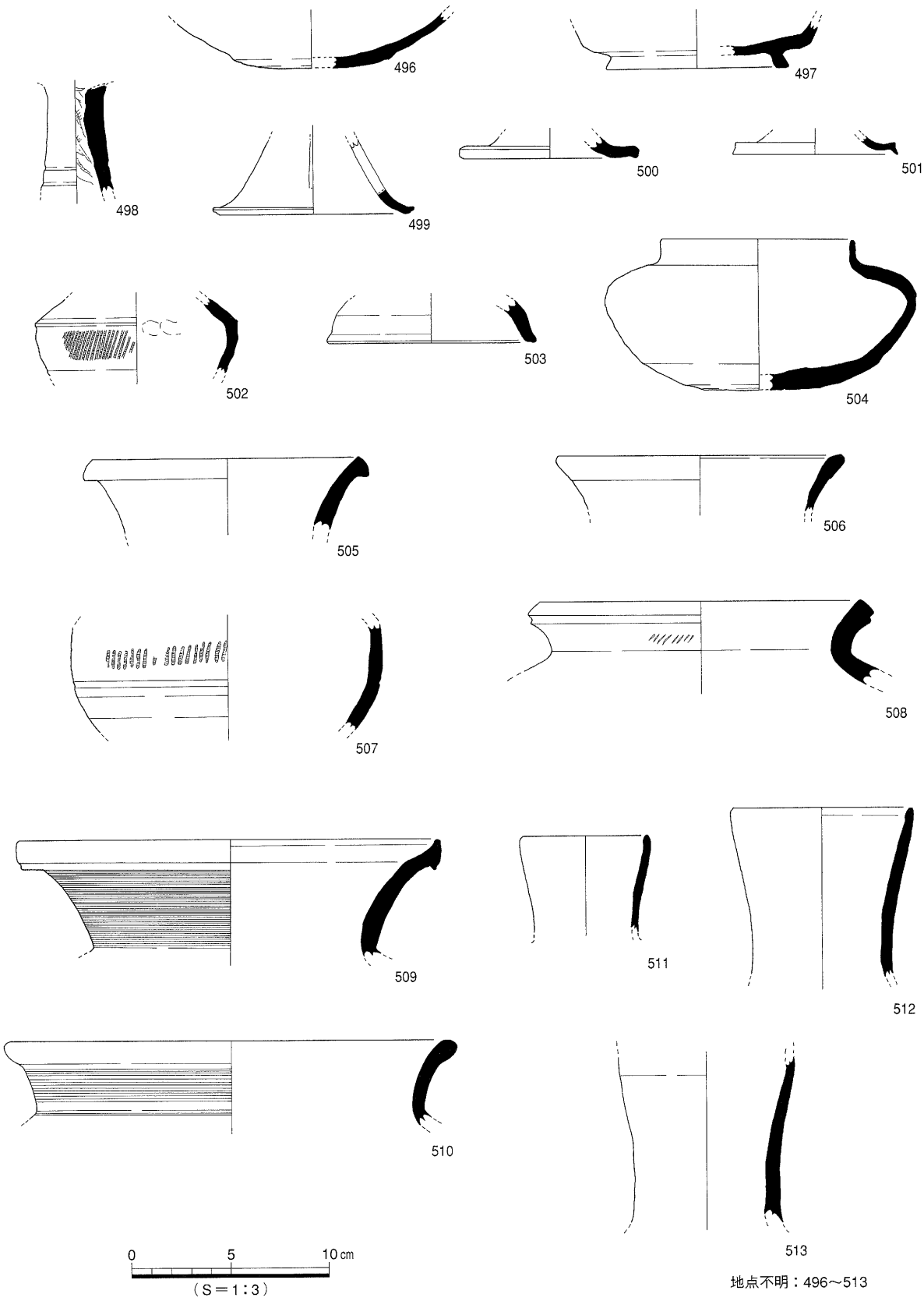
第35図　6号墳B主体部出土遺物（2）



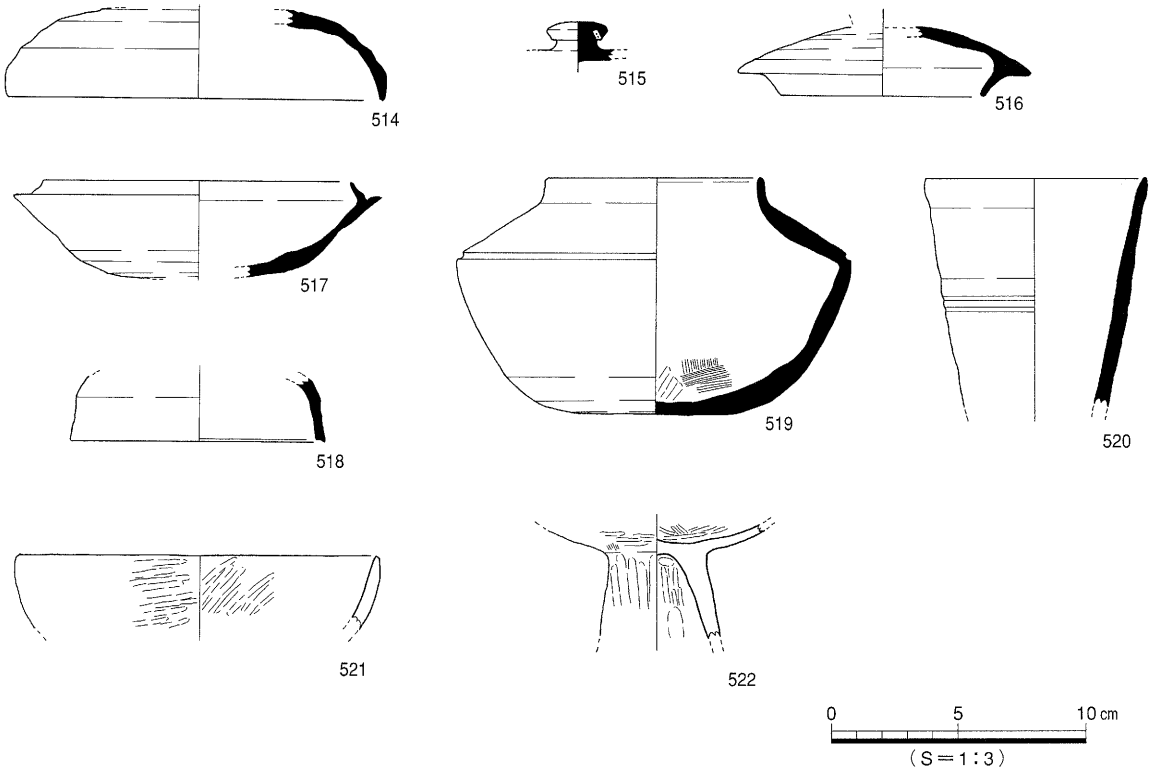
第36図　６号墳Ｂ主体部出土遺物（3）



第37図　6号墳出土遺物（1）



第38図　６号墳出土遺物（2）



第39図　4号墳ないし6号墳出土遺物

5号墳（第40～42図、図版8・23）

5号墳は標高35.8mの南斜面に立地し、調査地点の中央やや西に位置する。周溝の東側は4号墳の周溝と重複し、南側は7号墳と接する。主体部は削平されている。

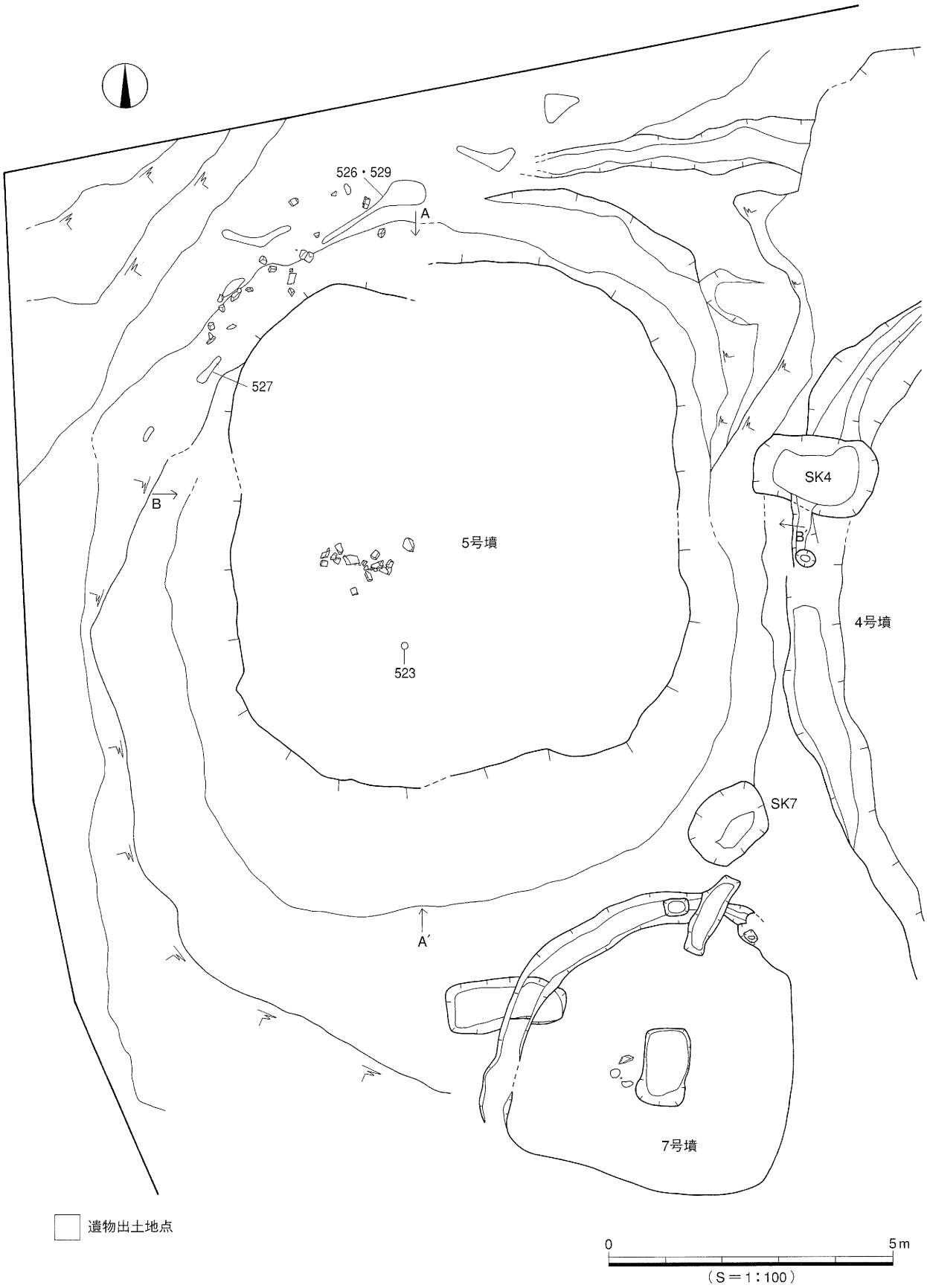
墳形は、削平のために現状で隅丸四角形状に見えるが、円墳である。規模は南北9.4m、東西7.7mを測る。墳丘を構成する土層では、第41図53の黒色土が旧表土と見られ、それ以上が盛り土である。遺物は、墳丘を南北に横断するトレンチで、完形の短頸壺（523）が1点出土している。墳丘出土品には、須恵器1点（524）と埴輪片（525）1点があるが、詳細な出土状況が分からない（「墳丘」の注記がある）。

また、墳丘の基盤面付近では、礫が散在して検出されている。礫群は主体部に関連する資料とも見られるが、断定できない。

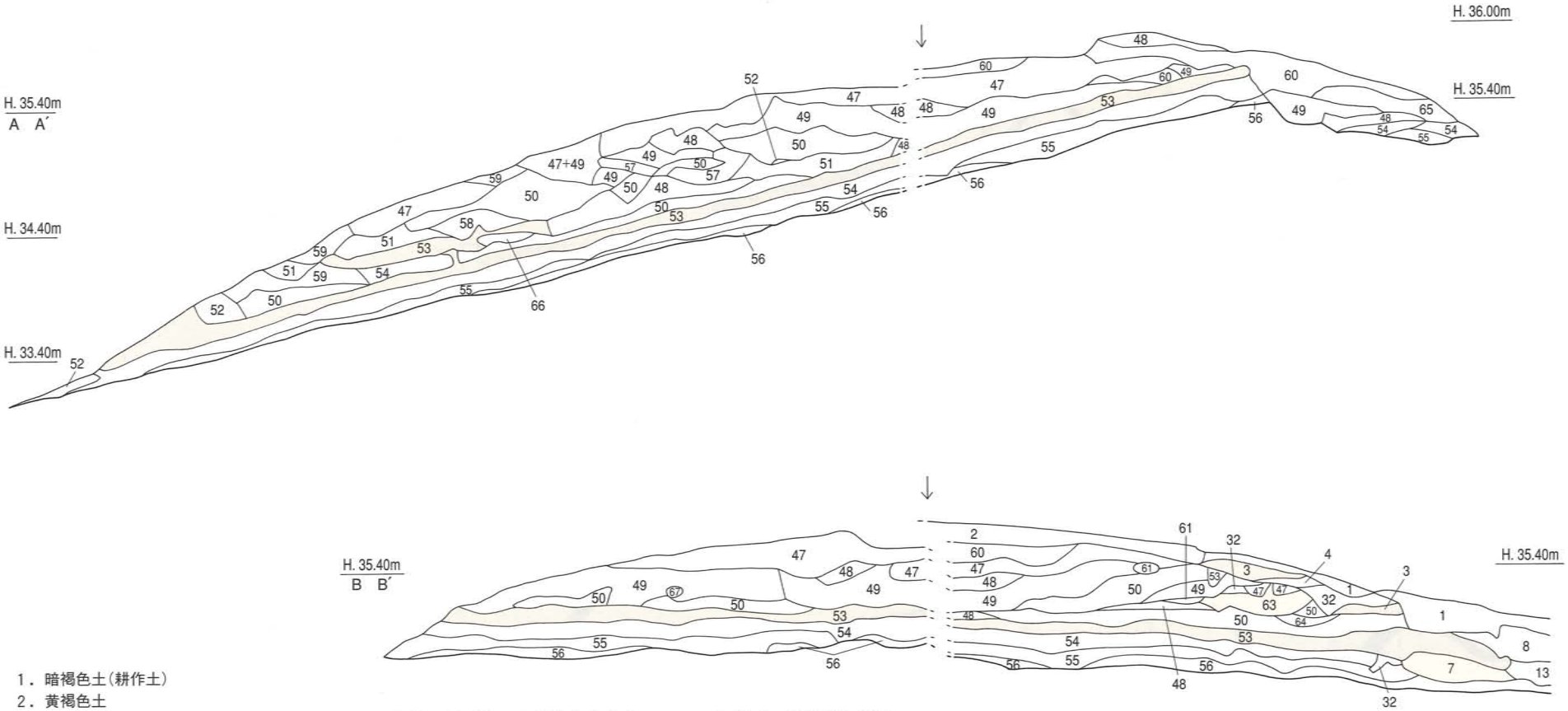
周溝は、北東部分で明確に検出されているが、4号墳との境や西側、南側は曖昧である。遺物は北西コーナーを中心に、帯状に散在する。図化したものには、6世紀中頃～後半の須恵器4点（526～529）がある。

5号墳出土品（第42図）：詳細な出土地点の分からない資料がある。6世紀代の須恵器3点（530～532）、埴輪片1点（533）、中世の風炉1点（534）、土師器1点（535）を掲載した。

時期： 5号墳は、墳丘基盤面付近出土の須恵器（523）から6世紀後半の築造が考えられる。



第40図　５号墳測量図

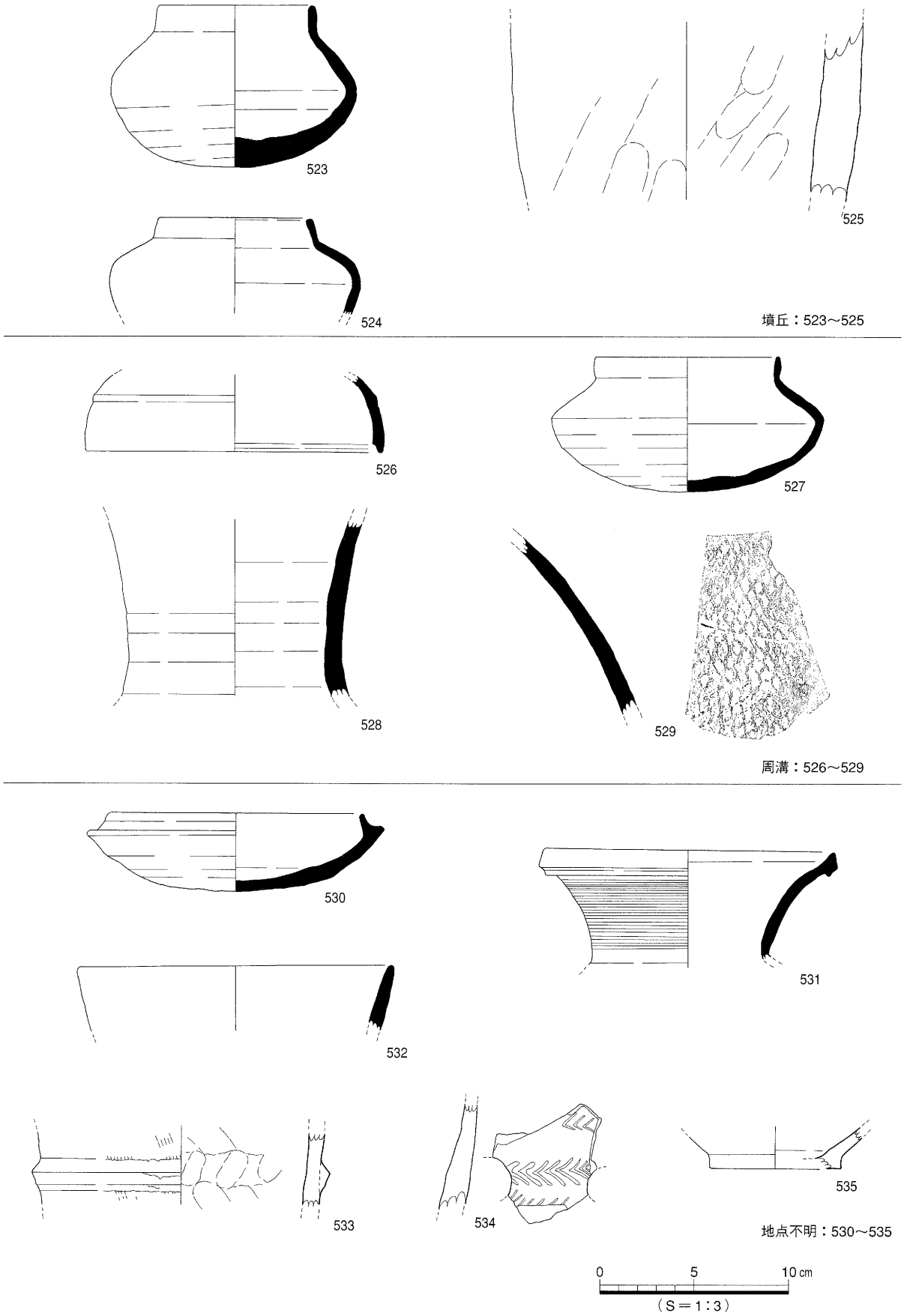


1．暗褐色土(耕作土)
2．黄褐色土
3．黒色土
4．黄褐色土(白色粘土ブロック含む)
5．明暗褐色土
6．黄褐色土と黒色土の混合(やや黄色強い)
7．6よりやや黒色強い
8．暗褐色土(砂粒・黄色粘土粒子含む)
9．暗褐色土と黄色土ブロックの混合
10．暗褐色土(黄色土ブロック少量含む)
11．明黄褐色土(粘性強い)
12．暗黄褐色土(やや砂質)
13．12より黒い

47．黄白色粘土ブロック(黄白色土含む)
48．黄白色土＋暗褐色土の混合
49．明黄褐色土
50．黄褐色土
51．黄褐色土(黒色土粒子含む)
52．暗黄褐色土
53．黒色土
54．明黄褐色土
55．黄褐色土
56．明黄白色土
57．黄白色土
(53〜56：粘性なし)

58．黄白色土+黄褐色土の混合
59．暗褐色土
60．黄白色粘土ブロック+明黄褐色土の混合
61．黄茶褐色砂質土
62．黄褐色ブロック
63．暗褐色+黒色土
64．黄褐色土+黄白色土
65．暗褐色土+褐色土
66．黄褐色土+黄茶色土
67．黄白色ブロック

第41図　5号墳土層図



第42図　５号墳出土遺物

７号墳（第43・44図、図版11・23）

７号墳は標高32.7mの南斜面に立地し、調査地点の南西部に位置する。確認遺構は墳丘基底部、主体部、周溝であるが、いずれの遺構も上部は大きく削平されている。土坑ＳＫ22・23とは切り合い関係にあるが、ＳＫ22に切られているが、ＳＫ23との先後関係は定かでない。

墳形は、開墾のために変形しているが、北西部の形状からは円墳を想定する。墳丘の規模は、東西4.85m、南北4.80mを測る。墳丘土壌は全て削平されている。

主体部は、土坑墓の可能性がある。墓坑は箱形の掘込みとなり、長軸は南北方位を取る。

墓坑の規模は長軸1.40m、短軸0.80m、深さ0.23mを測る。床面直上には、粘質土が検出され、その上で角礫が墓坑長軸に直交し、３等分するかのように検出された。遺物（第44図）は、北壁と角礫との間で完形品の短頸壺１点（536）が出土している。また、墓坑外の西ではほぼ完形に復元できる須恵器３点（537～539）が出土している。

時期：７号墳は、出土品から６世紀後半の築造とする。

（２）土　坑

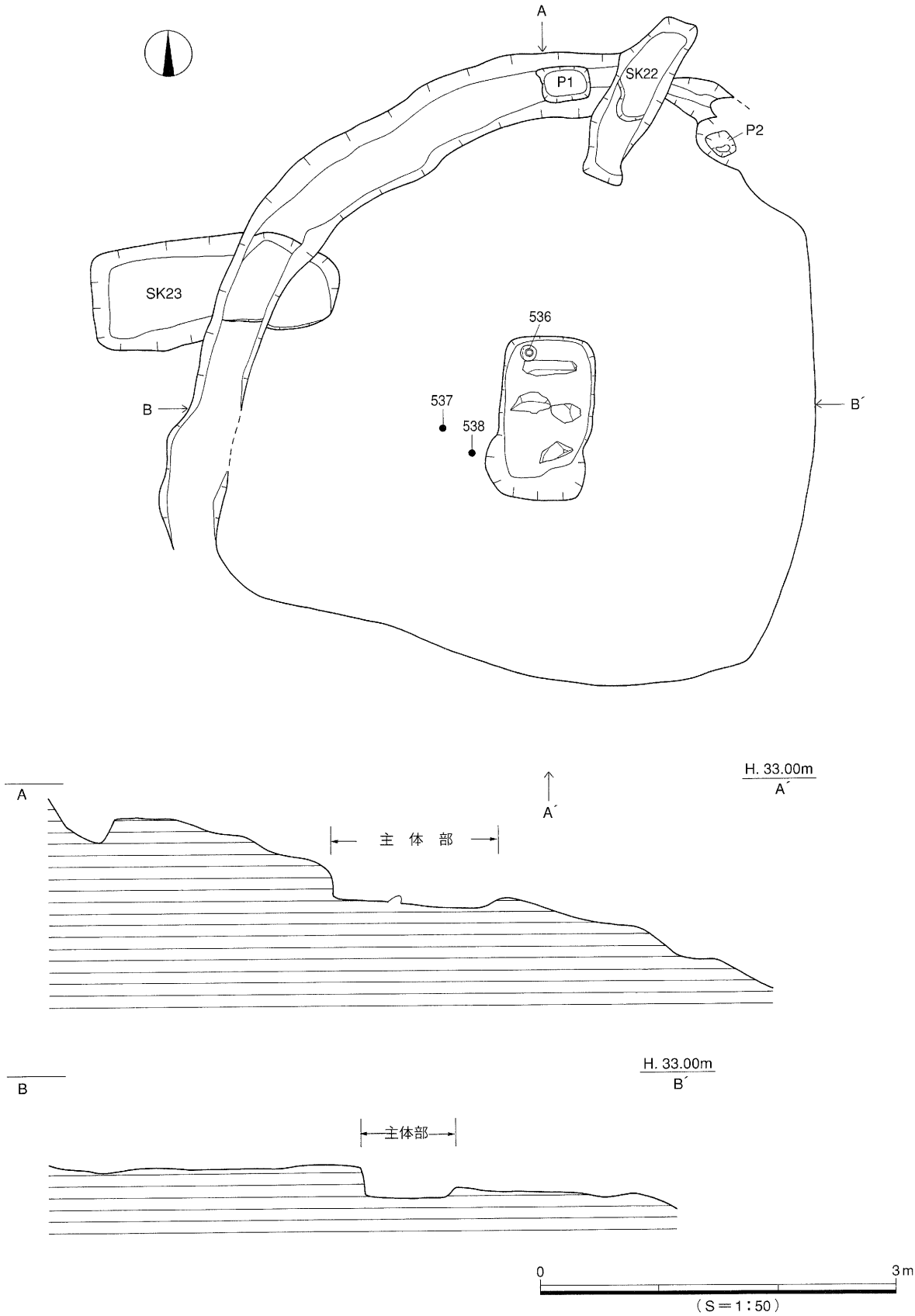
土坑は、12基を検出している。土坑番号は、発掘調査時の番号を基本にした。したがって、『松山市文化財年報Ｉ』で報告された土坑番号に訂正が生じたものもある。

ＳＫ１（第４図）

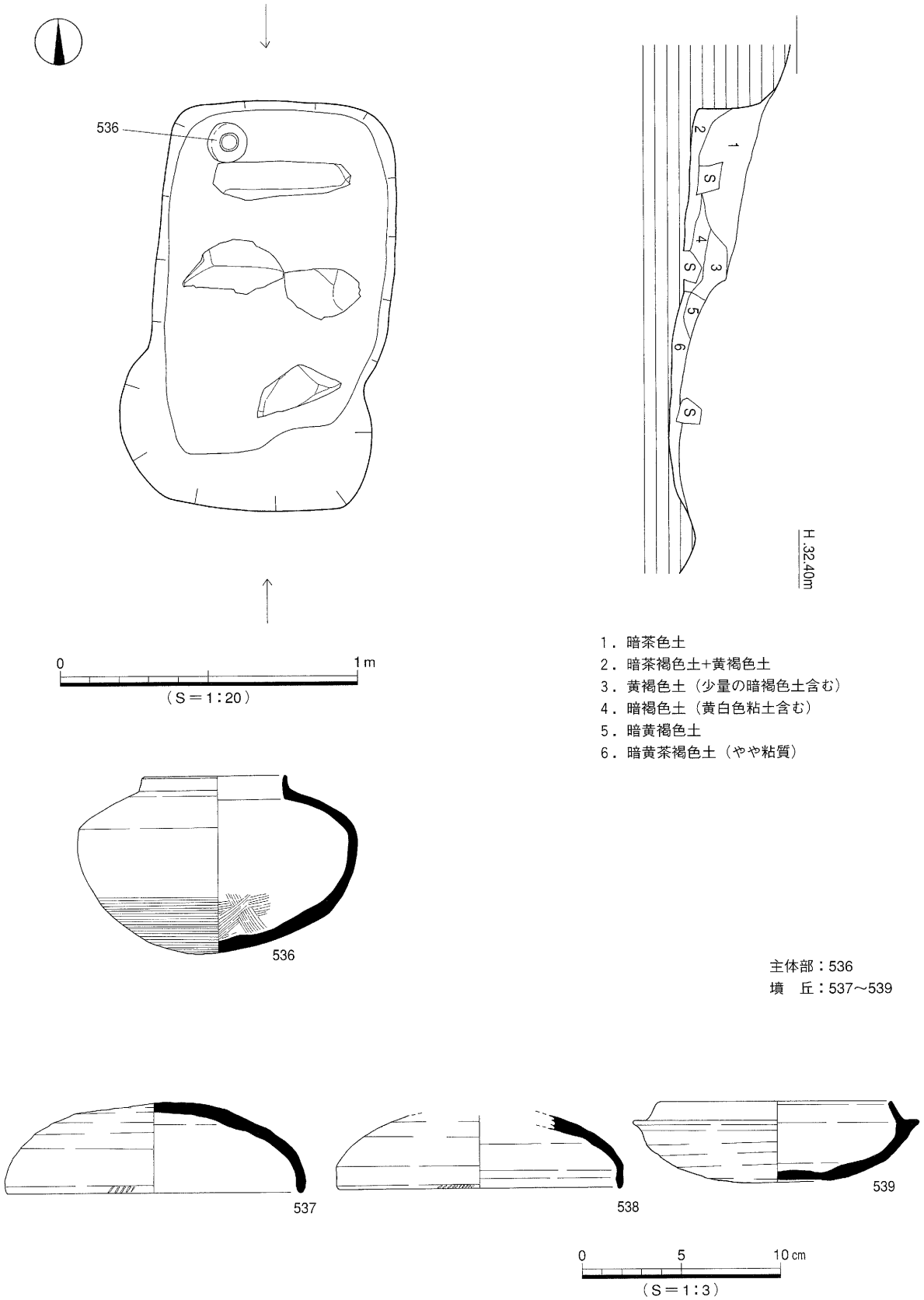
調査地の中央北端、１号墳の周溝部分にある。１号墳周溝との切り合いは不明である。平面形態は隅丸四角形状を呈し、規模は長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.4mを測る。出土遺物はなく、時期は特定できない。

ＳＫ２（第４図）

調査地の中央北端で、調査区外に至る。１号墳の周溝部分にあり、１号墳周溝との切り合い関係は不明である。長軸0.9m、短軸検出長0.7mを測る。出土遺物はなく、時期は特定できない。


A
P1
SK22
P2
SK23
536
537
538
B
B´
H. 33.00m
A´
A
A´
主 体 部
H. 33.00m
B´
B
主体部
0
3m
（S＝1：50）

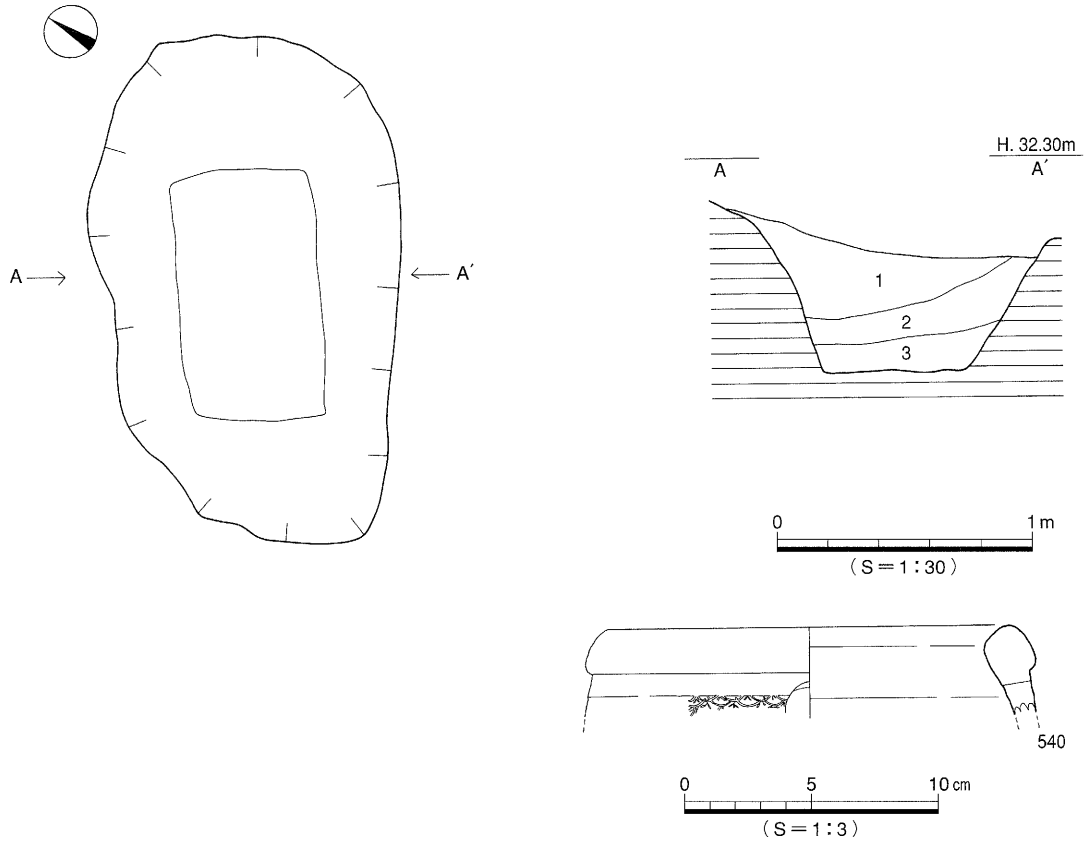
第43図　７号墳測量図



第44図　7号墳主体部測量図・出土遺物

ＳＫ３（第４・45図）

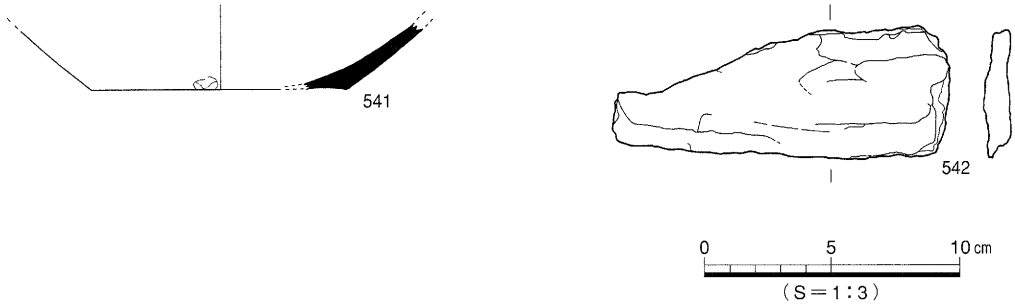
調査地の中央部、４号墳の周溝部分にあり、４号墳周溝を切る。平面形態は隅丸の長方形状を呈し、規模は長軸2.0m、短軸1.1m、深さ0.6mを測る。埋土は３層に分かれ、中近世の風炉の小破片が１点（540）出土している。時期は、出土品を参考にし、中世以降とする。



第45図　SK3測量図・出土遺物

ＳＫ４（第４・46図）

調査地の中央部、４号墳の周溝部分にあり、周溝を切る。平面形態は隅丸の四角形状を呈し、規模は長軸2.1m、短軸1.4m、深さ0.5mを測る。出土遺物は、須恵器の底部（541）と緑色片岩（542）が各１点ある。時期は、出土品から古代以降とする。



第46図　SK4出土遺物

ＳＫ６（第４・47図）

調査地の中央南、６号墳の周溝部分にあたり、６号墳を切る。平面形態は隅丸の長方形状を呈し、規模は長軸3.6m、短軸0.8m、深さ0.5mを測る。埋土は３区分され、石や須恵器を含む。出土品には、須恵器４点（543～546）があり、６世紀後半～７世紀前半に比定される。時期は、出土品から７世紀前半とする。

ＳＫ７（第４・48図）

調査地の中央西、５号墳の墳裾部～周溝部にあり、５号墳を切る。平面形態は隅丸の四角形状を呈し、埋土は赤茶褐色土と黄褐色土とで構成される。規模は長軸1.5m、短軸1.1m、深さ0.4mを測る。出土遺物はない。時期は特定できない。

ＳＫ20（第４図）

調査地の中央北、４号墳の周溝部分にあり、４号墳周溝を切り、ＳＫ21に切られる。平面形態は楕円形状を呈し、規模は長軸1.20m、短軸1.00m、深さ0.08mを測る。出土遺物はなく、時期は特定できない。

ＳＫ21（第４図）

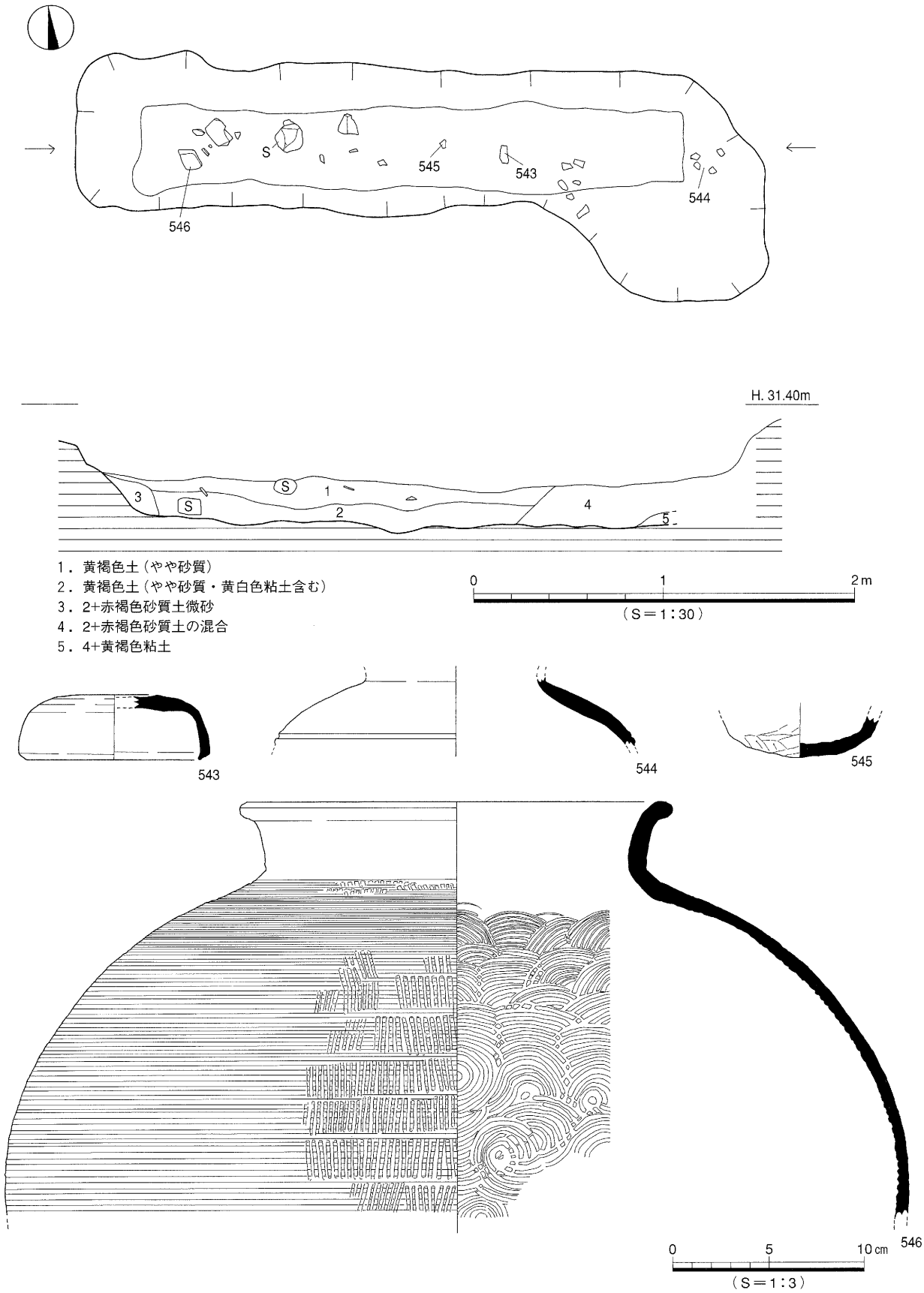
調査地の中央北、４号墳の周溝部分にあり、４号墳周溝を切り、ＳＫ20を切る。平面形態は隅丸四角形状を呈し、規模は長軸1.20m、短軸0.70m、深さ0.17mを測る。出土遺物はなく、時期は特定できない。

ＳＫ22（第４図）

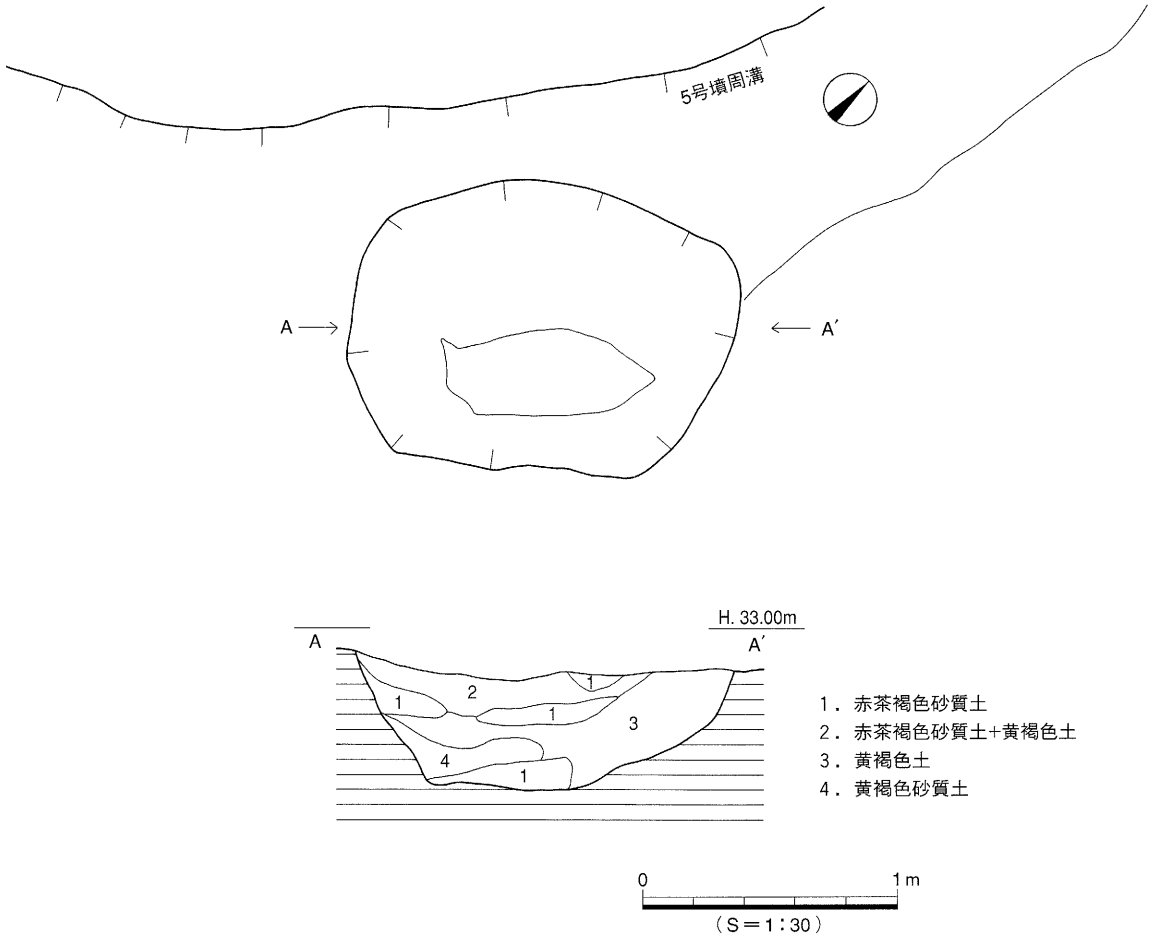
調査地の中央西、７号墳の周溝部分にあり、７号墳を切る。平面形態は長楕円形を呈し、規模は長軸1.50m、短軸0.40m、深さ0.31mを測る。出土遺物はなく、時期は特定できない。

ＳＫ23（第４図）

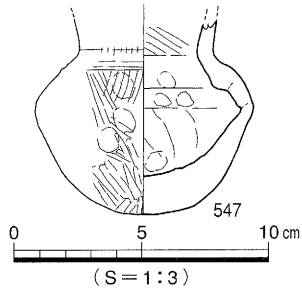
調査地の中央西、７号墳の周溝部分にあり、７号墳に切られる。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸2.10m、短軸0.90m、深さ0.38mを測る。出土遺物はなく、時期は特定できない。



第47図　SK6測量図・出土遺物



第48図　SK7測量図



第49図　SK24出土遺物

ＳＫ24（第４・49図、図版24）

調査地の中央南、６・７号墳間の中間地点にある。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸1.40m、短軸0.60m、深さ0.17mを測る。遺物は土師器の壺１点（547）が出土している。時期は、出土品から６世紀とする。

ＳＫ25（第４図）

調査地の中央南、６号墳の西にあり、調査区外に続く。平面形態は現状で台形状を呈し、規模は長軸2.20m、短軸検出長1.80m、深さ0.22mを測る。出土遺物はなく、時期は特定できない。

（３）溝

溝は、２条を検出している。ＳＤ１とＳＤ２との関係は、判断できない（第４図）。

ＳＤ１（第４・50図）

調査地の南端にあり、調査区外に続く。規模は検出長21.4m、幅1.5～2.8m、深さ0.3mを測る。遺物は７世紀前半の須恵器３点（548～550）がある。時期は、出土品を参考にして７世紀以降とするが、下限は判断できない。

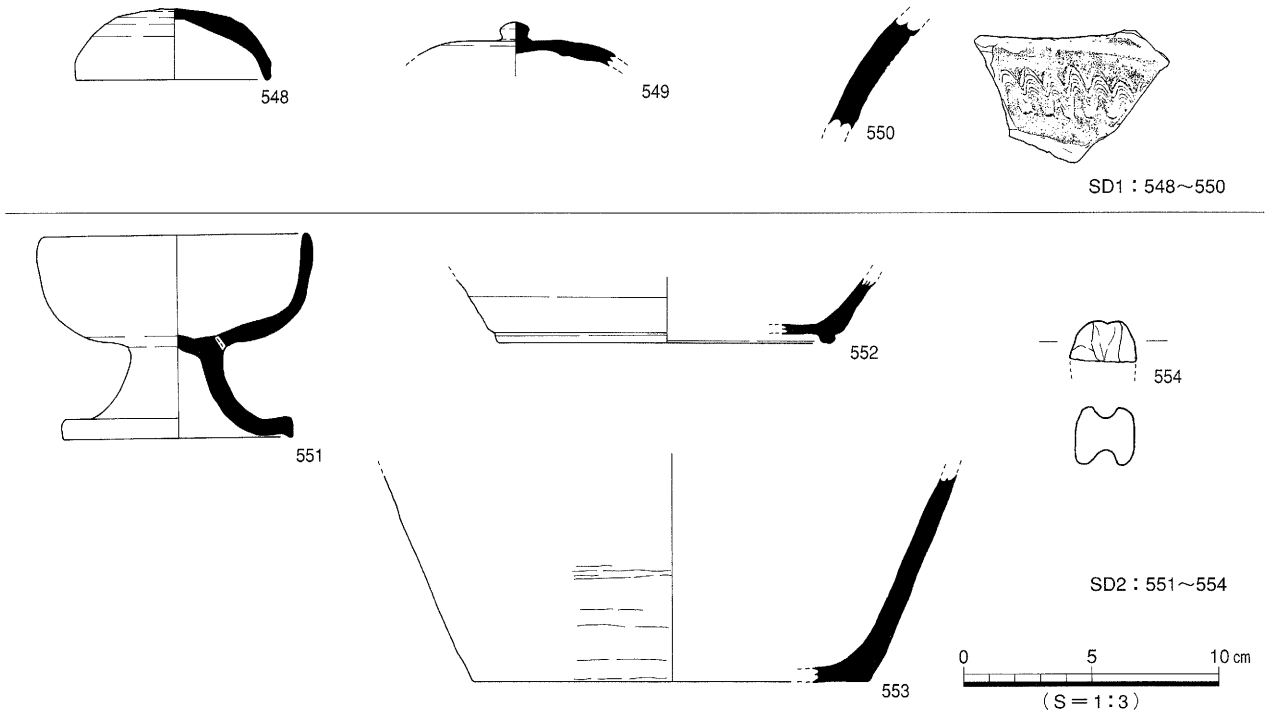
ＳＤ２（第４・50図、図版24）

調査地の南東部にあり、調査区外に続く。規模は検出長6.60m、幅1.40～2.20m、深さ0.25mを測る。遺物は７～８世紀代の須恵器３点（551～553）と土錘１点（554）がある。時期は、出土品を参考にして８世紀以降とするが、下限は判断できない。

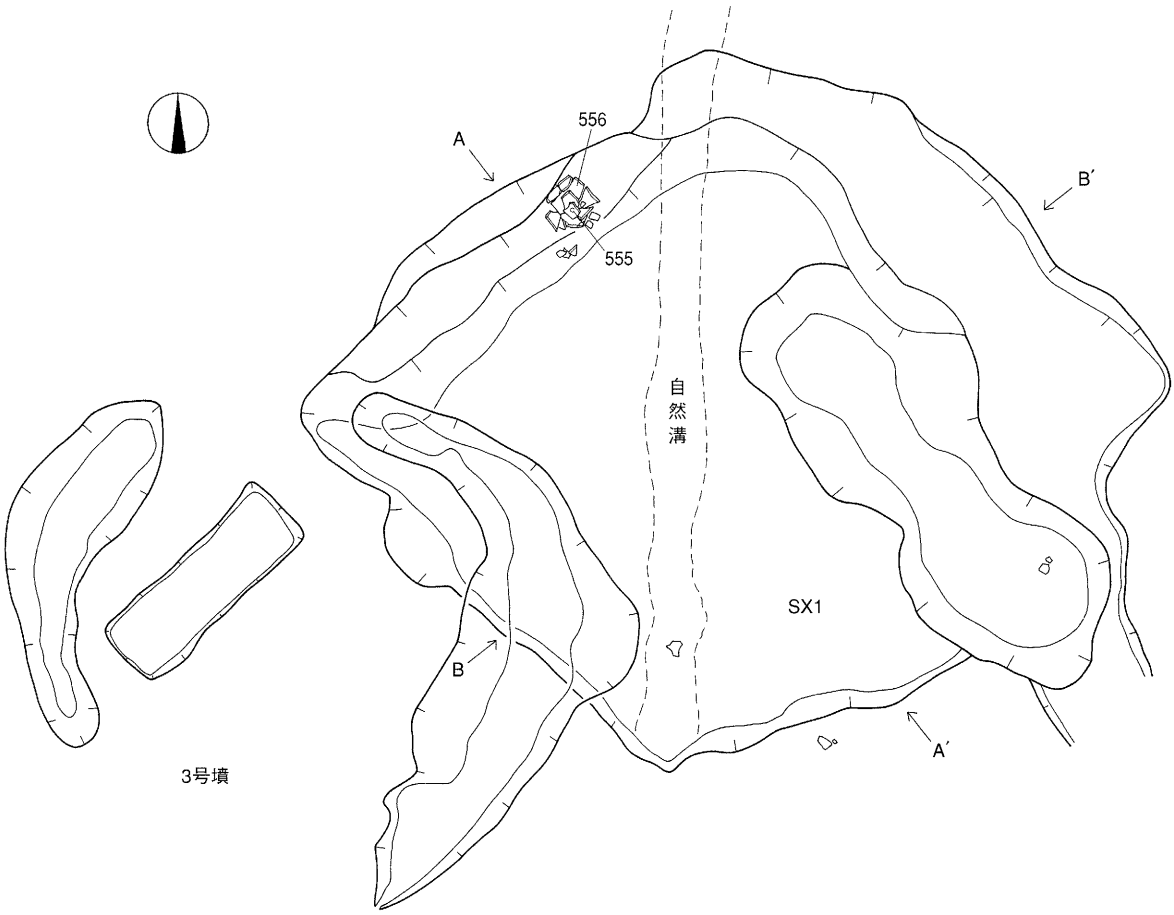
（４）特異な遺構

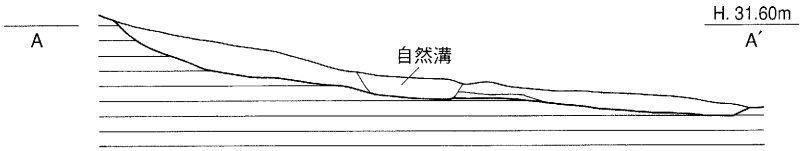
ＳＸ１（第４・51・52図、図版24）

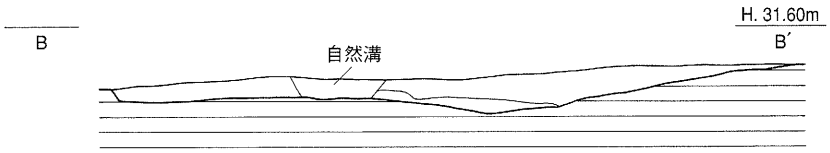
３号墳に重なるようにして、四角状の掘込みがある。幾つかの掘込みが重複しているように思われるが、その関係は解決できていない。規模は東西4.42m、南北4.30m、深さ0.24mを測る。北側の傾斜地では、須恵器の蓋（555）と壺（556）とが出土している。出土場所や遺存状況からみると、壺に蓋を被せていた可能性が高く、蔵骨器を想定することが出来る。須恵器557・558と鉄器559の詳細な出土地点は分からない。

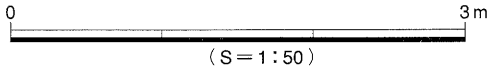


第50図　SD1・2出土遺物

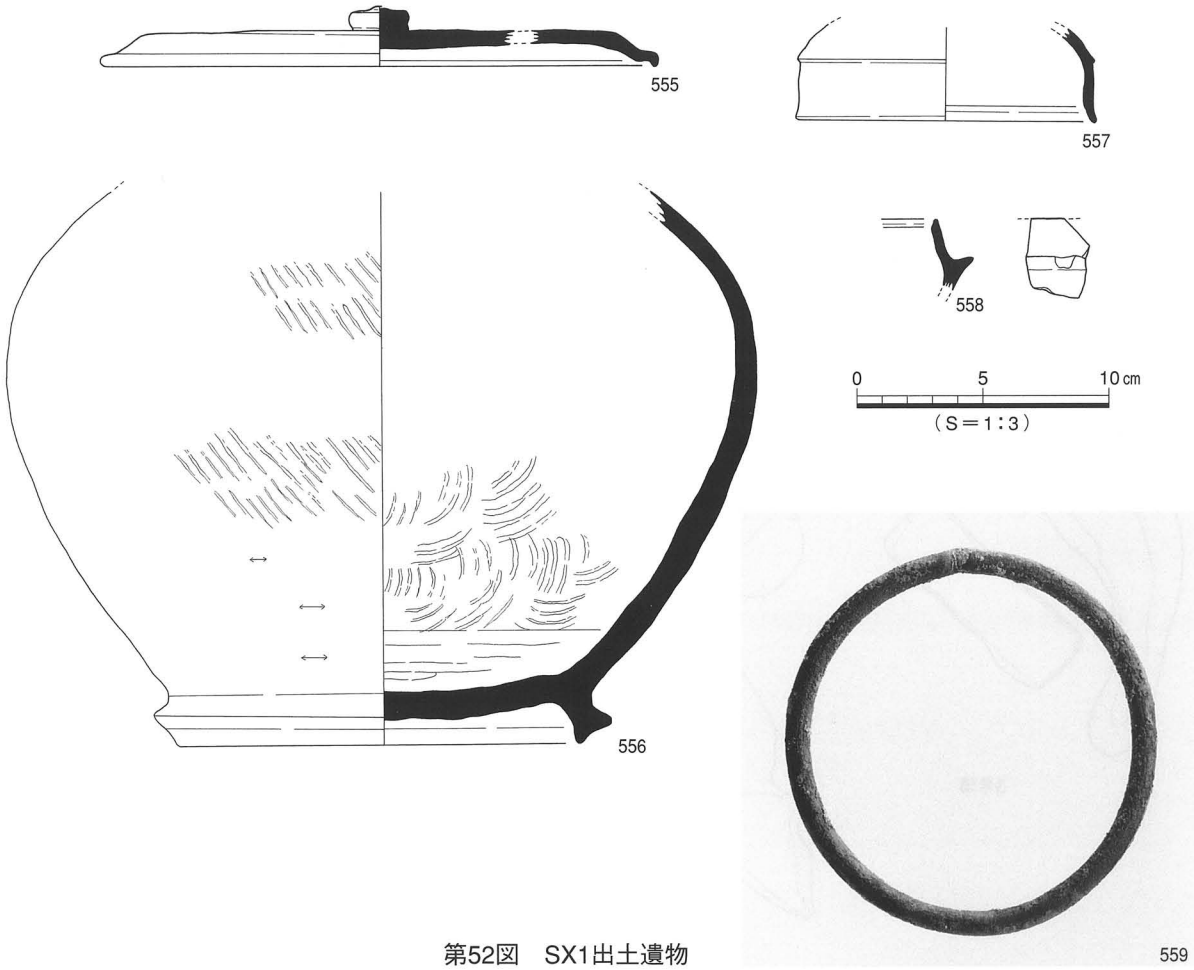








第51図　SX1測量図



第52図　SX1出土遺物

（５）その他の遺物

出土地点が不明もしくは曖昧な遺物を掲載しておく（第53～55図、図版24）。

①須恵器（560～576）：６～８世紀代の須恵器で、568は４号墳ないし６号墳の出土品の可能性がある。

②土師器（577～583）：７～10世紀代の土師器である。

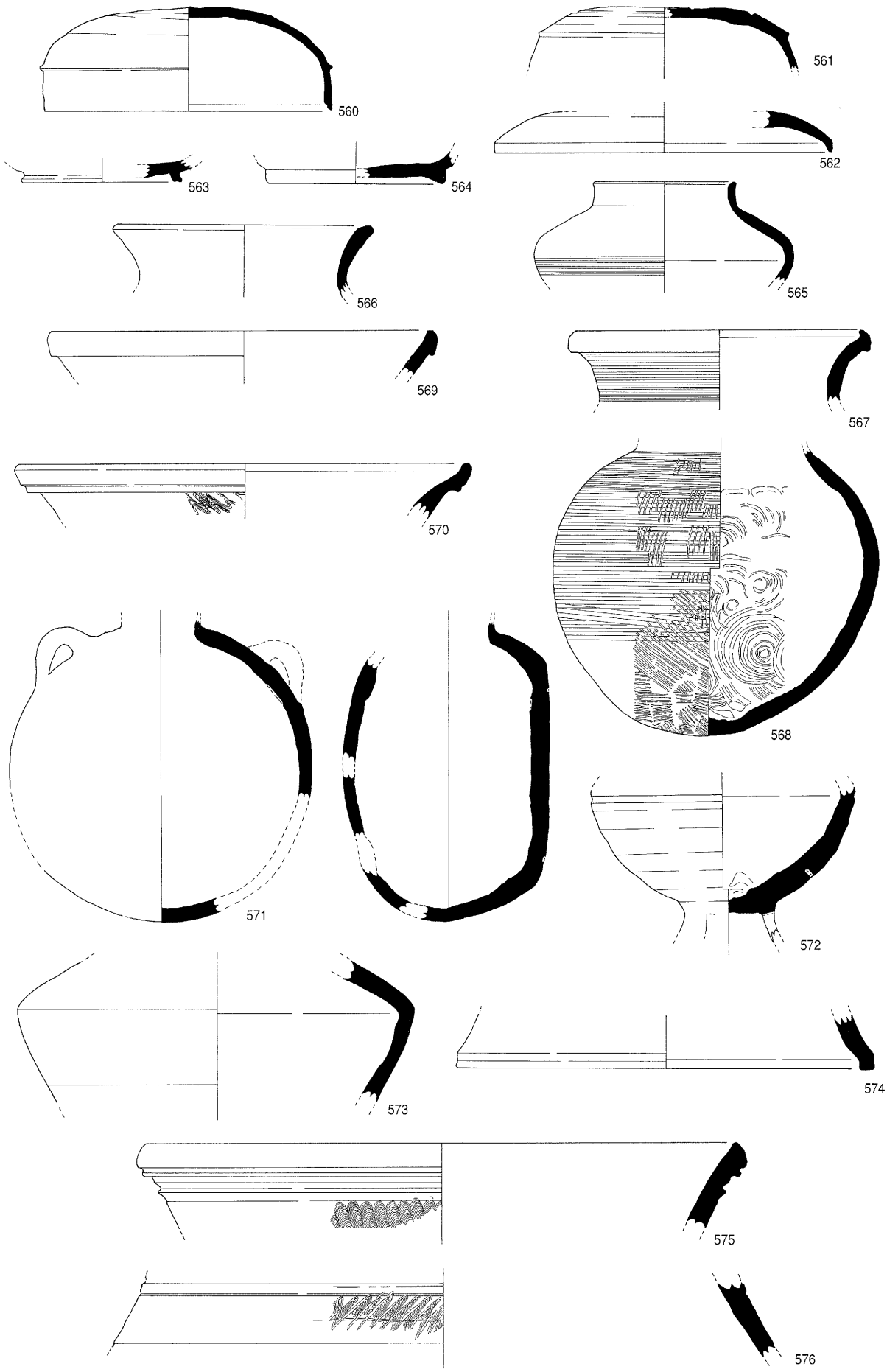
③中近世土器（584・585）：584はこね鉢、585は鍋である。

④弥生土器（586・587）：586は壺、587は高坏である。

⑤瓦（588）：軒平瓦で、白鳳時代の可能性が高い。継続調査の必要がある。

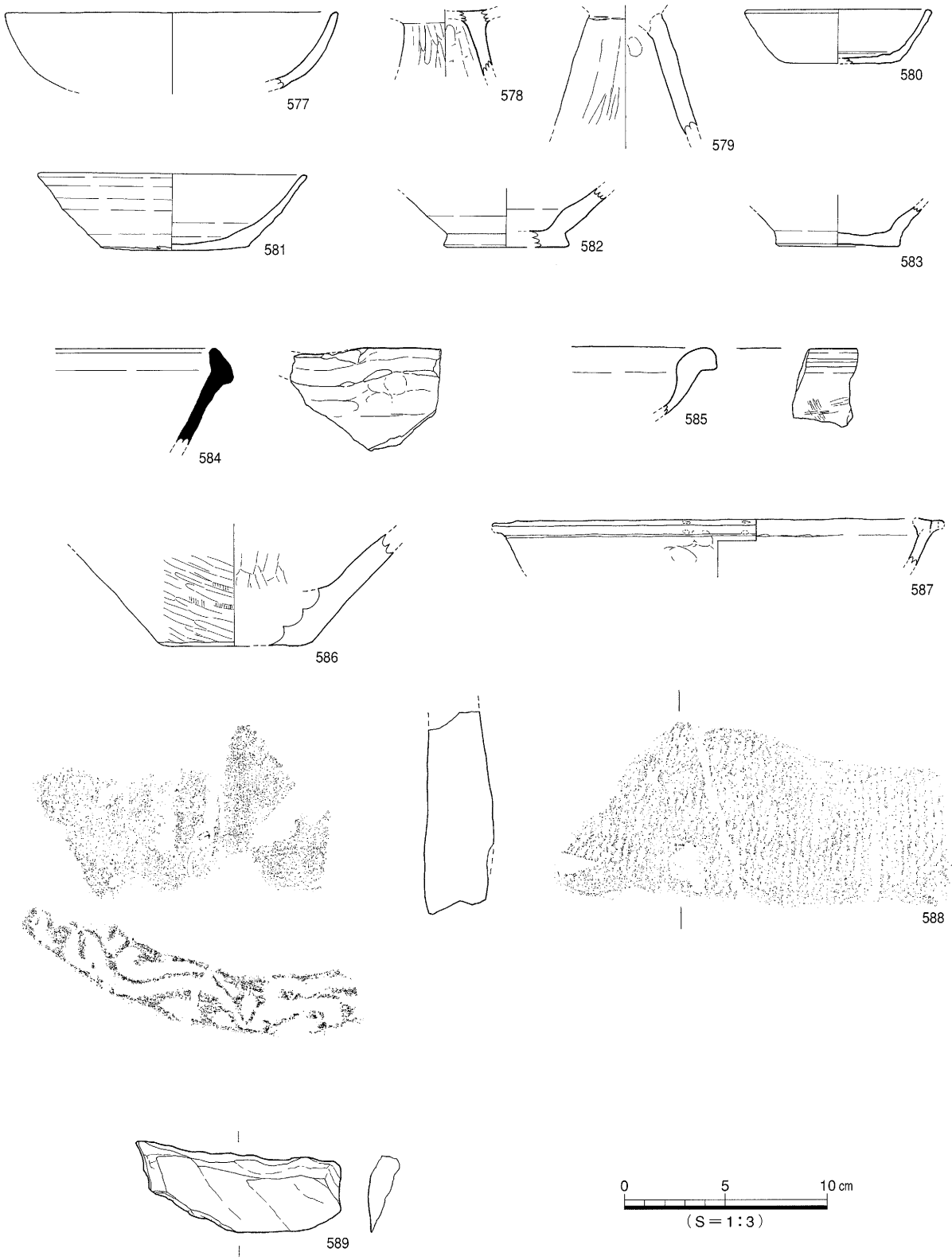
⑥石製品（589）：緑色片岩の剥片。

⑦鉄製品（590～610）：調査の時間がなく、詳細な種類は判断できず。

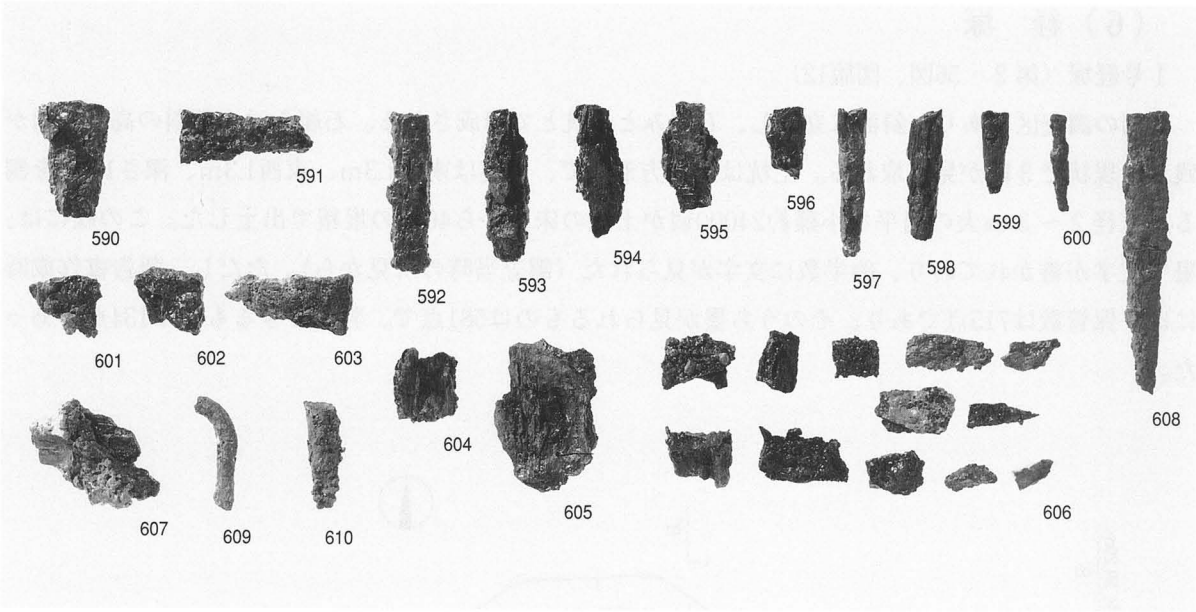


第53図　出土地点不明遺物（1）

0　5　10cm
（S＝1：3）



第54図　出土地点不明遺物（2）

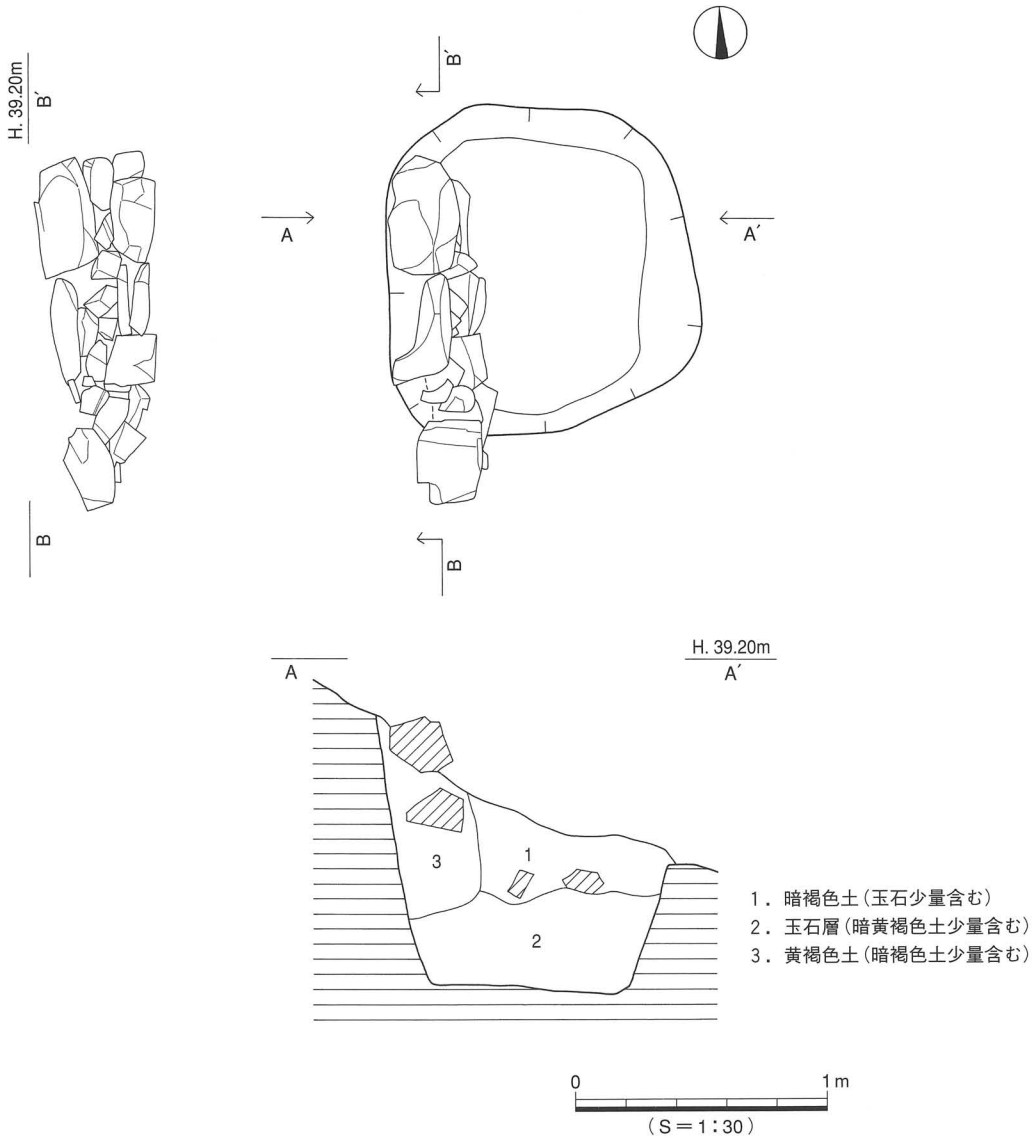


第55図　出土地点不明遺物（3）

（６）経　塚

１号経塚（第２・56図、図版12）

北側の調査区にあり、斜面に立地し、石組みと土坑とで構成される。石組みは、傾斜の高い西側が残り、現状で３段が見て取れる。土坑は隅丸方形状で、規模は南北1.3m、東西1.3m、深さ1.8mを測る。直径２～３㎝大の扁平な小礫約24000個が土坑の床面から40㎝の堆積で出土した。この礫には、墨で文字が書かれており、約半数に文字が見られた（調査当時の所見から）。ただし、報告書作成時には、保管数は715点であり、そのうち墨が見られるものは581点で、判読できるものは134点であった。



第56図　経塚測量図

遺構・遺物一覧　―凡例―

（1）以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

（2）遺物観察表の各記載について

法量欄　（　）：復元推定値

調整欄　土器の各部位名称を略記した。

例）口→口縁部、胴→胴部、天→天井部、脚→脚部、体→体部、底→底部。

胎土・焼成欄　胎土欄では混和剤を略記した。

例）長→長石、石→石英、密→精製土。（　）中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例）砂・長（1～4）→「1～4㎜大の砂粒・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表2　墳丘一覧

遺構名	立地	標高(m)	時期	墳丘		周溝	主体部	玄室及び木棺					羨道規模(m)	墓道	出土遺物			開口方向	備考
				墳形	規模			規模(m)	敷石	玉石	貼床	仕切			主体部	墳丘	周溝		
1号墳	斜面	35.1	6C代	円		○										須恵	須恵		
2号墳	斜面	34.5	6C代	円		○	横穴石室	2.0×1.1		○	?				土師・玉・鉄器	須恵・鉄器	須恵・鉄器・石器	南西	
3号墳	斜面	31.4	6C代	円	2.5	○		1.4×0.5	○						須恵・鉄器		須恵		
4号墳A	斜面	34.7	6~7C	円	10.2	○	横穴石室	4.0×1.5	○	○	○	○	2.5		須恵・土師・玉・鉄器・耳環・人骨		須恵・土師・鉄器・石器		
4号墳B	斜面	34.7		円	10.2	○	竪穴石室	1.3×0.3		○					鉄器	須恵			
5号墳	斜面	35.8	6C代	円	9.4	○										須恵・埴輪	須恵		
6号墳A	斜面	31.4	6C代	円	10.8	○	横穴石室	2.1×(0.8)		○					玉・鉄器・人骨			西	
6号墳B	斜面	31.4		円	10.8	○	横穴石室	2.4×1.0							須恵			西	
7号墳	斜面	32.7	6C代	円	4.8	○		1.4×0.8							須恵	須恵			棺台

表3　土坑一覧

（1）

土坑(SK)	平面形	断面形	規模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積(㎡)	埋土	出土遺物	時期	備考
1	隅丸四角形		0.9×0.7×0.4	0.6	不明		不明	
2	楕円形		0.9×(0.7)×	(0.6)	不明	なし	不明	
3	隅丸長方形		2.0×1.1×0.6	2.8	黄茶褐色他	風炉	中世以降	4号墳周溝を切る
4	隅丸四角形		2.1×1.4×0.5	2.9	不明	須恵・石	古代以降	4号墳周溝を切る
6	隅丸長方形		3.6×0.8×0.5	4.4	黄褐色土他	須恵	7C前半	6号墳を切る
7	隅丸四角形		1.5×1.1×0.4	2.6	黄褐色他	なし	不明	5号墳を切る
20	楕円形		1.2×1.0×0.08	1.2	不明	なし	不明	4号墳周溝を切り SK21に切られる

土坑一覧

（2）

土坑（ＳＫ）	平面形	断面形	規　　模（m） 長さ（長径）×幅（短径）×深さ	床面積（㎡）	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
21	隅丸四角形		1.2× 0.7 ×0.17	0.8	不明	なし	不明	４号墳周溝・SK20を切る
22	楕円形		1.5× 0.4 ×0.31	0.6	不明	なし	不明	７号墳周溝を切る
23	長方形		2.1× 0.9 ×0.38	1.9	不明	なし	不明	７号墳周溝に切られる
24	長方形		1.4× 0.6 ×0.17	0.8	不明	土師	６Ｃ	
25	台形状		2.2×(1.8)×0.22	(4.0)	不明	なし	不明	

表４　溝一覧

溝（SD）	地　区	断面形	規　　模（m） 長さ×幅×深さ	方向	埋　土	出土遺物	時　期	備　考
1	調査区南	不明	21.4×1.5～2.8×0.30	東西	不明	須恵	７Ｃ代	
2	調査区南	不明	6.6×1.4～2.2×0.25	東西	不明	須恵・土錘	８Ｃ以降	

表５　1号墳出土遺物観察表　土製品

（1）

番号	器種	法量（cm）	形　態・施　文	調　整		色調（外面）（内面）	胎　土 焼　成	備考	図版
				外　面	内　面				
1	坏蓋	口径(14.8) 残高　4.5	口縁端部は段をもつ。	㊐回転ナデ ㊍回転ヘラケズリ	回転ナデ	暗灰色 青灰色	密 ◎	墳丘	
2	坏蓋	口径(13.4) 残高　5.0	口縁端部は段をもつ。	㊐回転ナデ ㊍回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	墳丘	
3	蓋	つまみ径(2.2) 残高　2.6	つまみの中央部は大きく凹む。	㊀回転ナデ ㊍回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰黄色 灰黄色	密 ◎	墳丘	
4	坏身	口径(12.0) 残高　3.0	端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	墳丘	
5	坏身	口径(12.2) 残高　3.0	端部は丸い。	回転ナデ ㊇回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	墳丘	
6	壺	口径(17.8) 残高　4.4	端部方形で、突帯をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	墳丘	
7	甕	残高　3.9	胴部片。外面に格子目タタキ。	格子目タタキ →カキメ	回転ナデ 円弧タタキ	青灰色 青灰色	密 ◎	墳丘	
8	風炉	残高　5.1	低い半円形の突帯。	ハケ	ハケ	乳橙色 乳橙色	密 ◎	墳丘	
9	坏蓋	口径(14.9) 残高　3.2	口縁端部は段をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	周溝	

1号墳出土遺物観察表　土製品

（2）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
10	無蓋高坏	口径 14.6 底径 (8.0) 器高 9.4	口縁端部は段をもつ。 脚部円孔（φ0.7cm）3ヶ。	回転ナデ (坏底)回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰黄色 灰黄色	密 ◎	周溝	13
11	坏	口径(11.7) 残高 2.9	端部は丸い。	マメツ (回転ナデ)	マメツ (回転ナデ)	乳黄色 乳黄色	石・長(1) ◎	周溝	
12	皿か坏	底径 (7.6) 残高 1.2	平底。	マメツ (底)回転糸切り	マメツ (回転ナデ)	乳黄色 乳黄色	石・長(1～2) ◎	周溝	
13	坏	底径 (8.3) 残高 1.1	平底。	マメツ (底)回転糸切り	マメツ	乳黄色 乳黄色	石・長(1～2) ○	周溝	

表6　2号墳出土遺物観察表　玉類

番号	器種	残存	材質	色	法量 直径（cm）	法量 高さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
14	小玉	完形	ガラス	紺	0.70	0.48	0.23		13
15	小玉	完形	ガラス	紺	0.70	0.45	0.28		13
16	小玉	完形	ガラス	紺	0.70	0.49	0.30		13
17	小玉	完形	ガラス	青緑	0.71	0.49	0.31		13
18	小玉	完形	ガラス	紺	0.77	0.40	0.31		13
19	小玉	ほぼ完形	ガラス	紺	0.73	0.50	(0.34)		13
20	小玉	完形	ガラス	紺	0.76	0.48	0.35		13
21	小玉	完形	ガラス	紺	0.70	0.51	0.36		13
22	小玉	完形	ガラス	紺	0.74	0.52	(0.36)		13
23	小玉	完形	ガラス	紺	0.78	0.61	0.38		13
24	小玉	完形	ガラス	紺	0.72	0.57	0.38		13
25	小玉	2／3	ガラス	紺	0.80	0.58	(0.41)		13
26	小玉	完形	ガラス	紺	0.70	0.61	0.43		13
27	小玉	完形	ガラス	紺	0.80	0.51	0.43		13
28	小玉	完形	ガラス	紺	0.90	0.53	0.47		13
29	小玉	完形	ガラス	紺	0.86	0.60	0.52		13
30	土玉	完形	土	黒灰色	0.73	0.54	0.29		13
31	土玉	完形	土	黒灰色	0.70	0.62	0.35		13
32	土玉	完形	土	黒灰色	0.80	0.60	0.37		13
33	土玉	完形	土	黒灰色	0.80	0.69	0.40		13
34	土玉	ほぼ完形	土	黒灰色	0.80	0.60	0.44		13
35	土玉	1／2	土	黒灰色	0.48	0.57	(0.12)		

表7　2号墳出土遺物観察表　土製品

（1）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
36	壺	残高 16.4	球形で、器壁が厚い胴部。	ハケ (底)ハケ→ナデ	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1) ◎	主体部	
37	直口壺	口径(11.6) 残高 13.7	頸部下端がゆるやかにしまる。	(口)転ナデ (底)回転ヘラケズリ	ナデ	青灰色 灰色	密 ◎	裏込め土 自然釉	
38	坏蓋	残高 3.6	稜はややあまい。	(口)回転ナデ (天)回転ヘラケズリ	回転ナデ	黒灰色 暗灰橙色	密 ◎	墳丘	

2号墳出土遺物観察表　土製品

（2）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
39	壺	口径(14.2) 残高　3.4	端部は方形で、突帯をもつ。	回転ナデ 頸カキメ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	墳丘	
40	壺	残高　5.5	肩部小片。	格子目タタキ	円弧タタキ	灰色 灰色	密 ◎	墳丘 自然釉	
41	皿	底径(19.4) 残高　2.2	平底。	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色 灰黄色	密 ◎	墳丘	

表８　2号墳出土遺物観察表　鉄製品

番号	器種	残存	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
42	刀		2.4	1.7	0.20	3.02	主体部	
43	刀		3.1	2.1	0.45	5.98	主体部	
44	釘		2.2	0.7	0.25	0.84	墳丘	
45	不明		(3.3)	1.9	0.25	3.61	墳丘	
46	鏃か釘		5.4	0.7	0.40	6.68	周溝	

表９　2号墳周溝出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
47	坏蓋	口径 15.2 器高　4.3	稜あまく、端部に弱い段。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	口回転ナデ 天円弧タタキ→ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		13
48	坏蓋	口径 15.5 器高　4.3	稜あまく、端部に弱い段。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	口回転ナデ 天ナデ	暗灰色 青灰色	密 ◎		13
49	坏蓋	口径 15.4 器高　4.5	稜あまく、端部に弱い段。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	口回転ナデ 天工具痕	灰色 褐色	石･長（１～４） ○		13
50	坏蓋	口径 15.8 器高　4.5	沈線状の境に、丸い端部。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	口回転ナデ 天工具痕	暗灰色 灰色	密 ◎		13
51	坏身	口径 13.2 器高　5.0	端部は弱い段。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		13
52	坏身	口径 13.6 器高　4.9	端部は弱い段。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	口回転ナデ 底ナデ	青灰色 暗灰色	密 ◎		13
53	坏身	口径 13.8 器高　4.9	端部はやや広く、弱い段。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		13
54	坏身	口径 13.4 器高　5.0	端部は丸い。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		13
55	壺	残高 20.4	肩部に張りをもつ。	頸カキメ 胴カキメ→平行タタキ 底平行タタキ	頸ナデ 胴･底同心円タタキ ＋円弧タタキ	灰色 灰色	密 ○		
56	椀	底径（5.8） 残高　1.7	輪高台。	マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰色	密 ○		

表10　2号墳周溝出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	色	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
57	不明		緑色片岩		9.5	3.7	1.3	86.1	周溝	

表11　2号墳出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
58	坏蓋	口径(14.9) 残高　5.5	稜あまく、端部は段。	㊐回転ナデ ㊤回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	地点不明	
59	坏蓋	口径(15.2) 残高　4.9	稜部は太い沈線状で、端部は面をなす。	㊐回転ナデ ㊤回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	地点不明	
60	坏身	口径(11.4) 器高　5.9	端部は段をなす。	㊐回転ナデ ㊞回転ヘラケズリ	㊐回転ナデ ㊞円弧タタキ	灰色 灰色	密 ◎	地点不明	
61	坏身	口径(14.4) 残高　2.8	端部はやや凹む。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	地点不明	
62	壺	残高　4.3	口縁内面に凹みをもつ。	㊐㊟回転ナデ カキメ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎	地点不明	
63	甕	残高(29.0)	体部の中位が張る。	㊟カキメ ㊟平行タタキ→カキメ ㊞平行タタキ	㊟ナデ ㊟・㊞同心円タタキ	青灰色 青灰色	密 ◎	地点不明	
64	高坏	残高　2.4	脚部片。	ナデ	ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	地点不明	

表12　3号墳出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
65	短頸壺	口径　7.2 器高 10.6	頸部は直立し、端部は丸い。	回転ナデ ㊞回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	主体部	14

表13　3号墳出土遺物観察表　鉄製品

番号	器種	残存	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
66	刀子		7.3	1.4	0.2	5.5	主体部	

表14　3号墳周溝出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
67	坏蓋	口径(14.0) 残高　4.8	端部はわずかに段をもつ。	㊐回転ナデ ㊤回転ヘラケズリ	㊐回転ナデ ㊤ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
68	坏身	残高　4.3		㊐回転ナデ ㊞回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
69	短頸壺	残高　3.2	頸部は内傾し、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		

表15　4号墳A主体部出土遺物観察表　土製品

（1）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
70	坏蓋	口径 10.2 器高　3.6	稜部は屈折し、端部は尖る。	㊐回転ナデ ㊤回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		14
71	坏	口径　9.7 器高　4.5	口縁部は外反する。	㊐回転ナデ ㊞回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		14

4号墳A主体部出土遺物観察表　土製品

（2）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
72	無蓋高坏	口径 8.6 残高 3.5	端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	黒灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
73	高坏	底径（9.4） 残高 1.6	脚端部は、下方屈曲させ、弱い段をなす。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
74	高坏	底径（8.6） 残高 1.3	脚端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
75	提瓶	口径（9.6） 残高 1.6	端部は外方へ拡張。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
76	壺	口径 12.0 器高 19.5	完形品。斜線文と沈線文。	ナデ ㊞回転ヘラケズリ	ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	13
77	長頸壺	底径 8.8 残高 22.2	頸部と肩部に沈線文。	回転ナデ	不明	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	13
78	坏	口径 15.6 器高 9.6	完形品。端部丸い。	指頭痕	ナデ	乳橙色 乳黄色	石・長（1～5） ◎		13
79	皿	口径（16.8） 底径（12.6） 器高 2.4	平底。端部丸い。	マメツ （回転ナデ）	マメツ （ミガキ）	橙褐色 橙褐色	石・長（1～5） ◎		
80	坏	口径（14.0） 底径 7.6 器高（5.1）	円板高台。	㊐回転ナデ ㊞回転ヘラキリ →回転ナデ	回転ナデ	赤橙色 赤橙色	石・長（1～2） ◎	石室内	

表16　4号墳A主体部出土遺物観察表　玉類

（1）

番号	器種	残存	材質	色	法量 直径（cm）	法量 高さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
81	丸玉	完形	ガラス	乳白色	1.00	0.45	0.52		15
82	丸玉	完形	ガラス	乳白色	1.00	0.45	0.74		15
83	丸玉	完形	ガラス	乳白色	1.00	0.51	1.02		15
84	丸玉	完形	ガラス	乳白色	1.04	0.60	1.53		15
85	丸玉	完形	ガラス	乳白色	1.00	0.58	0.75		15
86	丸玉	1／2	ガラス	黄緑	0.75	0.47	0.35		15
87	管玉	2／3	ガラス	黄緑	0.50	0.59	(0.21)		15
88	小玉	完形	ガラス	黄色	0.38	0.38	0.04		15
89	小玉	完形	ガラス	黄色	0.38	0.24	0.04		15
90	小玉	完形	ガラス	黄色	0.37	0.20	0.04		15
91	小玉	完形	ガラス	黄色	0.38	0.26	0.05		15
92	小玉	完形	ガラス	黄色	0.35	0.32	0.05		15
93	小玉	完形	ガラス	黄色	0.33	0.37	0.05		15
94	小玉	完形	ガラス	黄色	0.32	0.27	0.06		15
95	小玉	完形	ガラス	黄緑	0.30	0.24	0.03		15
96	小玉	完形	ガラス	黄緑	0.37	0.23	0.03		15
97	小玉	完形	ガラス	黄緑	0.31	0.30	0.04		15
98	小玉	完形	ガラス	黄緑	0.38	0.38	0.05		15
99	小玉	完形	ガラス	黄緑	0.40	0.38	0.06		15
100	小玉	完形	ガラス	水色	0.31	0.29	0.03		15
101	小玉	完形	ガラス	水色	0.40	0.27	0.04		15

4号墳A主体部出土遺物観察表　玉類

（2）

番号	器　種	残　存	材　質	色	法　量			備　考	図版
					直径（cm）	高さ（cm）	重さ（g）		
102	小玉	完形	ガラス	水色	0.38	0.30	0.05		15
103	小玉	完形	ガラス	水色	0.46	0.23	0.05		15
104	小玉	完形	ガラス	水色	0.40	0.23	0.06		15
105	小玉	完形	ガラス	水色	0.40	0.30	0.07		15
106	小玉	完形	ガラス	水色	0.47	0.39	0.07		15
107	小玉	1／2	ガラス	水色	(0.30)	(0.20)	(0.01)		15
108	白玉	完形	滑石	灰色	0.40	0.27	0.04		15
109	白玉	完形	滑石	灰色	0.40	0.40	0.06		15
110	白玉	完形	滑石	灰色	0.38	0.35	0.06		15
111	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.28	0.07		15
112	白玉	2／3	滑石	灰色	0.50	0.40	0.07		15
113	白玉	完形	滑石	灰色	0.30	0.42	0.07		15
114	白玉	3／4	滑石	灰色	0.48	0.40	0.07		15
115	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.30	0.07		15
116	白玉	完形	滑石	灰色	0.43	0.28	0.07		15
117	白玉	完形	滑石	灰色	0.40	0.39	0.07		15
118	白玉	完形	滑石	灰色	0.41	0.40	0.08		15
119	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.35	0.08		15
120	白玉	完形	滑石	灰色	0.48	0.35	0.08		15
121	白玉	完形	滑石	灰色	0.48	0.45	0.08		15
122	白玉	完形	滑石	灰色	0.35	0.32	0.08		15
123	白玉	完形	滑石	灰色	0.49	0.31	0.08		15
124	白玉	完形	滑石	灰色	0.40	0.40	0.09		15
125	白玉	完形	滑石	灰色	0.48	0.30	0.09		15
126	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.40	0.09		15
127	白玉	完形	滑石	灰色	0.46	0.35	0.09		15
128	白玉	完形	滑石	灰色	0.42	0.31	0.09		15
129	白玉	完形	滑石	灰色	0.49	0.29	0.09		15
130	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.20	0.09		15
131	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.25	0.09		15
132	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.30	0.10		15
133	白玉	完形	滑石	灰色	0.49	0.31	0.10		15
134	白玉	完形	滑石	灰色	0.41	0.30	0.10		15
135	白玉	完形	滑石	灰色	0.47	0.36	0.10		15
136	白玉	完形	滑石	灰色	0.44	0.40	0.10		15
137	白玉	完形	滑石	灰色	0.43	0.32	0.10		15
138	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.38	0.10		15
139	白玉	完形	滑石	灰色	0.47	0.33	0.10		15
140	白玉	完形	滑石	灰色	0.49	0.29	0.10		15
141	白玉	完形	滑石	灰色	0.48	0.39	0.11		15
142	白玉	3／4	滑石	灰色	0.50	0.40	0.11		15
143	白玉	完形	滑石	灰色	0.49	0.31	0.11		15
144	白玉	完形	滑石	灰色	0.44	0.41	0.11		15
145	白玉	完形	滑石	灰色	0.47	0.40	0.11		15

4号墳A主体部出土遺物観察表　玉類

（3）

番号	器種	残存	材質	色	法量			備考	図版
					直径（cm）	高さ（cm）	重さ（g）		
146	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.30	0.11		15
147	白玉	完形	滑石	灰色	0.46	0.30	0.11		15
148	白玉	完形	滑石	灰色	0.48	0.40	0.11		15
149	白玉	ほぼ完形	滑石	灰色	0.49	0.38	0.11		15
150	白玉	完形	滑石	灰色	0.46	0.33	0.11		15
151	白玉	完形	滑石	灰色	0.49	0.41	0.12		15
152	白玉	完形	滑石	灰色	0.46	0.40	0.12		15
153	白玉	完形	滑石	灰色	0.47	0.42	0.12		15
154	白玉	完形	滑石	灰色	0.51	0.40	0.12		15
155	白玉	完形	滑石	灰色	0.48	0.40	0.12		15
156	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.40	0.12		15
157	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.40	0.12		15
158	白玉	完形	滑石	灰色	0.44	0.37	0.12		15
159	白玉	完形	滑石	灰色	0.41	0.40	0.12		15
160	白玉	完形	滑石	灰色	0.40	0.40	0.12		15
161	白玉	完形	滑石	灰色	0.43	0.42	0.12		15
162	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.41	0.12		15
163	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.38	0.12		15
164	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.48	0.12		15
165	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.40	0.12		15
166	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.30	0.12		15
167	白玉	完形	滑石	灰色	0.49	0.40	0.12		15
168	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.38	0.13		15
169	白玉	完形	滑石	灰色	0.47	0.32	0.13		15
170	白玉	完形	滑石	灰色	0.44	0.35	0.13		15
171	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.35	0.13		15
172	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.38	0.13		15
173	白玉	完形	滑石	灰色	0.48	0.37	0.13		15
174	白玉	完形	滑石	灰色	0.46	0.44	0.13		15
175	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.38	0.13		15
176	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.41	0.13		15
177	白玉	完形	滑石	灰色	0.41	0.40	0.13		15
178	白玉	完形	滑石	灰色	0.43	0.40	0.13		15
179	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.39	0.14		15
180	白玉	完形	滑石	灰色	0.47	0.38	0.14		15
181	白玉	完形	滑石	灰色	0.46	0.38	0.14		15
182	白玉	完形	滑石	灰色	0.41	0.41	0.14		15
183	白玉	完形	滑石	灰色	0.45	0.41	0.14		15
184	白玉	完形	滑石	灰色	0.42	0.41	0.14		15
185	白玉	完形	滑石	灰色	0.44	0.41	0.14		15
186	白玉	完形	滑石	灰色	0.49	0.41	0.15		15
187	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.48	0.15		15
188	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.49	0.15		15
189	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.47	0.15		15

4号墳A主体部出土遺物観察表　玉類

（4）

番号	器　種	残　存	材　質	色	法　量			備　考	図版
					直径（cm）	高さ（cm）	重さ（g）		
190	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.48	0.15		15
191	白玉	完形	滑石	灰色	0.48	0.42	0.15		15
192	白玉	完形	滑石	灰色	0.51	0.47	0.15		15
193	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.46	0.15		15
194	白玉	完形	滑石	灰色	0.51	0.40	0.15		15
195	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.49	0.15		15
196	白玉	完形	滑石	灰色	0.52	0.44	0.15		15
197	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.40	0.16		15
198	白玉	完形	滑石	灰色	0.49	0.49	0.16		15
199	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.48	0.16		15
200	白玉	完形	滑石	灰色	0.47	0.43	0.16		15
201	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.45	0.16		15
202	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.47	0.17		15
203	白玉	完形	滑石	灰色	0.51	0.38	0.17		15
204	白玉	完形	滑石	灰色	0.51	0.40	0.17		15
205	白玉	完形	滑石	灰色	0.52	0.42	0.17		15
206	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.46	0.18		15
207	白玉	完形	滑石	灰色	0.58	0.41	0.18		15
208	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.46	0.18		15
209	白玉	完形	滑石	灰色	0.50	0.48	0.18		15
210	白玉	完形	滑石	黄茶色	0.70	0.28	0.21		15
211	白玉	完形	滑石	黄灰色	0.70	0.27	0.29		15
212	白玉	完形	滑石	灰茶色	0.88	0.44	0.39		15
213	土玉	完形	土	黒灰色	0.67	0.63	0.22		15
214	土玉	完形	土	黒灰色	0.69	0.50	0.24		15
215	土玉	ほぼ完形	土	黒灰色	0.80	0.75	(0.25)		15
216	土玉	完形	土	黒灰色	0.81	0.80	0.31		15
217	土玉	完形	土	黒灰色	0.85	0.60	0.42		15
218	鈴状？	完形		黒灰色	1.18	1.13	(0.50)		15

表17　4号墳A主体部出土遺物観察表　鉄製品

（1）

番号	器　種	残　存	法　量				備　考	図版
			長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
219	鎌	2／3	11.2	2.5	0.3	32.6		
220	刀　子		13.8	1.4	0.2	18.2		
221	刀　子		10.5	1.3	0.3	13.5		
222	刀　子		8.4	1.3	0.3	10.2		
223	刀　子		7.0	1.4	0.2	6.6		
224	刀　子		6.1	1.2	0.2	6.9		
225	刀　子		3.9	1.5	0.2	4.9		
226	刀　子		6.0	1.6	1.3	11.5		
227	刀　子		6.3	1.3	0.6	10.8		
228	刀　子		5.6	1.2	0.3	5.4		
229	刀　子		3.8	1.2	0.3	3.3		

4号墳A主体部出土遺物観察表　鉄製品

（2）

番号	器　種	残　存	法　量				備　考	図版
			長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
230	刀　子		7.0	1.4	0.4	10.2		
231	鏃		3.4	1.1	0.5	4.6		
232	刀　子		5.9	1.6	1.5	9.3	鹿角柄	
233	鏃	一部欠損	8.8	2.3	0.1	9.7		
234	鏃	1／2	5.2	2.6	0.2	8.1		
235	刀　子		4.6	0.9	0.8	5.4		
236	鏃		4.0	0.7	0.4	3.8		
237	釘		4.0	0.8	0.6	5.1		
238	鏃		2.4	0.9	0.2	1.6		
239	鏃？		4.4	0.7	0.3	1.7		
240	弭		3.7	0.9	0.5	2.5		
241	弭		3.2	0.8	0.5	2.2		
242	弭		3.9	0.8	0.5	2.9		

表18　4号墳A主体部出土遺物観察表　装身具

番号	器　種	残　存	材　質	色	法　量				備　考	図版
					縦直径（cm）	横直径（cm）	断面径（cm）	重さ（g）		
243	耳環	完存	銅無垢	青緑色	2.9	3.2	0.7	26.7	砒素を含有	15
244	耳環	完存	銅芯銀板貼渡金？	黒緑色	3.2	3.5	0.8	33.2	砒素を含有	15
245	耳環	完存	青銅環	黒緑色	2.7	3.1	0.6	16.2	鉛を含有	15
246	耳環	完存	銅無垢	青緑色	2.9	3.3	0.7	25.6		15
247	耳環	完存	銅無垢	青緑色	2.5	2.8	0.5	8.9	鉛を含有	15
248	耳環	完存	銅芯銀板貼	青緑色	2.5	2.5	0.4	5.0		15
249	耳環	完存	銅無垢	黒緑色	2.6	2.8	0.6	13.8	砒素を含有　250と対か	15
250	耳環	完存	銅無垢	黒緑色	2.5	2.7	0.5	12.1	砒素・鉛を含有　249と対か	15
251	耳環	完存	銅芯金板貼	金色	1.8	1.8	0.4	6.4	砒素含有？　252と対か	15
252	耳環	完存	銅芯金板貼	金色	1.7	1.8	0.4	5.9	251と対か	15
253	耳環	完存	銅芯銀板貼渡金？	青緑色	2.6	2.9	0.6	11.3	砒素・鉛を含有？	15
254	耳環	完存	銅芯銀板貼渡金？	青緑色	2.6	2.7	0.5	11.2	鉛を含有	15

表19　4号墳B主体部　出土遺物観察表　鉄製品

番号	器　種	残　存	法　量				備　考	図版
			長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
255	鏃	完存	13.7	1.0	0.4	10.0		
256	鏃	完存	11.3	1.5	0.3	6.6		

表20　4号墳B主体部　出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形　態・施　文	調　整		色調（外面）（内面）	胎　土 焼　成	備考	図版
				外　面	内　面				
257	短頸壺	口径（8.4） 器高　9.0	外傾する頸部。	回転ナデ ㊡回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○	石室外	16
258	坏身	口径 12.4 器高　4.0	端部丸い。	㊡回転ナデ ㊡回転ヘラケズリ	㊡回転ナデ ㊡タタキ痕	青灰色 青灰色	密 ◎	石室外	16
259	坏身	口径 10.4 器高　3.3	端部丸い。	㊡回転ナデ ㊡回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	石室外	16

表21　4号墳周溝出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
260	壺	残高　8.2	肩部が最大径。	(胴上)回転ナデ (胴下)回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
261	坏	底径　8.7 残高　2.2	高台付。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
262	坏	底径　7.0 残高　2.9	厚い円板高台。	回転ナデ (底)回転糸切り痕	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長（1～2） ◎		
263	坏	底径　5.8 残高　2.5	厚い円板高台。	回転ナデ (底)回転糸切り	回転ナデ？	乳褐色 乳褐色	石・長（1～3） ◎		
264	皿	口径（8.8） 底径（6.6） 器高　1.6	平底。	不明 (底)回転糸切り	不明	乳白色 乳白色	密 ◎		

表22　4号墳周溝出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	色	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
265	台石	完形	安山岩	10.5	7.9	6.2		718.5		
266	叩石	完形	砂岩	13.7	6.8	6.0		843.5		
267	打製石鏃	3／4	サヌカイト	2.9	(1.5)	0.2	0.8	0.8		

表23　4号墳周溝出土遺物観察表　鉄製品

番号	器種	残存	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
268	刀		10.0	2.0	0.4	30.3		

表24　4～6号墳間の周溝出土遺物観察表　土製品

（1）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
269	坏蓋	口径(13.0) 器高　4.2	端部に段をもつ。	(口)回転ナデ (天)回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎	a地点	
270	坏身	口径(13.3) 残高　4.2	端部は面をなす。	(口)回転ナデ (底)回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎	a地点	
271	坏身	口径 12.0 器高　4.0	端部は尖がる。	(口)回転ナデ (底)回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	a地点	16
272	短頸壺	口径（7.6） 残高　6.5	直立する短い頸部。	回転ナデ (胴上)カキメ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	a地点	
273	壺	底径(19.0) 残高　2.9	平底。	ナデ	指頭痕	灰色 灰白色	密 ◎	a地点	
274	坏蓋	口径(13.8) 器高　4.1	端部は丸い。	(口)回転ナデ (天)回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○	b地点	

4～6号墳間の周溝出土遺物観察表　土製品

（2）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
275	坏蓋	口径 12.8 器高 3.9	口縁部内傾し、端部は丸い。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	口回転ナデ 天ナデ	灰橙色 灰橙色	密 ◎	b地点	16
276	坏身	口径 12.2 器高 4.3	端部は丸い。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	口回転ナデ 底ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	b地点	16
277	坏身	口径 11.8 器高 3.8	端部は尖がる。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	暗灰色 暗灰褐色	密 ◎	b地点	16
278	無蓋高坏	口径(10.2) 残高 4.3	端部は丸く尖がる。沈線と斜線をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	b地点	
279	無蓋高坏	口径 11.6 底径 10.8 器高 17.5	一段、２ヶ所の長方形透し。	回転ナデ 脚上カキメ	回転ナデ 坏底ナデ	灰色 灰色	密 ◎	b地点	
280	瓶	口径 12.4 底径 3.5 器高 13.2	頸部・体部に波状文と沈線文。	回転ナデ 胴下回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎	b地点	17
281	瓶	残高 12.4	頸部・体部に沈線文と刺突文。	頸カキメ→ハケ 胴上回転ナデ 胴下ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	b地点	17
282	提瓶	口径 (9.8) 残高(22.5)	カギ形突起。	口回転ナデ 胴ナデ(マメツ)	マメツ	灰黄色 灰黄色	密 ○	b地点	17
283	坏蓋	口径(13.8) 器高 4.6	端部丸い。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	口回転ナデ 天ナデ	暗褐色 暗褐色	密 ◎	c地点	17
284	坏蓋	口径(15.2) 残高 4.5	口縁部内傾し、端部は丸い。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	回転ナデ	暗灰色 青灰色	密 ◎	c地点	
285	坏身	口径 12.7 器高 4.0	端部は丸い。「×」の線刻。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	乳白黄色 乳白黄色	密 ◎	c地点	17
286	高坏	残高 1.6	脚端部片。	回転ナデ	回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ◎	c地点	
287	高坏	残高 7.6	長方形透し２段・沈線文。	坏回転ナデ 脚ナデ	回転ナデ	乳白色 乳白色	密 ○	c地点	
288	無蓋高坏	口径(12.4) 底径 8.5 器高 7.8	低脚付鉢。	回転ナデ 坏底回転ヘラケズリ	回転ナデ	黄灰色 黄灰色	密 ◎	c地点	17
289	高坏	底径(17.3) 残高 2.1	透し孔あり。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	c地点	
290	坏蓋	口径 11.1 器高 3.4	端部に段をもつ。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	c地点	18
291	短頸壺	口径 8.8 器高 10.1	内傾して立ち上がる頸部。	胴上回転ナデ 胴下回転ヘラケズリ	胴上回転ナデ 胴下ナデ	灰黄色 灰黄色	密 ◎	c地点	18
292	短頸壺	口径 8.8 器高 10.4	内傾して立ち上がる頸部。	胴上回転ナデ 胴下回転ヘラケズリ	胴上回転ナデ 胴下ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎	c地点	18
293	短頸壺	口径 9.3 器高 9.6	直立する頸部。	胴上回転ナデ 胴下回転ヘラケズリ	回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ◎	c地点	18
294	壺	口径 9.6 器高 12.8	口縁内面に凹みをもつ。	胴上回転ナデ 胴下回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	c地点	18

4～6号墳間の周溝出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
295	壺	口径(10.2) 器高 10.1	外傾するやや長い頸部をもつ。	口・胴上 カキメ 胴下 回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	c地点	18
296	壺	口径 9.1 残高 8.2	内湾して立ち上がる口頸部。	胴上 回転ナデ 胴下 回転ヘラケズリ	回転ナデ	暗灰色 灰色	密 ◎	c地点	18
297	提瓶	胴部最大径16.8 胴部最大厚10.9 残高 18.5	カギ形の突起。	口 回転ナデ 胴 カキメ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	c地点	
298	提瓶	口径 (6.2) 残高 24.5	水筒形、突起痕跡。	口 回転ナデ 胴 カキメ	回転ナデ	白灰色 淡褐色	密 ◎	c地点	
299	鉢	口径13.1 器高 4.3	端部は丸い。	口 回転ナデ 底 ナデ	口 回転ナデ 底 ナデ	茶褐色 茶褐色	密 ○	c地点	19
300	高坏	残高 4.4	円柱状の柱部。	ナデ	ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長（1～2） ◎	c地点	
301	甕	口径(12.7) 器高 13.5	口頸部境に段。	口～胴上 回転ナデ 胴下 回転ヘラケズリ 天 ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	d地点	19
302	坏身	口径(12.0) 残高 3.5	端部はわずかに凹み面となる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	d地点	
303	鍋	口径(25.6) 底径 5.2 器高 27.3	握手が付く可能性がある。	口 ナデ 胴 ハケ	ナデ 胴 ハケ	赤橙色 赤橙色	石・長（1～5） 金 ◎	e地点	19
304	坏身	口径 12.6 器高 4.0	端部は尖がる。	口 回転ナデ 底 回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	f地点	19
305	脚付椀	口径 11.0 残高 9.0	坏体部に1条の凹線。	回転ナデ 坏底 回転ヘラケズリ	回転ナデ 坏底 ナデ	暗灰色 灰色	密 ◎	f地点	19
306	直口壺	口径 (8.0) 底径 6.0 器高 14.9	直線的に外傾する頸部。	口～胴上 回転ナデ 胴下 回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	f地点	19
307	壺	残高(11.6)	扁平球の体部。	胴上 回転ナデ 胴下 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	g地点	
308	坏蓋	口径 12.6 器高 3.5	端部は丸い。	口 回転ナデ 天 回転ヘラケズリ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密 ◎	E区	20
309	短頸壺	口径 (8.6) 残高 9.0	わずかに外反する口頸部。	胴上 回転ナデ 胴下 回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	E区	
311	坏蓋	口径(12.4) 器高 4.3	端部は丸く尖がる。	口 回転ナデ 天 回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	W区	
312	有蓋高坏	口径(11.7) 底径 9.6 器高 7.4	脚部円孔3ヶ。	回転ナデ 坏底 回転ヘラケズリ	回転ナデ 坏底 ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	W区	20
313	無蓋高坏	口径 12.0 底径(13.4) 器高 15.9	三方二段透し。	回転ナデ 坏底 回転ヘラケズリ	回転ナデ 坏底 ナデ	黒灰色 黄褐色	密 ◎	W区	20

表25　4～6号墳間の周溝出土遺物観察表　玉類

番号	器種	残存	材質	色	法量 幅（cm）	法量 高さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
310	三輪玉	完形	水晶	白色半透明	3.6	2.2	22.4	E区	20

表26　4～6号墳間の周溝出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
314	高坏	口径 19.7 底径 11.7 器高 15.0	柱上部が中実。	ミガキ	坏ミガキ 脚ナデ	橙色 橙色	石・長(1～3)金 ◎	W区	20
315	高坏	底径(15.3) 残高 2.1	脚裾部片。	ミガキ	マメツ	茶褐色 茶褐色	長(1) ◎	W区	
316	坏蓋	口径(14.8) 器高 (4.5)	稜をもち、端部は段をなす。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	4号 ないし 6号	
317	坏蓋	口径 11.5 器高 3.3	端部は丸い。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	口回転ナデ 底ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	4号 ないし 6号	20
318	無蓋 高坏	口径 13.3 残高 6.4	低脚。	回転ナデ 坏底回転ヘラケズリ	回転ナデ	黒灰色 黄灰色	密 ◎	4号 ないし 6号	
319	甕	残高 5.2	刺突文、凹線。	ナデ	ナデ	暗灰色 青灰色	密 ◎	4号 ないし 6号	
320	壺	残高 9.7	内傾する頸部。	ナデ（マメツ）	回転ナデ （マメツ）	赤褐色 茶褐色	石・長(1～9) ◎	4号 ないし 6号	
321	高坏	底径 12.3 残高 9.2	脚端部は丸く尖がる。	ミガキ	坏ミガキ 脚ナデ	明橙色 茶褐色	石・長(1～4)金 ◎	4号 ないし 6号	
322	高坏	残高 2.3	口縁部片。	回転ナデ	ナデ	乳橙色 乳橙色	砂 ◎	4号 ないし 6号	

表27　4～6号墳間の周溝出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	色	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
323	不明		緑色片岩		6.7	7.6	0.4	35.9	4号ないし6号	

表28　4号墳出土遺物観察表　土製品

（1）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
324	坏身	口径(11.2) 残高 3.7	端部は小さく凹む。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	墳丘	
325	坏蓋	口径(13.2) 残高 2.8	稜をもち、端部は段をなす。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
326	坏蓋	口径(12.4) 残高 3.4	端部は丸く尖がる。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
327	蓋	つまみ径 5.0 残高 2.7	中央部が大きく凹む。	回転ナデ	ナデ	黒色 黒色	密 ◎		
328	坏身	口径(11.6) 残高 3.7	端部は広く面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
329	坏身	口径(13.7) 残高 4.2	端部は丸くなる。	口回転ナデ 底回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
330	坏身	口径(12.9) 残高 1.8	端部は尖がる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		

4号墳出土遺物観察表　土製品

（2）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
331	高坏	残高 2.9	柱部片。	ミガキ？	(坏)ミガキ (脚)ナデ？	赤橙色 赤橙色	密 ◎		
332	短頸壺	口径 6.8 残高 11.5	内傾する口頸部。端部は丸い。	(胴上)カキメ (胴下)回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
333	短頸壺	口径 8.2 残高 6.3	内傾する口頸部。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
334	甕か壺	残高 13.2	肩部に弱い張りをもつ。	(胴上)カキメ (胴下)斜格子目タタキ	ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
335	台付壺	底径(11.4) 残高 2.0	輪高台。	回転ナデ (底)回転ヘラケズリ	ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
336	甑	残高 1.5	口頸部境片。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	密 ◎	Sトレンチ	
337	壺	残高 2.8	口縁部片。	回転ナデ	マメツ	乳橙色 乳橙色	密 ◎		
338	甕	残高 2.8	口縁部片。	回転ナデ ハケ	ハケ	乳赤褐色 乳赤褐色	石・長（1～2） ◎	煤付着	
339	壺	口径(10.4) 残高 2.8	口縁部片。	マメツ	マメツ	乳黄褐色 乳黄褐色	石・長（1～3） ◎		
340	高坏	残高 2.4	口縁部片。	回転ナデ	ハケ	乳橙色 乳橙色	砂 ◎	南トレンチ	
341	高坏	残高 3.4	柱部片。	ナデ	(坏)ナデ (脚)ケズリ	乳赤橙色 乳赤橙色	密 ◎		
342	高坏	残高 7.5	三方二段透し、沈線。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
343	高坏	残高 3.2	低脚。	回転ナデ	(坏)回転ナデ (脚)ナデ	暗灰色 暗灰色	密 ◎	NE区 表採	
344	高坏	底径(12.2) 残高 1.9	裾端部は細く丸い。	ナデ	ナデ	乳橙色 乳橙色	砂 ◎		
345	皿	口径(15.4) 底径(11.6) 残高 2.4	端部は丸い。	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	乳橙色 乳橙色	長 ◎		
346	鉢	残高 3.0	折り曲げ口縁。	ナデ	ナデ	乳褐色 乳褐色	砂 ◎	SW区 上層	
347	坏	口径(15.6) 底径 (9.2) 器高 3.3	端部は丸い。	マメツ	ナデ	乳赤橙色 乳赤橙色	長 ◎	煤付着	
348	坏	底径 (6.2) 残高 4.4	円板高台。	マメツ (底)回転ヘラ切り?	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長（1～2） 金 ◎		
349	高台椀	残高 3.8	高い高台をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	乳黄褐色 乳黄褐色	密 ◎		
350	坏	底径 6.0 残高 3.6	平底。	マメツ	マメツ	乳橙色 乳橙色	長 ○		

4号墳出土遺物観察表　土製品

（3）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
351	壺？	残高　1.3	緑釉陶器か。	不明	不明	乳黄色 乳黄色	密 ◎	施釉	
352	平瓦	残長　8.8 厚さ　1.7	平瓦片。	布目痕	タタキ	灰色			

表29　4号墳出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	色	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
353	不明	完形		黒灰色	1.69	1.75	0.45	2.28	西トレンチ表土	

表30　4号墳出土遺物観察表　鉄製品

番号	器種	残存	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
354	釘		3.0	1.2	0.3	1.7		
355	刀子		4.4	1.4	0.6	4.9		
356	鏃		5.3	0.8	0.5	5.3		
357	釘		1.7	0.9	0.6	1.5		
358	不明		2.2	1.6	0.3	2.1		
359	滓		5.0	2.0	1.6	16.7		

表31　6号墳A主体部出土遺物観察表　玉類

（1）

番号	器種	残存	材質	色	法量 直径（cm）	法量 高さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
360	管玉	完形	碧玉	黄緑	0.92	2.50	4.05		22
361	管玉	完形	碧玉	濃緑色	0.90	2.51	3.78		22
362	管玉	ほぼ完形	碧玉	濃緑色	0.90	2.03	3.07		22
363	管玉	完形	碧玉	濃緑色	0.88	2.05	2.78		22
364	管玉	完形	碧玉	濃緑色	0.90	2.0	2.78		22
365	管玉	完形	碧玉	濃緑色	0.85	2.05	2.57		22
366	管玉	完形	碧玉	濃緑色	0.81	1.82	2.30		22
367	土玉	完形	土	灰色	0.67	0.43	0.18		22
368	土玉	完形	土	灰色	0.70	0.50	0.25		22
369	土玉	ほぼ完形	土	灰色	0.70	0.58	(0.25)		22
370	土玉	3／4	土	灰色	0.71	0.60	(0.26)		22
371	土玉	2／3	土	灰色	0.70	0.77	(0.26)		22
372	土玉	完形	土	灰色	0.71	0.64	0.28		22
373	土玉	完形	土	灰色	0.76	0.60	0.29		22
374	土玉	ほぼ完形	土	灰色	0.75	0.57	(0.31)		22
375	土玉	3／4	土	灰色	0.77	0.62	(0.31)		22
376	土玉	完形	土	黒灰色	0.75	0.60	0.32		22
377	土玉	完形	土	黒灰色	0.72	0.65	0.33		22
378	土玉	完形	土	黒灰色	0.74	0.63	0.34		22
379	土玉	完形	土	黒灰色	0.71	0.60	0.34		22
380	土玉	完形	土	黒灰色	0.70	0.66	0.34		22
381	土玉	完形	土	黒灰色	0.68	0.65	0.35		22

6号墳A主体部出土遺物観察表　玉類

（2）

番号	器種	残存	材質	色	法量 直径（cm）	法量 高さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
382	土玉	完形	土	黒灰色	0.75	0.58	0.36		22
383	土玉	完形	土	黒灰色	0.75	0.65	0.36		22
384	土玉	完形	土	黒灰色	0.75	0.63	0.36		22
385	土玉	完形	土	黒灰色	0.77	0.61	0.38		22
386	土玉	完形	土	黒灰色	0.76	0.63	0.38		22
387	土玉	完形	土	黒灰色	0.80	0.61	0.39		22
388	土玉	完形	土	黒灰色	0.80	0.68	0.39		22
389	土玉	完形	土	黒灰色	0.73	0.71	0.41		22
390	土玉	完形	土	黒灰色	0.72	0.74	0.42		22
391	土玉	完形	土	黒灰色	0.84	0.70	(0.43)		22
392	土玉	完形	土	黒灰色	0.73	0.73	0.45		22
393	土玉	完形	土	黒灰色	0.77	0.72	0.45		22
394	土玉	完形	土	黒灰色	0.77	0.77	0.46		22
395	土玉	完形	土	黒灰色	0.80	0.65	0.47		22
396	土玉	完形	土	黒灰色	0.79	0.71	0.48		22
397	土玉	完形	土	黒灰色	0.77	0.76	0.49		22
398	土玉	完形	土	黒灰色	0.80	0.68	0.49		22
399	土玉	完形	土	黒灰色	0.80	0.68	0.49		22
400	土玉	完形	土	黒灰色	0.80	0.70	0.51		22
401	土玉	完形	土	黒灰色	0.83	0.70	0.54		22
402	土玉	1／3	土	黒灰色	0.76	0.79	(0.22)		22
403	土玉	1／2	土	黒灰色	0.69	0.66	(0.23)		22
404	土玉	1／2	土	黒灰色	0.76	0.66	(0.25)		22

表32　6号墳B主体部出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
405	坏蓋	口径 14.7 器高 4.3	口縁外面にキザミ目痕。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	赤色顔料	21
406	短頸壺	口径 9.9 器高 7.0	内傾する口頸部。	胴上回転ナデ 胴下回転ヘラケズリ 底ヘラ切り	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		21
407	壺	口径 16.6 器高 21.4	端部が水平に開く。	口・胴上回転ナデ 胴下タタキ	口・胴上回転ナデ 胴下円弧タタキ	灰白色 灰白色	密 △		21
408	壺	残高 12.5	体部上半に最大径。	胴上カキメ 胴下回転ヘラケズリ	回転ナデ 底ナデ	灰色 灰茶色	密 ◎		21

表33　6号墳B主体部出土遺物観察表　玉類

（1）

番号	器種	残存	材質	色	法量 直径（cm）	法量 高さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
409	管玉	完形	碧玉	濃緑色	0.75	2.00	2.06		21
410	管玉	ほぼ完形	碧玉	黄緑	0.81	2.61	(2.64)		21
411	そろばん玉	3／4	土	黒灰色	1.00	1.25	(0.86)		21
412	土玉	完形	土	黒灰色	0.60	0.50	0.18		21
413	土玉	完形	土	黒灰色	0.65	0.68	0.18		21

6号墳B主体部出土遺物観察表　玉類

（2）

番号	器種	残存	材質	色	法量			備考	図版
					直径（cm）	高さ（cm）	重さ（g）		
414	土玉	完形	土	黒灰色	0.60	0.53	0.19		21
415	土玉	完形	土	黒灰色	0.65	0.69	0.19		21
416	土玉	完形	土	黒灰色	0.65	0.59	0.19		21
417	土玉	完形	土	黒灰色	0.61	0.61	0.20		21
418	土玉	完形	土	黒灰色	0.61	0.60	0.21		21
419	土玉	完形	土	黒灰色	0.63	0.60	0.21		21
420	土玉	完形	土	黒灰色	0.70	0.50	0.23		21
421	土玉	完形	土	黒灰色	0.70	0.58	0.23		21
422	土玉	完形	土	黒灰色	0.62	0.64	0.24		21
423	土玉	完形	土	黒灰色	0.70	0.60	0.24		21
424	土玉	完形	土	黒灰色	0.70	0.61	0.25		21
425	土玉	3／4	土	黒灰色	0.70	0.59	(0.25)		21
426	土玉	完形	土	黒灰色	0.70	0.61	0.26		21
427	土玉	完形	土	黒灰色	0.70	0.70	0.27		21
428	土玉	完形	土	黒灰色	0.68	0.61	0.30		21
429	土玉	完形	土	黒灰色	0.69	0.59	0.32		21
430	土玉	完形	土	黒灰色	0.70	0.70	0.34		21
431	土玉	完形	土	灰色	0.72	0.73	0.35		21
432	土玉	完形	土	黒灰色	0.80	0.61	0.37		21
433	土玉	1／3	土	黒灰色	(0.58)	0.50	(0.10)		
434	土玉	1／2	土	黒灰色	0.62	0.62	(0.10)		
435	土玉	1／2	土	黒灰色	0.72	0.41	(0.13)		
436	土玉	1／2	土	黒灰色	0.78	0.60	(0.17)		
437	土玉	1／2	土	黒灰色	0.80	0.71	(0.18)		
438	土玉	1／2	土	黒灰色	0.80	0.80	(0.21)		

表34　6号墳B主体部出土遺物観察表　鉄製品

（1）

番号	器種	残存	法量				備考	図版
			長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
439	鎌	ほぼ完存	18.0	3.5	0.35	60.66		
440	鏃		10.7	1.2	0.40	8.49		
441	鏃		9.6	1.2	0.40	7.06		
442	鏃		11.7	1.1	0.40	12.09		
443	鏃		10.4	1.2	0.38	7.60	茎に木質残る	
444	鏃		10.4	1.3	0.40	10.19	茎に木質残る	
445	鏃		10.0	1.2	0.38	7.89		
446	鏃		9.7	1.3	0.40	9.73	茎に木質残る	
447	鏃		9.6	1.1	0.35	6.55		
448	鏃		7.1	1.1	0.35	5.34		
449	鏃		5.2	1.0	0.38	3.01		
450	鏃		4.9	1.5	0.30	3.44		
451	鏃		4.8	1.2	0.35	2.89		
452	鏃		2.9	1.0	0.35	2.60		
453	鏃		2.8	1.3	0.30	1.68		
454	鏃		7.9	1.4	0.30	4.91		
455	鏃		9.4	0.9	0.30	6.34	茎に木質残る	

6号墳B主体部出土遺物観察表　鉄製品

（2）

番号	器　種	残　存	法　量				備　考	図版
			長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
456	鏃		8.6	1.0	0.35	6.67	茎に木質残る	
457	鏃		11.7	0.9	0.35	13.23	茎に木質残る	
458	鏃		8.9	0.9	0.40	8.13	茎に木質残る	
459	鏃		6.9	0.9	0.40	5.26	箆被＋茎に木質残る	
460	鏃		5.1	0.7	0.40	2.77		
461	鏃		5.7	0.9	0.35	3.88	箆被片	
462	鏃		5.0	0.6	0.40	3.27	箆被片	
463	鏃		4.9	1.0	0.40	3.41	箆被＋茎に木質残る	
464	鏃		5.6	0.6	0.40	3.28	箆被片　木質残る	
465	鏃		3.8	0.5	0.25	0.92	箆被片　木質残る	
466	鏃		3.4	1.5	0.45	3.34	箆被片	
467	鏃？		4.5	(1.5)	0.35	4.94		
468	鏃		3.7	0.5	0.40	0.83	茎部片　木質残る	
469	鏃		1.8	0.4	0.40	0.72	茎部片　木質残る	
470	鏃		1.4	0.4	0.30	0.21	茎部片　木質残る	
471	鏃		2.2	1.1	0.30	1.51		
472	鏃		(3.6)	1.5	0.70	1.86	茎部片　木質残る	
473	金　具		2.2	1.1	0.15	0.84		
474	刀		7.7	2.6	0.45	21.88	木質・目釘残る	
475	刀　子		7.5	1.5	0.35	12.01	茎に木質残る	

表35　6号墳出土遺物観察表　土製品

（1）

番号	器種	法量（cm）	形　態・施　文	調　整		色調（外面）（内面）	胎　土 焼　成	備考	図版
				外　面	内　面				
476	坏蓋	口径(14.7) 残高　4.8	稜をもち、端部は凹む。	㊐ナデ ㊍回転ヘラケズリ	㊐ナデ ㊍回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	周溝	
477	坏蓋	口径(14.0) 残高　3.4	端部は細く丸い。	㊐回転ナデ ㊍回転ヘラケズリ	回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ◎	周溝	
478	坏	底径　8.0 残高　1.6	輪高台。	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色 黄灰色	密 ◎	周溝	
479	高坏	残高　7.1	２段透し、沈線文。	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色 灰色	密 ◎	周溝	
480	短頸壺	残高 13.9	肩部が強く張る。	(胴上)カキメ (胴下)回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	周溝	
481	高坏	残高　3.4	柱部片。	ケズリ	(坏)ミガキ (脚)ナデ	乳橙色 乳白色	石･長(1) ◎	周溝	
482	坏蓋	口径 14.6 器高　4.7	稜をもち、端部は段をなす。	㊐回転ナデ ㊍回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		22
483	坏蓋	口径(15.0) 残高　3.3	稜をもち、端部は段をなす。	㊐回転ナデ ㊍回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
484	坏蓋	口径(14.2) 器高　4.8	稜部は沈線化し、端部はわずかに凹む。	㊐回転ナデ ㊍回転ヘラケズリ	㊐回転ナデ ㊍ナデ	灰色 灰色	密 ◎		

6号墳出土遺物観察表　土製品

（2）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
485	坏蓋	口径 15.3 器高 5.7	稜部は沈線化し、端部はわずかに凹む。	㊐回転ナデ ㊍回転ヘラケズリ	㊐回転ナデ ㊍ナデ	灰色 灰色	密 ◎		22
486	坏蓋	口径 14.1 器高 4.8	稜部は沈線化し、端部は段をもつ。	㊐回転ナデ ㊍回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		22
487	坏蓋	口径(12.6) 器高 3.6	端部は丸い。	㊐回転ナデ ㊍回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
488	坏蓋	口径(14.3) 残高 3.5	端部は丸く尖がる。	㊐回転ナデ ㊍回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
489	蓋	口径(11.5) 残高 2.3	かえりをもつ。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
490	坏身	口径(13.8) 器高 4.8	端部はわずかに凹む。	㊐回転ナデ ㊊回転ヘラケズリ	㊐回転ナデ ㊊ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
491	坏身	口径(11.9) 残高 5.0	端部はわずかに段をもつ。	㊐回転ナデ ㊊回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
492	坏身	口径(12.1) 残高 4.1	端部はわずかに段をもつ。	㊐回転ナデ ㊊回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		22
493	坏身	口径(12.0) 残高 3.9	端部はナデ凹む。	㊐回転ナデ ㊊回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
494	坏身	口径(13.6) 残高 2.7	端部は丸く尖がる。	㊐回転ナデ ㊊回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		22
495	坏身	口径(11.5) 残高 2.1	端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
496	坏身	底径 (8.0) 残高 2.7	底部片。	㊐回転ナデ ㊊回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
497	坏	底径 (9.1) 残高 2.3	輪高台。端部水平。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
498	高坏	残高 5.3	二方向透し。	マメツ （回転ナデ）	ナデ	乳白色 乳白色	密 ○		
499	高坏	底径 (9.5) 残高 3.8	端部は上外方を向く。	回転ナデ	回転ナデ	乳白色 乳白色	密 ○		
500	高坏	底径 (8.9) 残高 1.1	裾部は水平に開く。	回転ナデ	回転ナデ	乳白色 乳白色	密 ○		
501	高坏	底径 (8.3) 残高 0.9	端部は屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密 ◎		
502	甕	残高 3.8	刺突文。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
503	蓋	口径(10.5) 残高 2.1	端部はナデ凹む。	回転ナデ	回転ナデ	乳白色 乳白色	密 ○		
504	短頸壺	口径 (9.7) 底径 (5.8) 器高 12.7	直立する口頸部。	口~胴上 回転ナデ 胴下 回転ヘラケズリ	口~胴上 回転ナデ ㊊ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		

6号墳出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
505	壺	口径(13.5) 残高 3.7	端部は下方折曲げ。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
506	壺	口径(14.3) 残高 2.8	端部は内側に面をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
507	壺	残高 5.3	刺突文、沈線文。	胴上 回転ナデ 胴下 回転ヘラケズリ	回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ◎		
508	壺	口径(16.0) 残高 4.2	端部は面をなし、下端に突線。	回転ナデ	回転ナデ	黄白色 黄白色	密 ◎		
509	甕	口径 21.2 残高 6.0	端部は内面が凹む。下端に突線。	口 回転ナデ 頸 カキメ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
510	甕	口径(22.8) 残高 4.3	端部は全体的に丸みをもつ。	口 回転ナデ 頸 カキメ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
511	提瓶	口径 (6.1) 残高 4.9	内湾して立ち上がる口頸部。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
512	長頸壺	口径 (9.0) 残高 8.6	内湾して立ち上がる口頸部。	回転ナデ	回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ◎		
513	長頸壺	残高 8.4	内湾して立ち上がる口頸部。	回転ナデ	回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ◎		

表36　4号墳か6号墳か不明出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
514	坏蓋	口径(14.6) 残高 3.5	端部は細く丸い。	口 回転ナデ 天 回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
515	蓋	つまみ径 2.3 残高 1.5	わずかにふくらむ天井部。	つまみ 回転ナデ 天 回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
516	蓋	口径 8.0 残高 2.7	かえりが長い。	口 回転ナデ 天 回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
517	坏身	口径 12.0 残高 3.9	端部は細く尖がる。	口 回転ナデ 底 回転ヘラケズリ	口 回転ナデ 底 ナデ	黄灰色 黄灰色	密 ○		
518	蓋	口径 (9.9) 残高 2.5	稜部は線化し、端部は凹む。	口 回転ナデ 天 回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
519	短頸壺	口径 (8.2) 底径 7.1 器高 9.3	沈線文1条。	口・胴上 回転ナデ 胴下 回転ヘラケズリ	口～胴 回転ナデ 底 ハケ	白黄灰色 白黄灰色	密 ◎		
520	長頸壺	口径 (8.5) 残高 9.0	沈線文2条。	回転ナデ	回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ◎		
521	高坏	口径(13.9) 残高 2.9	端部は尖がる。	ミガキ	ミガキ	茶褐色 茶褐色	長(1) ◎		
522	高坏	残高 4.5	柱部片。	ミガキ	ミガキ	茶褐色 茶褐色	長(1) ◎		

表37　5号墳出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
523	短頸壺	口径 8.0 器高 8.5	完形品。内傾する口頸部。	(口・胴上)回転ナデ (胴下)回転ヘラケズリ	(口~胴)回転ナデ (底)ナデ	灰黄色 灰黄色	密 ○	墳丘	23
524	短頸壺	口径 (8.0) 残高 5.0	内傾する口頸部。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	墳丘	
525	円筒埴輪	残高 9.6	基底部片。	ナデ	ナデ	乳橙色 乳橙色	石・長（1～5） ◎	墳丘	
526	坏蓋	口径(15.6) 残高 4.0	にぶい稜部。端部は段をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	周溝	
527	短頸壺	口径 (9.8) 器高 7.1	直立する口頸部。	(口・胴上)回転ナデ (胴下)回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎	周溝	
528	長頸壺	残高 9.3	外傾する口頸部。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	周溝	
529	甕	残高 8.6	肩部片。	斜格子目タタキ	ナデ	青灰色 灰色	密 ◎	周溝	
530	坏身	口径 13.2 器高 4.1	短いたちあがり。	(口)回転ナデ (底)回転ヘラケズリ	ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		23
531	壺	口径 15.2 残高 6.1	端部長方形で、下端に突帯がつく。	(口)回転ナデ (頸)カキメ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
532	不明	口径(16.4) 残高 3.5	外傾する口頸部。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
533	円筒埴輪	残高 3.8	扁平な台形状のタガ。	ハケ→ナデ	ナデ	乳橙色 乳橙色	密 ◎		23
534	風炉	残高 5.6	体部片。	タタキ	ヨコナデ	黒色 黒色	密 ◎		
535	坏	底径 (6.8) 残高 2.2	円板高台。	(体)ナデ (底)回転糸切り	ナデ	黒色 灰黄色	密 ◎		

表38　7号墳出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
536	短頸壺	口径 7.3 器高 9.0	直立する口頸部。	(口・胴上)回転ナデ (胴下)カキメ	(口・胴)回転ナデ (底)ハケ	灰色 灰色	密 ◎	主体部	23
537	坏蓋	口径 14.8 器高 5.6	口縁外面にキザミ目痕跡。	(口)回転ナデ (天)回転ヘラケズリ	(口)回転ナデ (天)ナデ	灰色 灰色	密 ◎		23
538	坏蓋	口径(14.2) 残高 3.2	口縁外面にキザミ目痕跡。	(口)回転ナデ (天)回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		23
539	坏身	口径 11.7 器高 4.1	端部は丸みをもつ。	(口)回転ナデ (底)回転ヘラケズリ	(口)回転ナデ (底)ナデ	黒灰色 青灰色	密 ◎		23

表39　SK3出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
540	風炉	口径(15.8) 残高　3.6	口縁部片。断面方形。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰白色	密 ◎		

表40　SK4出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
541	坏	底径(10.0) 残高　2.6	平底。	回転ナデ	回転ナデ	乳白色 乳白色	密 ◎		

表41　SK4出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	色	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
542	不明		緑色片岩		13.0	5.25	1.05	119.4		

表42　SK6出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
543	蓋	口径（9.0） 器高　3.4	端部は外傾し面をなす。	㊐回転ナデ ㊦回転ヘラケズリ	回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ◎		
544	壺	残高　3.6	沈線文。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
545	壺か甕	残高　2.2	底部片。	手持ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 ◎		
546	壺	口径(21.7) 残高 22.0	端部は三角形状で丸い。	㊐回転ナデ ㊧カキメ →平行タタキ	㊐回転ナデ ㊧円弧タタキ	黄灰色 青灰色	密 ◎		

表43　SK24出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
547	壺	底径　2.0 残高　7.7	肩部が強く張る。	㊐ナデ ㊧上ハケ ㊧下ミガキ？	㊐ハケ ㊧ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～2)金 ◎		24

表44　SD1・2出土遺物観察表　土製品

（1）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
548	蓋	口径（7.6） 器高　2.8	端部は丸い。	㊐回転ナデ ㊦回転ヘラケズリ 回転ヘラ切り	回転ナデ	淡黒灰色 淡黒灰色	密 ◎	SD1	
549	蓋	つまみ径 1.0 残高　1.7	乳頭状のつまみ。	つまみ回転ナデ ㊦回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	SD1	
550	甕	残高　4.5	外反する口頸部。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 黄灰色	密 ◎	SD1	
551	無蓋高坏	口径(10.2) 底径　9.0 器高 10.0	低脚。	回転ナデ 坏底回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎	SD2	
552	坏	底径(12.8) 残高　2.6	高台付。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎	SD2	

SD1・2出土遺物観察表　土製品

（2）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
553	壺	底径(15.3) 残高　8.1	平底。	ナデ ケズリ痕？	回転ナデ	灰黄色 灰黄色	密 ◎	ＳＤ２	
554	土錘	残長　1.6 幅　　2.3	有溝土錘。	ナデ		橙褐色	長（１～２） ◎	ＳＤ２	24

表45　SX1出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
555	蓋	口径(21.7) 器高　2.3	宝珠状つまみ	回転ナデ	口回転ナデ 天ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		24
556	台付壺	底径 15.8 残高 21.8	脚端部は外傾する。	脚平行タタキ →回転ヘラケズリ 脚ナデ	胴上回転ナデ 胴下円弧タタキ→ナデ 底ナデ	暗灰色 灰橙色	密 ◎		24
557	坏蓋	口径(11.6) 残高　3.8	稜をもち、端部は段をなす。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ◎		
558	坏身	残高　3.1	端部はわずかに段。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		

表46　SX1出土遺物観察表　銅製品

番号	器種	残存	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
559	環	完存	5.4	5.2	0.35	11.61		

表47　出土地点不明遺物観察表　土製品

（1）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
560	坏蓋	口径(15.2) 器高　5.5	稜部をもち、端部は凹む。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
561	坏蓋	残高　3.2	稜部をもつ。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
562	蓋	口径(18.0) 残高　2.2	端部は屈折。	口回転ナデ 天回転ヘラケズリ	回転ナデ	乳白色 乳白色	密 ◎		
563	坏	底径（8.2） 残高　1.2	端部は水平。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
564	坏	底径（9.2） 残高　1.7	輪高台。	口回転ナデ 底マメツ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
565	短頸壺	口径（7.4） 残高　5.3	内傾する口頸部。	口・胴上回転ナデ 胴下カキメ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
566	壺	口径(13.4) 残高　3.9	外反する口頸部。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
567	壺	口径(15.1) 残高　3.8	端部は上下拡張。	口回転ナデ 頸カキメ	回転ナデ	灰黄色 灰黄色	密 ◎		
568	壺	残高 15.4	体部球形。	胴上カキメ →平行タタキ 胴下平行タタキ	円弧タタキ・ 同心円タタキ	灰黄色 黒灰色	密 ◎		

出土地点不明遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
569	壺	口径(20.3) 残高　2.4	端部はわずかに上下拡張。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		
570	甕	口径(24.0) 残高　3.0	波状文。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	密 ◎		
571	提瓶	胴部最大径 16.0 胴部最大厚 10.9 残高　16.1	管状握手。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密 ◎		
572	脚付長頸壺	残高　8.3	三方透しか？	(胴下)回転ヘラケズリ (脚)回転ナデ	回転ナデ (底)ケズリ	灰色 灰色	密 ◎		
573	長頸壺	残高　7.5	肩部に稜をもつ。	(胴上)回転ナデ (胴下)回転ヘラケズリ	回転ナデ	淡緑褐色 淡灰色	密 ◎	自然釉	
574	台付壺	底径(22.0) 残高　2.9	端部は屈折する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎	自然釉	
575	甕	口径(31.4) 残高　5.6	波状文。	回転ナデ	回転ナデ	黒灰色 青灰色	密 ◎	一部に自然釉	
576	器台	残高　3.9	沈線、波状文。	回転ナデ	回転ナデ	淡茶灰色 灰色	密 ◎		
577	高坏	口径(16.2) 残高　3.7	端部は細く尖がる。	(口)回転ナデ (体)ナデ	(口)回転ナデ (体)ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～2) ◎	黒斑	
578	高坏	残高　3.3	柱部片。	ミガキ	ナデ ケズリ	乳橙色 乳橙色	石・長(1～2) ◎		
579	高坏	残高　5.9	柱部片。	ミガキ	ナデ	橙褐色 褐色	石・長(1～2)金 ◎		
580	坏	口径　(9.2) 底径　5.2 器高　2.7	平底。箱形。	回転ナデ (底)回転糸切り	回転ナデ (底)ナデ	橙茶色 橙茶色	密 ◎		
581	坏	口径(13.2) 底径　7.3 器高　3.8	平底。	回転ナデ (底)回転ヘラ切り →ミガキ	回転ナデ (底)ナデ	橙茶色 橙茶色	密 ◎		
582	坏	底径　(6.0) 残高　2.9	円板高台。	回転ナデ (底)マメツ	回転ナデ	乳黄褐色 乳黄褐色	密 ◎		
583	坏	底径　5.8 残高　2.1	円板高台。	回転ナデ (底)回転ヘラ切り →ナデ	回転ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	密 ◎		
584	片口鉢	残高　4.8	端部は上方拡張。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
585	土鍋	残高　3.3	口縁部は屈曲。	回転ナデ ミガキ	回転ナデ	橙褐色 橙褐色	石・長(1) ◎		
586	壺	底径　(7.6) 残高　6.5	平底。弥生土器。	ハケ→ ヘラミガキ	ナデ	茶色 濃茶色	石・長(1～4) ◎	黒斑	
587	高坏	残高　2.4	弥生土器。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡茶色 淡茶色	石・長(1)金 ◎		
588	瓦	厚さ　3.5		タタキ	布目痕	灰色			24

表48　出土地点不明遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	色	法量				備考	図版
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
589	剥片		緑色片岩		9.4	3.8	1.1	73.8		

表49　出土地点不明遺物観察表　鉄製品

番号	器種	残存	法量				備考	図版
			長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
590	鏃		2.2	1.0	0.30	1.91	鏃身	
591	鏃		2.5	0.9	0.30	1.75	箆被	
592	鏃		2.9	0.8	0.45	2.78	箆被	
593	鏃		2.8	0.8	0.30	2.10	箆被	
594	鏃		2.4	0.9	0.60	2.00	箆被	
595	鏃		2.1	1.1	0.40	1.58	箆被	
596	鏃		1.4	0.7	0.40	0.74	箆被	
597	鏃		2.8	0.5	0.40	1.05	茎	
598	鏃		2.4	0.7	0.45	1.40	茎	
599	鏃		1.5	0.5	0.35	0.44	茎	
600	鏃		1.8	0.3	0.25	0.23	茎	
601	刀子		1.4	1.1	0.35	0.80	鋒	
602	刀子		1.4	1.2	0.45	1.32	身	
603	刀子		2.4	1.1	0.30	1.38	茎	
604	金具		1.4	1.2	0.25	0.65	内面　木質残る	
605	不明		(5.5)	2.1	0.30	6.14		
606	雑片		1.7	1.0	0.30	4.18		
607	刀子		2.5	2.0	0.45	3.19		
608	鏃		5.2	0.9	0.35	3.68		
609	釘		2.1	0.4	0.30	0.60		
610	釘		2.0	0.6	0.45	1.06		

表50　大峰ヶ台遺跡5次調査地出土遺物観察表　装身具

番号	器種	残存	材質	色	法量				備考	図版
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
①	耳環	1／2	銅他	黒緑色	2.8	－	0.5	(9.9)	銅芯に亜鉛・鉛を含有	

表51　試掘調査出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整		色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
②	坏身	残高　3.2	ひずみ著しい。	㊀回転ナデ ㊁回転ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
③	坏	残高　1.4	平底。	回転ナデ	回転ナデ	深緑色 深緑色	密 ◎	施釉	

第3章

南江戸客谷遺跡
（みなみえどきゃくたに）

第３章　南江戸客谷遺跡

１．調査の経過

（１）調査に至る経緯

1999（平成11）年１月、(有)周栄商事、池田寛美氏、山本敏雄氏より、松山市南江戸６丁目1313-１外５筆における宅地開発にあたり、当該地の埋蔵文化財の確認願いが松山市教育委員会文化教育課（以下、文化教育課）に提出された（第57図）。

当該地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No.35古照遺跡』内に所在し、松山平野西部の独立丘陵である大峰ヶ台丘陵の南西裾部にあり、標高15mに立地する。大峰ヶ台丘陵には、西丘陵を中心として古墳時代前期から終末期までの古墳が17基検出されている。また、南に広がる沖積低地部では、古墳時代前期の農業潅漑用の「堰」や、その周辺の自然流路・水田址等を検出した古照遺跡１次～10次調査地や、中世の水田址・集落・墓等が検出された南江戸鬮目遺跡や古照遺跡６次～11次調査地などがあり、古墳時代から中世にかけての遺構や遺物が多数確認されている。

これらのことから、当該地の埋蔵文化財の有無と遺跡の範囲や性格を確認するため、1999（平成11）年１月22日に財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）は試掘調査を実施した。その結果、溝・柱穴等の遺構や遺物包含層を検出し、遺物は須恵器片や土師器片、松山平野で２例目の出土となる貨泉が出土した。

これらの結果を受け、文化教育課の指導のもと、埋文センターと申請者は発掘調査について協議を行い、宅地開発によって失われる遺構や遺物について、記録保存のため発掘調査を実施することとなった。発掘調査は調査地及び周辺地域の集落構造解明を主目的とし、埋文センターが主体となり、申請者の協力のもと1999年２月16日より本格調査を開始した。

（２）調査の経緯

平成11年２月16日、本日から発掘調査を開始する。調査区をＡ区とＢ区とに設定し、重機によりＡ区は第Ⅴ層上面、Ｂ区は第Ⅳ層上面まで掘削する。２月17日、Ａ区の第Ⅴ層上面を精査して遺構を検出し、遺構検出状況の写真撮影を行う。２月19日、Ａ区の遺構掘り下げと測量を開始する。２月25日、Ａ区の遺構完掘状況の写真撮影を行う。２月26日、Ａ区の南側を重機により拡張し、遺構の掘り下げを開始する。３月４日、Ａ区の南側拡張区の掘り下げと測量が終了し、遺構完掘状況の写真撮影を行い、Ａ区の調査を終了する。３月５日、Ｂ区第Ⅳ層の掘り下げと測量を開始する。３月９日、Ｂ区第Ⅳ層の掘り下げを終了し、第Ⅴ層上面を精査し、遺構検出の写真撮影を行う。３月10日、Ｂ区遺構の掘り下げと測量を開始する。３月11日、Ｂ区の遺構掘り下げと測量を終了する。３月12日、Ｂ区の遺構完掘状況の写真撮影を行い、屋外調査を終了する。

第57図　調査地周辺の遺跡分布図（S＝1：2,500）

（3）調査組織

調 査 地　　松山市南江戸６丁目1313-１外５筆

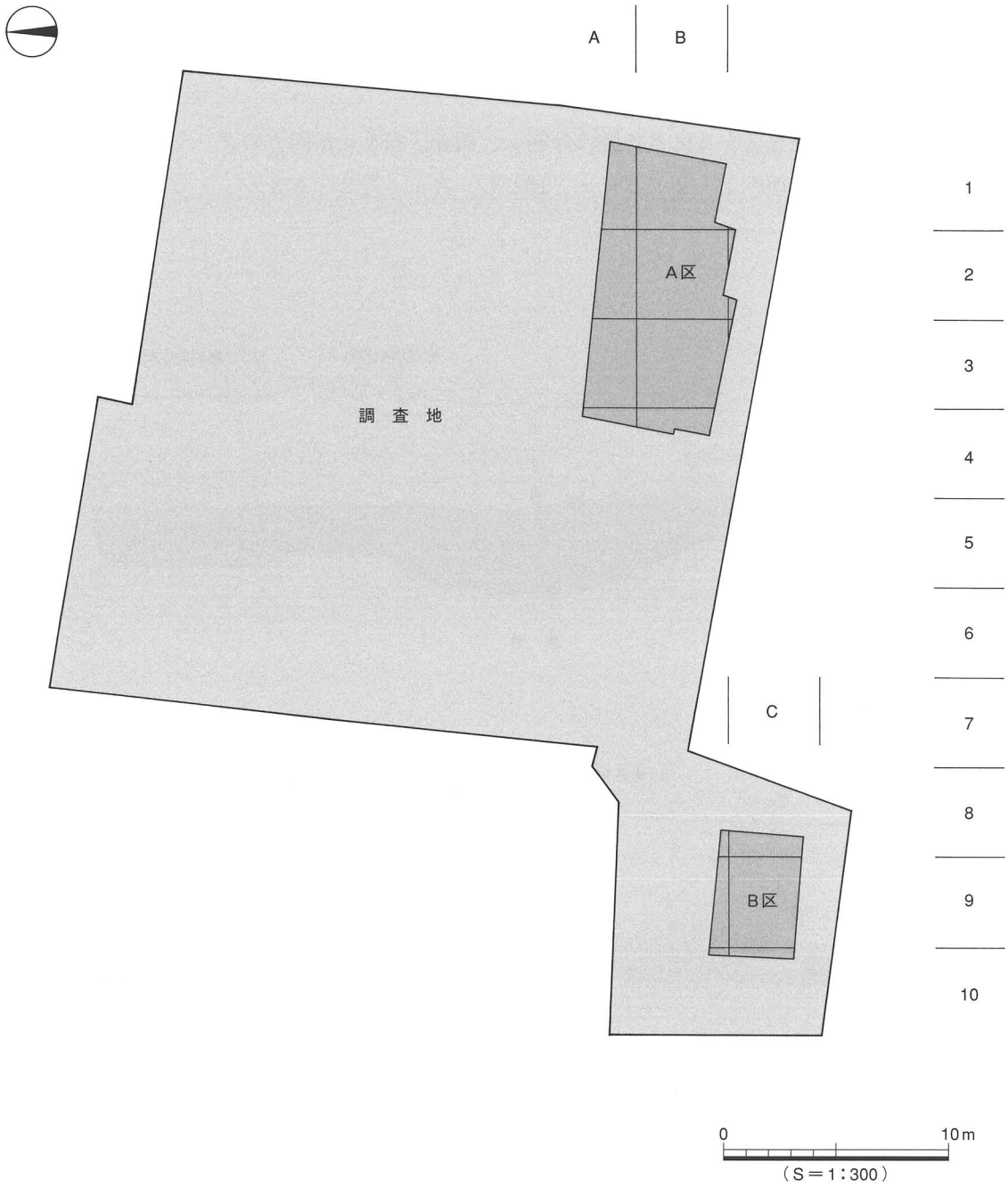
遺 跡 名　　南江戸客谷遺跡

調査期間　　1999（平成11）年２月16日～同年３月12日

調査面積　　864.22㎡

調査委託　　（有）周栄商事、池田寛美、山本敏雄

調査担当　　河野史知、小笠原善治



第58図　調査地区割図

2．層　位（第59・60図）

本遺跡は、大峰ヶ台丘陵南西部の緩斜面の標高15mに立地し、調査以前は宅地であった。基本層位は第Ⅰ層表土、第Ⅱ層青灰色土、第Ⅲ層灰褐色土、第Ⅳ層暗褐色土、第Ⅴ層黄色土である（第59・60図）。

第Ⅰ層－現代の造成土である。（層厚10～20cm）

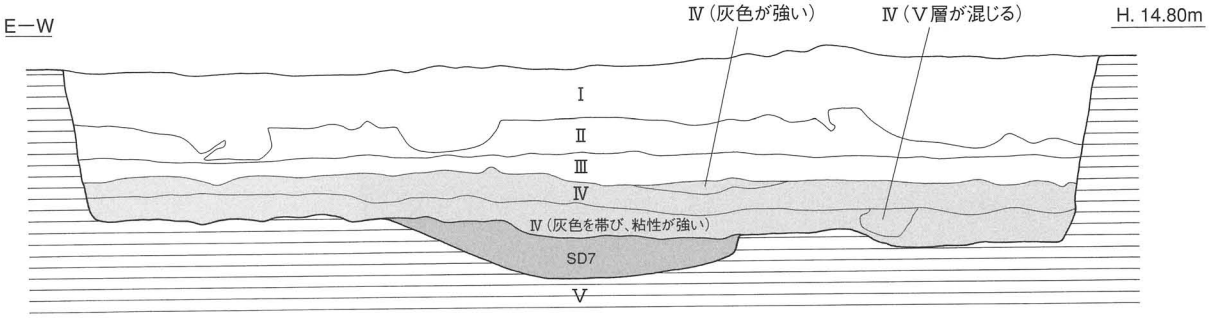
第Ⅱ層－近現代の農耕による客土である。（層厚20～30cm）

第Ⅲ層－中世以降の整地土であり、Ａ区の南東部・Ｂ区の全域において検出した。（層厚10～30cm）

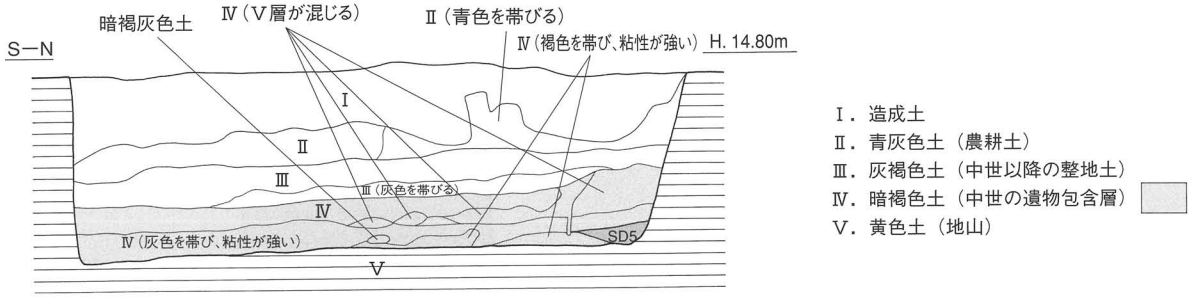
第Ⅳ層－中世の遺物包含層であり、Ｂ区の全域において検出した。土師器・須恵器などが出土した。（層厚10～20cm）

第Ⅴ層－地山と呼ばれるものであり、この面において遺構を検出した。Ａ区は北西から南東方向へ、Ｂ区は北東から南西方向へ緩傾斜している。

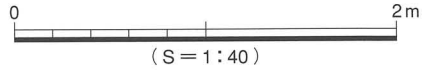
尚、調査の都合上、調査区をＡ区とＢ区に分割し、調査区内を４ｍ四方のグリットに分け、北から南へＡ・Ｂ・Ｃ、東から西へ１・２・３・・・10とし、Ａ１・Ａ２・Ａ３・・・とグリット名を呼称した（第58図）。



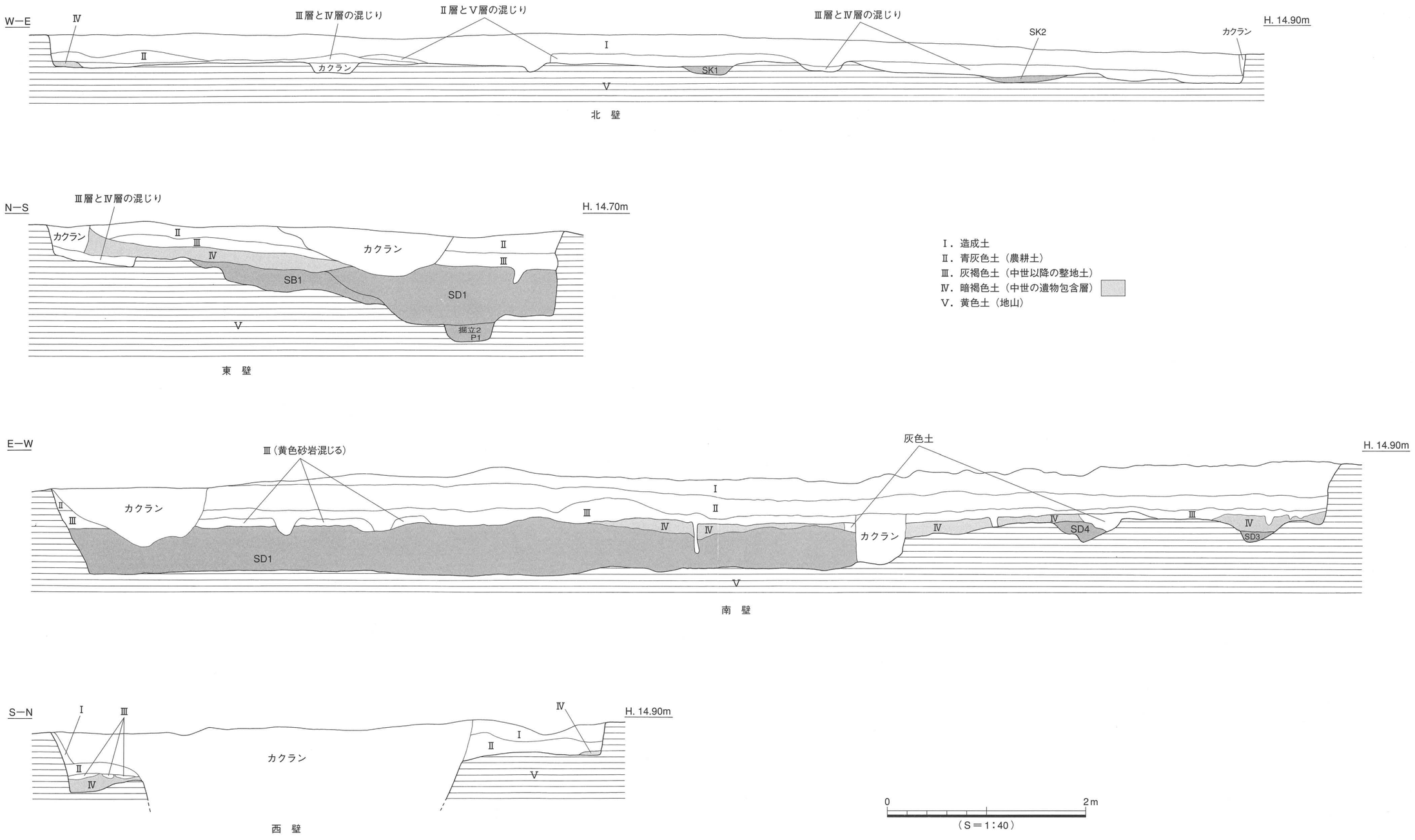
南　壁



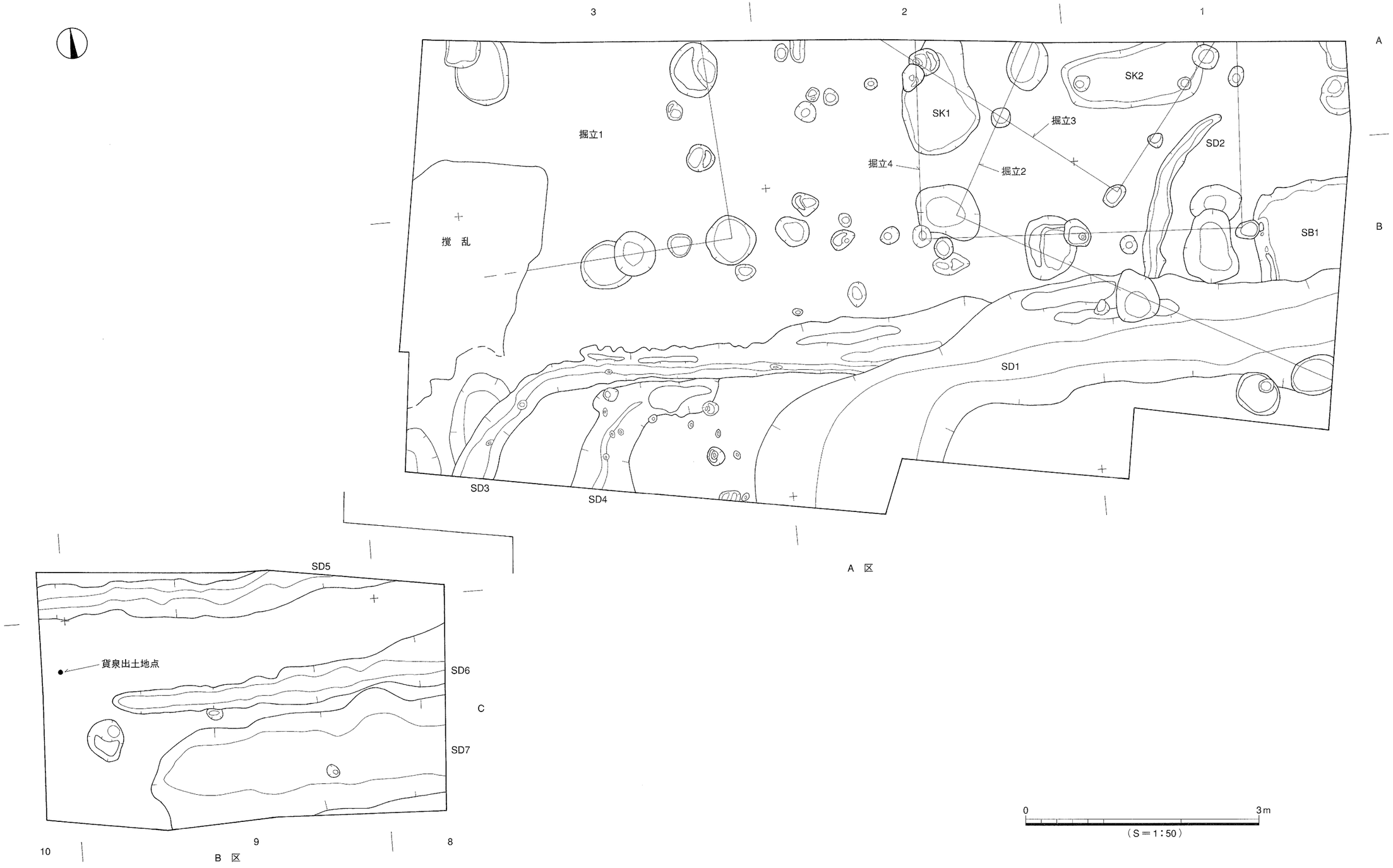
西　壁



第59図　Ｂ区南・西壁土層図


W—E
Ⅳ
Ⅲ層とⅣ層の混じり
Ⅱ層とⅤ層の混じり
Ⅲ層とⅣ層の混じり
H. 14.90m
SK2
カクラン
Ⅰ
Ⅱ
カクラン
SK1
Ⅴ
北　壁
N—S
Ⅲ層とⅣ層の混じり
H. 14.70m
カクラン
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
カクラン
Ⅱ
Ⅲ
SB1
SD1
Ⅴ
掘立2
P1
東　壁
Ⅰ．造成土
Ⅱ．青灰色土（農耕土）
Ⅲ．灰褐色土（中世以降の整地土）
Ⅳ．暗褐色土（中世の遺物包含層）
Ⅴ．黄色土（地山）
E—W
Ⅲ（黄色砂岩混じる）
灰色土
H. 14.90m
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
カクラン
Ⅲ
Ⅳ
Ⅳ
カクラン
Ⅳ
Ⅳ
SD4
Ⅲ
Ⅳ
SD3
SD1
Ⅴ
南　壁
S—N
Ⅰ
Ⅲ
Ⅳ
H. 14.90m
Ⅱ
Ⅳ
カクラン
Ⅰ
Ⅱ
Ⅴ
西　壁
0
2m
（S＝1：40）

第60図　A区土層図


3
2
1
A
B
C
10
9
8
SK1
SK2
SD1
SD2
SD3
SD4
SD5
SD6
SD7
SB1
掘立1
掘立2
掘立3
掘立4
攪　乱
貨泉出土地点
A　区
B　区
0
3m
（S＝1：50）

第61図　遺構配置図

3．A区の遺構と遺物（第60・61図、図版26・27）

本調査では、古墳時代から中世にかけての遺構及び遺物を検出した。

第Ⅴ層上面において、A区では竪穴式住居址１棟、掘立柱建物址４棟、土坑２基、溝４条、柱穴25基、B区では溝３条、柱穴３基を検出した。

〔1〕古墳時代

（1）竪穴式住居址

ＳＢ１（第62図）

調査区東側Ｂ・１区に位置する。掘立４・ＳＤ１に切られ、東側は調査区外に延びる。住居址の北東隅の検出に限られた。平面形態は方形、断面形態は皿状を呈する。規模は東西検出長1.3m、南北検出長1.3m、検出床面積1.69m²、深さ17cmを測る。、床面は水平に構築されている。西側の壁体沿いには幅20cm、深さ４cmの周壁溝を検出した。埋土は黒褐色土である。遺物は、埋土中位から床面にかけて須恵器・土師器片が出土する。

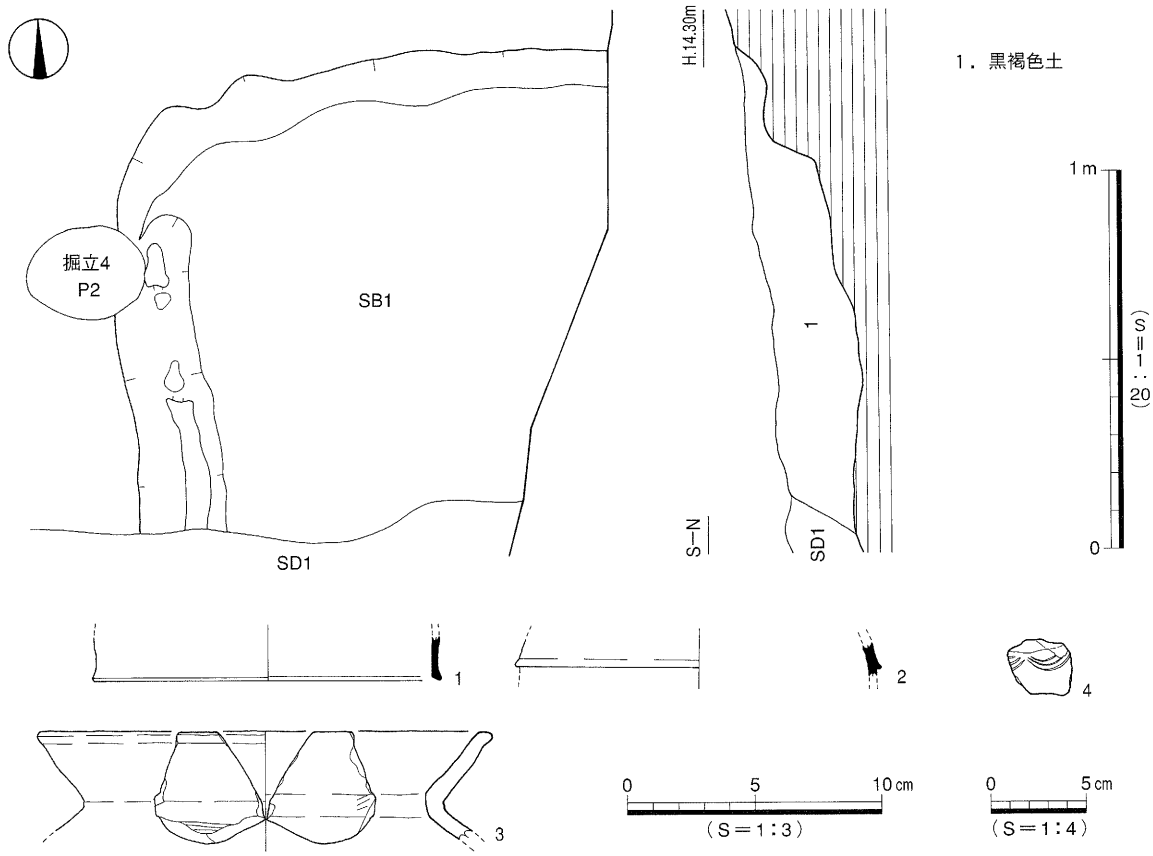
出土遺物（第62図）

須恵器：１・２は坏蓋である。１は口縁端部に内傾する面をなす。２は垂れ下がり気味の稜をもつ。

土師器：３は甕である。「く」字状の口縁部に端部は平らな面をなす。

弥生土器：４は混入品である。３条の重弧文を施す壺の上胴部付近である。

時期：出土遺物より６世紀初頭とする。



第62図　A区SB1測量図・出土遺物実測図

（２）掘立柱建物址

掘立１（第63図）

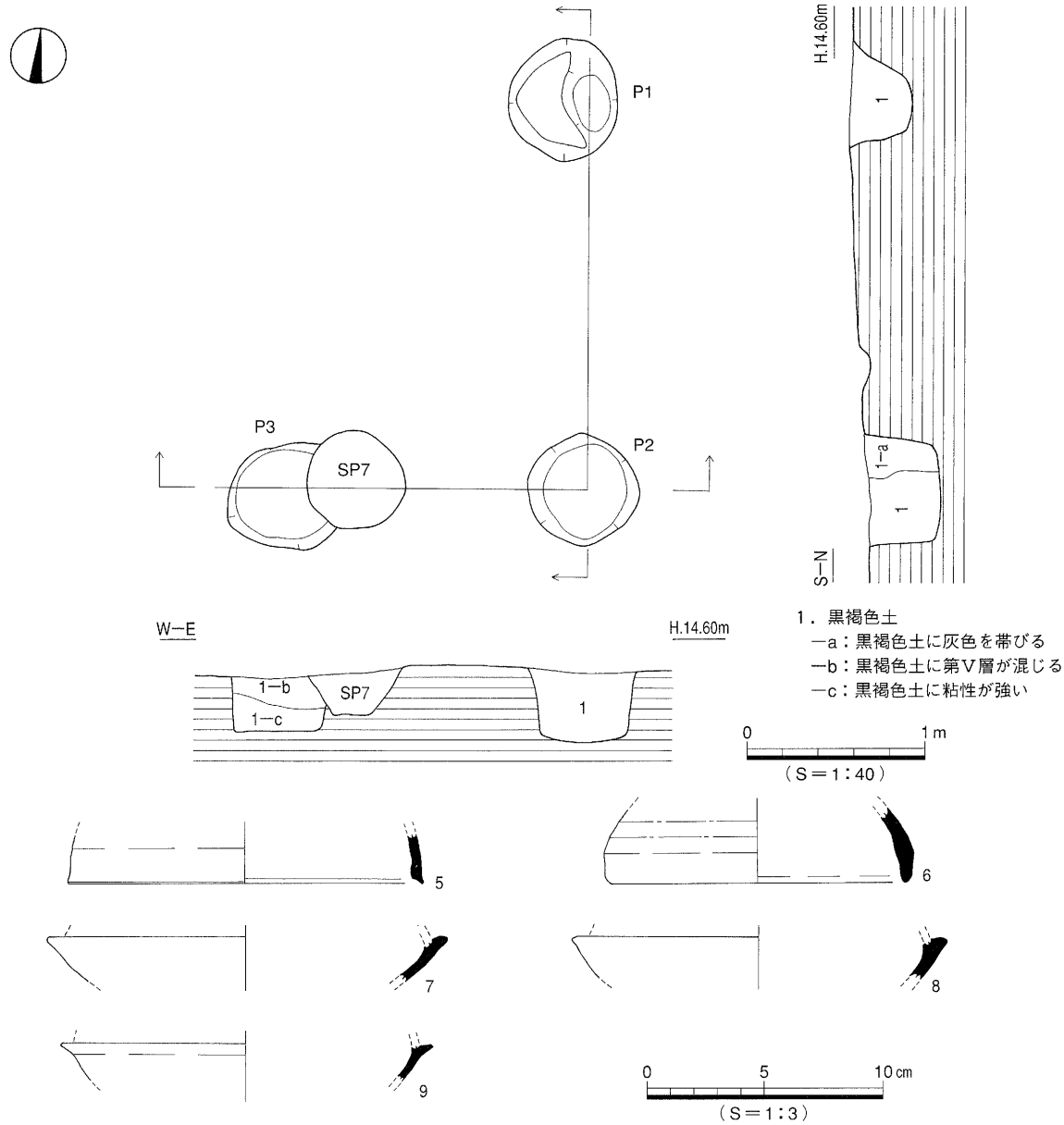
調査区北西部Ａ～Ｂ・３区に位置し、ＳＰ７に切られ、西・北側は調査区外に延び、建物全体の規模は不明。主軸はN-4°-Wを指向する。東西は１間を検出し、柱間1.7m、南北も１間を検出し柱間2.2mで、検出床面積は3.74m²。柱穴は円形～楕円形を呈し、規模は直径60～70cm、深さ30～40cmを測る。埋土は黒褐色土で、灰色を帯びたり第Ｖ層の混入がある。遺物は、須恵器・土師器片が出土する。

出土遺物（第63・64図）

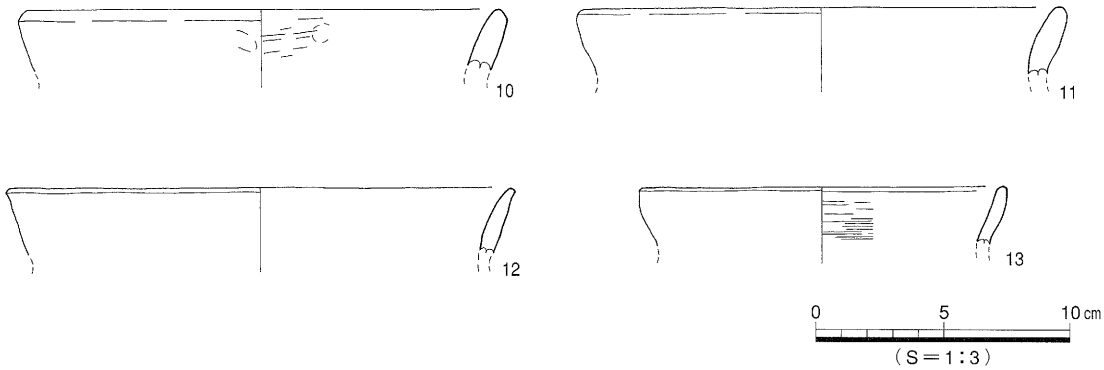
須恵器：５・６は坏蓋である。５は口縁端部に段をなす。６は口縁端部が丸く納まる。７～９は坏身である。７・８は受部に丸みをもち外方にのびる。

土師器：10～13は甕の口縁部である。10～12は緩やかに外傾する口縁部をもつ。13はやや内湾する口縁部をもつ。

時期：出土遺物より７世紀初頭とする。



第63図　Ａ区掘立１測量図・出土遺物実測図（1）



第64図　掘立１出土遺物実測図（2）

（３）溝

ＳＤ２（第65図）

調査区東側Ａ～Ｂ・１区に位置し、南側はＳＤ１に切られる。溝は湾曲を示しており、断面形態はレンズ状を呈する。規模は検出長2.5m、上場幅15～28cm、深さ５～９cmを測る。基底面は、北から南に向かって緩やかな傾斜をなし、比高差は15cmである。埋土は黒褐色土である。遺物は、土師器片が僅かに出土する。

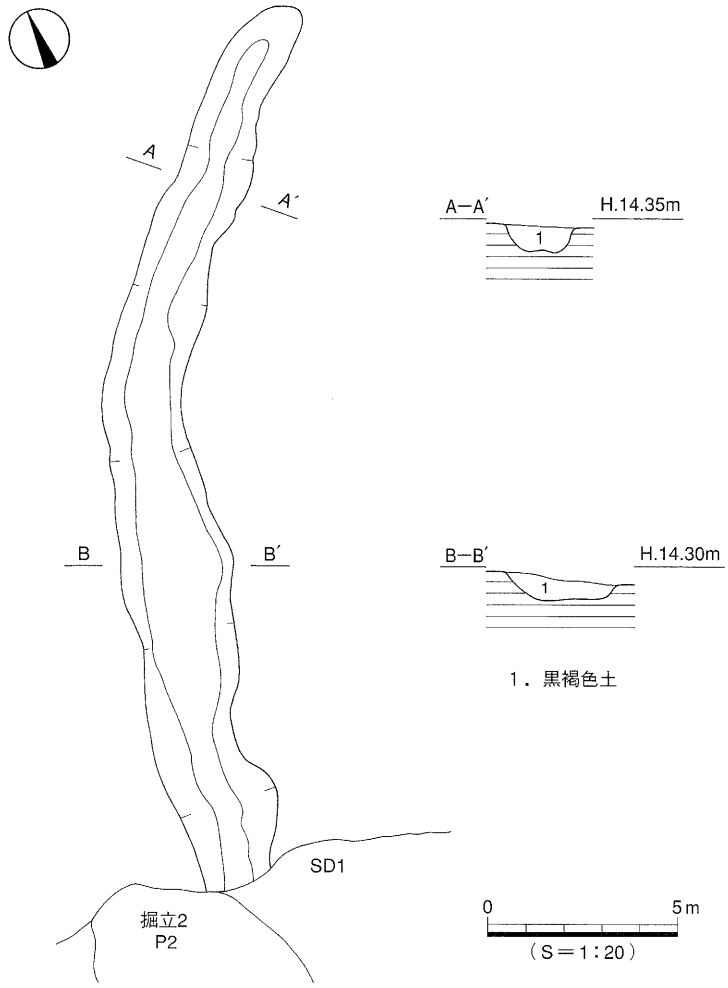
時期：埋土よりＳＢ１と同時期の６世紀初頭とする。

〔２〕古　代

（１）掘立柱建物址

掘立２（第66図、図版26）

調査区北東部Ａ～Ｂ・１～２区に位置し、掘立４・ＳＤ１に切られ、東・北側は調査区外に延びる。主軸はN-29°-Eを指向する。桁行・梁行とも調査区外へ延びているため建物全体の規模は不明である。東西推定４間以上の5.2m、柱間1.3m、南北１間以上の柱間2.2mで床面積11.44m²以上、柱穴の直径50～90cm、深さ20～40cmを測る。柱穴は楕円形を呈し、Ｐ１・Ｐ３には直径８～16cmの柱痕を検出した。埋土は暗褐色土で、灰色を帯びたり第Ｖ層の混入がある。遺物は、須恵器・土師器片に混じり、Ｐ１内の上層より滑石製の臼玉が２点出土する。



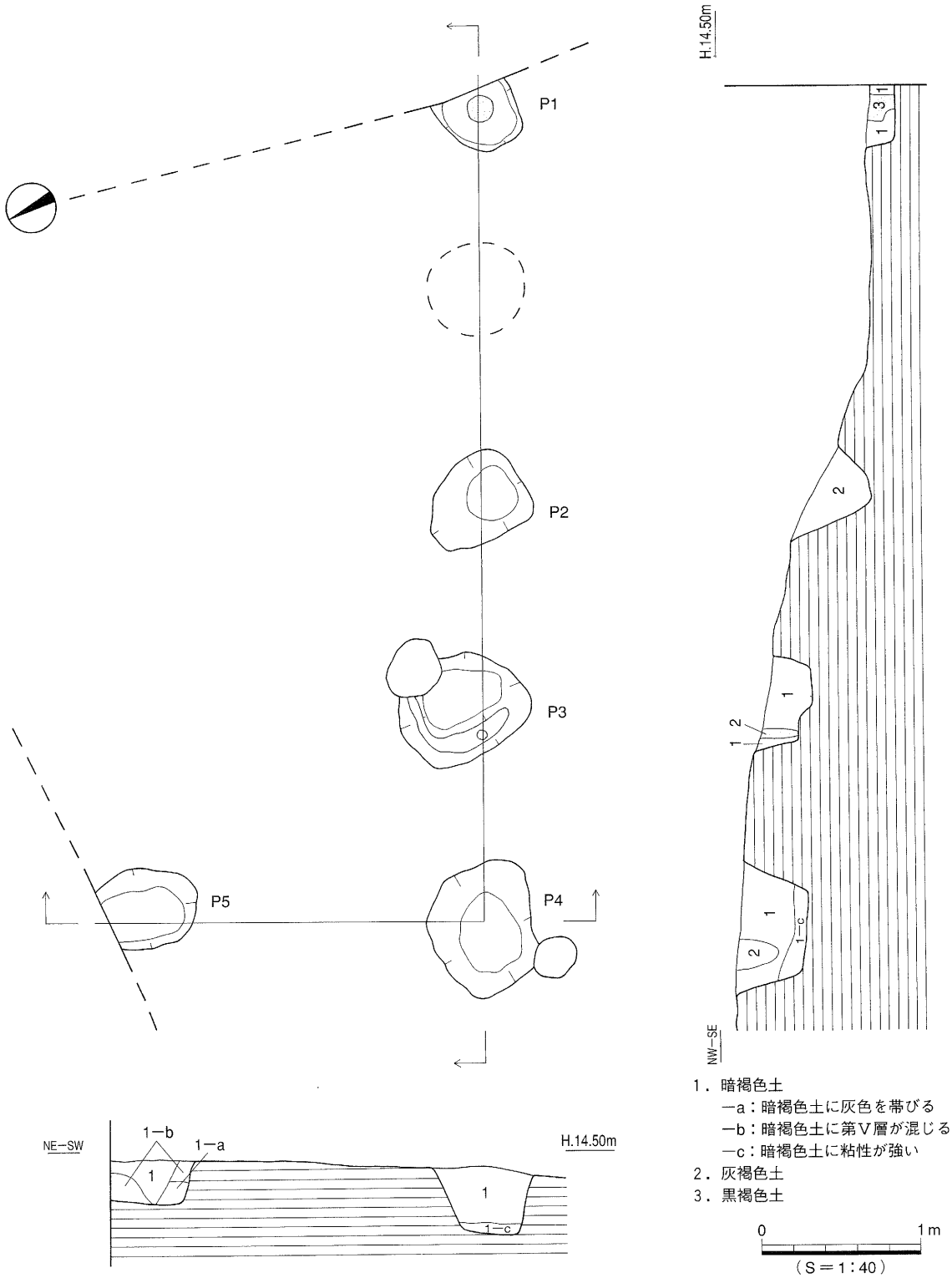
第65図　Ａ区SD2測量図

出土遺物（第67図、図版32）

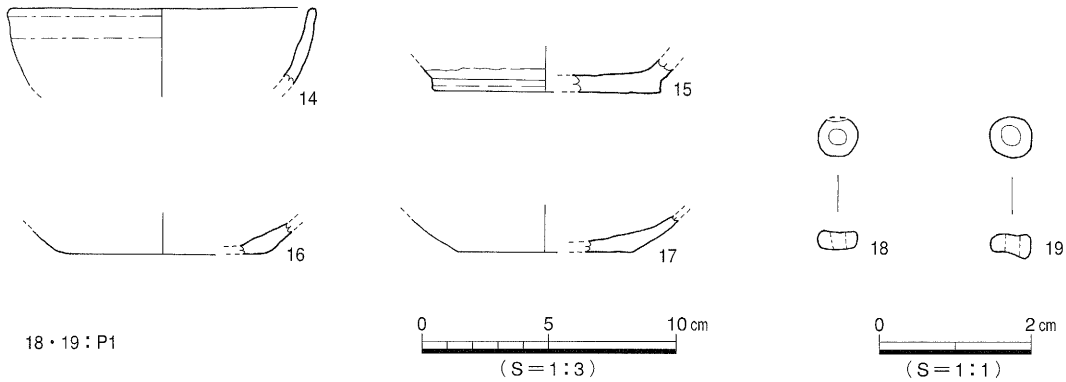
土師器：14～17は坏である。14は内湾気味に立ち上がる。15は円盤成形の平高台の底部に回転糸切り痕がみられる。16・17は平底の底部に回転糸切り痕がみられる。

石製品：18・19は臼玉である。18・19共に一部欠損がみられる。18は直径5.2㎜、厚み2.2㎜、重さ0.085ｇを測り、緑灰色を呈する。19は直径5.2㎜、厚み3.2㎜、重さ0.114ｇを測り、緑灰色を呈する。

時期：出土遺物・埋土より10世紀代とする。



第66図　A区掘立２測量図

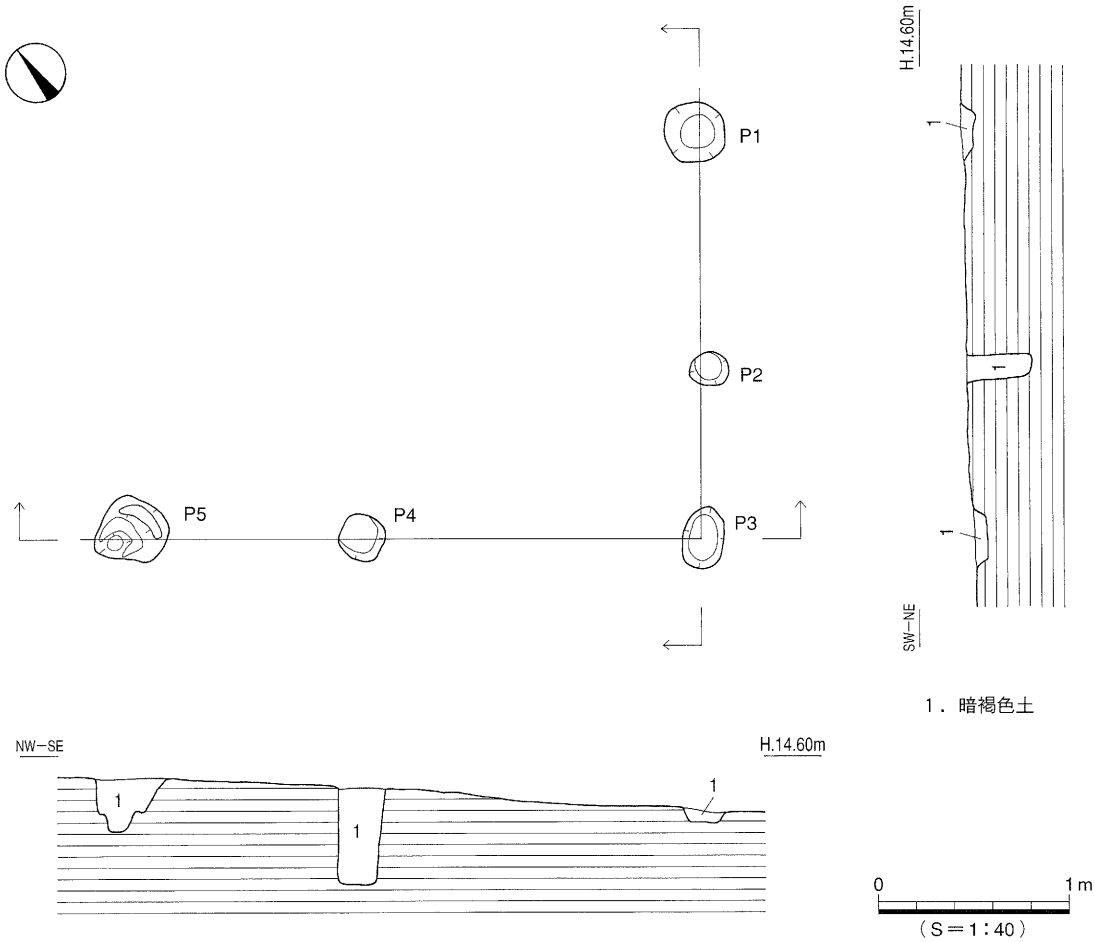


第67図　A区掘立２出土遺物実測図

掘立３（第68図）

調査区北東部A～B・１～２区に位置し、掘立４に切られており、北・西側は調査区外に延びる。主軸はN-50°-Eを指向する。桁行・梁行とも調査区外へ延びているため全体規模は不明である。東西２間以上の３ｍ、柱間1.2～1.8ｍ、南北２間以上の2.2ｍ、柱間0.9～1.3ｍで、検出床面積は6.0㎡。柱穴は円形～楕円形を呈し、規模は直径20～40㎝、深さ５～50㎝を測る。埋土は暗褐色土である。遺物は、土師器の小片が出土したが、図化には至らなかった。

時期：出土遺物・埋土より古代とする。

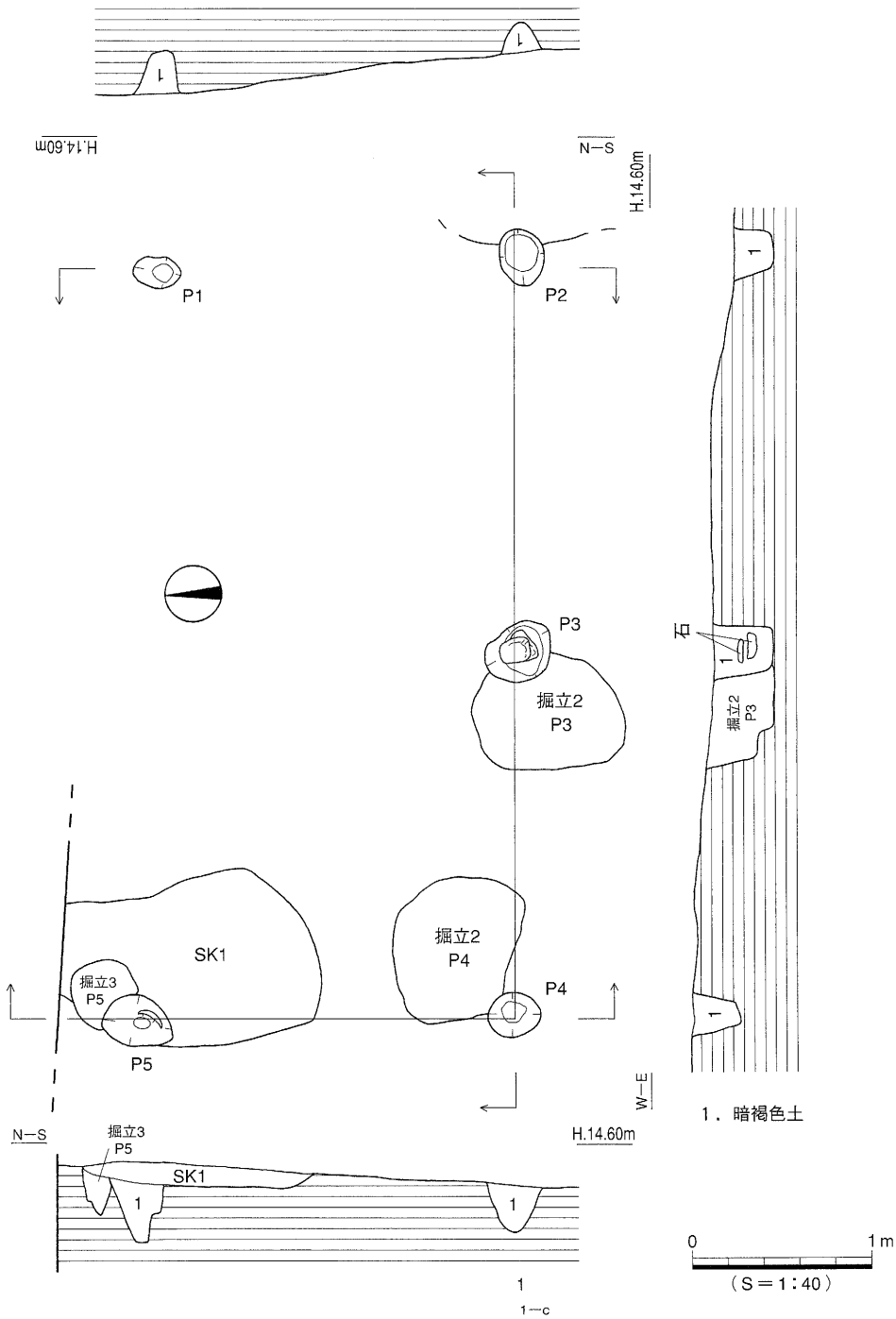


第68図　A区掘立３測量図

掘立４（第69図、図版26）

調査区北東部Ａ～Ｂ・１～２区に位置し、掘立２・３を切り、ＳＫ１に切られる。北側は調査区外に延びる。主軸はＮ-３°-Ｅを指向する。桁行・梁行とも調査区外へ延びるため全体規模は不明である。検出規模は東西２間の4.24ｍ、柱間2.1～2.15ｍ、南北１間の2.1ｍ、柱間2.0～2.1ｍで、床面積は8.9㎡となる。柱穴は円形～楕円形を呈し、規模は直径19～40㎝、深さ22～45㎝を測る。Ｐ３の中位では、長径17～20㎝、厚み８～10㎝大の扁平な楕円形の石が２個重なった状態で検出された。埋土は暗褐色土である。遺物は、土師器の小片が僅かに出土する。

時期：切り合いや埋土から10世紀以降の古代とする。



第69図　Ａ区掘立４測量図

ＳＤ３（第70図、図版28）

調査区南西部Ｂ・２～４区に位置する。南側は調査区外に延び、ＳＤ４を切り、東側はＳＤ１に切られる。東西に直線的に延びており、西側は湾曲し南に曲がる。断面形態はＵ字状を呈する。規模は検出長7.3ｍ、上場幅30～40cm、深さ30～40cmを測る。基底面は、南西から東に向かって緩やかな傾斜をなし、比高差は15cmである。埋土は暗褐色土であり、遺物は土師器片が出土する。

出土遺物（第70図、図版32）

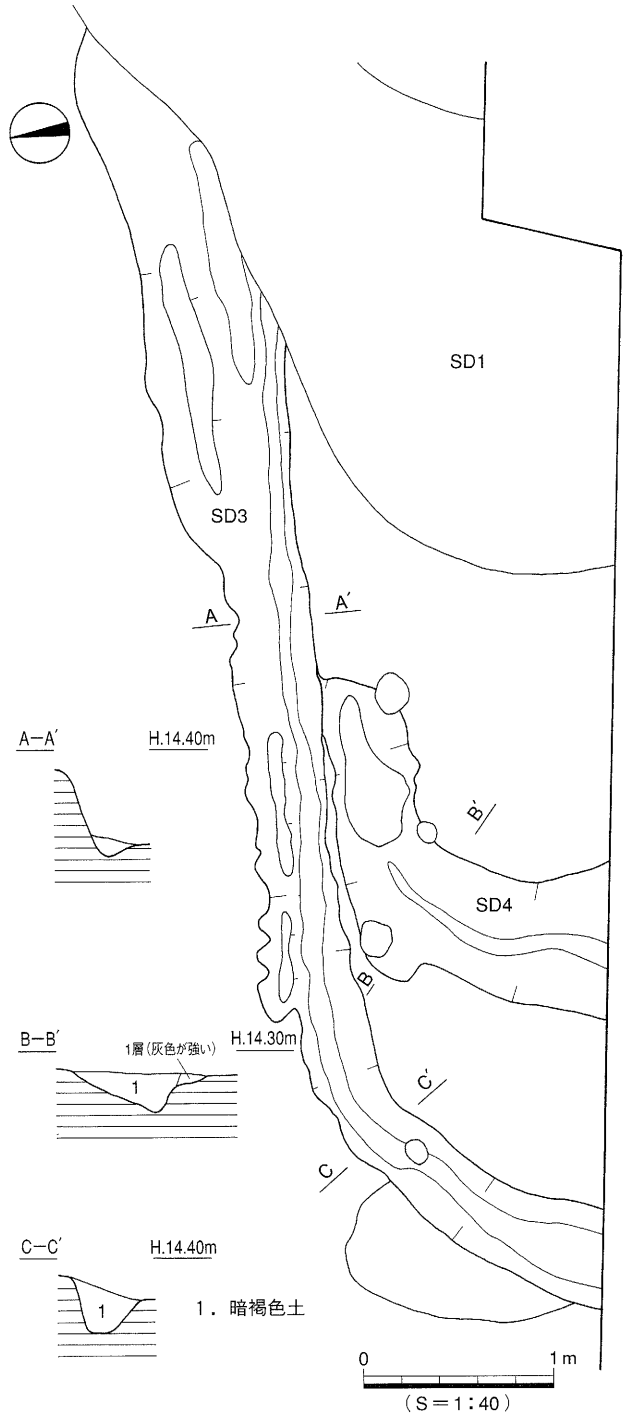
20は坏の外傾する口縁部である。21は鉢である。内湾気味の口縁部に端部は平らな面をなす。内面にハケメ調整が施される。

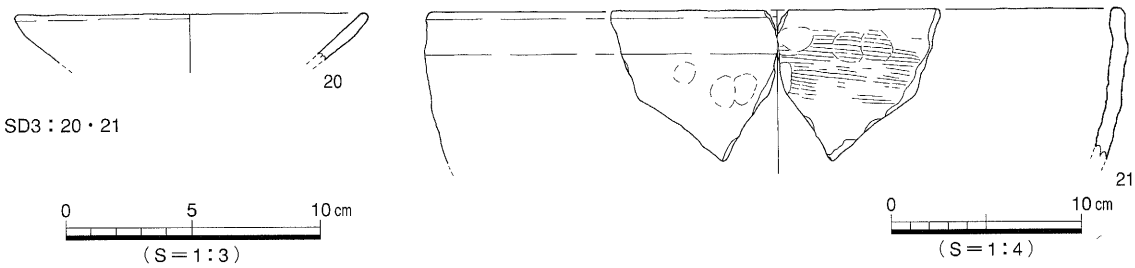
時期：出土遺物より９世紀とする。

ＳＤ４（第70図）

調査区南西部Ｂ・３区に位置し、南側は調査区外に延び、東側はＳＤ３に切られる。溝は湾曲し、断面形態はレンズ状を呈する。規模は検出長2.0ｍ、上場幅50～70cm、深さ８～20cmを測る。基底面は、南西から東に向かって緩やかな傾斜をなし、比高差は６cmである。埋土は暗褐色土であり、遺物は土師器片が出土する。

時期：遺構の切り合いや出土遺物より９世紀以前とする。





第70図　Ａ区SD3・4測量図・出土遺物実測図

〔3〕中　世

（1）溝

ＳＤ１（第71図、図版28）

調査区南東部Ｂ・１～３区に位置する。両端は調査区外に延び、ＳＢ１・ＳＤ２・掘立２を切る。主軸はＮ-87°-Ｅで東西方向に直線的に延びており、西端は南へ屈曲する。断面形態は逆台形状を呈する。規模は検出長7.5m、上場幅0.9～2.5m、深さ40～60cmを測る。溝の南側は、北側に比べ40～50cm下がる。基底面は、西から東に向かって緩やかな傾斜をなし、比高差は10cmである。埋土は上層が暗褐色土、中層は暗褐色土で砂質が強く、下層は暗褐色土で粘性が強い。遺物は上層から下層にかけ、土師器の坏・皿・土鍋・土釜、瓦器の椀、須恵器のこね鉢、青磁碗、石鍋等が出土する。

上層出土遺物（第72図、図版32）

土師器：22～27は坏である。22は平底の底部から内湾して立ち上がる。23は平底の底部から外傾して立ち上がる。24～27は口縁部の下に緩やかな稜をもつ。28～31は皿である。28は口縁部がやや外反する。30・31は器高がやや低い。32は鍋である。口縁部は逆「ハ」字状に屈曲し、端面は水平な面をなす。33～35は土釜である。33・34は直立気味の口縁部に断面三角形状の貼付凸帯をもつ。35は内湾気味の口縁部に断面三角形状の貼付凸帯をもつ。

瓦器：36は椀である。底部に断面三角形状の貼付高台をもつ。

須恵器：37は蓋である。口縁部は屈曲し、端部は丸くおさまる。38はこね鉢である。断面三角形状の口縁部をもつ。東播系。

石製品：39は石鍋である。外傾する口縁部に削り出された鍔をもち、口縁端部は水平な面をなす。滑石製。

中層出土遺物（第73・74図、図版32・33）

土師器：40～45は坏である。40～43は口縁部の下に緩やかな稜をもつ。44・45は平底の底部から外傾して立ち上がる。40・44は底部に板圧痕がみられる。46～52は土釜である。46・49は口縁部に断面三角形状の貼付凸帯をもつ。47・48・50・51は口縁部に断面逆台形状の貼付凸帯をもつ。52は下方にのびる脚部である。

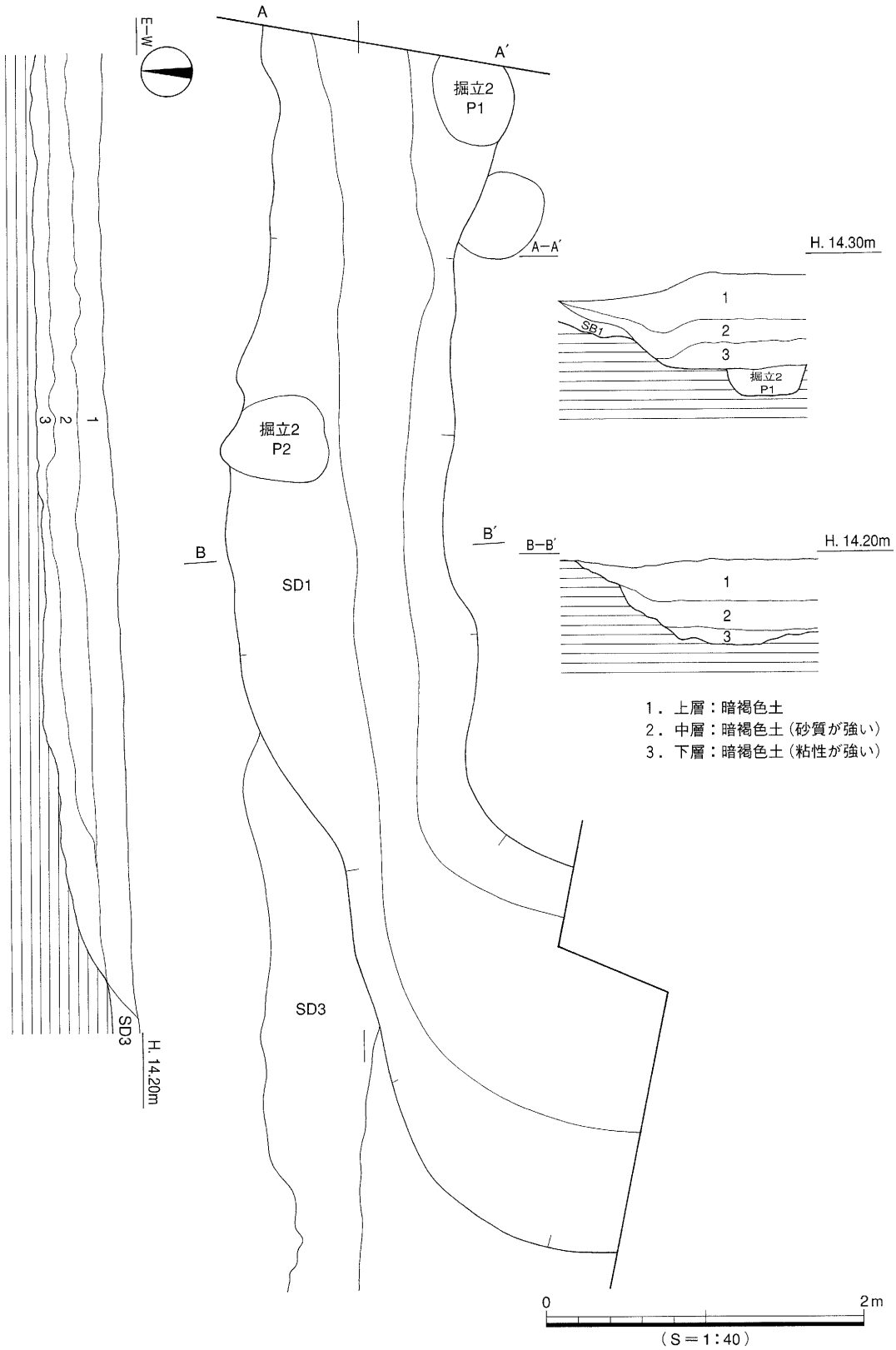
須恵器：53はこね鉢である。断面三角形状の口縁部を呈する。

陶器：54・55は碗である。54は底部に削り出し高台をもち、胴部外面に連弁文が施される。55は内外面に緑釉がみられる。

瓦器：56・57は椀である。56は内面の口縁部付近に横方向のミガキ調整、外面の胴部に指頭痕がみられる。57は底部に断面四角形状の貼付高台をもつ。

下層出土遺物（第74・75図、図版33）

土師器：58～65は坏である。58～61は平底の底部より内湾気味に立ち上がる。62はやや上げ底の底部から内湾して立ち上がる。62・63は大きく内湾して立ち上がる。64は口縁部の下に緩やかな稜をもつ。65は外反して立ち上がる。61は底部に回転糸切り痕がみられる。66～69は皿である。66・67は胴部に稜がみられる。68・69は内湾して立ち上がる。67～69は底部に回転糸切り痕が残る。70～75は土釜である。70は直立気味の口縁部に断面三角形状の貼付凸帯をもつ。71・73は内傾する口縁部に下膨れの貼付凸帯がつく。72はやや内湾する口縁部に断面逆台形状の貼付凸帯をもつ。74・75は下方にの



第71図　A区SD1測量図

びる脚部である。76は器種が不明。平底の底部に回転糸切り痕がみられる。77・78は置き竈である。

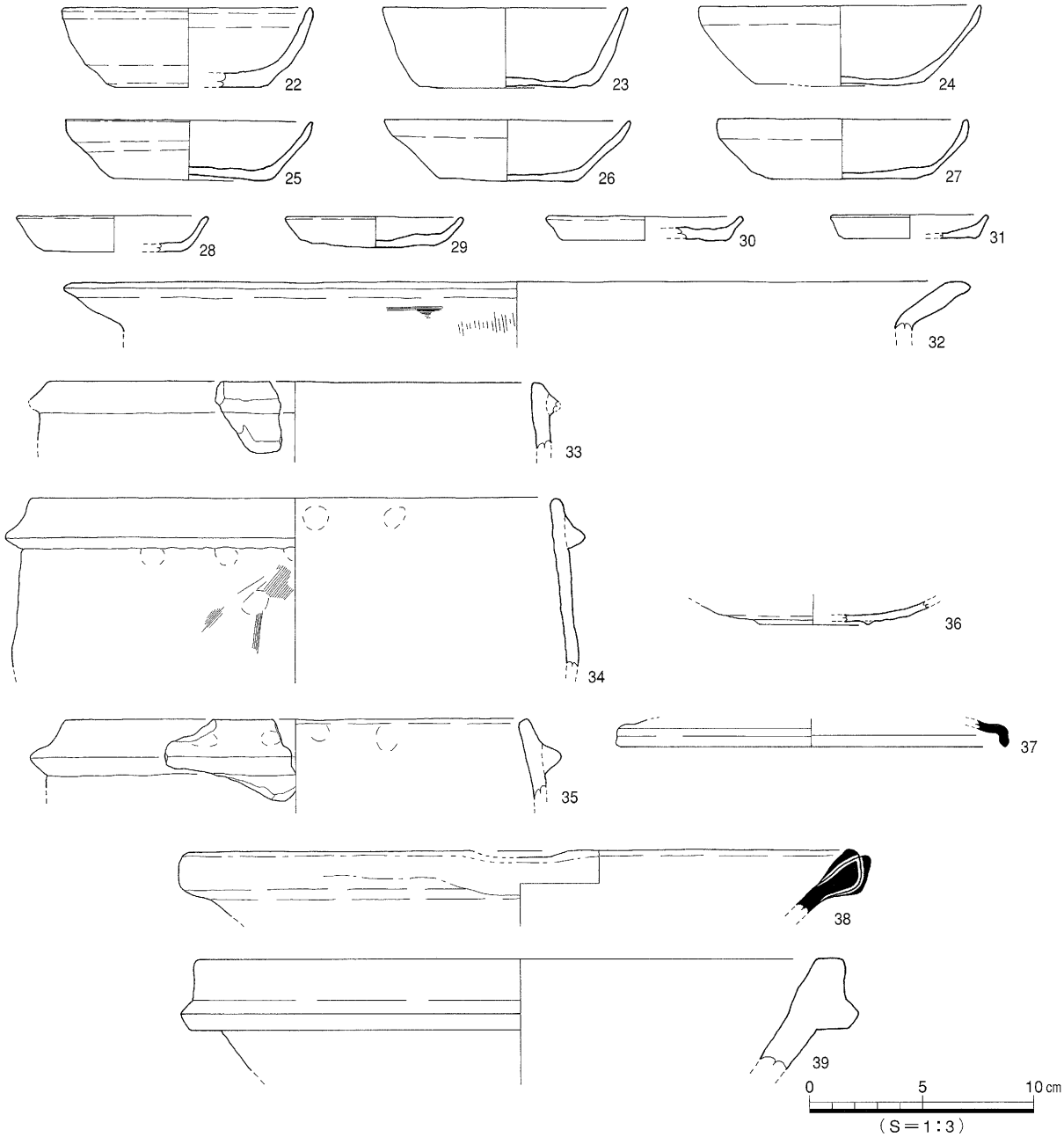
須恵器：79はこね鉢である。断面三角形状の口縁部に片口をもつ。80は器種不明である。平底の底部から内湾気味に立ち上がり、器壁は厚い。内外面共に横ナデ調整が施される。81は坏である。平底の削り出し高台をもつ。

陶器：82は青磁碗である。外面に連弁文が施される。

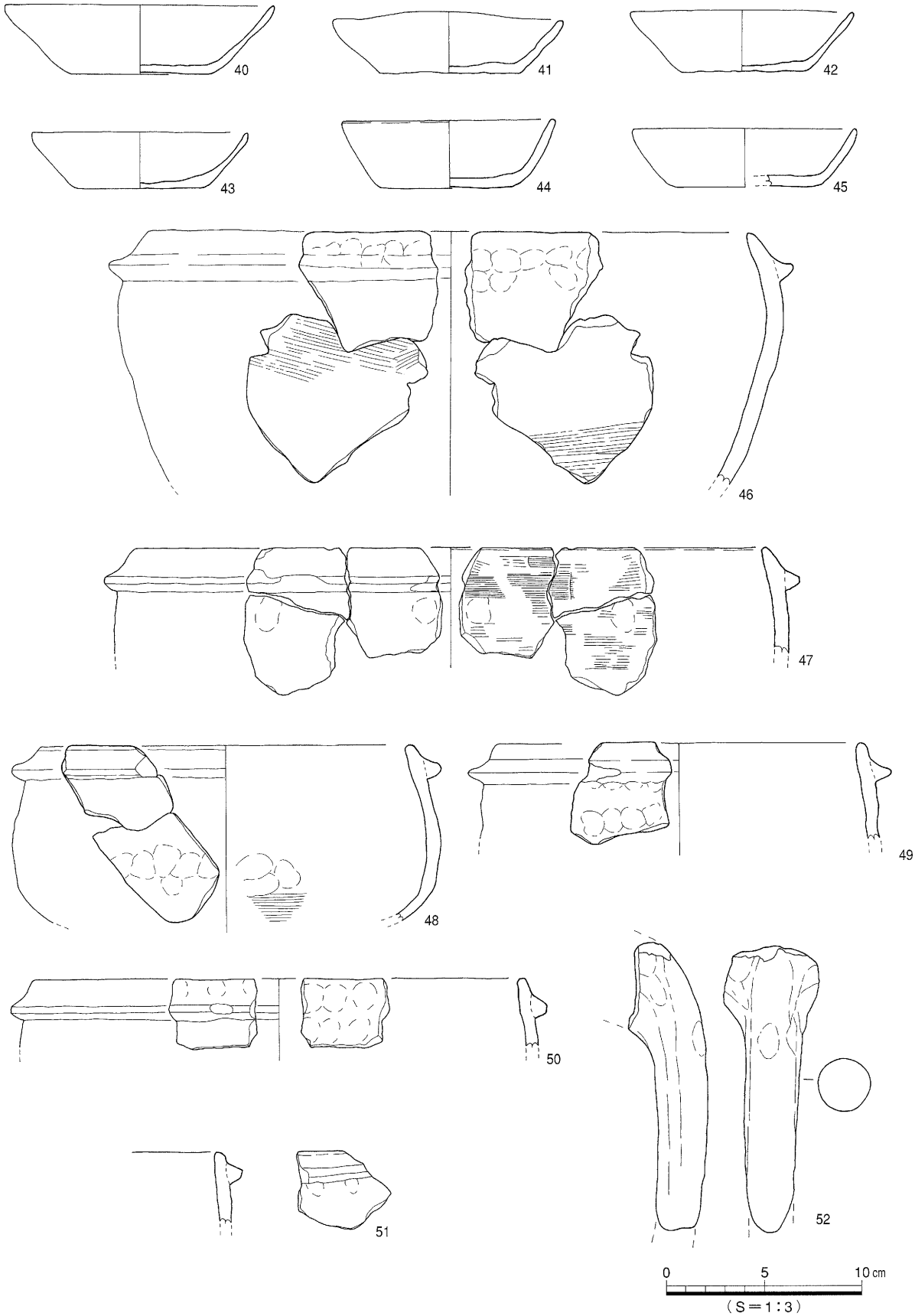
石製品：83は砥石である。4面の砥面のうち3面に幅0.3～1㎜の条痕が多数みられる。石英粗面岩。

金属製品：84～87は鉄製の釘である。84～87共に体部断面は方形を呈する。84は頭部断面が逆「L」字状を呈する。85～87は頭部が欠失しており、85は体部が直線的で先端部が尖り、86は体部が緩やかな「L」字状、87は体部が半円形に湾曲する。

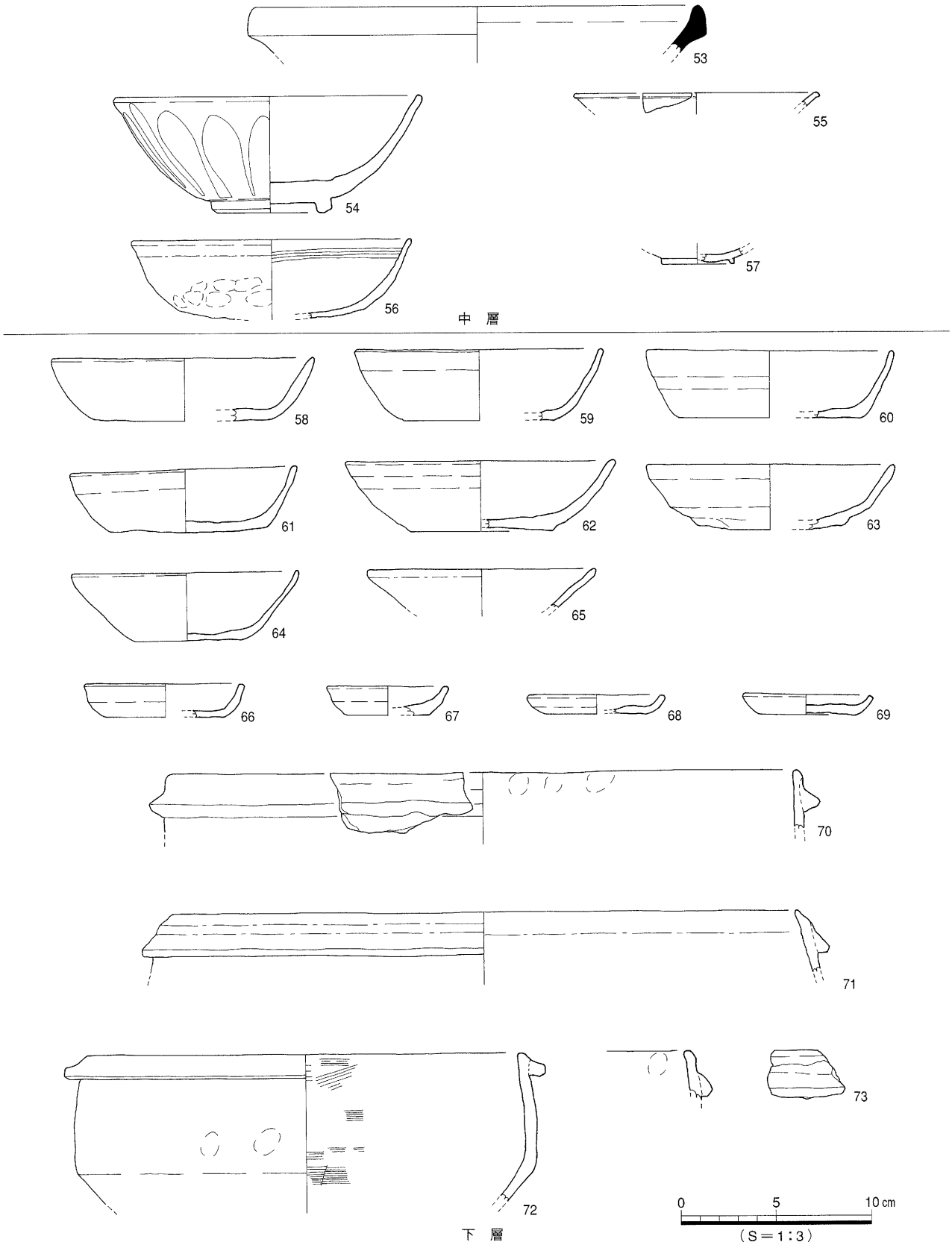
時期：出土遺物より14世紀代に比定する。



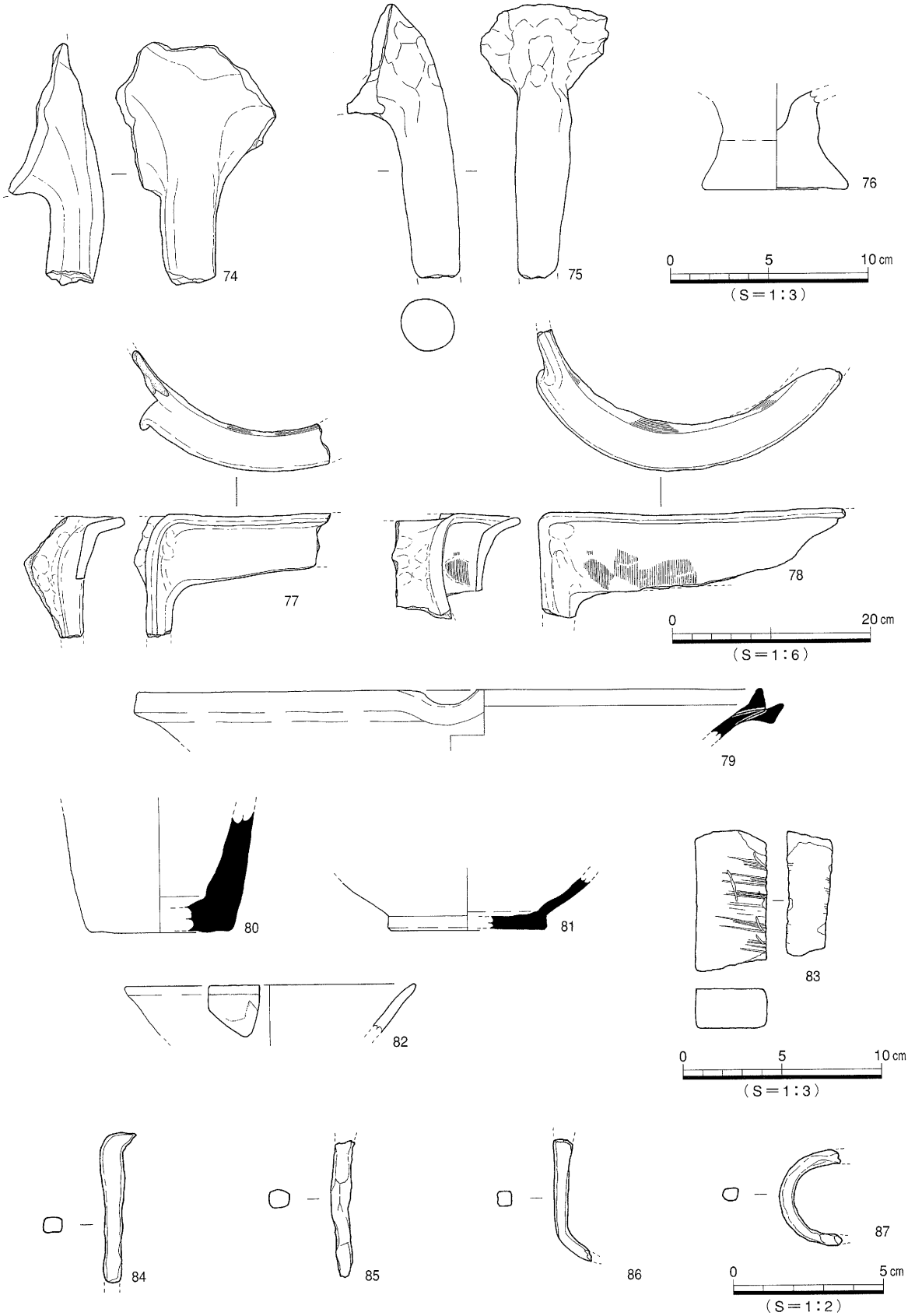
第72図　A区SD1上層出土遺物実測図（1）



第73図　A区SD1中層出土遺物実測図（2）



第74図　A区SD1中・下層出土遺物実測図（3）



第75図　A区SD1下層出土遺物実測図（4）

〔4〕近 現 代

（1）土坑

ＳＫ１（第76図）

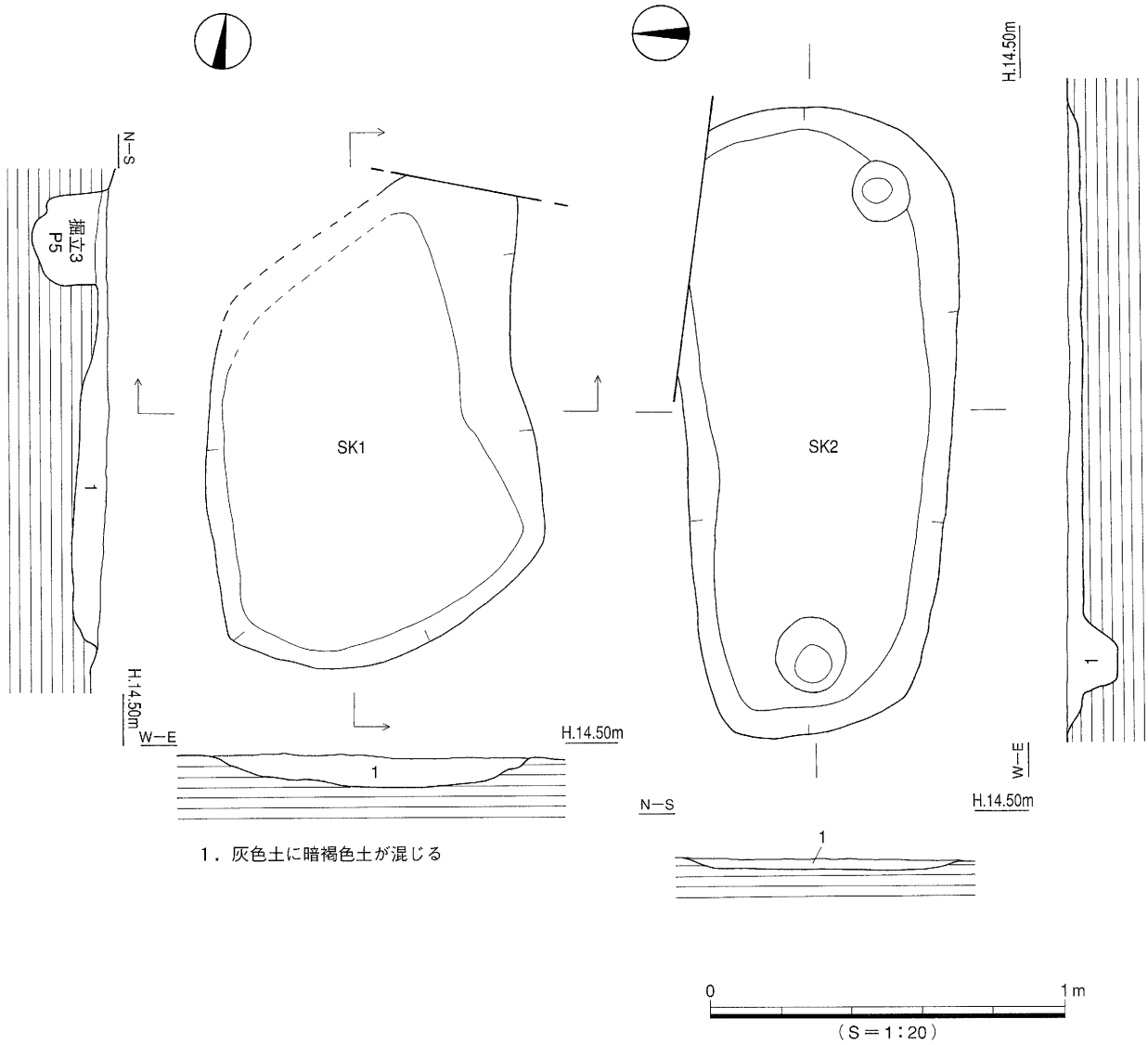
調査区北側のＡ・２区の位置し、掘立３・４を切る。平面形態は楕円形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.36m、短軸0.93m、深さ７cmを測る。埋土は灰色土に暗褐色土が混じる。遺物はない。

時期：出土遺物がなく、埋土から近現代とする。

ＳＫ２（第76図）

調査区北東側のＡ・１区の位置し、掘立３を切る。平面形態は長方形、断面形態は皿状を呈する。規模は長軸1.7m、短軸0.7m、深さ３cmを測る。埋土は灰色土に暗褐色土が混じる。遺物はない。

時期：出土遺物がなく、埋土から近現代とする。

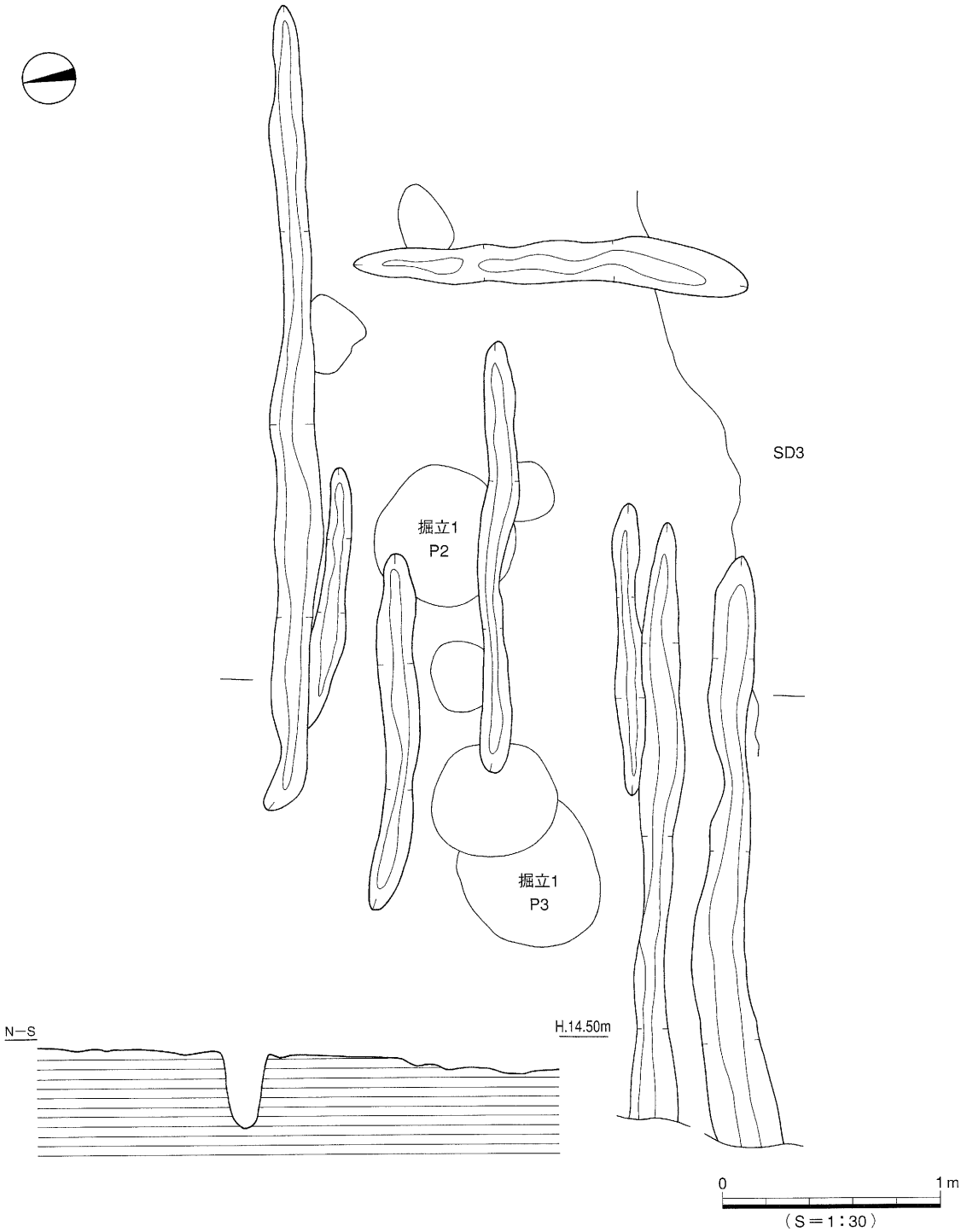


第76図　Ａ区SK1・2測量図

（２）鋤跡（第77図）

調査区西側Ａ～Ｂ・２～３区に位置し、掘立１・２・ＳＤ３を切る。東西方向に７条、南北方向に１条を検出する。検出長1.1～3.9m、上場幅10～30㎝、検出面よりの深さ２～５㎝を測る。埋土は暗灰色土である。遺物は陶磁器の小片が出土する。

時期：出土遺物や埋土より近現代とする。



第77図　Ａ区鋤跡測量図

4．B区の遺構と遺物

〔1〕中　世

（1）溝

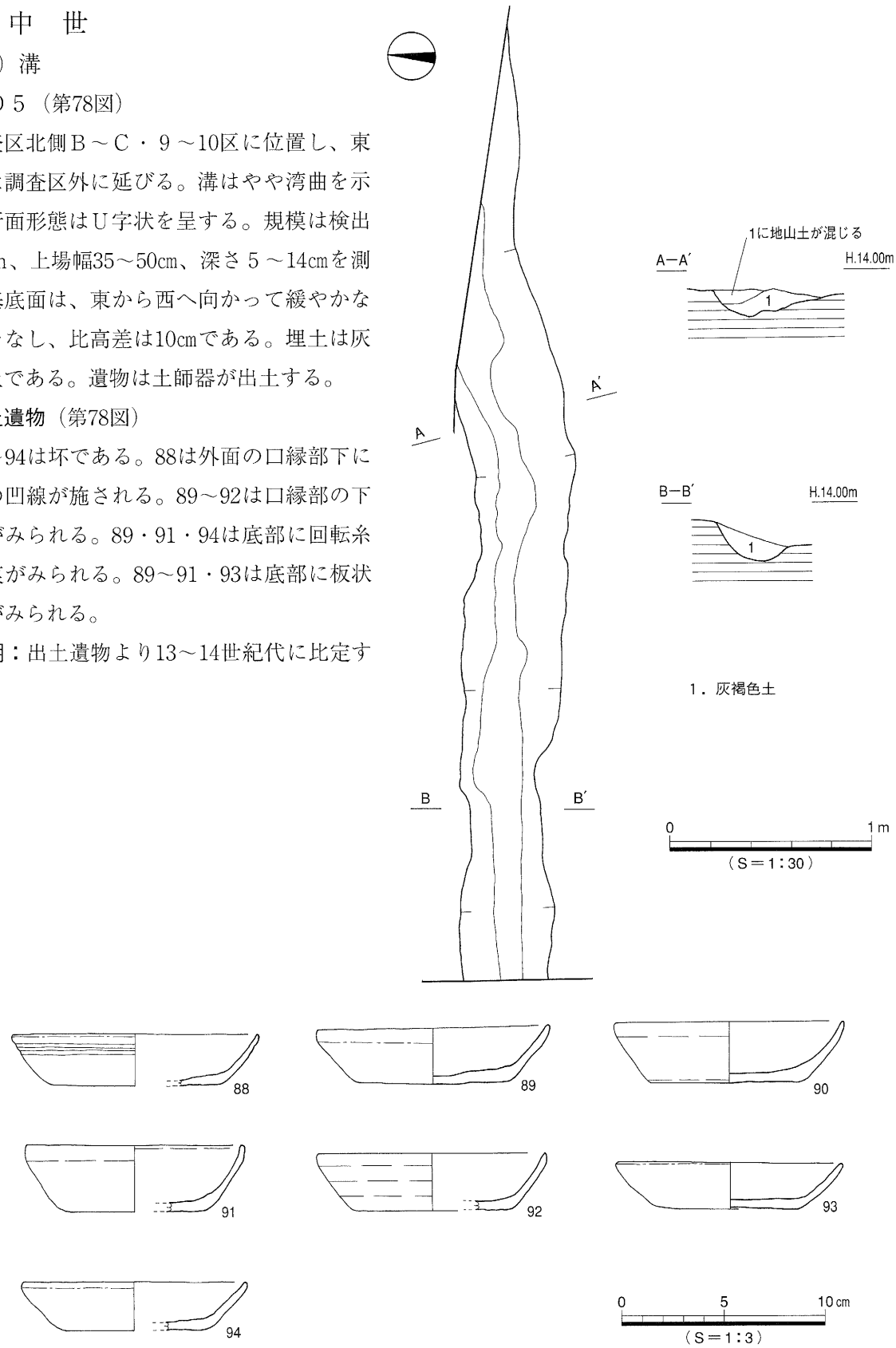
ＳＤ５（第78図）

調査区北側Ｂ～Ｃ・９～10区に位置し、東西端は調査区外に延びる。溝はやや湾曲を示し、断面形態はＵ字状を呈する。規模は検出長4.7m、上場幅35～50cm、深さ５～14cmを測る。基底面は、東から西へ向かって緩やかな傾斜をなし、比高差は10cmである。埋土は灰褐色土である。遺物は土師器が出土する。

出土遺物（第78図）

88～94は坏である。88は外面の口縁部下に２条の凹線が施される。89～92は口縁部の下に稜がみられる。89・91・94は底部に回転糸切り痕がみられる。89～91・93は底部に板状圧痕がみられる。

時期：出土遺物より13～14世紀代に比定する。



第78図　Ｂ区SD5測量図・出土遺物実測図

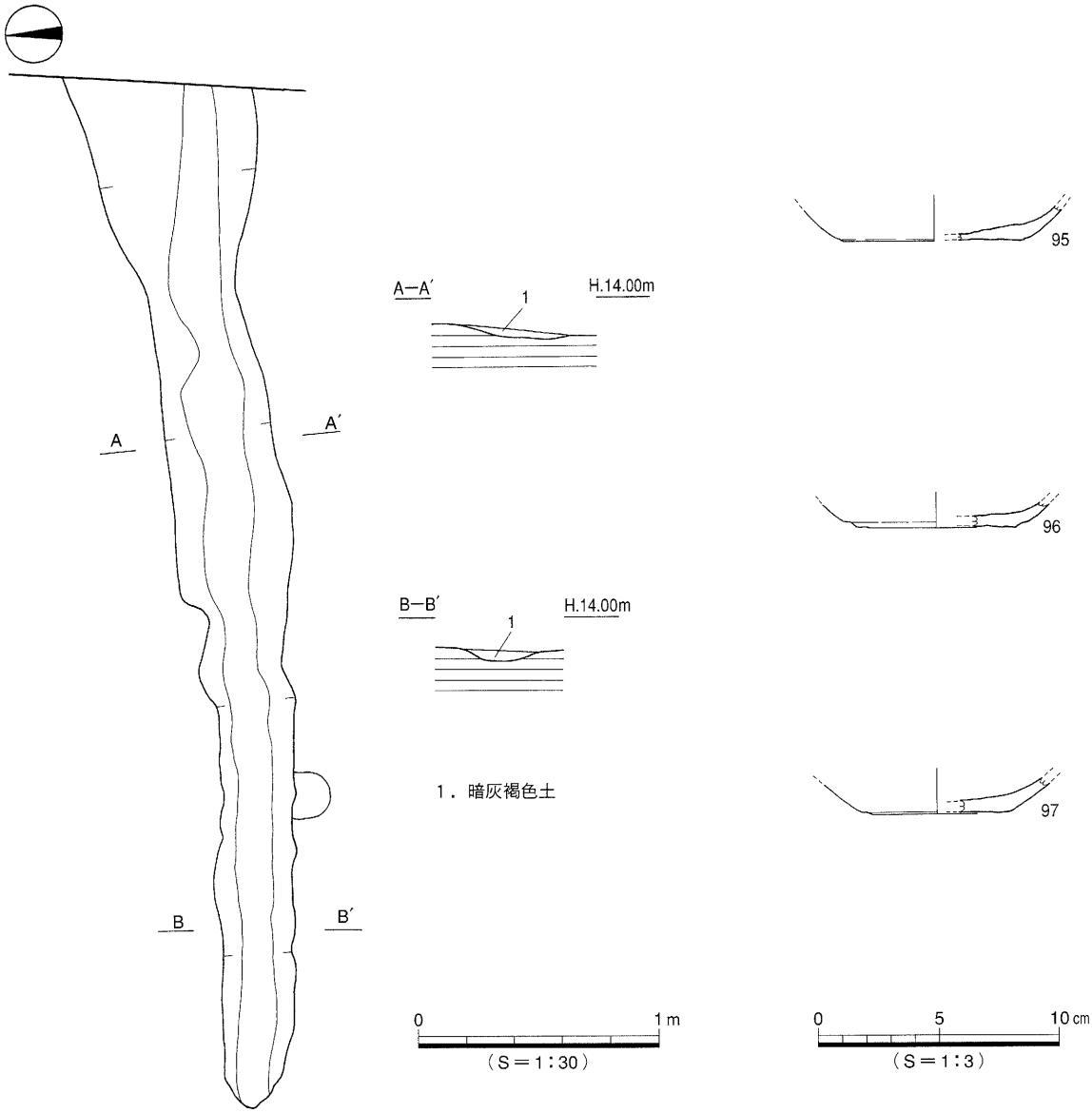
ＳＤ６（第79図）

調査区中央部Ｃ・８～９区に位置し、東側は調査区外にほぼ直線的に延びる。断面形態はレンズ状を呈する。規模は検出長4.3m、上場幅30～70cm、検出面よりの深さ３～７cmを測る。基底面はほぼ水平であり、埋土は暗灰褐色土である。遺物は土師器が出土する。

出土遺物（第79図）

95～97は坏である。95～97共に平底の底部から内湾気味に立ち上がる。

時期：出土遺物より13～14世紀代と比定する。



第79図　Ｂ区SD6測量図・出土遺物実測図

ＳＤ７（第80図）

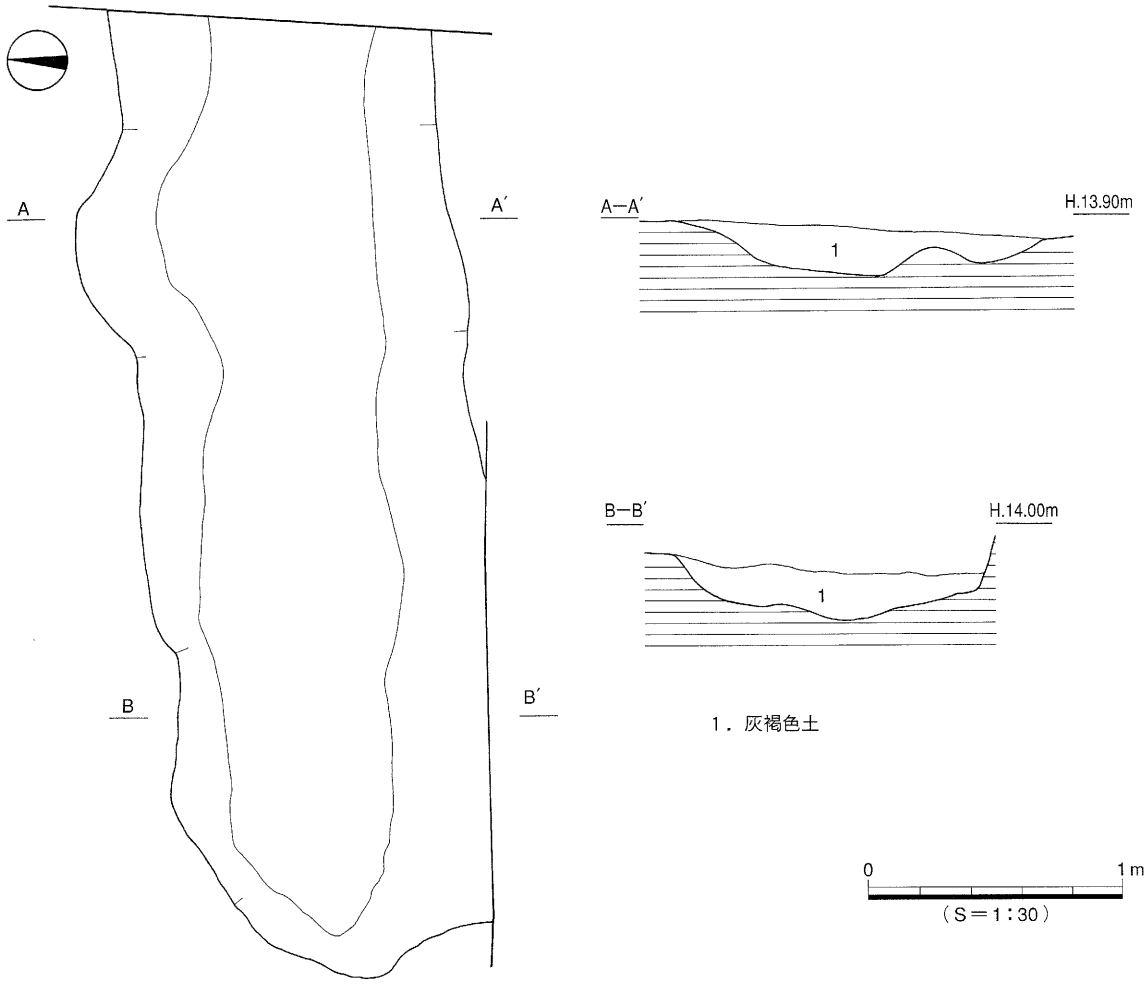
調査区南側Ｃ・８～９区に位置し、東側は調査区外にほぼ直線的に延びる。断面形態はレンズ状を呈する。規模は検出長3.8m、上場幅1.2～1.5m、検出面よりの深さ10～17cmを測る。基底面は、東から西へ向かって緩やかな傾斜をなし、比高差は約27cmである。埋土は灰褐色土である。遺物は須恵器・土師器が出土する。

出土遺物（第81・82図、図版34）

土師器：98～108は坏である。98は口縁部の一部を除いた内外面のほぼ全域にて黒斑がみられる。100・101・106は底部に回転糸切り痕がみられる。99は底部に板状圧痕がみられる。107は内面に煤けが残る。109～112は皿である。111は平底の底部付近に１条の沈線が施される。113は壺である。頸部は外反し、口縁部が上方にのびる。114は釜のミニチュアである。口縁部に断面逆台形状の貼付凸帯をもつ。115は鍋である。口縁部は外反し、平らな端部に３条の沈線が施される。

須恵器：116は甕である。外反する口縁端部が丸くおさまる。117は壺である。外反する頸部にカキ目調整が施される。118は坏蓋のつまみである。119～123はこね鉢である。119～122は口縁部は断面三角形状を呈する。123は口縁端部が平らな面をなす。

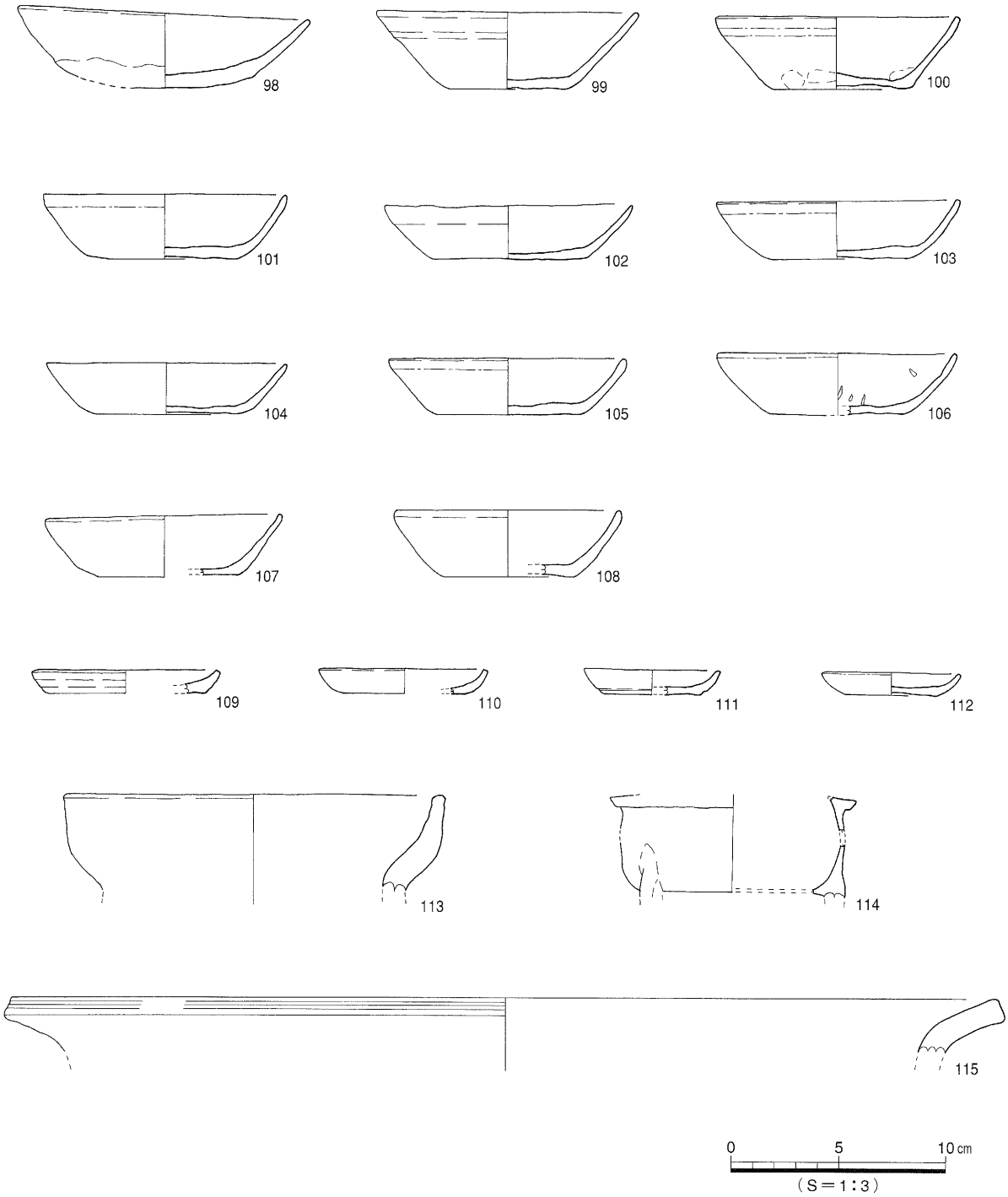
陶磁器：124・125は碗である。124は青磁の碗である。口縁端部から内側は無施釉である。



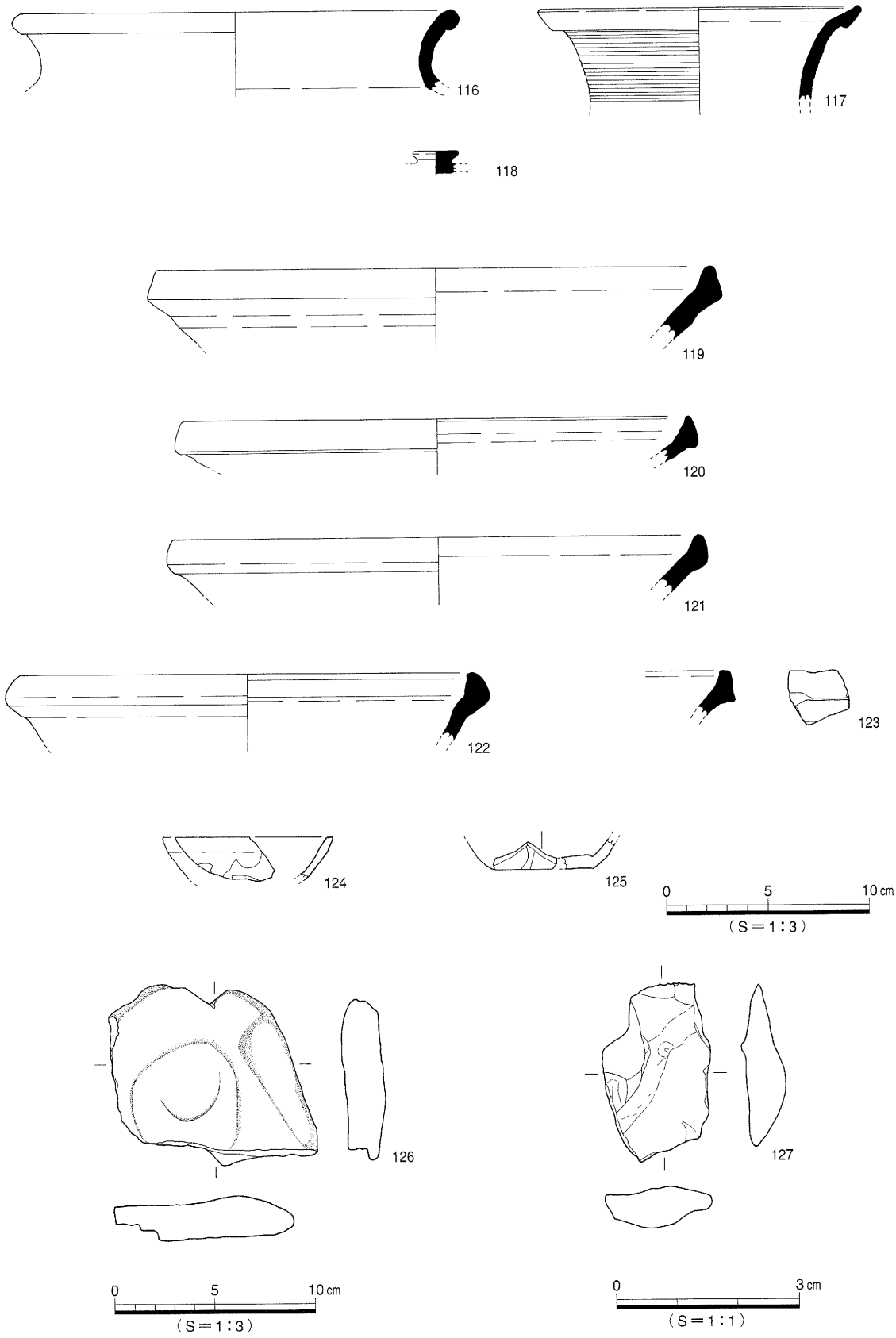
第80図　Ｂ区SD7測量図

石製品：126・127は混入品である。126は石皿である。表面は中央部が浅く凹んでおり全体は滑らかで、微細な線条痕がみられる。裏面は表面に比べ粗雑である。石材は凝灰岩で、欠失品である。127は剥片である。裏面は一次剥離面であるが、自然面で覆われた表面の一部に二次剥離がみられる。長さ3.0cm、幅1.9cm、厚み0.6cm、重さ3.29ｇを測り、石材は赤色チャートである。

時期：出土遺物より13～14世紀代に比定する。



第81図　B区SD7出土遺物実測図（1）



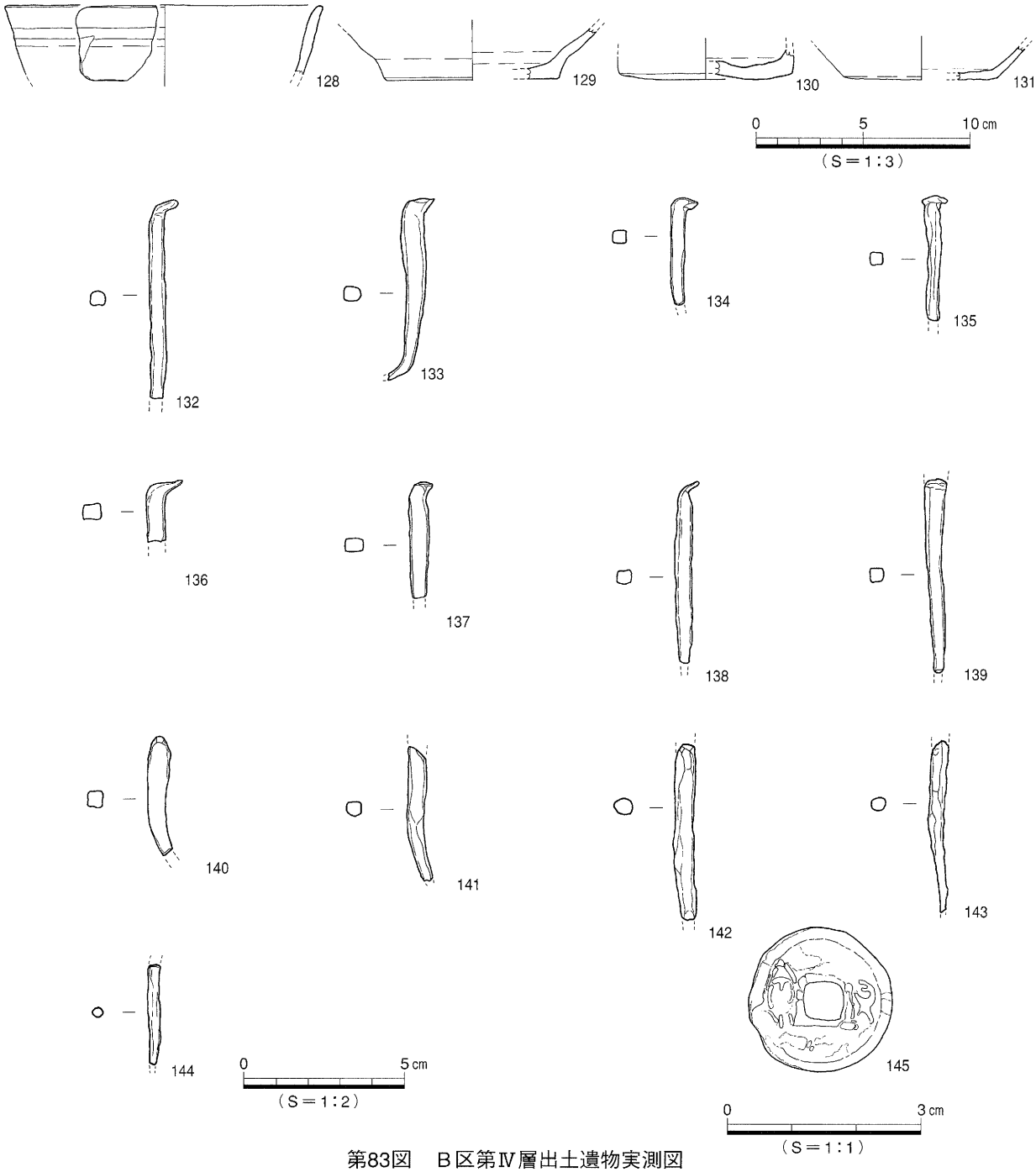
第82図　B区SD7出土遺物実測図（2）

（2）第Ⅳ層出土遺物（第83図、図版35）

土師器：128～131は坏である。128は内湾気味に立ち上がり、やや外反する口縁部下方に浅い凹みが2条巡る。129は平底の底部付近は外反する。130は平底の底部中央部はやや上げ底となる。131は平底の底部より内湾気味に立ち上がる。

金属製品：132～144は鉄製の釘である。132～138は先端部は欠失する。132～137は頭部断面が逆「L」字状を呈し、138は先細りした頭部断面は緩やかに逆「L」字状を呈する。132～138共に体部断面は方形を呈す。139～144は頭部・先端部は欠失する。139～142は体部断面は方形、143・144は体部断面が楕円形状を呈する。

銭貨：145は試掘調査時に第Ⅳ層から出土した貨泉である。銅銭であり、外径22.5㎜を測る。



第83図　B区第Ⅳ層出土遺物実測図

5．小　結

今回の調査では、大峰ヶ台丘陵西側の南斜面に広がる古墳時代から中世にかけての集落関連遺構を検出した（第84図）。

（1）古墳時代

古墳時代には、ＳＢ１・掘立１・ＳＤ２がある。

ＳＢ１は北西隅部だけの検出で、全容は不明である。緩斜面に立地し、水平に構築された床面に周壁溝が巡らされている。ＳＤ２は北側は後世の農耕に伴う削平を受け消滅してるが、ＳＢ１を囲む様に延びており、傾斜面の上側からＳＢ１に水等の進入を防ぐ役目をもつ施設とも考えられる。掘立１は柱穴や柱間の規模から比較的大型の掘立柱建物と考えられ、ＳＢ１と同軸を指向しており、これらの関係から時期差はあるが継続して集落が営まれていたと考えられる。大峰ヶ台の西側丘陵の裾部に近い傾斜面では、この時期の集落は確認されておらず、６世紀初頭から７世紀初頭にかけての集落が存在していたことを窺わせる資料が得られた。地形などからこの集落は、調査地南に広がる沖積低地部に展開することが考えられる。

（2）古　代

古代には、掘立２～４、ＳＤ３・４がある。

掘立２～４は調査区外に延びているために全体の規模は不明であるが、掘立３・４と掘立２の柱穴径は異なり、掘立３・４は柱穴の規模が小さいのに対し、掘立２は柱穴が大きく柱間も広い。掘立２は大型の掘立柱建物といえる。なお、掘立２は出土した遺物から10Ｃ代と考えられ、掘立４は掘立２よりも新しく、掘立３は掘立２との配置から前後関係は分からない。掘立４のＰ３内から重なって検出した扁平な石は根石として使われたものと考えられる。ＳＤ３は東西方向が直線を指向し、南へ曲がる溝で、ＳＤ４も同様に曲がっており、これらの溝は、集落に伴う施設として機能が考えられる。これらのことから、９世紀から10世紀にかけて集落の存在が確認できた。

（3）中　世

中世には、ＳＤ１・５～７がある。

ＳＤ１は上～下層から出土した土器から察すると、短時間に溝が埋没したことが窺えられる。また、溝の性格はその形状より集落を区画する施設と考えられる。溝の掘り方には特徴がみられ、溝の内側の上場が外側のものに比べ40～50cm低く、緩斜面を水平にする。

ＳＤ５～７は東西方向に延び、このうちＳＤ５は東側から北に振る。現段階ではこれらの溝の性格は判断できず、今後の周辺の調査に期待したい。

これらの遺構は、南の沖積低地部にある古照地区周辺に広がる中世集落が、丘陵の緩斜面にまで広がることを示す資料になる。

さて、試掘調査時にＢ区西壁の第Ⅳ層中から出土した貨泉は、中世の堆積層に包含されていたものである。しかしながら、松山平野では２例目の出土であり、貴重な資料となる。

以上の調査結果より、大峰ヶ台南西丘陵の緩斜面部には、古墳時代から中世にかけての集落が形成されていたことが判明した。今後は、各期の集落範囲や構成を明らかにし、周辺の古照遺跡との比較検討をする必要がある。

第84図　時代別遺構配置図

【参考文献】

上田　真　「南江戸鬮目遺跡」『松山市文化財調査報告書　第22集』松山市教育委員会・松山市立埋蔵文化財センター1991

栗田正芳　「古照遺跡－第７次調査－」『松山市文化財調査報告書　第38集』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1994

栗田正芳　「古照遺跡－第８・９次調査－」『松山市文化財調査報告書　第53集』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1996

栗田正芳編　「古照遺跡－第10・11次調査－」『松山市文化財調査報告書　第47集』松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター1995

遺構・遺物一覧

(1) 以下の表は遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 遺物観察表の各記載について。

法量欄（ ）　：復元推定値

形態・施文欄：土器の各部位名称を略記。

例）口→口縁部、頸→頸部、肩→肩部、底→底部

胎土・焼成欄：胎土欄では混和剤を略記した。

例）砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土

（ ）内の数値は混和剤粒子の大きさを示す。(単位：㎜)

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表52　竪穴式住居址一覧

竪穴(SB)	時期	平面形	規模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	埋土	床面積(㎡)	主柱穴(本)	内部施設				周壁溝	備考
							高床	土坑	炉	カマド		
1	6C初頭	方形	1.3以上×1.3以上×0.17	黒褐色土	1.69以上						○	SD1に切られる。

表53　掘立柱建物址一覧

掘立	規模(間)	方向	桁行		梁行		方位	床面積(㎡)	時期	備考
			実長(m)	柱間寸法(m)	実長(m)	柱間寸法(m)				
1	1以上×1以上	不明	2.2以上	2.2	1.7以上	1.7	N－4°－W	3.74以上	7C初頭	調査区外に延びる。
2	3以上×1以上	不明	5.2	1.3	2.2以上	2.2	N－29°－E	11.44以上	10C	掘立4・SD1に切られる。
3	2以上×2以上	不明	3.0	1.2～1.8	2.0	0.9～1.3	N－50°－E	6.0以上	古代	調査区外に延びる。
4	2×1以上	不明	4.24	2.1～2.15	2.1以上	2.0～2.1	N－3°－E	8.9以上	10C以降	掘立2・3を切る。

表54　溝一覧

溝(SD)	地区	断面形	規模(m) 長さ×幅×深さ	方向	埋土	出土遺物	時期	備考
1	B・1～3	逆台形状	7.5×2.5×0.6	東西～南北	灰褐色土	須恵・土師・瓦器 陶器・石製品	14C	SD2を切り、床面からSD3・4を検出した。
2	A～B・1	レンズ状	2.5×0.15～0.28×0.09	南北	黒褐色土	土師	6C初頭	SD1に切られる。
3	B・2～4	U字状	6.0×0.3 ～0.4×0.4	東西～南北	暗褐色土	土師	9C	SD4を切る。
4	B・3	レンズ状	2.0×0.5 ～0.7×0.2	東西～南北	暗褐色土	土師	9C以前	SD3に切られる。
5	B～C・9～10	U字状	4.7×0.35～0.5×0.14	東西	灰褐色土	土師	13～14C	調査区外に延びる。
6	C・8～9	レンズ状	4.3×0.3 ～0.7×0.07	東西	暗灰褐色土	土師	13～14C	調査区外に延びる。
7	C・8～9	レンズ状	3.8×1.2 ～1.5×0.17	東西	灰褐色土	須恵・土師・磁器	13～14C	調査区外に延びる。

表55　土坑一覧

土坑(SK)	地区	平面形	断面形	規模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積(㎡)	埋土	出土遺物	時期	備考
1	A・2	楕円形	皿状	1.36×0.93×0.07	1.04	暗灰色土	ナシ	近現代	掘立3・4を切る
2	A・1	長方形	皿状	1.75×0.75×0.03	1.30	暗灰色土	ナシ	近現代	掘立3を切る

表56　SB1出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
1	坏蓋	口径(13.6) 残高 1.7	口縁端部は内傾する面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
2	坏蓋	稜径(14.4) 残高 1.3	垂れ下がる短い稜をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
3	甕	口径(17.7) 残高 4.3	「く」の字状の口縁部に端部は平らな面をなす。	㊐ヨコナデ ㊒ハケメ	㊐マメツ ㊒ハケメ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長 ◎		
4	壺	残高 2.9	3条の下弦の重弧文を施す。	ナデ	マメツ	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石・長(1～2)		

表57　掘立1出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
5	坏蓋	口径(15.2) 残高　2.1	口縁端部は段をなす。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
6	坏蓋	口径(12.6) 残高　3.2	口縁部にかけて丸くなだらかなカーブを描き口縁端部を丸く仕上げる。	回転ナデ	回転ナデ	緑灰色 明オリーブ灰色	密 ◎		
7	坏身	稜径(16.4) 残高　2.0	受部は丸みをもち外方にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
8	坏身	稜径(15.4) 残高　2.1	受部は丸みをもち外方にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
9	坏身	稜径(15.8) 残高　1.7	受部は外方にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
10	甕	口径(18.4) 残高　2.4	外傾する口縁部。	マメツ	マメツ	橙色 にぶい橙色	石･長(1～2) ◎		
11	甕	口径(18.6) 残高　2.7	外傾する口縁部で端部は丸い。	マメツ	マメツ	灰色 灰色	石･長(1～4) ◎		
12	甕	口径(19.6) 残高　2.7	外傾する口縁部。	マメツ	マメツ	明褐色 黄橙色	石･長(1～4) ◎		
13	甕	口径(14.3) 残高　2.4	緩やかに内湾する口縁部。	ヨコハケ	ヨコハケ	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長（1） ◎		

表58　掘立2出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
14	坏	口径(11.9) 残高　3.1	内湾気味に立ち上がる。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐灰色 褐灰色	石･長(1) ◎		
15	坏	底径（9.0） 残高　1.4	円盤成形の平高台の底部。	㊞回転糸切り	ヨコナデ	灰白色 灰白色	密 △		32
16	坏	底径（8.2） 残高　1.2	平底の底部。	㊞回転糸切り	ヨコナデ	橙色 橙色	密 ○		
17	坏	底径（6.9） 残高　1.4	平底の底部より内湾気味に立ち上がる。	㊞回転糸切り	ヨコナデ	橙色 にぶい橙色	密 ○		

表59　掘立2出土遺物観察表　玉類

番号	器種	残存	材質	法量 厚み（cm）	法量 直径（cm）	法量 孔径（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
18	臼玉	一部欠損	滑石製	0.22	0.52	0.2	0.085	緑灰色	32
19	臼玉	一部欠損	滑石製	0.32	0.52	0.22	0.114	緑灰色	32

表60　SD3出土遺物観察表　土製品

（1）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
20	坏	口径(13.6) 残高　1.9	外傾する口縁部である。	マメツ	マメツ	乳白色 褐灰色	密 ○		

SD3出土遺物観察表　土製品

（2）

番号	器種	法量（cm）	形　態・施　文	調　整		色調（外面）（内面）	胎　土 焼　成	備考	図版
				外　面	内　面				
21	鉢	口径(36.4) 残高　8.0	胴部から縁部は内湾し、口縁端部は平らな面をなす。	ヨコナデ	ハケメ	橙色 黒褐色	石･長(1～3) ◎		32

表61　SD1上層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形　態・施　文	調　整		色調（外面）（内面）	胎　土 焼　成	備考	図版
				外　面	内　面				
22	坏	口径(11.0) 器高　3.6	平底の底部より内湾して立ち上がる。	マメツ ㊡回転糸切り	マメツ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石･長(1～3) ○		
23	坏	口径(10.9) 残高　3.6	平底の底部より外傾して立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石･長(1～5) ○		32
24	坏	口径(12.5) 器高　3.6 底径　7.4	口縁部下が若干厚く下胴部が僅かに内湾する。	㊡回転糸切り	マメツ	灰白色、黒褐色 灰白色、黒褐色	石(1～2) 砂(1～6) ○		32
25	坏	口径(11.0) 残高　2.65	やや上げ底の底部で口縁部が上方にのびる。	㊡回転糸切り	回転ナデ	灰色 灰色	石･長(2～4) ○		
26	坏	口径(10.9) 器高　2.9 底径　5.8	平底の底部で口縁部下に緩やかな稜をもつ。	㊡回転糸切り	マメツ	浅黄色 浅黄色	石（1～3） 砂 ◎		32
27	坏	口径(11.0) 残高　2.7	口縁部下が若干厚く下胴部が僅かに内湾する。	マメツ	マメツ	暗灰色 暗灰色	石･長(1～4) ○		32
28	皿	口径（8.4） 残高　1.6	平底の底部で口縁端部がやや外反する。	マメツ	マメツ	にぶい黄橙色 灰黄褐色	石･長(1～3) ○		
29	皿	口径　7.8 器高　1.4 底径　5.6	不安定な底部である。	㊡回転糸切り	マメツ	淡黄色 淡黄色	石(1～5) ○		32
30	皿	口径（8.6） 残高　1.1	平底の底部で器高が低い。	マメツ ㊡回転糸切り	回転ナデ	灰色 灰色	石･長(1～2) ○		
31	皿	口径（6.8） 残高　1.05	平底の底部で器高が低い。	回転ナデ ㊡回転糸切り	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
32	鍋	口径(40.6) 残高　2.2	口縁部が逆「ハ」の字状に屈曲し、端面は水平な面をなす。	ヨコナデ マメツ	マメツ	にぶい黄橙色 浅黄橙色	石･長(1～2) ◎		
33	土釜	口径(21.7) 残高　3.0	直立気味の口縁部に断面三角形状の貼付凸帯をもつ。	ヨコナデ マメツ	マメツ	黒褐色 黒褐色	石･長(1～4) ○		
34	土釜	口径(23.5) 残高　7.6	直立気味の口縁部に断面三角形状の貼付凸帯をもつ。	ヨコナデ	マメツ	にぶい黄橙色 にぶい赤褐色	石･長(0.5～3) ◎		
35	土釜	口径(20.4) 残高　3.6	内湾気味の口縁部に断面三角形状の貼付凸帯をもつ。	ヨコナデ	マメツ	にぶい褐色 にぶい褐色	石･長(1～4) ◎		
36	椀	底径（4.8） 残高　0.8	底部に断面三角形状の貼付高台をもつ。瓦器椀。	ナデ	ナデ ミガキ	青灰色 青灰色	密 ◎		
37	蓋	口径 17.2 残高　1.2	口縁部に屈曲をもち、端部は丸くおさまる。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰黄色	石(1) ○		
38	こね鉢	口径(29.5) 残高　2.9	口縁部は断面三角形状を呈する。東播系。	ヨコナデ	ナデ	青灰色 青灰色	石(1～2) 砂 ◎		

表62　SD1上層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				口径（cm）	残高（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
39	石鍋	口縁部の一部	滑石	(28.8)	5.0		280.50		32

表63　SD1中層出土遺物観察表　土製品

（1）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整		色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
40	坏	口径 13.8 残高 3.55	やや上げ底の底部に板圧痕がみられる。	回転ナデ	ナデ	浅黄橙色 灰白色	石・長（1～3） ○		
41	坏	口径 11.75 残高 3.2	平底の底部から外反気味に立ち上がり口縁部はやや内湾する。	回転ナデ ㊞回転糸切り	回転ナデ	暗灰黄色 暗灰黄色	石・長（1～2） ○		
42	坏	口径(11.4) 残高 3.2	平底の底部から外反気味に立ち上がり口縁部はやや内湾する。	マメツ ㊞回転糸切り	マメツ	灰白色 浅黄橙色	石・長（1～4） ○		
43	坏	口径(11.1) 残高 2.9	平底の底部から外反気味に立ち上がり口縁部はやや内湾する。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長（1～4） ○		
44	坏	口径(10.8) 残高 3.5	平底の底部に板圧痕がみられる。	マメツ 回転ナデ	マメツ	灰白色 浅黄橙色	石・長（1～4） ○		
45	坏	口径(11.4) 残高 3.0	平底の底部から外傾して立ち上がる。	マメツ ㊞回転糸切り	マメツ	淡黄色 淡黄色	石・長（1～2） ○		
46	土釜	口径(30.6) 残高 12.9	内湾する胴部に、口縁部は断面三角形状の貼付凸帯をもつ。	ハケメ 指頭痕	マメツ ヨコハケ	黒褐色 褐色	石・長（1～2） ◎		32
47	土釜	口径(32.2) 残高 5.5	内湾する胴部に、口縁部は断面逆台形状の貼付凸帯をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙色 明赤褐色	石・長（1～3） ◎		32
48	土釜	口径(18.8) 残高 9.1	内湾する胴部に、口縁部は断面逆台形状の貼付凸帯をもつ。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石・長（2～3） ◎		
49	土釜	口径(18.6) 残高 4.9	やや内湾する胴部に、口縁部は断面三角形状の貼付凸帯をもつ。	マメツ	マメツ	褐色 褐色	石・長（2～3） ◎		
50	土釜	口径(25.2) 残高 3.5	内湾する胴部に、口縁部は断面逆台形状の貼付凸帯をもつ。	ヨコナデ	指頭痕	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1） ◎		32
51	土釜	残高 4.0	内傾する口縁部は、断面逆台形状の貼付凸帯をもつ。	ヨコナデ マメツ	マメツ	にぶい橙色 にぶい橙色	石・長（1～2） ○		
52	土釜	残高 14.8	下方にのびる脚部である。	マメツ	マメツ	明赤褐色 黒褐色	石・長（1～5） ◎		32
53	こね鉢	口径(23.5) 残高 2.5	口縁部は断面三角形状を呈する。東播系。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 明緑灰色	密 ◎		
54	碗	口径(16.1) 器高 6.2 底径 (5.8)	底部に削り出し高台をもち、胴部外面に蓮弁文が施される。	施釉	施釉	にぶい黄色 灰オリーブ色 にぶい黄色	密 ◎		33
55	碗	口径(12.8) 残高 0.8	外傾する口縁部の端部は外反する。	ヨコナデ 緑釉	ヨコナデ	灰オリーブ色 オリーブ灰色	密 ◎		
56	椀	口径(14.7) 残高 4.2	内湾気味に立ち上がり口縁部はやや外反する。瓦器椀。	ヨコナデ 指頭痕	ミガキ	灰色 灰色	密 ◎		33

SD1中層出土遺物観察表　土製品

（2）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
57	椀	底径（3.8） 残高　0.8	底部に断面四角形の貼付高台をもつ。瓦器椀。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	密 ○		

表64　SD1下層出土遺物観察表　土製品

（1）

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
58	坏	口径(13.7) 残高　3.35	平底の底部から外傾して立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ マメツ	灰黄褐色 灰白色	石･長(1～3) ○		
59	坏	口径(12.8) 器高　3.8	内湾して立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄色 淡黄色	石(1～3) ○		
60	坏	底径（9.6） 残高　3.6	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石･長(1～3) ○		
61	坏	口径 11.7 残高　3.4	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。	回転ナデ ㊞回転糸切り	ナデ	浅黄橙色 灰白色	石・長（2） 金 ○		
62	坏	口径(14.0) 残高　3.75	やや上げ底の底部から内湾気味に立ち上がる。	マメツ	ナデ 回転ナデ	灰白色 灰白色	石･長(1～3) ○		
63	坏	口径(12.9) 残高　3.45	内湾して立ち上がる胴部をもつ。	マメツ	マメツ	灰黄褐色 灰黄褐色	石･長(2) ○		
64	坏	口径(11.8) 残高　3.55	平底の底部から外反気味に立ち上がり口縁部はやや内湾する。	マメツ	マメツ	にぶい黄橙色 灰白色	長(1) ○		
65	坏	口径(12.0) 残高　2.1	外傾する胴部から口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 灰白色	石(1～2) △		
66	皿	口径（8.1） 残高　1.75	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。	回転ナデ マメツ	ナデ	にぶい橙色 にぶい橙色	石･長(1) 金 ○		
67	皿	口径（6.1） 残高　1.55	平底の底部から内湾して立ち上がり、口縁端部はやや外反する。	回転ナデ ㊞回転糸切り	回転ナデ	灰白色 灰白色	石･長(1) ○		
68	皿	口径（7.0） 残高　1.0	内湾して立ち上がり、器高は低い。	マメツ ㊞回転糸切り	マメツ 回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		
69	皿	口径（6.6） 残高　1.1	やや上げ底の底部である。	回転ナデ ㊞回転糸切り	ナデ 回転ナデ	浅黄橙色 浅黄橙色	石･長(1) ○		
70	土釜	口径(32.9) 残高　3.1	直立気味の口縁部に断面三角形状の貼付凸帯がつく。	ヨコナデ マメツ	マメツ	褐色、暗褐色 褐色、暗褐色	石(1～2) 砂 ◎		
71	土釜	口径(32.9) 残高　3.3	内傾する口縁部に、下膨れの断面三角形状の貼付凸帯がつく。	ヨコナデ マメツ	ヨコナデ	暗灰色 暗灰色	石･長(1～5) ○		
72	土釜	口径(22.6) 残高　7.9	やや内湾する口縁部に断面逆台形状の貼付凸帯をもつ。	ヨコナデ	ヨコハケ	橙色 橙色、暗褐色	石･長(0.5～4) ◎		
73	土釜	残高　2.6	口縁部に下膨れの断面三角形状の貼付凸帯をもつ。	ヨコナデ	指頭痕	にぶい橙色 にぶい黄橙色	石･長(1～2) ○		
74	土釜	残高 12.0	瓦質の脚部である。	ナデ	ナデ	灰白色 灰色	石･長(1～5) ◎		

SD1下層出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
75	土釜	残高 14.0	断面円形の脚部である。	ナデ	ハケメ	褐色、黒色 にぶい橙色	石・長（1～3） ◎		
76	不明	底径（7.2） 器高（5.3）	平底の底部からくびれをもち外反する。	マメツ、ナデ ㊞回転糸切り痕	ナデ	淡黄色 淡黄色	◎		
77	竈	廂部径(17.0) 残高（12.3）	廂部は斜め上方向に伸び、端部を丸く仕上げ、曲げ廂となる。	ナデ 指頭痕 マメツ	ヨコハケ マメツ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	石・長（1～7） ◎		33
78	竈	廂部径(36.0) 残高　10.8	廂部は斜め上方向に伸び、端部を丸く仕上げ、曲げ廂となる。	ナデ ハケメ	ヨコナデ	橙色	石・長（1～3） ◎		33
79	こね鉢	口径(31.6) 残高　2.6	断面三角形状の口縁部をもつ。東播系。	ヨコナデ	ヨコナデ	明緑灰色 明緑灰色	密 ◎		33
80	不明	底径（7.3） 残高　6.1	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。器壁は厚い。須恵器。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色 灰色	密 ◎		
81	坏	底径（7.6） 残高　2.7	平底の削り出し高台をもつ。須恵器。	マメツ 回転ナデ	マメツ	灰白色 灰白色	砂 △		
82	碗	口径(14.6) 残高　2.4	胴部外面に蓮弁文。青磁。	施釉	施釉	浅緑色 浅緑色	密 ◎		

表65　SD1下層出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
83	砥石	両端のみ欠失	石英粗面岩	7.2	3.6	2.0	101.26		

表66　SD1下層出土遺物観察表　鉄製品

番号	器種	残存	材質	色	法量 長さ（cm）	法量 幅（cm）	法量 厚さ（cm）	法量 重さ（g）	備考	図版
84	釘	頭部～体部	鉄	褐色	5.15	0.60	0.50	5.82		33
85	釘	体部	鉄	暗褐色	4.70	0.67	0.63	4.61		33
86	釘	体部	鉄	暗褐色	4.20	0.49	0.47	2.69		33
87	釘	体部	鉄	暗褐色	3.28	0.48	0.43	3.01		33

表67　SD5出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
88	坏	口径(12.1) 器高　2.6	口縁部付近に2条の凹線が施される。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄色、褐灰色 浅黄色、褐灰色	石・長（1） ○		
89	坏	口径(11.4) 器高　2.9 底径　7.4	底部に板状圧痕がみられる。	ヨコナデ ㊞回転糸切り	ヨコナデ	乳黄色 乳黄色、褐灰色	石（1～4） ○		
90	坏	口径(11.2) 器高　3.0 底径　7.5	底部に板状圧痕がみられる。	ナデ	ナデ	乳白色 乳白色	密 ◎		

SD5出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
91	坏	口径(10.8) 器高 3.3 底径 (7.1)	底部に板状圧痕がみられる。	ヨコナデ (底)回転糸切り	ヨコナデ	乳黄色 乳黄色	石(1) ○		
92	坏	口径(11.3) 器高 2.7 底径 (8.0)	平底の底部から外傾して立ち上がる。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
93	坏	口径(10.9) 器高 2.3 底径 (6.8)	底部に板状圧痕がみられる。	マメツ	マメツ	淡黄色 淡黄色	石(1～2) △		
94	坏	口径(11.1) 器高 2.4 底径 (6.5)	平底の底部から外反気味に立ち上がり口縁部はやや内湾する。	ヨコナデ (底)回転糸切り	ヨコナデ	乳黄色 乳黄色	石(1～2) △		

表68　SD6出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
95	坏	底径 (7.6) 残高 1.4	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
96	坏	底径 (6.5) 残高 1.0	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。	ナデ	ナデ	淡黄色 灰黄色	密 ◎		
97	坏	底径 (6.0) 残高 1.2	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		

表69　SD7出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
98	坏	口径(13.9) 器高 3.9	口縁部の一部を除いた内外面の全域にて黒斑がみられる。	マメツ	マメツ	黒色、灰褐色 黒色、灰褐色	石(1) 砂 ◎		34
99	坏	口径(12.3) 残高 3.7 底径 (6.0)	底部に板状圧痕がみられる。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
100	坏	口径(11.2) 器高 3.4 底径 6.4	やや上げ底の底部。	ヨコナデ 指頭痕 (底)回転糸切り	ヨコナデ 指頭痕	淡黄色 淡黄橙色	石・長(1～6) 砂 ○		
101	坏	口径(11.4) 器高 3.0 底径 6.8	やや上げ底の底部。	ヨコナデ (底)回転糸切り	マメツ	淡黄橙色 淡黄橙色	石・長(1) 砂 △		
102	坏	口径(11.5) 残高 2.5 底径 (7.0)	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。	ナデ	ナデ	乳白色 乳白色	密 ◎		34
103	坏	口径(11.3) 器高 3.2 底径 (6.8)	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。	ヨコナデ	マメツ	淡黄色 淡黄色	砂 △		
104	坏	残高 2.4 底径 7.2	やや上げ底の底部。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		
105	坏	口径(10.7) 器高 2.6 底径 6.9	平底の底部から外傾して立ち上がり口縁部がやや内湾する。	マメツ	マメツ	淡橙色、淡黄色 淡橙色、淡黄色	石・長(1～2) △		
106	坏	口径(11.1) 器高 2.9 底径 (6.1)	平底の底部から内湾気味に立ち上がる。	マメツ (底)回転糸切り	マメツ	灰黄色 淡黄色	砂 ○		

SD7出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
107	坏	口径(10.8) 器高 2.8 底径 (6.5)	内面に煤けがみられる。	マメツ	マメツ	灰白色、暗灰色 灰白色、暗灰色	石(1～2) 砂 △		34
108	坏	口径(10.5) 残高 3.2 底径 (6.1)	やや上げ底の底部。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石･長(1～2) ◎		34
109	皿	口径 (8.4) 器高 1.1 底径 (7.3)	平底の底部で器壁が厚く器高が低い。	ヨコナデ マメツ	ヨコナデ	黄橙色 黄橙色	密 ○		
110	皿	口径 (7.4) 器高 1.2 底径 (5.8)	平底の底部から内湾し立ち上がる。	マメツ	マメツ	淡黄橙色 淡黄橙色	密 △		
111	皿	口径 (6.2) 残高 1.2 底径 (4.6)	平底の底部付近に1条の沈線がみられる。	ナデ	ナデ	淡黄色 淡黄色	密 ◎		
112	皿	口径 6.2 器高 1.1 底径 4.2	やや上げ底の底部から内湾に立ち上がる。	マメツ	マメツ	淡黄色 淡黄橙色	石･長(1～5) 砂 ○		34
113	壺	口径(17.4) 残高 4.5	頸部は外反し、口縁部が上方にのびる。	ナデ	ナデ マメツ	明赤褐色 明褐色	石･長(1) ○		
114	釜	残高 4.7	内湾して立ち上がり口縁部に断面逆台形状の貼付凸帯をもつ。	マメツ	マメツ	灰黄色 灰黄色	密 △		34
115	鍋	口径(46.6) 残高 2.5	外反する口縁部の端面は平らで3条の沈線がみられる。	ナデ	ナデ	黄灰色 黄灰色	石(1) ◎		
116	甕	口径(21.3) 残高 4.0	外反する口縁部の端部は丸くおさまる。	ナデ	ナデ	暗灰色 暗灰色	石･長(1～4) ◎		
117	壺	口径(15.9) 残高 4.7	外反する口縁部に端部は肥厚される。須恵器。	カキ目	ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
118	坏蓋	つまみ径 2.3 残高 1.1	扁平なつまみをもつ。須恵器	ナデ	ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
119	こね鉢	口径(28.3) 残高 3.6	口縁部は断面三角形状を呈する。東播系。	ナデ	ナデ	暗青灰色 青灰色	密 ◎		34
120	こね鉢	口径(25.3) 残高 2.3	口縁部は断面三角形状を呈する。東播系。	ナデ	ナデ	灰色 明緑灰色	密 ◎		34
121	こね鉢	口径(26.3) 残高 2.9	口縁部は丸みをもつ断面三角形状を呈する。東播系。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色 灰色	密 ◎		34
122	こね鉢	口径(22.0) 残高 3.4	口縁部は断面三角形状を呈し、内面はやや凹む。東播系。	ヨコナデ	ヨコナデ	明緑灰色 明オリーブ灰色	密 ◎		34
123	こね鉢	残高 2.2	口縁端部は平らな面をなす。東播系。	ナデ	ナデ	灰色 灰色	石･長(1～5) ○		
124	碗	口径 (8.4) 残高 2.1	口縁端部の平らな面と端部内側には施釉が施されていない。青磁。	施釉	施釉	淡オリーブ灰色 灰色	密 ◎		34
125	碗	残高 1.5 底径 (5.1)	内面の底部と胴部の境に沈線状の凹みがある。	施釉	施釉	灰色 灰色	密 ◎		

表70　SD7出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
126	石皿	2／5	凝灰岩	8.7	9.5	1.9	208.17		
127	剥片		赤色チャート	3.0	1.9	0.6	3.29		

表71　B区第Ⅳ層出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量（cm）	形態・施文	調整		色調（外面）（内面）	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
128	坏	口径(14.6) 残高　3.3	内湾気味に立ち上がり口縁はやや外反する。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙色 にぶい黄橙色	石･長(1) ◎		
129	坏	底径（8.0） 残高　2.2	平底の底部付近は外反する。	マメツ	マメツ	橙色 橙色	石･長(1～3) ◎		
130	坏	底径（8.2） 残高　1.1	底部中央部はやや上げ底である。	マメツ	マメツ	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	石･長(1～2) ◎		
131	坏	底径（7.2） 残高　1.4	平底の底部より内湾気味に立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ◎		

表72　B区第Ⅳ層出土遺物観察表　鉄製品

番号	器種	残存	材質	色	法量				備考	図版
					長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）		
132	釘	頭部～体部	鉄		6.30	0.50	0.43	3.290		35
133	釘	頭部～体部	鉄		5.75	0.56	0.47	4.273		35
134	釘	頭部～体部	鉄		3.35	0.43	0.41	1.623		35
135	釘	頭部～体部	鉄		3.93	0.40	0.40	1.808		35
136	釘	頭部～体部	鉄		2.00	0.57	0.46	1.300		35
137	釘	頭部～体部	鉄		3.68	0.57	0.40	2.292		35
138	釘	頭部～体部	鉄		5.72	0.53	0.41	2.906		35
139	釘	体部	鉄		6.10	0.43	0.47	3.216		35
140	釘	体部	鉄		3.80	0.52	0.55	3.047		35
141	釘	体部	鉄		4.30	0.49	0.45	2.196		35
142	釘	体部	鉄		5.55	0.56	0.48	3.140		35
143	釘	体部	鉄		5.45	0.45	0.41	1.525		35
144	釘	体部	鉄		3.20	0.38	0.32	0.702		35

表73　B区第Ⅳ層出土遺物観察表　銭貨

番号	銭名	初鋳年	銭径（mm）	孔径（mm）	外縁厚（mm）	内側厚（mm）	重量（g）	図版
145	貨泉		22.5	6.3	1.1	0.9	0.447	35

第４章　松山市客谷古墳群出土の古墳人骨

松下　孝幸*

【キーワード】：愛媛県、古墳人骨、保存不良

はじめに

愛媛県松山市南江戸６丁目に所在した大峰ヶ台遺跡の第３次調査地が、1986年（昭和61年）から翌87年までおこなわれ、客谷古墳群の４号墳と６号墳から人骨が出土した。

愛媛県から出土した古墳人骨のうち筆者が調査や研究にかかわったものは、今治市相の谷古墳群（松下・他1995）、今治市二の谷２号墳（松下、2000）、今治市馬島長山１号墳（松下、2001）、松山市宮前川北斎院遺跡（松下、1998ｂ）、伊予市の猪の窪古墳から出土した人骨だけである。また、弥生時代から古墳時代にかけての人骨としては伊予市の原池遺跡の石棺出土の熟年の女性骨がある（松下、1998ａ）が、古墳人骨の調査例は少なく、愛媛県内での特徴を明確にできない状況である（第85図）。

本遺跡の客谷古墳群から人骨が出土しているが、骨質の崩壊が進んでおり、人骨の残存状態は悪いものであった。しかし、本県の古墳人の特徴を明らかにするためにも、残存していた人骨の人類学的研究は必要である。取り上げられていた人骨を解剖学的に精査し、人類学的観察をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資　料

大峰ヶ台遺跡の第３次調査で客谷４号墳Ａ石室と６号墳Ａ石室から人骨が検出されたが、後者から検出された人骨は少量であった。人骨はすべて番号を付けて取り上げられていた。表75には袋ごとの所見と人骨番号（骨番号）を記載した。

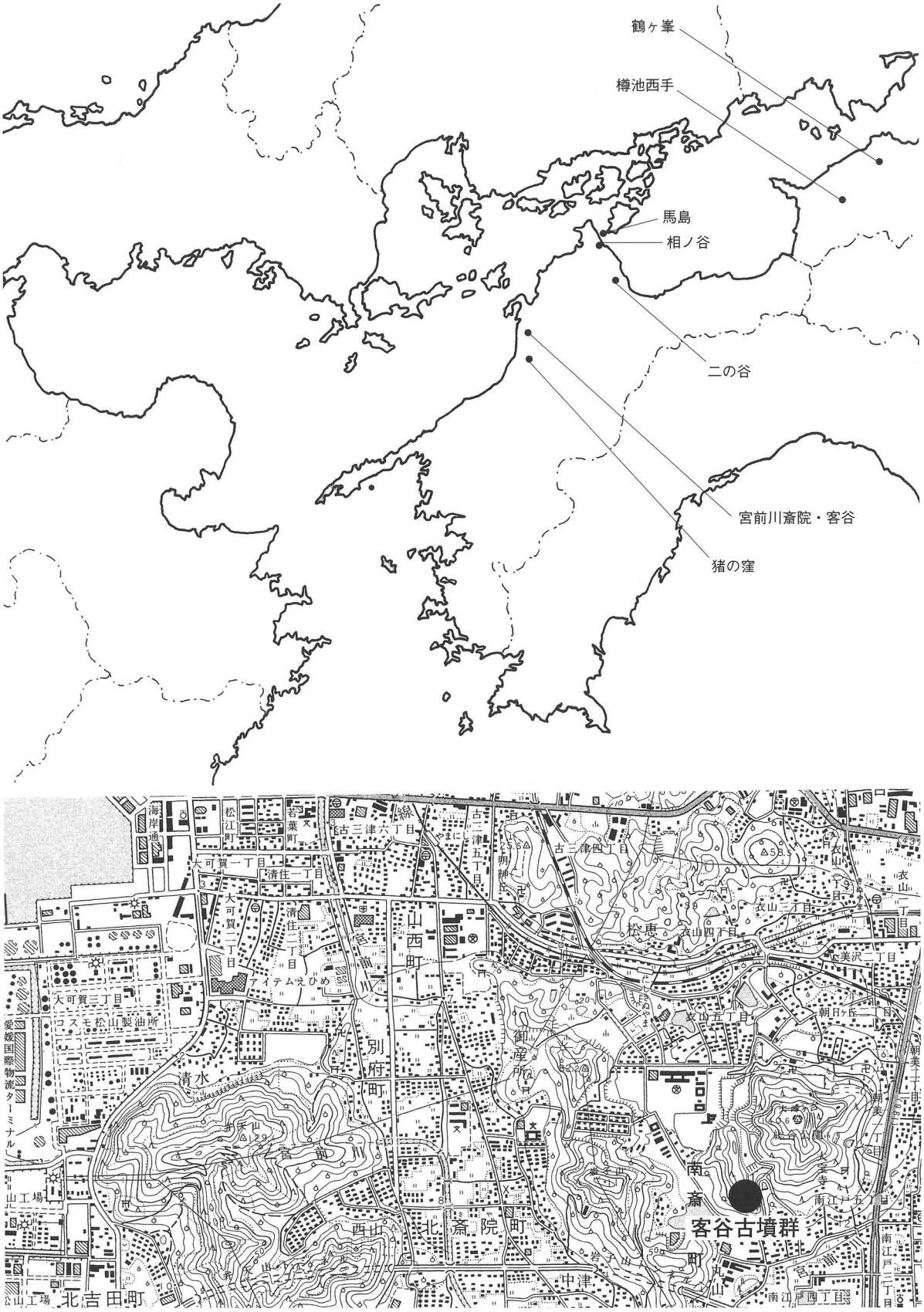
表74　資料数（Table 74. Number of materials）

	成人			幼小児	合計
	男性	女性	不明		
４号墳	2	2	1	0	5
６号墳	0	0	1	0	1

４号墳Ａ石室から出土した人骨の量はそれほど多くはない。頭蓋は、形をなしているものは１例（SK-1）にすぎない。歯冠片はかなりみられたが、いずれも破砕を受けた細片のみで、歯種を同定できるものはない。従って、歯の種類と数で被葬者の体数を推測することはできなかった。四肢骨は細片が多く、細片は骨種の同定ができず骨種を同定できたものは大腿骨のみであった。大腿骨は合計７本確認できた。そのうち右側は２本（FE-6,7）で、左側は３本（FE-1,2,3）、左右を判別できないものが２本（FE-4,5）である。右側２本と左側３本は対をなさないので、大腿骨からの体数は少なくとも５体ということになるが、多く見積もれば７体である。右側２本のうち１本は男性、残りの１本は

＊ Takayuki　MATSUSHITA

The Doigahama Site Anthropological Museum〔土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム〕



第85図　遺跡の位置（1/25,000）（Fig.85 Location of the Kyakutani tumuli,Matsuyama City,Ehime Prefecture）

性別不明で、左側３本のうち１本は男性、残り２本は女性である。従って、５体のうち、男性と女性がそれぞれ２体ずつで、性別不明が１体である（表74）。すなわち、４号古墳には大腿骨から推測すれば、少なくとも５体、多ければ７体が埋葬されたと推測される。また、６号墳Ａ石室からは四肢骨の細片が検出されたにすぎない。この骨片から被葬者の体数を推測することは不可能であるが、骨片が出土したことから、少なくとも１体は確認できたことになる。

従って、今回検出された人骨は合計で少なくとも６体、多ければ８体ということになる。

所　見

１．４号墳Ａ石室出土人骨

４号墳から出土した人骨のうち、骨種を同定できた骨について記載しておきたい。

ＳＫ－１（性別不明、壮年）

脳頭蓋の一部である。骨壁は薄い。冠状縫合の観察ができたが、まだ内外両板は開離している。性別は不明であるが、冠状縫合の内外両板が開離していることから、壮年と思われる。

ＦＥ－１（左・男性）

左側骨体の近位部が残存していた。計測はできないが、骨体横径は小さく、矢状径は大きく、また骨体の両側面は後方へよく発達しており、柱状を呈している。また、粗線もよく発達している。骨体上部の扁平性は弱い。骨体の径はそれほど大きいものではないが、骨体両側面が後方へ発達し、粗線の発達も良好なことから、性別を男性と推定した。

ＦＥ－２（左・女性）

左側骨体の近位部の一部である。殿筋粗面の発達はよくない。また、計測はできないが、骨壁は厚いものの径はかなり小さいようである。

性別は、骨体の径がかなり小さそうなので、女性と推定した。

ＦＥ－３（左・女性）

左側骨体の遠位部である。計測はできないが、観察したところ、径は大きくない。性別は骨体の径が小さいことから、女性と推定した。

ＦＥ－４（左右不明・性別不明）

左右不明の大腿骨体の一部である。計測はできないし、観察によっても大きさを推測できない。色調と骨質からＦＥ－３と対をなすかもしれない。性別は不明である。

ＦＥ－５（左右不明・男性）

左右不明の大腿骨体の一部である。骨壁はかなり厚い。男性大腿骨の可能性が強いが、大きさは不明である。

ＦＥ－６（右・男性）

右側大腿骨の遠位部と近位部であるが、いずれも後面のみで計測はできない。観察したところ、骨壁は厚く、径は大きい。性別は、骨体の径が大きいことから、男性と推定した。

ＦＥ－７（右・性別不明）

大腿骨体中央部である。右側の可能性が強い。骨体は横径が矢状径よりもかなり大きく、骨体は横広の楕円形を呈している。粗線の発達はあまりよくない。性別は不明である。

２．６号墳Ａ石室出土人骨

Ｙ－１（性別・年齢不明）

６号墳Ａ石室から検出されたのは四肢骨の細片４片のみである。番号を「Ｙ-１」とした。骨壁の厚さなどから前腕の骨（橈骨、尺骨）の一部と思われる。成人骨と思われるが、性別・年齢は不明である。

要　約

愛媛県松山市南江戸６丁目にあった大峰ヶ台遺跡の第３次調査が、1986年と87年におこなわれ、客谷古墳群の４号墳と６号墳から人骨が出土した。人骨を解剖学的に精査し、人類学的観察をおこない、以下の結果を得た。

１．人骨は４号墳と６号墳から検出されたが、いずれも保存状態がかなり悪く、計測できる人骨はなかった。

２．これらの人骨は、考古学的所見から、古墳時代に属する人骨である。

３．４号墳からは１体分の頭蓋片の他に歯冠片、四肢骨片が検出された。頭蓋は脳頭蓋の一部のみで、頭型や顔面の形態は不明である。

４．四肢骨も細片が多く、同定ができたのは大腿骨のみである。大腿骨は７本存在し、そのうち右側は２本で、左側は３本、左右を判別できないものが２本あった。大腿骨から被葬者は５体～７体と推測される。

５．男性の大腿骨には、径は大きくはないが、柱状性を呈し、粗線の発達も良好なものがみられた。女性の大腿骨はやや小さい。

６．６号墳からは四肢骨の細片が検出されたにすぎない。

謝　辞

≪擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた財団法人松山市生涯学習振興財団・松山市考古館および埋蔵文化財センターの皆様に感謝致します。≫

≪参考文献≫

1．松下孝幸・他、1995：愛媛県今治市相の谷古墳群出土の古墳時代人骨。相の谷古墳群杉谷支群埋蔵文化財発掘調査報告書（埋蔵文化財発掘調査報告書第57集）：41-54.

2．松下孝幸、1998ａ：愛媛県伊予市原池遺跡出土の人骨。四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書XII伊予市編：175-180.

3．松下孝幸、1998ｂ：愛媛県松山市宮前川北斎院遺跡出土の古墳時代人骨。斎院・古照-新松山空港道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告書（遺物編）：525-531.

4．松下孝幸、2000：愛媛県今治市二の谷２号墳出土の古墳時代人骨。旦遺跡・宮之前遺跡・長沢石打遺跡・長沢１号墳・長沢６号墳・二の谷２号墳・鋏又古墳群・郷桜井西塚古墳（一般国道196号今治バイパス埋蔵文化財調査報告書Ⅳ）（埋蔵文化財発掘調査報告書第87集）：232-249.

5．松下孝幸、2001：香川県坂出市鶴ヶ峰古墳出土の人骨。坂出市内遺跡発掘調査報告書（平成12年度国庫補助事業報告書　鶴ヶ峰古墳、讃岐国府跡（開法寺遺跡）、讃岐国府跡）：27-48.

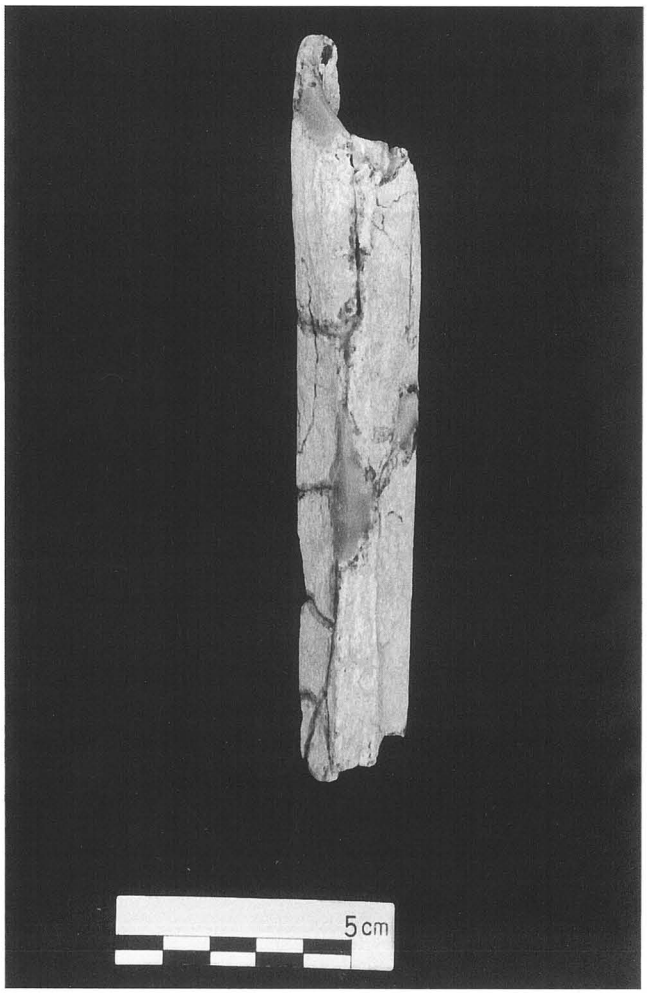
6．松下孝幸、愛媛県今治市馬島長山１号墳出土の古墳人骨。（投稿中）

7．松下孝幸、香川県善通寺市樽池西手山頂３号墳出土の古墳人骨。（投稿中）

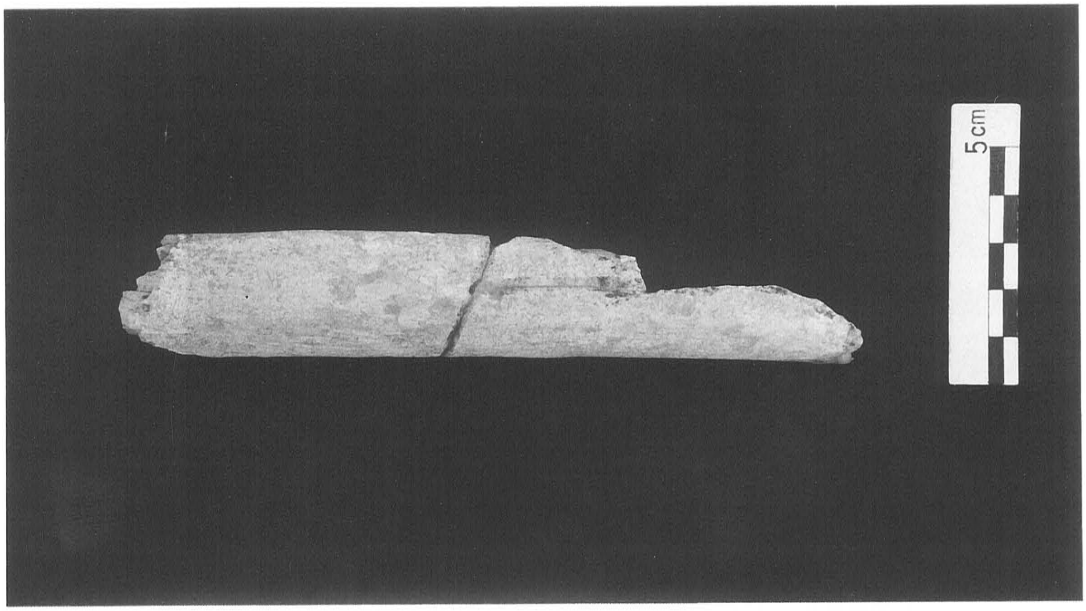
表75　人骨一覧（Table 75.　List of skeletons）

袋番号	出土地点	人骨の部位	人骨番号
1	4号墳A地点	骨片、骨粉	
2	4号墳A地点	歯冠片	
3	4号墳A地点	歯冠	
4	4号墳A地点	四肢骨片	
5	4号墳A地点	土塊	
6	4号墳A地点	骨粉	
7	4号墳A地点	大腿骨（左）	FE-1
8	4号墳A地点	四肢骨片	
9	4号墳A地点	四肢骨片	
10	4号墳A地点	四肢骨片	
11	4号墳A地点	四肢骨片	
12	4号墳A地点	骨片	
13	4号墳A地点	四肢骨片	
14	4号墳A地点	四肢骨片	
15	4号墳A地点	土塊	
16	4号墳A地点	四肢骨片	
17	4号墳A地点	四肢骨片	
18	4号墳A地点	土塊	
19	4号墳A地点	土塊	
20	4号墳A地点	四肢骨片	
21	4号墳A地点	歯冠片	
22	6号墳A地点	四肢骨片	
23	4号墳A地点	四肢骨片、歯冠片	
24	4号墳A地点	四肢骨片	
25	4号墳A地点	四肢骨片	
26	4号墳A地点	四肢骨片	
27	4号墳A地点	四肢骨片	
28	4号墳A地点	頭蓋片、大腿骨(左)	SK-1,FE-2
29	4号墳A地点	大腿骨(左)	FE-3,FE-4
30	4号墳A地点	四肢骨	
31	4号墳A地点	大腿骨	FE-5
32	4号墳A地点	歯冠片	
33	4号墳A地点	歯冠片	
34	4号墳A地点	四肢骨片	
35	4号墳A地点	四肢骨片、歯冠片	
36-1	4号墳A地点	大腿骨（右）	FE-6
36-2	4号墳A地点	大腿骨（右）	FE-7

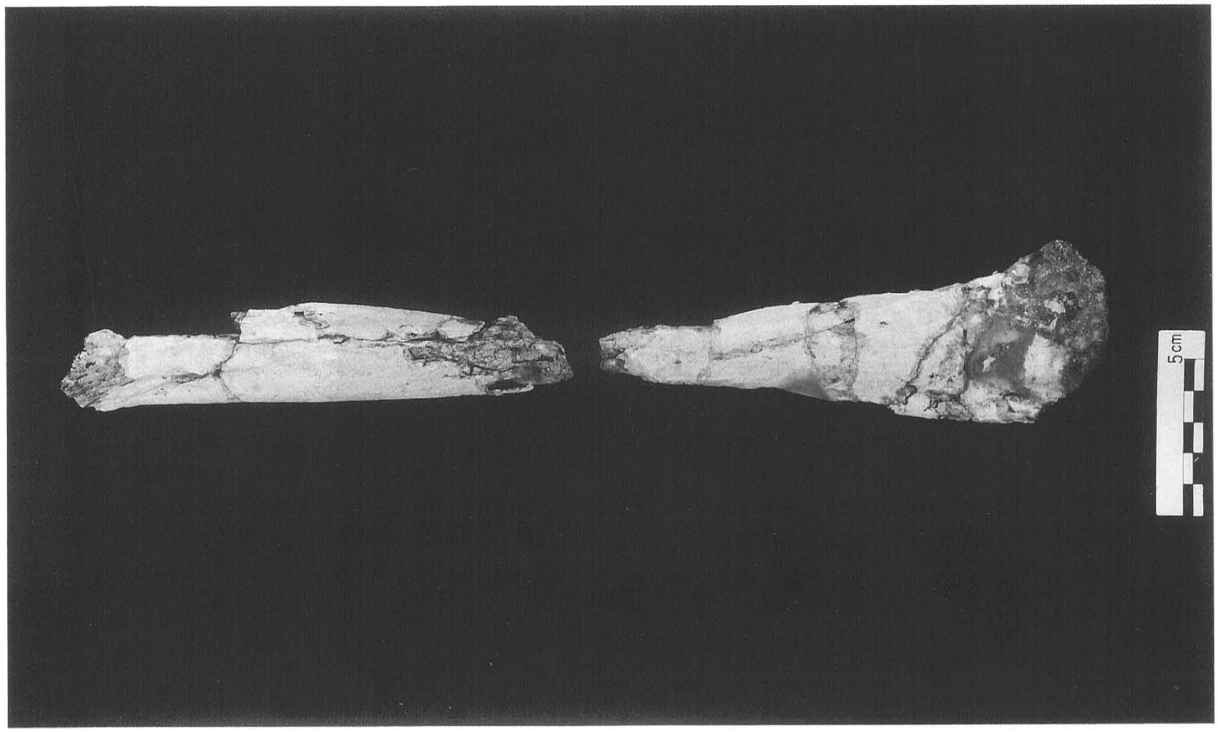
第86図　頭蓋（Skull）
客谷SK-1（性別不明・壮年）
（The Kyakutani SK-1, young abult）



第87図　大腿骨（Femur）・後面
客谷FE-1（男性）
（The Kyakutani FE-1, male）



第89図　大腿骨（Femur）・前面
客谷FE-3（女性）
(The Kyakutani FE-3, female)



第88図　大腿骨（Femur）・前面
客谷FE-6（男性）
(The Kyakutani FE-6, male)

第５章　調査の成果と課題

松山市南江戸地区の２遺跡の調査について内容報告をした。客谷古墳群と南江戸客谷遺跡は同じ丘陵にあり、南北の位置関係で約90m離れ、高低差は約15mである。客谷古墳群は現状でも森林地帯であるが、南江戸客谷遺跡は尾根の先端部で、傾斜が緩やかな土地にあたり、宅地化が進んでいるところである。

以下、２つの調査地点の関係を視点におき、報告のまとめとする。

（１）古墳時代

客谷古墳群は、築造時期から２群に分けられ、Ａ群：６世紀前半の１・２・３号墳と、Ｂ群：６世紀後半の４・５・６・７号墳とがある。また、築造時期は築造場所に反映され、築造の古いＡ群は調査地内の北東部の高い位置にあり、Ｂ群は中央部の低い位置にある。追葬の最終時期は、４号墳が７世紀前半まで継続され、他は６世紀代でおさまる可能性が高い。主体部構造は３大別され、かつ墳丘規模や施設配置で相関関係が認められる。横穴石室は墳丘の大きな２・４・６号墳に、４号墳Ｂ石室は附設されたものに、墓坑を伴う木棺墓は墳丘の小さな３・７号墳に認められる。このうち、後者２つの施設構造では、追葬のない可能性が高い。

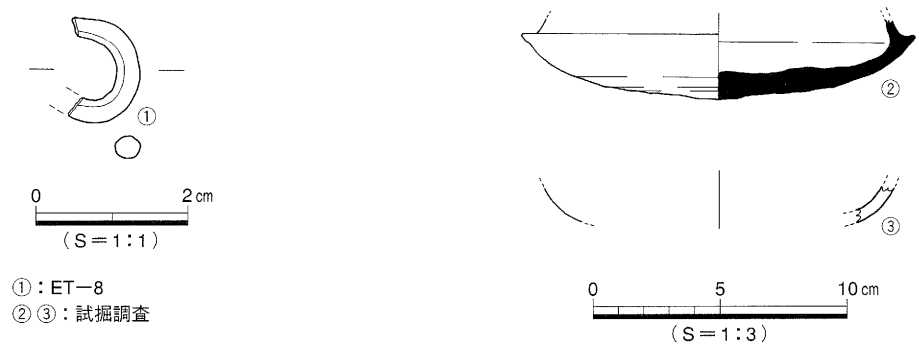
墳丘・周溝の遺物：墳丘に関するものに埴輪片２点が出土している。出土状況が明確でないので、帰属する墳丘が定かでない。今回の調査区よりも上に構築された古墳も視野に入れて判断されるべきものであろう。周溝内からは、完形品を含む須恵器が多く出土している。これらの土器には、当初より周溝内に据え置かれたものと、石室内からの掻き出しや該当地よりも標高の高い位置にあり、それが流入してきたものとが考えられる。このうち４・６号墳の境では、多くの土器が出土している。４号墳の開口部の南延長上で、前庭部に相当する位置にあたるものもあり、ａ～ｆ地点の土器には、４号墳に帰属するものが多くあるだろう。特異な出土品としては、三輪玉が上げられる。出土地点が明確でないが、周構内の出土品であったことは間違いないが、本来の位置は４号墳が有力であろう。

石室の遺物：人骨が４号墳・６号墳から出土している。人骨の遺存は悪いが、性別・年齢等を確認するために土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムに人骨の鑑定と保存を委託し、その詳細は第４章に報告している。当平野では、未だ人骨の出土事例および鑑定事例は少なく、研究の基礎資料として貴重な成果である。また、４号墳からは、耳環が12点出土し、形状や大きさから２ヶ１組になることが分かり、１体１組とすれば６体の埋葬が想定できる。６号墳からは、玉類と鉄器の出土が多くある。このほか、須恵器の坏蓋のなかには、口縁部に刻み目を持つものがあり、製作方法が見て取れる資料である（山内・小笠原2005）。

さて、集落遺跡の南江戸客谷遺跡との関係を考えてみる。集落跡からは、６世紀初頭の住居址と小溝が検出されているが、同時期の古墳はない。７世紀初頭には、掘立柱建物が存在し、少なくとも４号墳で追葬が行われている。したがって、６世紀代の集落は古墳と同じ丘陵にはなく、７世紀初頭に集落域が墓域（古墳築造域）に迫ってきたものと考えられる。

（２）古代～中世

客谷古墳群の調査地南端～南江戸客谷遺跡の一帯では、７世紀、９世紀、13～14世紀に丘陵を横断する溝が設けられ、古代～中世には、集落域として土地開発の進んだ様子が見て取れる。一方で、この時期の客谷古墳群域には、各墳丘のはざまの低い位置で当期の土坑が散見されるに過ぎなく、その中には８世紀代に墓（ＳＸ１出土の須恵器は蔵骨器と考えられる）を築く。古代までは墓域かつ古墳の墳丘を意識した土地利用が伺われる。



第90図　大峰ヶ台遺跡出土遺物

（3）近　世

客谷古墳から少し離れた地点では、経塚１基を検出した。土坑からは、約24000点もの一字一石が出土し、現在の保管数は715点である。平野内での経塚の発掘事例は、伊予市上三谷遺跡の１例に限られ、本資料は２例目となる。分析の結果、益・己・生・耳・如・石・次・叟？・所・成・然・偈・最・田・肖・言・婦・覆・十・與・吉・此・問・得２・資・脧・知・六・恭・頭・屏・具・雨・現・世・道・出・一・是・則・漁・住・亦・徴（徹）・即・復・経・我・無・皆・遥・佛４・文２・為３・學２・母・善２・而２・菩２・慧３・有４・以・法５・作３・尊・諸３・或・心２・來３・天４・安２・大４・等３・中・恩・王２・音２・蓮２・他２・不３・念２・受２・若２・供・（説）・當・數・閣・（皆）・（趺）・檀の91字134点が確認されている。調査指導の土居氏によれば、書き手は少なくても３人、年代や経典は特定できないとの事である。一般的には、墨書書きの１字１石は江戸時代中～後期に多いと言うことである。

さて、経塚の付近では、石塔が１基確認されている。そこには、「七月廿八日供養　世話人両斎院村」「天下泰平五穀成就　池水安全諸人快楽　施主　関谷○之○」「嘉永二己○」と記され、1741年の石塔で、客谷池の改修年代が知られる。この石塔と先の経塚との関係は、今ある資料からは特定できない。しかしながら、某かの関係を考える上で、古文書での調査が必要であろう。

（4）その他

大峰ヶ台丘陵の調査関係で未報告の資料が３点あるので、ここで掲載しておく（第90図）。①は客谷古墳Ｂ地区ＥＴ８出土の耳環（『大峰ヶ台の遺跡』）である。②・③は客谷地区出土品であり、②は須恵器、③緑釉陶器である。（観察表は100ｐ表50・51に記載）

時代ごとに調査の成果を上げてきたが、課題も多くある。大峰ヶ台丘陵での９次に渡る発掘調査からは、弥生時代から近世までの各時代の遺跡が丘陵内にあることが分かり、特に古墳は各所で形成され、その内容量も豊富である。個別調査の結果を整理し、古墳群の立地、その構造、平野内での位置付けなど、大峰ヶ台に形成された古墳群を評価し、広く市民に伝える段階に来ている。

なお、報告書の刊行に併せて、客谷古墳群の現地に解説案内板を設置し、松山市考古館に出土品の展示を準備している。遺跡の活用が問われている近年、大峰ヶ台丘陵の遺跡と松山市考古館が有機的に繋がり、歴史を体感し、学びの場所となりえるのかは、大きな目標であり、課題でもある。

【文　献】

小笠原啓二・山内英樹　2005「須恵器に残る痕跡について」『紀要愛媛』財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター

写　真　図　版

写真図版例言

1．遺構は、6×7判および35㎜判の白黒ネガフィルム・カラーネガフィルムで撮影している。現況については4×5判の白黒ネガフィルム・カラーリバーサルフィルムで撮影した。

使用機材：

カ メ ラ　トヨフィールド45A　　レンズ　　スーパーアンギュロン90㎜他

フィルム　白黒　ネオパンＳＳ・アクロス　　カラー　アスティア100Ｆ

2．遺物は、4×5判で撮影した。すべて白黒フィルムで撮影しているが、一部についてはカラーリバーサルフィルムでも撮影している。

使用機材:

カ　メ　ラ　トヨビュー45Ｇ　　レンズ　　ジンマーＳ 240㎜Ｆ5.6他

ス ト ロ ボ　コメット／ＣＡ32・ＣＢ2400

スタンド等　トヨ無影撮影台・ウエイトスタンド101

フ ィ ル ム　白黒　ネオパンアクロス　　カラー　アスティア100Ｆ

3．単色図版は、一部を除き、白黒プリントを等倍で使用できるように焼き付けている。

使用機材:

引伸機　　ラッキー45ＭＤ・90ＭＳ

レンズ　　エル・ニッコール135㎜ Ｆ5.6Ａ・50㎜ Ｆ2.8Ｎ

印画紙　　イルフォードマルチグレードⅣ ＲＣペーパー

4．製版　　写真図版175線

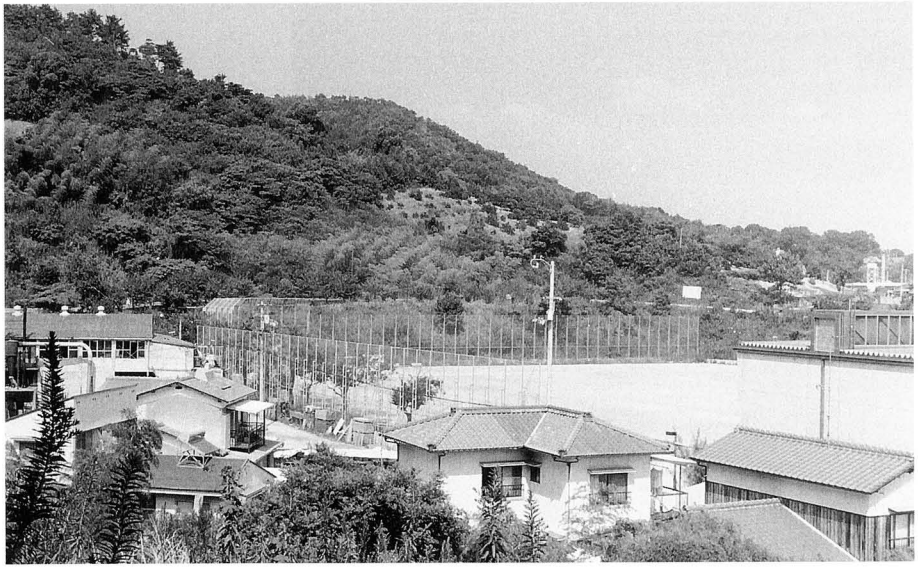
印　刷　　オフセット印刷

用　紙　　カラー写真：マットコート、本文：マットカラーＨＧ

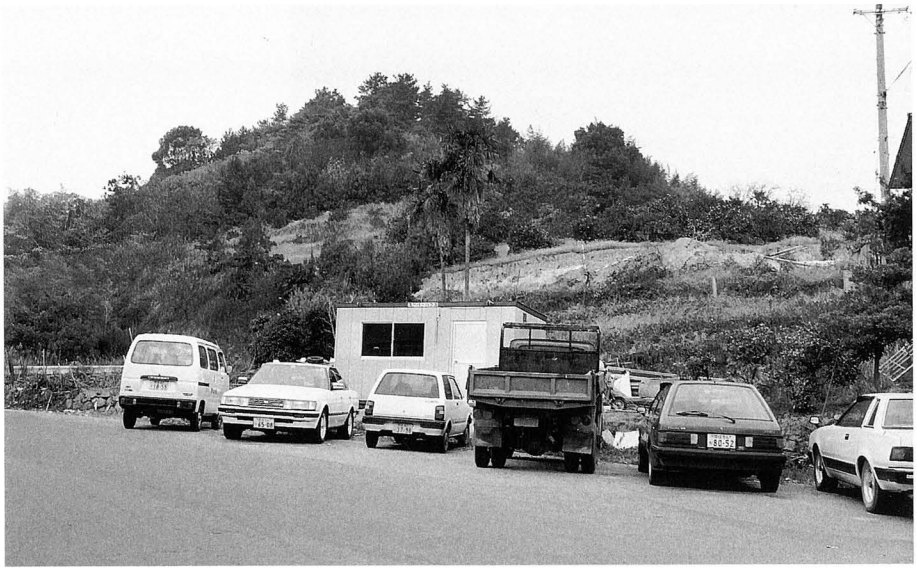
製　本　　アジロ綴じ

【参考】『埋文写真研究』vol.1～16　　『報告書制作ガイド』

［大西朋子］



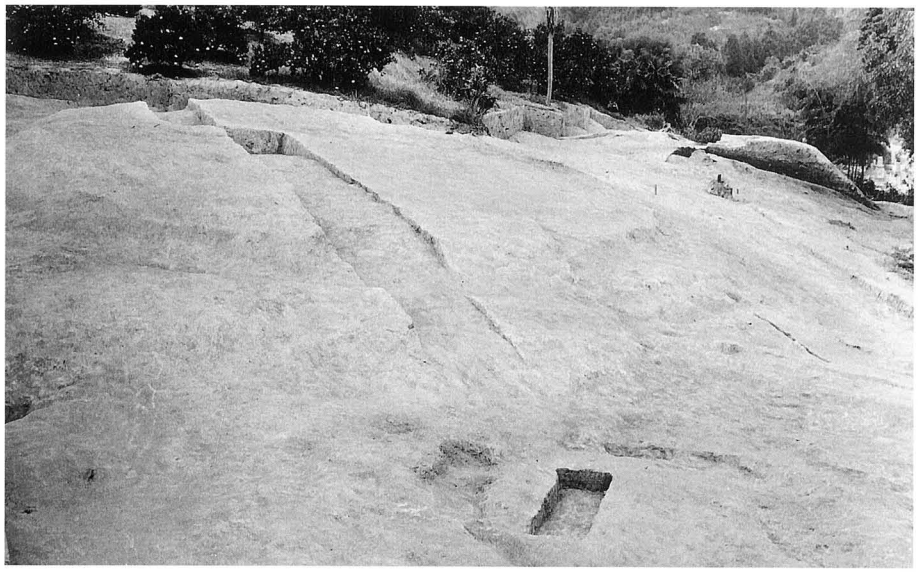
1. 調査地遠景（１）
（南西より）



2. 調査地遠景（２）
（南より）

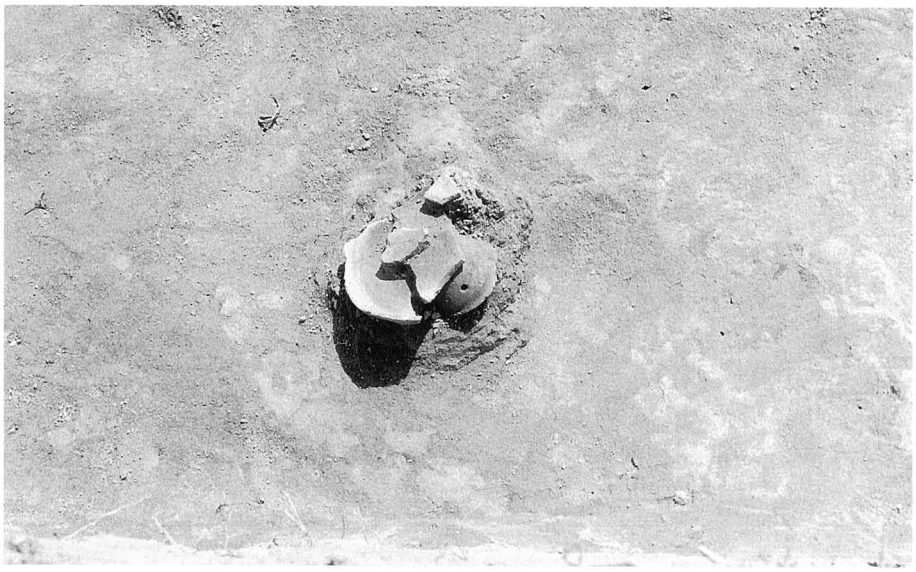
3. 完掘状況（南より）

図版二



1. １・２・3号墳
（南西より）

2. １号墳周溝遺物出土
状況（１）（南東より）



3. １号墳周溝遺物出土
状況（２）（北より）

1.　２号墳完掘状況
（南より）

2.　２号墳主体部
（西より）

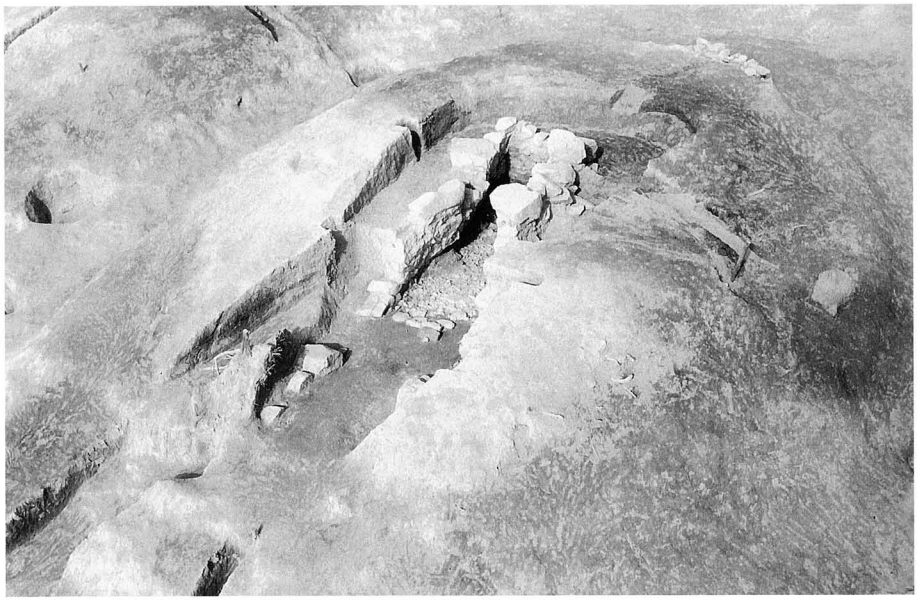
3.　２号墳周溝遺物
出土状況（北より）

図版四

1.　３号墳全景
（南西より）

2.　３号墳主体部
（北東より）

3.　３号墳完掘状況
（東より）



1. ４号墳全景
（南東より）

2. ４号墳Ａ主体部（１）
（南南東より）

3. ４号墳Ａ主体部（２）
（南南東より）

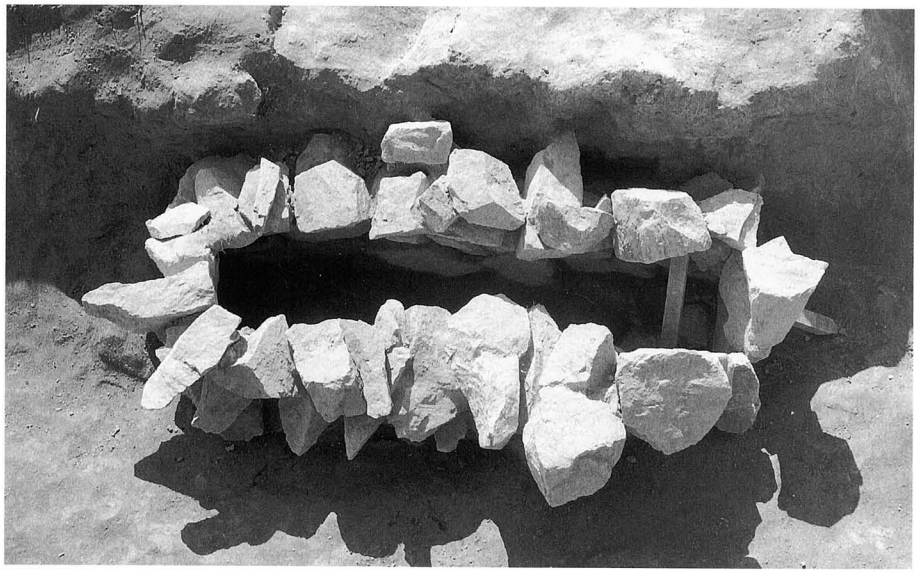
図版六

1.　４号墳Ａ主体部遺物出土状況（１）
（南南東より）

2.　４号墳Ａ主体部人骨
出土状況（南東より）

3.　４号墳Ａ主体部遺物出土
状況（２）（北より）

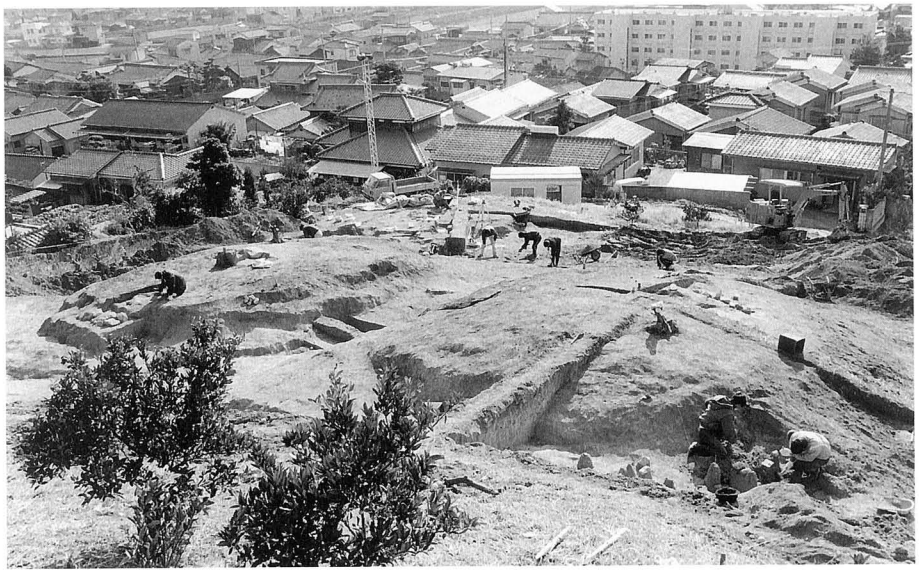
1.　４号墳Ｂ主体部全景（北より）



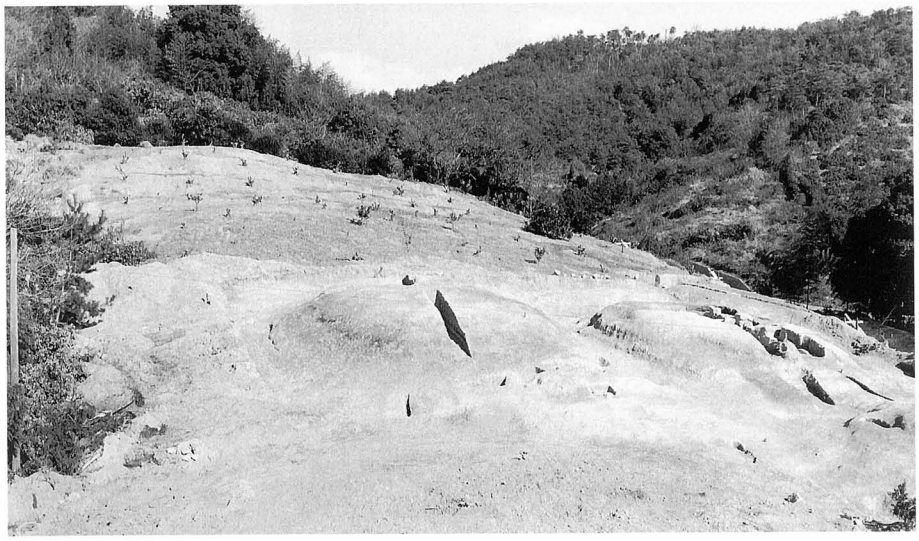
2.　４号墳Ｂ主体部完掘状況（北より）

3.　４号墳Ａ・Ｂ主体部完掘状況（東より）

図版八



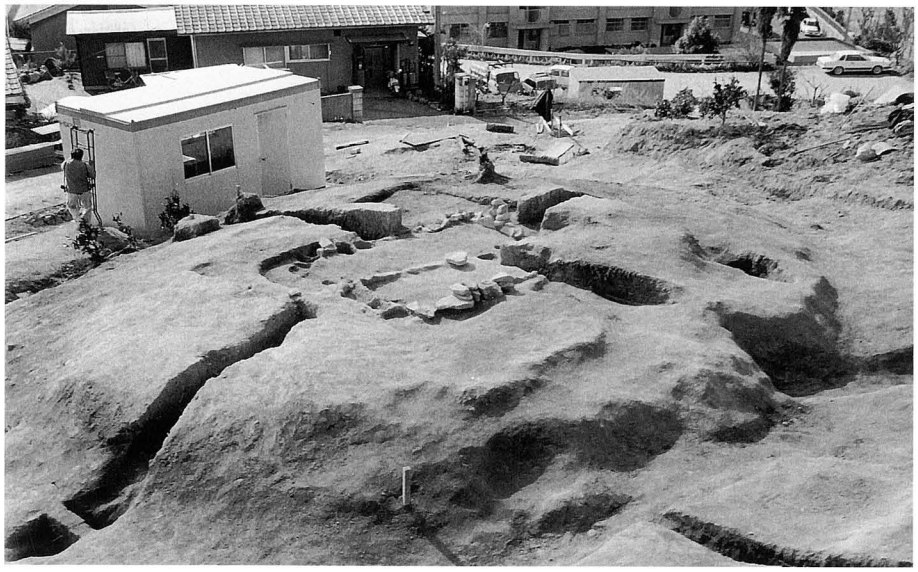
1. ５号墳全景
（北西より）



2. ５号墳完掘状況
（南より）

3. ５号墳土層
（南東より）

1. ６号墳全景（１）
（東より）



2. ６号墳全景（２）
（北東より）

3. ６号墳Ａ・Ｂ主体部
完掘状況（東より）

1. ６号墳Ａ・Ｂ主体部
遺物出土状況（北より）

2. ６号墳Ｂ主体部遺物
出土状況（１）（東より）

3. ６号墳Ｂ主体部遺物出土
状況（２）（南より）

1. ７号墳完掘状況（１）
（南東より）

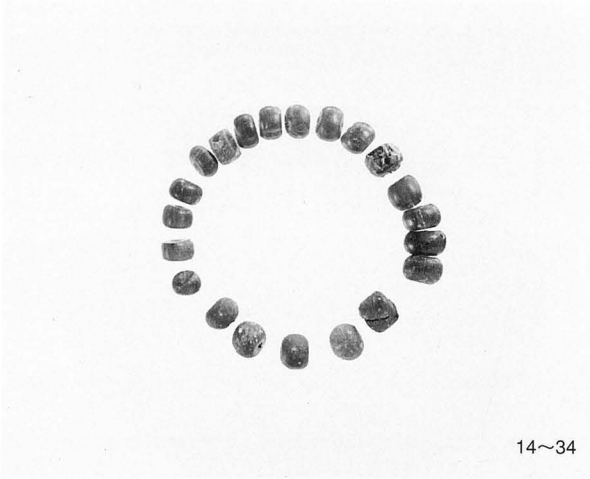
2. ７号墳完掘状況（２）
（南西より）

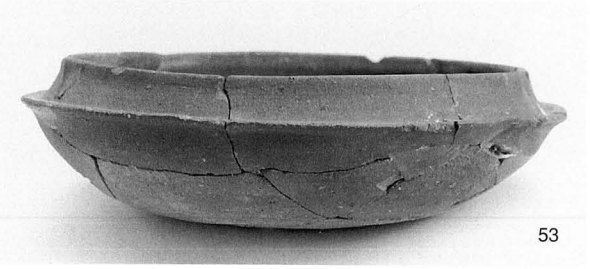
3. ７号墳主体部
（南より）

1．経塚遠景（東より）

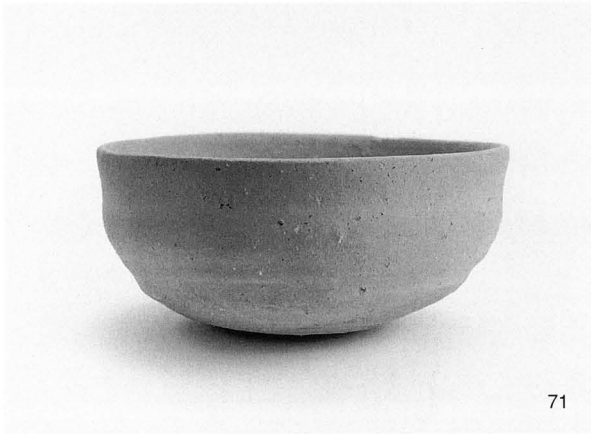
2．経塚検出状況（１）
（西より）

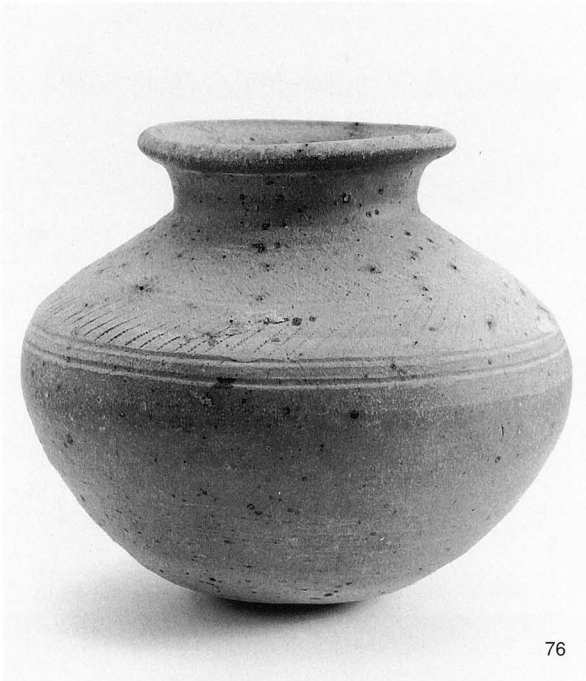
3．経塚検出状況（２）
（北より）

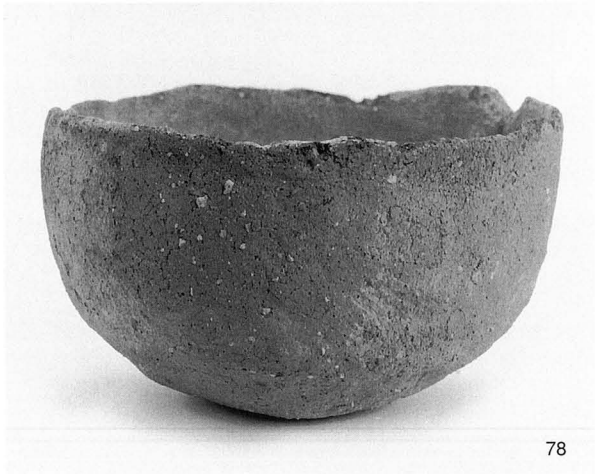




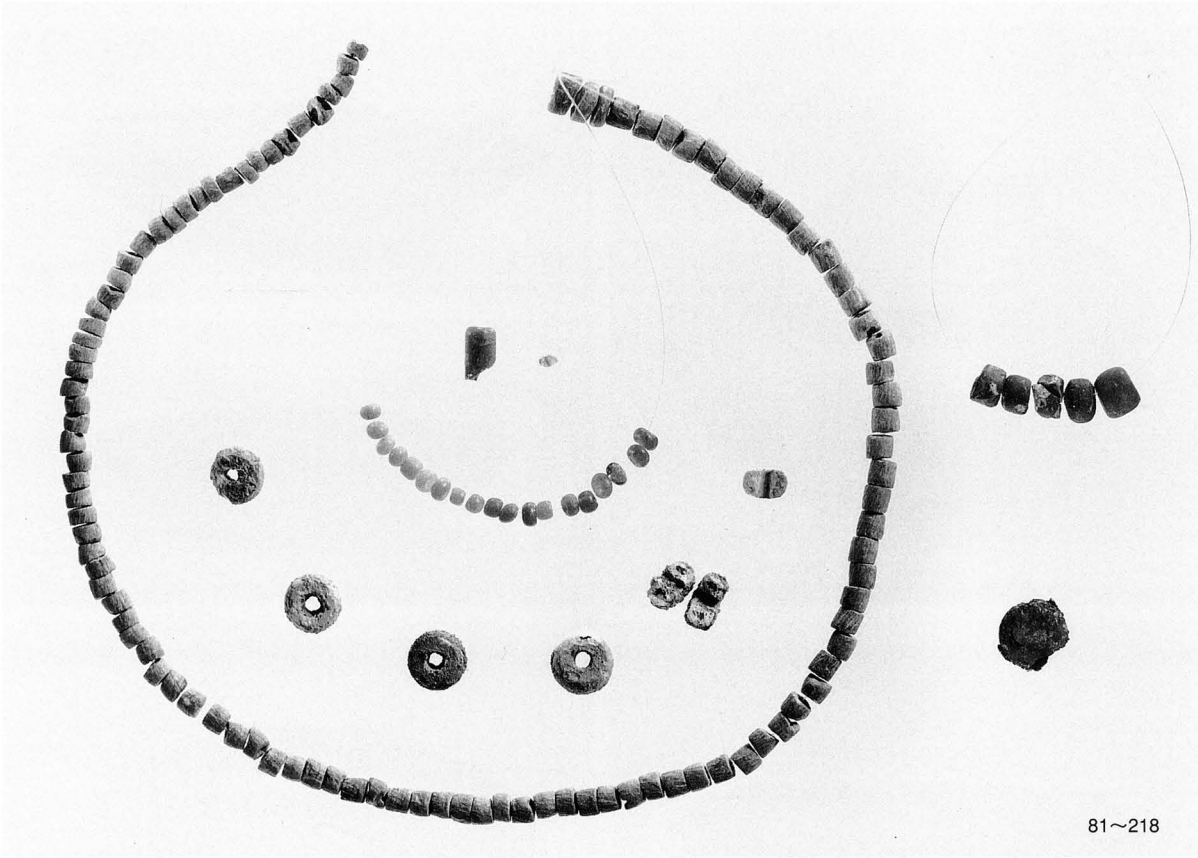
1．出土遺物（１号墳周溝：10　２号墳主体部：14～34　２号墳周溝：47～54）

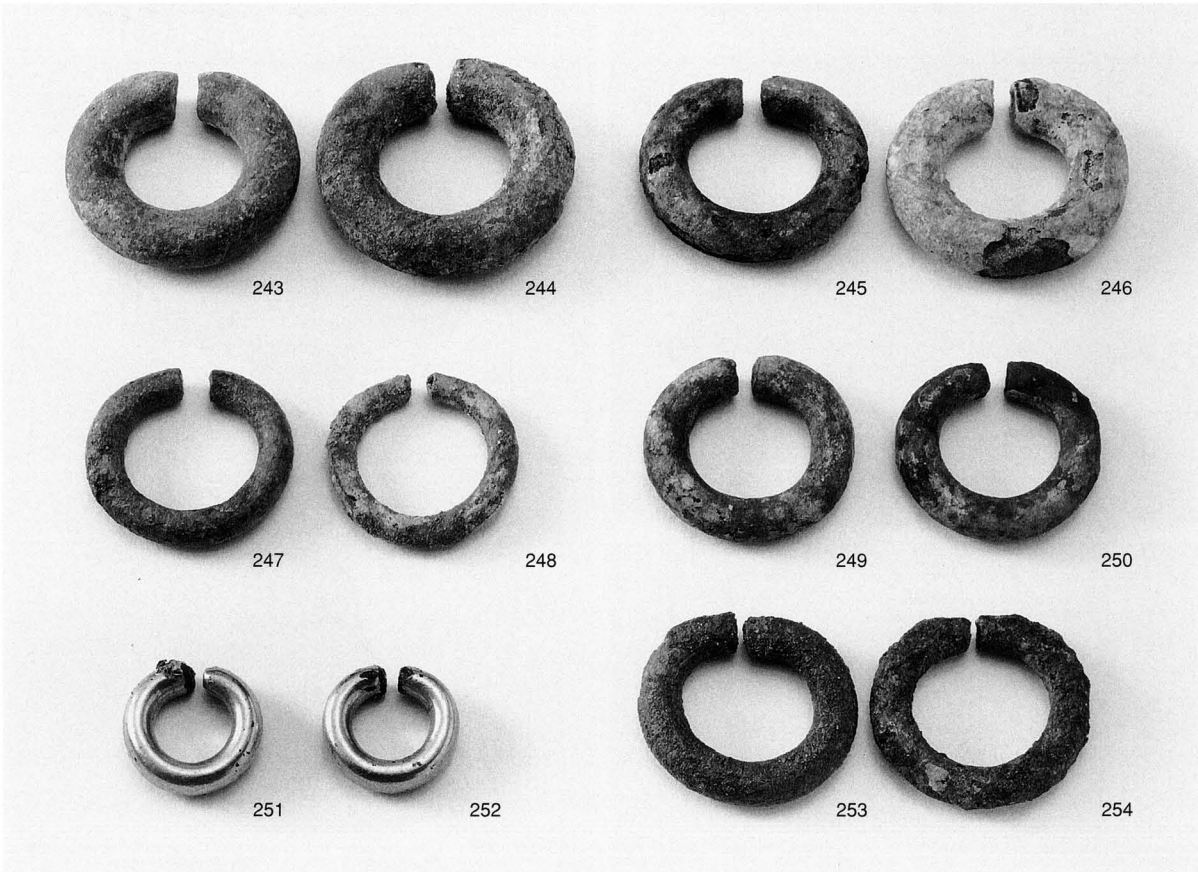






1．出土遺物（３号墳主体部：65　４号墳Ａ主体部：70・71・76～78）





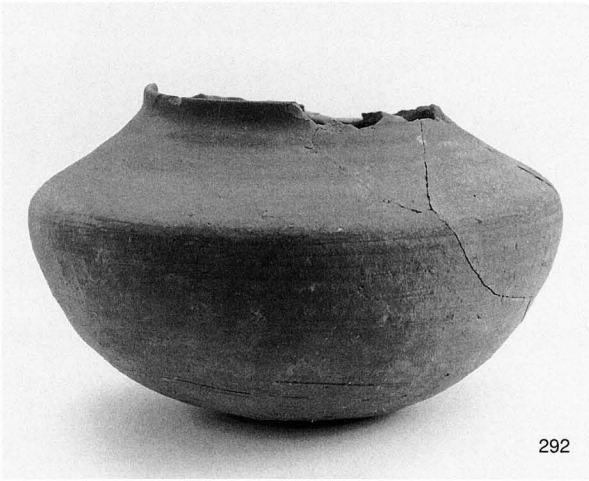
1．４号墳出土遺物（１）（Ａ主体部：81～218・243～254）

1．４号墳出土遺物（２）（Ｂ主体部石室外：257～259　４・６号墳間周溝ａ地点：271
ｂ地点：275～277・279）

1．４・６号墳間周溝出土遺物（１）（ｂ地点：280～282　ｃ地点：283・285・288）

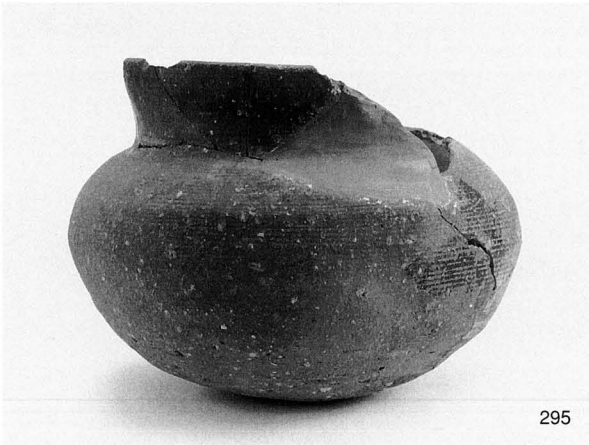
290

291


292

294

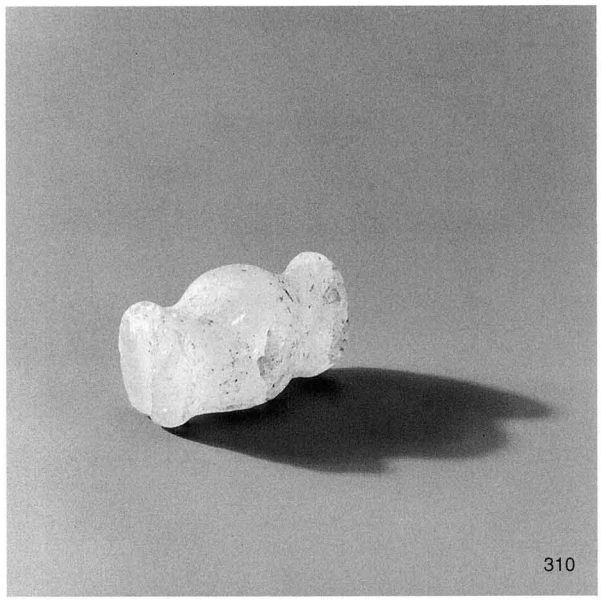
293


295

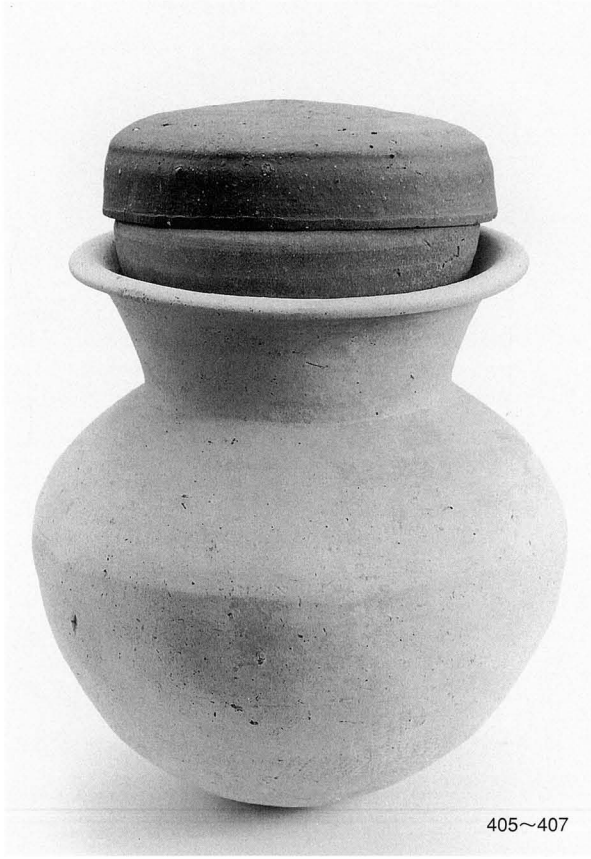
296

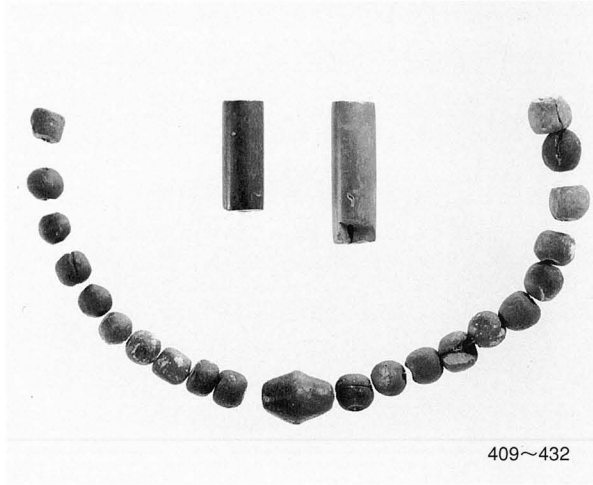
1．４・６号墳間周溝出土遺物（２）（ｃ地点：290～296）

1．４・６号墳間周溝出土遺物（３）（ｃ地点：299　ｄ地点：301　ｅ地点：303　ｆ地点：304～306）

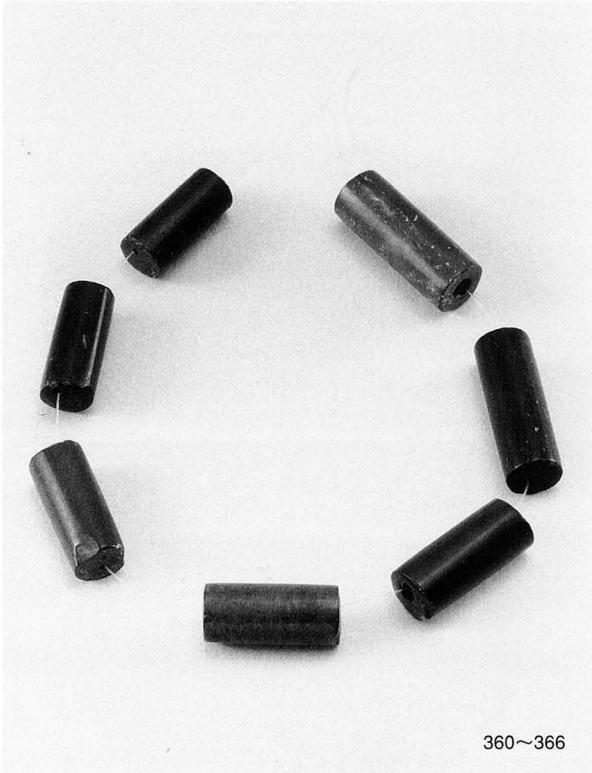


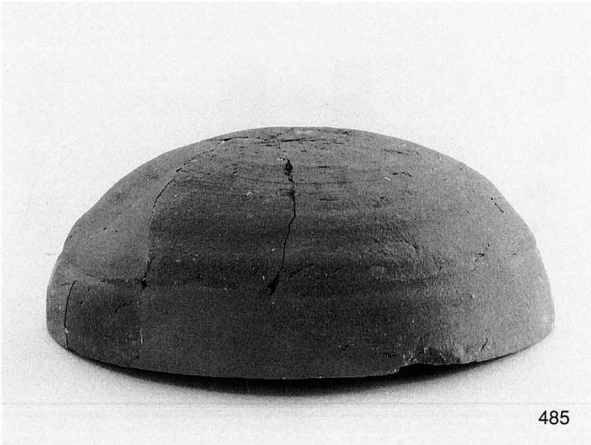
1．４・６号墳間周溝出土遺物（４）（東側：308・310　西側：312～314　地点不明：317）

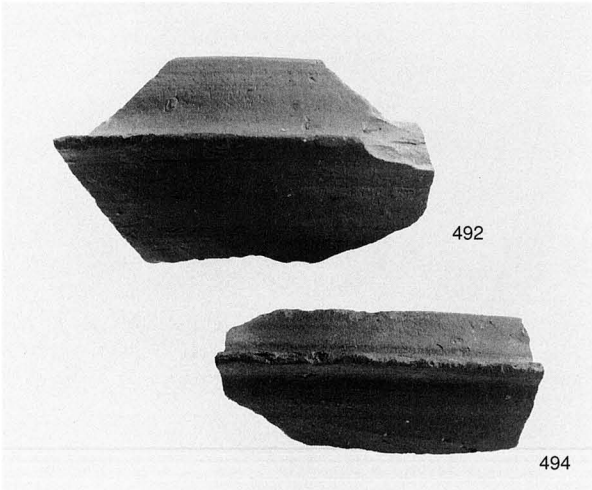




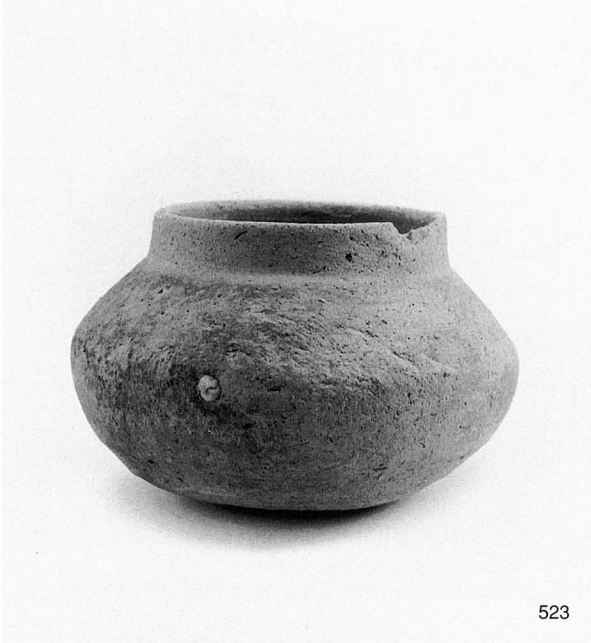
1．６号墳出土遺物（１）（Ｂ主体部：405～432）



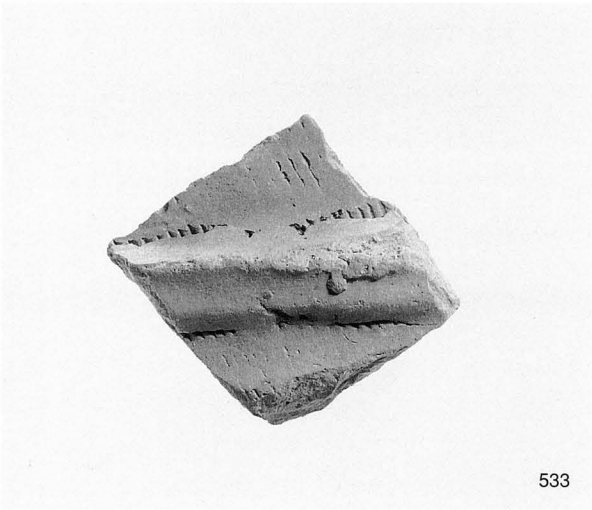




1．６号墳出土遺物（２）（Ａ主体部：360～404　地点不明：482・485・486・492・494）

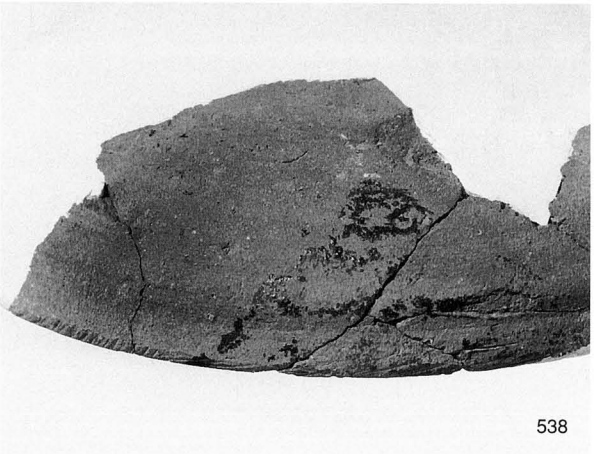

523

530


533

536

537


538

539

1．出土遺物（５号墳丘：523　地点不明：530・533　７号墳主体部：536　７号墳丘：537～539）

1．出土遺物（ＳＫ24：547　ＳＤ2：554　ＳＸ１：555・556　地点不明：588）

1．調査地全景（南西より）

2．調査風景（西より）

1. A区遺構検出状況（西より）

2. A区掘立４Ｐ３根石検出状況（西より）

1．Ａ区遺構完掘状況（１）（北東より）

2．Ａ区遺構完掘状況（２）（西より）

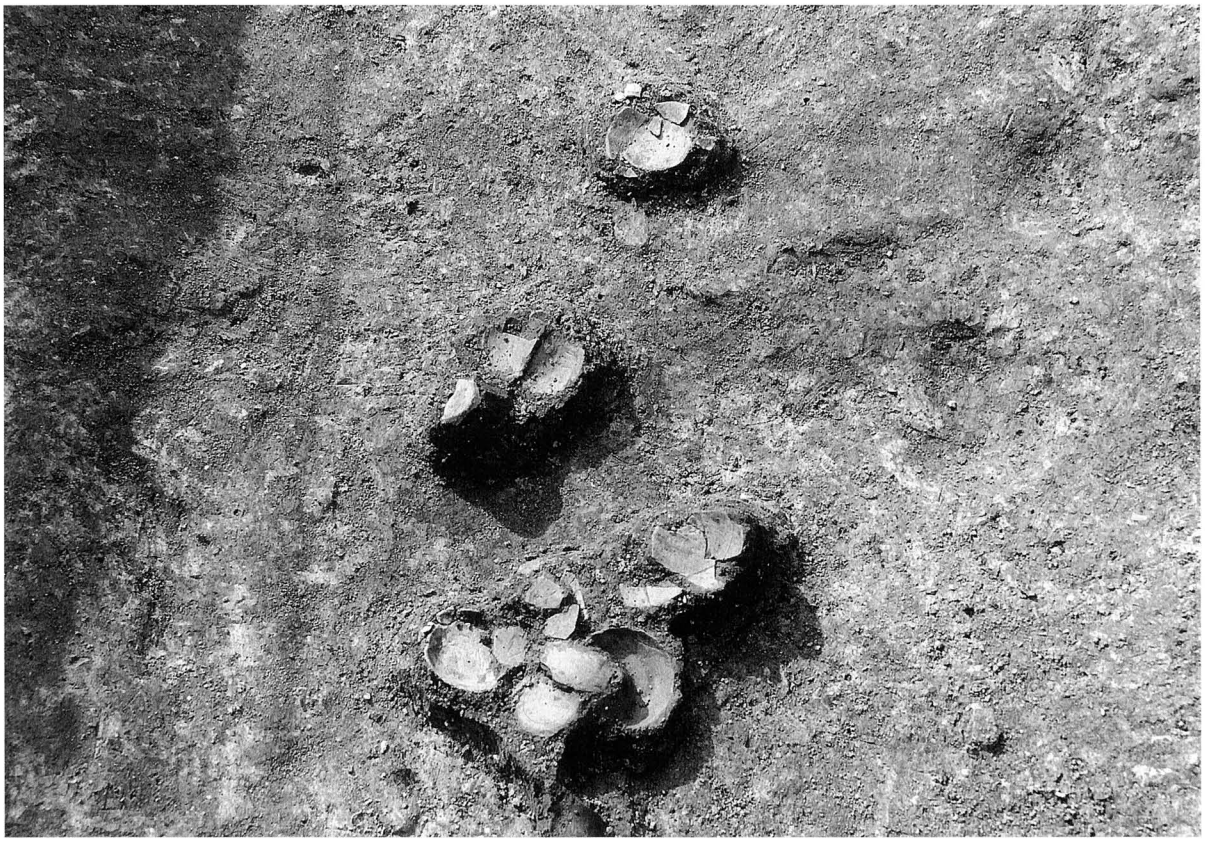
1. A区拡張区ＳＤ１・３・４完掘状況（１）（西より）

2. A区拡張区ＳＤ１・３・４完掘状況（２）（東より）

1. B区遺構検出状況（西より）

2. B区西壁土層（東より）

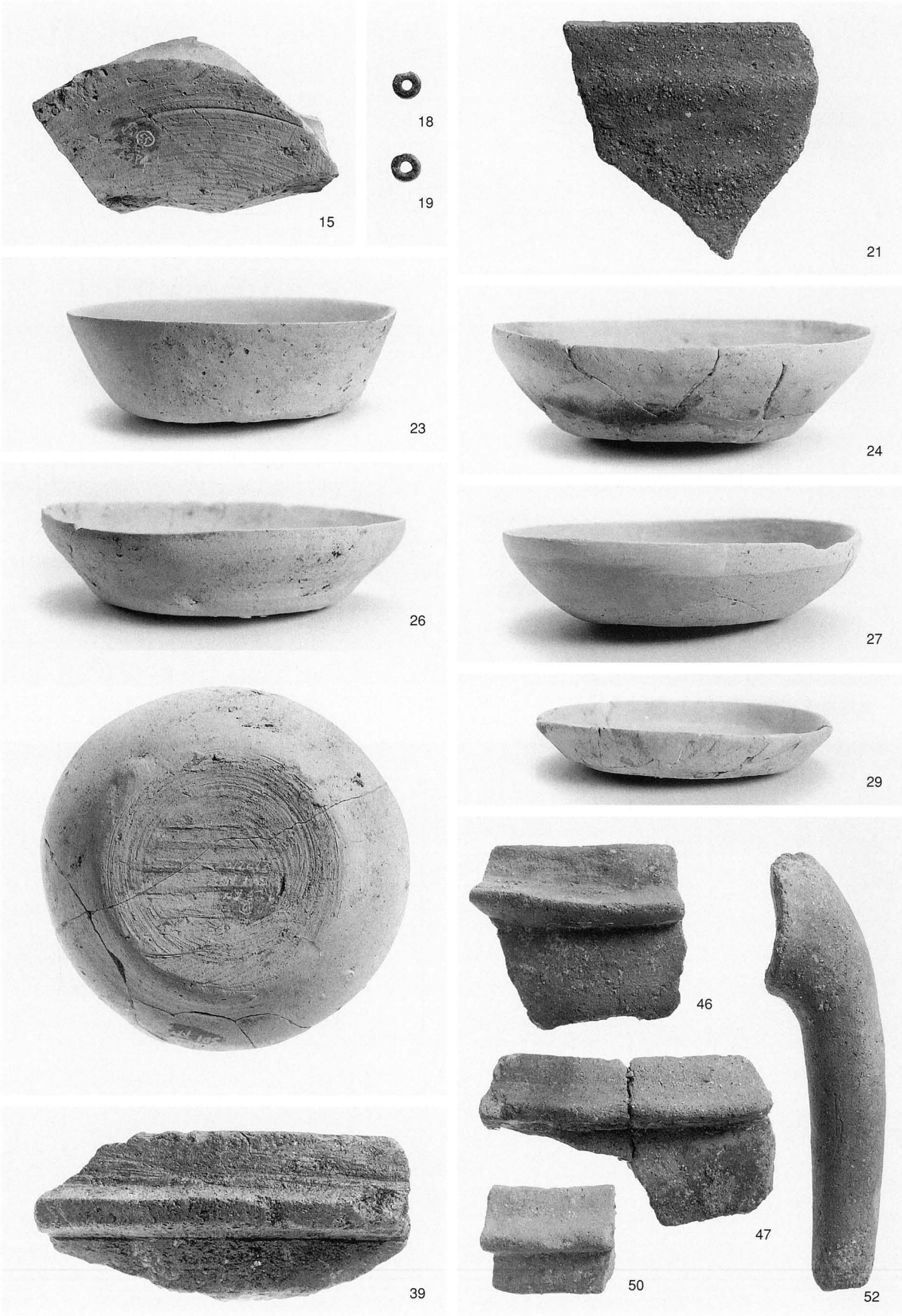
1. B区ＳＤ７遺物出土状況（１）（東より）



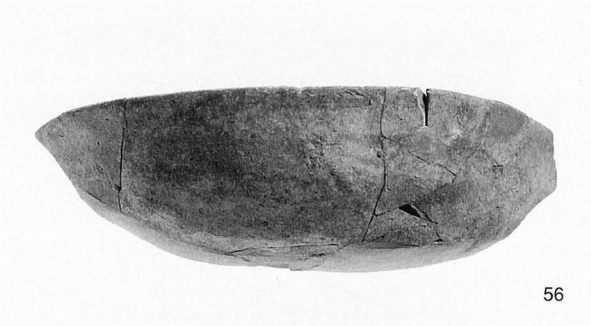
2. B区ＳＤ７遺物出土状況（２）（西より）

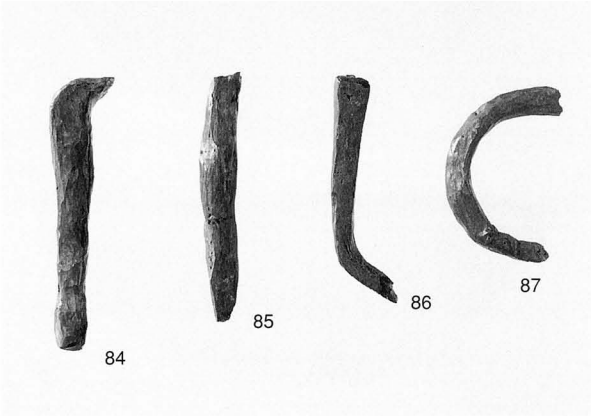
1．Ｂ区遺構完掘状況（１）（東より）

2．Ｂ区遺構完掘状況（２）（北西より）

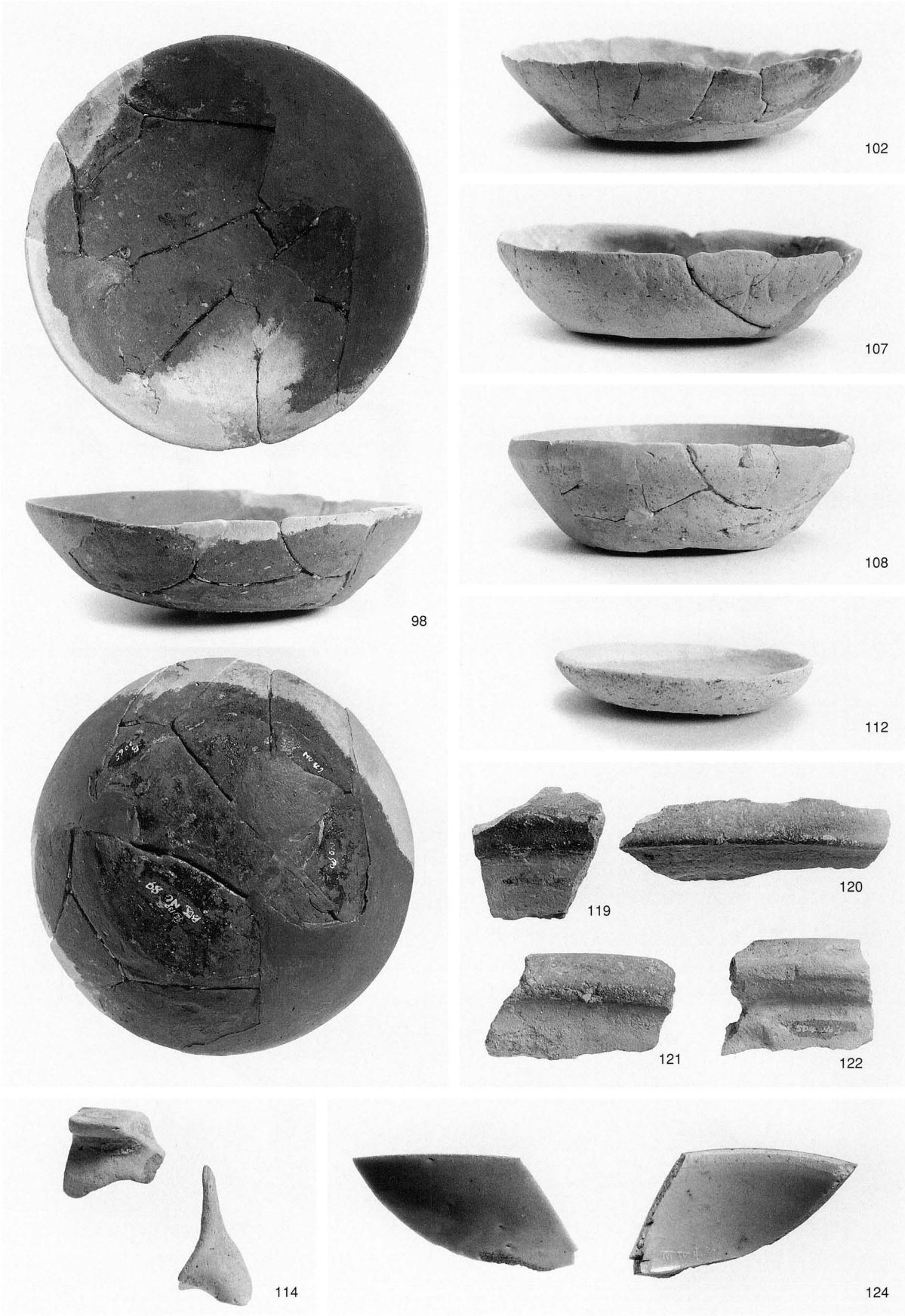


1. A区掘立2（15・18・19）ＳＤ３（21）ＳＤ１上層（23・24・26・27・29・39）中層（46・47・50・52）出土遺物

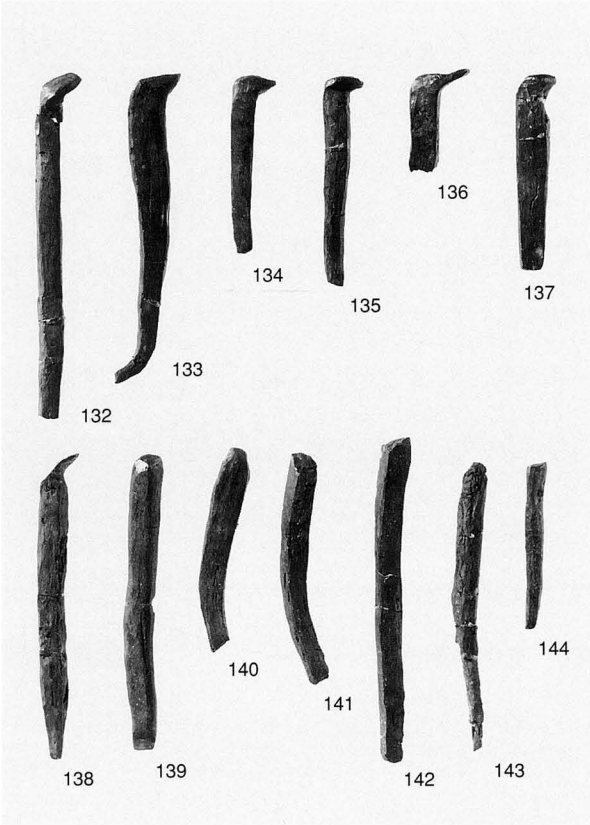


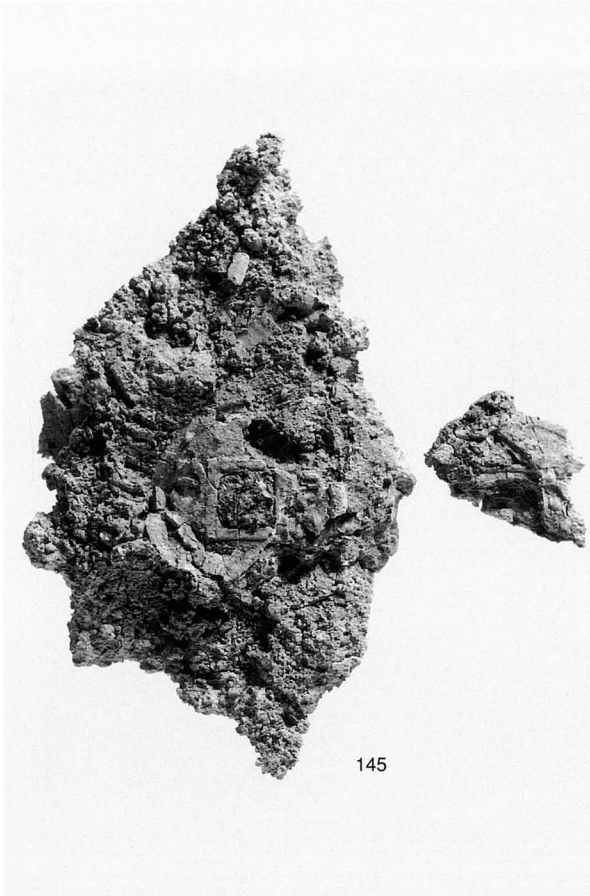


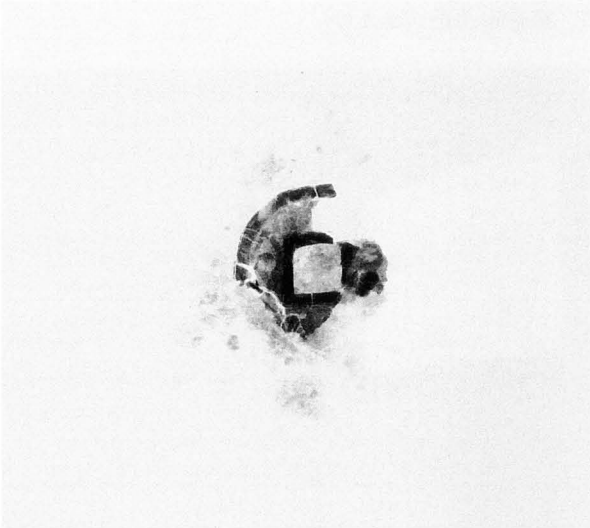
1．Ａ区ＳＤ１中層（54・56）　下層（77～79・83～87）出土遺物

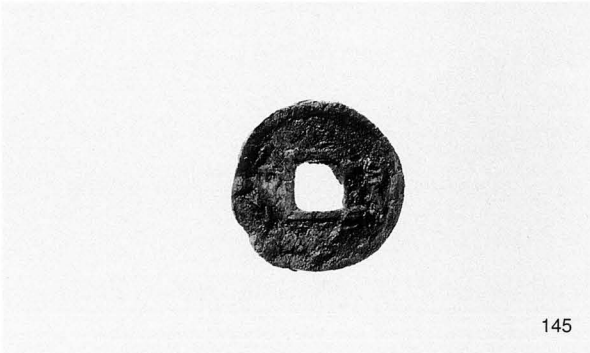


1. B区ＳＤ７出土遺物









1．B区第Ⅳ層出土遺物

1. 調査地遠景（南より）

2. 大峰ヶ台遺跡３次調査地の現況（南西より）

抄　録

ふりがな	おおみねがだいいせき
書名	大峰ヶ台遺跡Ⅲ
副書名	― 3次調査地・南江戸客谷 ―
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第110集
編著者名	梅木謙一・河野史知・松下孝幸・大西朋子
編集機関	松山市教育委員会 財団法人 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
所在地	市教委：〒790-0003　松山市三番町6丁目6-1　TEL(089) 948-6605 埋　文：〒791-8032　松山市南斎院町乙67-6　TEL(089) 923-6363
発行年月日	西暦　2006年　3月　31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおみねがだい 大峰ヶ台3次	まつやましみなみえど 松山市南江戸	38201		33°50′24″	132°44′36″	19860701 ～ 19870209	5,100	公園整備
みなみえどきゃくたに 南江戸客谷	まつやましみなみえど 松山市南江戸	38201		33°50′10″	132°44′30″	19990216 ～ 19990312	864	宅地開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大峰ヶ台3次	古墳	古墳時代	円墳7基 土拡12基	須恵器・土師器 鉄製品・玉類・耳環	水晶製の三輪玉
	塚	江戸末期	経塚	円礫（24,000点）	一字一石墨書文字
南江戸客谷	集落	古墳時代	住居址1棟 掘立1棟 溝1条	須恵器・土師器 土師器	
	集落	古代	掘立3棟 溝2条	土師器・臼玉 土師器	
	区画溝	中世	溝4条	須恵器・土師器・陶器 釘	緑釉 包含層より貸泉

松山市文化財調査報告書 第110集

大峰ヶ台遺跡Ⅲ

平成18年3月31日　発行

編集・発行　松山市教育委員会
〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1
TEL(089)-948-6605

財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6
TEL(089)-923-6363

印刷　原印刷株式会社
〒790-0056 松山市土居田町396-6
TEL(089)-974-8711